

令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

児童養護施設等への入所措置や里親委託等が
解除された者の実態把握に関する全国調査

【報告書】

令和3年（2021年）3月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

はじめに

検討委員会委員長・北海道大学教授

松本伊智朗

本報告書は、社会的養護のケアを離れた子ども・若者（以下「ケアリーバー」）の現状に関する日本で初めての全国調査の報告である。社会的養護にある子どもの側からみれば、施設や里親での暮らしが権利を守られたものであることと同時に、ケアを離れたあとの日々が支えられ、見通しをもった人生を主体的に構想できることが重要である。しかしながら現実には支えのない中で困難に直面することが多く、ケアリーバー支援は大きな制度的・実践的課題であり続けてきた。過去 50 年を振り返ると、職場定着、高校進学、措置延長、アフターケア等に関して制度的な前進があり、社会的養護の現場での支援実践の蓄積がある。近年では「社会的養護等自立支援事業」の施行にみられるように、大きな政策課題として把握され、今後の制度的拡充が期待されるところである。

しかしながら、ケアリーバーの現状を示す資料は限定的であった。いくつかの自治体や施設、関係団体や研究者、当事者団体による調査資料には一定の蓄積がある。それらはすべて示唆に富むものであるが、全国的な状況を示す調査は行われてこなかった。本報告書は、こうしたなかで、初めての全国調査として世に出される。報告書は大部にわたり、結果の紹介は本文に委ねる。以下、調査の特徴、報告書をお読み頂くうえで念頭に置いて頂きたいことを何点か記しておきたい。

まず、特徴を 3 点あげる。第一に、2018 年度、2019 年度から子ども・子育て支援推進調査研究事業で継続しているプロジェクトであること。初年度である 2018 年度は、ケアリーバーに関する過去の調査研究のレビュー、海外の事例の検討等を通して、調査方法の検討をおこなった。2 年目の 2019 年度は、調査票、調査方法の検討と共に、いくつかの自治体で全国調査を前提としたプレ調査を実行した。この作業を経て、今回の全国調査が実施された。

第二に、自治体、施設や里親などの支援者、ケアリーバーの 3 層に対する重層的な調査であること。本調査は①都道府県、政令市等の児童相談所設置自治体に対するケアリーバー支援の実施状況の調査、②施設職員や里親が個々のケアリーバーに関して記入する調査、③ケアリーバー自身が記入する本人記入調査の 3 つからなる。それぞれ抽出ではなく悉皆調査である。また、②と③を同時に同じ対象に対して行うことで、支援者から見た現状と当事者から見た現状の共通点と相違点が検討できる。

第三に、調査票や調査実施方法等の検討に、社会的養護経験者の参画を得たことである。調査研究委員会に 2 名の参画を得たうえで、別途当事者委員会を設置し新たに複数の参画を得た。社会的養護経験者が持つ知見は非常に貴重で、参画を得たことで調査票や調査実施方法の検

討、集計結果の分析等がより洗練されたものになったことは疑いがない。こうした当事者参画の経験を蓄積していくことが、社会的養護全体を質的に向上させていく確かな方法であることを、改めて確信した。

続いて、報告書をお読み頂く際に念頭に置いて頂きたいことを2点あげる。第一に今回の調査結果は、ケアリーバーの現状を示すということのみならず、社会的養護全体への評価でもあるということである。社会的養護の重要な目的の一つが、そこで育った子どもが一人の市民として幸せに生きていくことの実現だとすれば、ケアリーバーの現実はその重要な評価指標の一つである。評価には、よい評価も厳しい評価も含まれる。特に今回の本人記入調査では、これまで受けてきたケアに対する直接的な評価を求めている。自由記述を含めて、関係者に厳しい評価もある。

本人記入調査の回答率（14.4%）が必ずしも高くないことをもって、これらの厳しい評価は代表性に欠けるという見解があるかも知れない。しかし考えられなければならないことは、悉皆調査にも関わらず、施設や里親から調査票が案内されたのは全体の約1/3にとどまり（7,385/20,690）、残りは不明等の理由で調査票の案内すら出来なかったという現実が意味することである。案内出来たのは、どちらかといえば施設や里親と良好な関係にある、相対的に良い状態にあると思われるケアリーバーが多いだろう。示されているのは、その中での厳しい現実や評価であることに留意しなければならない。なお案内数に対する回答率（40.4%）は一般的なWEB調査と比較しても低くはなく、逆に関心と期待の高さがうかがえる。加えて、たとえそれが一人の意見だとしても、そのことの意味を考え、想いを馳せることが、支援実践や制度構築にあたるものに不可欠だという点にも留意しておきたい。そのために、本報告書では自由記述を可能な限り掲載している。

第二に当たり前のことであるが、本調査は支援の枠組みと実践のあり方を考えるためのものである。支援枠組みの構築と実践にあたる、国、自治体、施設等、関係団体のそれぞれのレベルで本報告書を議論の素材とし、前進させるための努力が求められる。特に、今後里親委託等が増加するに従い、施設や里親によるアフターケアのみならず、自治体を主体とする制度枠組みが不可欠になり、それを裏付ける国の制度設計が重要になるだろう。

そのためには継続的な実態把握が必要である。現行の社会的養護の枠組みは、その中にケアリーバーの現状を把握し、意見を反映させていく仕組みを内在させていない。つまりケアの予後評価を前提としない制度になっており、その点を改めて検討する必要があるだろう。ケアリーバー支援を「困難下にある若者」に限定せず、すべてのケアリーバーとつながる仕組みの構築を前提にすべきである。そこで得られた「現状」を全体的に集約し、ケアリーバーからの評価を反映させていく枠組みを支援制度自体に組み込んでいくことが一つの方向だと考えられる。「社会的養護等自立支援事業」ではすべてのケアリーバーの自立支援計画の策定を求めているが、これはその端緒にもなりうる。個々の支

援のあり方に加えて、こうした制度枠組みの議論が各レベルで活性化されることのために、本報告書が生かされることを願う。

本調査は、多くの方々のご尽力でなされている。3年にわたる調査研究は、厚生労働省の子ども・子育て支援推進調査研究事業として行われている。背景にある、この問題を前に進めていくという厚生労働省の担当部署、担当者の方々の意志とご尽力に敬意を表す。また以下の方々に、感謝申し上げます。時間を割いて答えにくい質問にも丁寧に答えて下さった、多くのケアリーバーの方々。情報の周知等にご尽力された当事者団体および関係者の方々。短い調査期間にも関わらず、ご多忙の中調査に関わられた自治体の担当者、施設等の職員や里親の方々。調査が成しえたのは、これらのすべての方々のご尽力とお気持ちに負うところが大きい。実際の調査実施と集計、報告書作成の実務に当たられた三菱UFJリサーチ&コンサルティングの方々は、2018年度のプロジェクトから、一貫して誠実な態度で任に当たられたことを付記する。

本調査報告が、かつて社会的養護下で暮らしていた、そして現在暮らしているすべての方々の権利が守られる社会の実現に役立つものになることを願って、報告書の緒言とする。その願いは、当事者を含むすべての関係者に共通のものである。

以上

目次

はじめに.....	3
要 旨.....	1
第1章 調査の実施概要.....	2
1. 背景・目的.....	2
2. 実施内容.....	2
3. 検討委員会の設置概要.....	3
4. 当事者委員会の設置概要.....	4
5. 結果の公表方法.....	5
第2章 本事業の実施スキーム.....	6
第3章 本人記入調査.....	8
1. 調査概要.....	8
2. 集計結果.....	12
第4章 施設職員・里親家庭記入調査.....	115
1. 調査概要.....	115
2. 集計結果.....	118
第5章 児童相談所設置自治体調査.....	174
1. 調査概要.....	174
2. 集計結果.....	175
第6章 当事者委員会.....	182
1. 目的・背景.....	182
2. 運営方法.....	182
3. 検討結果.....	184
第7章 まとめ.....	191
1. 結果の整理.....	191
2. 今後の課題と提案.....	198

【参考資料】

- 本人記入調査 調査票
- 施設職員・里親家庭調査 調査票
- 本人記入調査 クロス集計表
- 施設職員・里親家庭調査 クロス集計表
- 自由記述回答一覧

要 旨

自立支援の充実を図るため措置解除者等の実態把握が重要であることから、平成 30 年度及び令和元年度子ども・子育て支援推進調査研究事業において、実態把握に関する既往調査の分析や自治体等の取組に関する調査・検証¹と、モデル自治体における実態把握調査や実態把握に必要な自治体の具体的な体制・対応等に関する調査・検証²が行われた。本調査研究は、これまでの調査研究事業で得られた成果等を踏まえ、自立支援の充実に資することを目的として、措置解除者等の実態把握について全国調査を実施した。

本調査研究事業では、第一に、措置解除者等の生活状況や生活上の課題、支援ニーズ等を把握することを目的として、措置解除者等を対象としたアンケート調査（本人記入調査）及び措置解除者等の養育施設等を対象としたアンケート調査（施設職員・里親家庭記入調査）を実施した。調査対象者数 20,690 人に対し、本人記入調査では 2,980 件（回答率 14.4%）、施設職員・里親家庭記入調査では 13,651 件（有効回答率 66.0%）の有効回答が得られた。両調査によって、措置解除者本人及び施設職員・里親家庭のそれぞれの立場から見た、措置解除者等の生活状況、アフターケアの利用状況、退所後から現在までの課題等が明らかになり、措置解除者等の生活には多くの困難や課題があることが示された。

第二に、自治体における自立支援施策の実施状況、当事者参画への取組状況等を把握するため、全国の児童相談所設置自治体を対象としたアンケート調査を実施した。自治体では、社会的養護自立支援事業の実施や自立支援を検討する協議体の設置等により支援の充実を図る一方で、措置解除者等の当事者参画においては参画者の依頼や参画方法に課題があることが明らかになった。

第三に、当事者参画のもと事業を推進することとして、社会的養護経験者を構成員とする当事者委員会を設置した。当事者委員会において、調査の実施方法、調査項目等の検討を行った結果、調査の質及び調査倫理等の安全性が向上するという効果が見られた。

以上の調査結果により、限られた人数ではあるが、措置解除者等の生活実態や支援ニーズが可視化され、継続的な支援の必要性を窺い知ることができた。本調査結果については、回答者からも活用を望む声が寄せられており、国、措置自治体、社会的養護の関係者等により、制度・政策、支援の改善に反映されることが期待される。

なお、今後の課題と提案として、①国・措置自治体が定期的かつ継続的に実態把握を行うとともに、制度・政策、支援のあり方を検証し、改善・創設する体制の構築、②国・措置自治体における措置解除者等が意思決定プロセスに参加する形での当事者参画の推進、③地域単位・地域横断での措置解除後の継続的な支援体制の充実、の 3 点が考えられた。

¹ 平成 30 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する調査研究」

² 令和元年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握の在り方及び実態把握にあたり必要な体制等に関する調査研究」

第1章 調査の実施概要

1. 背景・目的

社会的養護においては、児童養護施設等への入所措置や里親委託等を解除された者（以下、「措置解除者等」という）に対する自立支援の充実を図ることが求められている。このため、平成29年度に「社会的養護自立支援事業」が創設され、支援全体を統括するコーディネーターの配置、居住に関する支援、生活費の支給、生活相談、就労相談等の支援が行われた。また、平成30年7月6日に示された「都道府県社会的養育推進計画の策定要領」において、都道府県は社会的養護自立支援の推進に向けた取組の計画を策定することとし、評価のための指標例として、社会的養護自立支援事業の実施率や代替養育経験者等のフォローアップの状況が掲げられた。

自立支援の充実を図るためには、措置解除者等の実態を把握することが必要であることから、平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する調査研究」において、実態把握に関する既往調査の分析や自治体等の取組に関する調査・検証が行われ、令和元年度同調査研究事業「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握の在り方及び実態把握にあたり必要な体制等に関する調査研究」（以下、「令和元年度事業」という）においては、モデル自治体における実態把握調査や実態把握に必要な自治体の具体的な体制・対応等に関する調査・検証が行われた。

本調査研究は、これまでの調査研究事業で得られた成果等を踏まえて、措置解除者等の実態把握について全国調査を実施するとともに、支援ニーズを分析・整理し、自立支援の充実に資することを目的として実施した。

2. 実施内容

（1）実態把握調査（本人記入調査、施設職員・里親家庭記入調査）の実施

中長期的かつ広範な自立支援施策の充実のため、全国規模で、措置解除者等の生活状況や生活上の課題、支援ニーズ等を把握、整理することを目的として、措置解除者等を対象としたアンケート調査（本人記入調査）を実施した。また、措置解除者等の回答バイアスを考慮した分析を行うため、措置解除者等の養育施設等を対象としたアンケート調査（施設職員・里親家庭記入調査）を実施し、措置解除者等の属性、生活状況、課題等を合わせて把握した。

なお、調査実施にあたり、自治体の担当者に本調査研究の趣旨・実施方法等を案内する自治体オンライン説明会の開催、調査に回答した措置解除者等に支援情報を案内するための支援情報Webページの作成を行った。

(2) 児童相談所設置自治体調査の実施

実態把握調査実施のために調査対象施設数、調査対象者数、支援情報の収集、及び、自治体における自立支援施策の実施状況、措置解除者等の実態把握の状況、当事者参画についての意向・取組状況等を把握、整理することを目的として、都道府県、政令指定都市（以下、「政令市」）、児童相談所設置自治体を対象としたアンケート調査を実施した。

3. 検討委員会の設置概要

(1) 体制

本調査研究を実施するにあたり、9名の有識者からなる調査研究委員会を設置した。

【構成員】（50音順、○は委員長）

伊部 恭子氏	佛教大学社会福祉学部社会福祉学科 教授
大橋 和弘氏	社会福祉法人和泉乳児院 児童養護施設和泉幼児院 施設長
影山 孝氏	東京都児童相談センター 児童福祉相談担当課長
川瀬 信一氏	千葉県生実学校星久喜中学校分教室 教諭（社会的養護経験者）
佐竹 美可子氏	社会的養護経験者
高橋 温氏	新横浜法律事務所 弁護士
永野 咲氏	武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 講師
○松本 伊智朗氏	北海道大学大学院教育学研究院 教授
薬師寺 真氏	岡山県保健福祉部子ども家庭課児童福祉班 統括参事

【オブザーバー】

胡内 敦司氏	厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課 課長補佐
末武 稔也氏	厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課 社会的養護専門官

【事務局 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング】

冢子 直幸	共生・社会政策部 主任研究員
古賀 祥子	共生・社会政策部 研究員
西尾 秀美	共生・社会政策部 研究員
山田 美智子	研究開発第1部（大阪） 主任研究員

(2) 開催状況

調査研究方針の検討・実施・報告書のとりまとめ等について専門的助言を得るため、令和元年 8 月～令和 2 年 3 月にかけて、会合を 4 回開催した。

図表 1 検討委員会の開催状況

	開催日程	主な検討事項
第 1 回	令和 2 年 8 月 26 日	・ 実施概要について ・ 調査票案について
第 2 回	令和 2 年 10 月 13 日	・ 当事者委員会について ・ 自治体説明について ・ 調査票案について
第 3 回	令和 3 年 3 月 3 日	・ 調査結果について ・ 報告書作成に向けた論点について
第 4 回	令和 3 年 3 月 24 日	・ 報告書案について

※第 4 回は、検討委員会・当事者委員会の合同開催とした

4. 当事者委員会の設置概要

(1) 体制

本調査研究を実施するにあたり当事者の意見を反映するため、6 名の当事者、有識者からなる当事者委員会を設置した。

【構成員】 (50 音順、○は委員長、※は検討委員会と兼任)

伊部 恭子氏	佛教大学社会福祉学部社会福祉学科 教授 ※
佐竹 美可子氏	社会的養護経験者 ※
永野 咲氏	武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 講師 ※
○川瀬 信一氏	千葉県生実学校星久喜中学校分教室 教諭 (社会的養護経験者) ※
A 氏	社会的養護経験者
B 氏	社会的養護経験者

【オブザーバー】

胡内 敦司氏	厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課課長補佐
末武 稔也氏	厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課社会的養護専門官

【事務局 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング】

家子 直幸	共生・社会政策部 主任研究員
古賀 祥子	共生・社会政策部 研究員
西尾 秀美	共生・社会政策部 研究員
山田 美智子	研究開発第 1 部 (大阪) 主任研究員

(2) 開催状況

調査の実施・報告書のとりまとめ等について助言を得るため、令和元年9月～令和2年3月にかけて、会合を4回開催した。

図表 2 当事者委員会の開催状況

	開催日程	主な検討事項
第1回	令和2年9月16日	・ 本事業の説明 ・ 当事者委員会の説明、進め方について
第2回	令和2年9月23日	・ 調査票案について ・ 調査方法について ・ 調査実施時の相談先の情報提供について
第3回	令和3年2月22日	・ 調査結果について
第4回	令和3年3月24日	・ 報告書案について

※第4回は、検討委員会・当事者委員会の合同開催とした

5. 結果の公表方法

本調査研究の結果については、弊社ホームページにおいて公表した。

第2章 本事業の実施スキーム

本事業では、本人記入調査及び施設職員・里親家庭記入調査の実施にあたり、自治体からの情報収集が必要であるため、以下のような流れで事業の実施を行った。

まず、児童相談所設置自治体を対象とした「①自治体オンライン説明会」を開催し、厚生労働省、検討委員会及び当事者委員会の委員長、事務局より、本事業で実施する調査の趣旨や調査方法、自治体に協力をお願いしたい事項について説明を行った。

そのうえで、「②児童相談所設置自治体調査」を行い、本人記入調査及び施設職員・里親家庭記入調査の対象者・対象施設等の抽出、各自治体の支援窓口の情報収集等を行った。

次に、自治体から提供のあった支援窓口の情報を集約し、「③支援情報ページの構築」を行った。本人記入調査の回答者が、調査をきっかけに支援につながることを目指したものであり、本人記入調査の Web ページからアクセスできるようにした。

以上の段階を経て、「④本人記入調査／施設職員・里親家庭記入調査」を実施した。いずれの調査についても、児童相談所設置自治体経由で調査依頼を行い、本人記入調査は本人による Web 回答、施設職員・里親家庭記入調査は、里親家庭が郵送、施設がメールでの回答とした。

調査スキームの詳細については、図表 3 を参照されたい。

図表 3 事業実施の流れ

①自治体オンライン説明会

- ・自治体担当者に本調査研究の趣旨や内容を理解いただくためのオンライン説明会を開催した。
- ・厚生労働省、検討委員会及び当事者委員会の委員長、事務局より、調査の目的・調査方法等の説明を行い、質疑応答を行った。
- ・参加自治体：28か所

②児童相談所設置自治体調査

- ・児童相談所設置自治体を対象としたアンケート調査を実施。
- ・本人記入調査、施設職員・里親家庭記入調査の実施に向けて、「調査対象となる措置解除者等・施設等の数」と「措置解除者等に案内可能な自治体の支援窓口情報」を収集。合わせて、自立支援施策の実施状況、当事者参画の実施状況等も把握した。

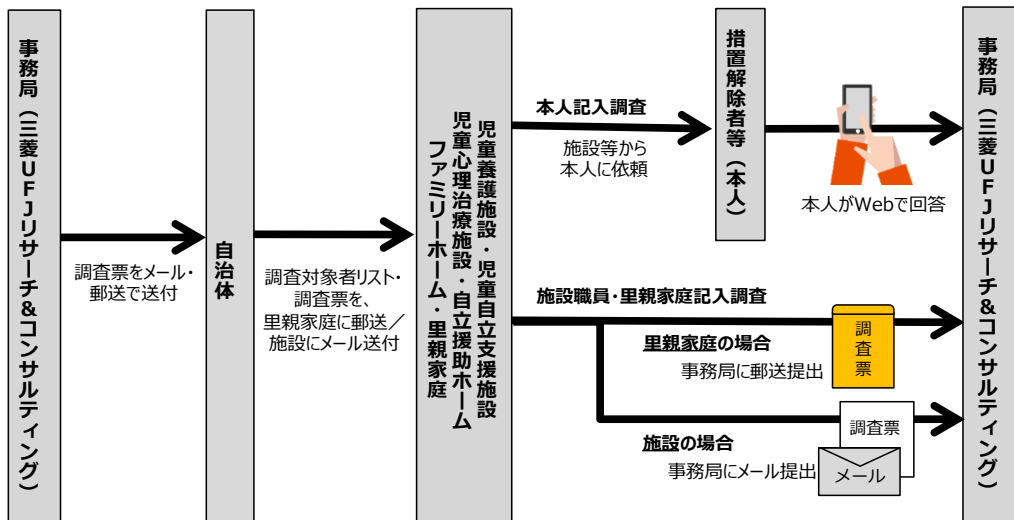
③支援情報ページの構築

- ・措置解除者等に案内可能な自治体の支援窓口情報をもとに、アンケートに回答した措置解除者向けの支援情報ページを作成。



④本人記入調査／施設職員・里親家庭記入調査

- ・②児童相談所設置自治体調査で確認した措置解除者等及び施設等を対象として、本人記入調査、施設職員・里親家庭記入調査を実施。
- ・自治体経由で施設等に調査依頼を行い、本人記入調査は本人によるWeb回答、施設職員・里親家庭記入調査は、里親家庭が郵送、施設がメールで回答を受けつけた。



第3章 本人記入調査

1. 調査概要

(1) 調査の目的

- ・ 全国規模で、措置解除者等の生活状況や生活上の課題、支援ニーズ等を把握・整理することを目的として、退所から現在までの状況をたずねる本人記入調査を実施した。

(2) 調査対象

- ・ 平成27年4月～令和2年3月に、中学卒業以降で措置解除となった人（悉皆）

(3) 調査方法

- ・ 退所した人本人を回答者とする Web 調査とした。
- ・ 本人への調査協力依頼は、自治体を経由し、最後に生活した児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、ファミリーホーム、自立援助ホーム、里親家庭（以下、「施設等」とする）から、電子メール・SNS で Web サイトを案内いただいた。
- ・ 調査対象者のリストアップと施設等への依頼は、自治体の社会的養護担当部局にご協力いただいた。

(4) 調査実施期間

- ・ 令和2年11月30日～令和3年1月31日

(5) 回答件数

- ・ 2,980 件の回答が得られた。都道府県別・施設の種類の回答件数は、図表 4 及び図表 5 を参照されたい。

(6) 調査項目

- ・ 調査項目は以下の通りである。

1. 基本属性

- ・ アンケートを紹介された相手
- ・ 性別、年齢、現在の居住地（都道府県）
- ・ 最後に生活していた施設の種別、所在地（都道府県）
- ・ 入所期間、退所年度、退所時点の年齢

2. 就労・就学の状況

- ・ 退所直後の進路
- ・ 現在の就労・就学の状況
- ・ （就労している人）勤務先の数、雇用形態
- ・ （通学している人）学校の種別
- ・ 最終学歴

3. 住まい・家計の状況

- ・ 退所直後と現在の住まい
- ・ 同居相手、子どもの年齢
- ・ 月々の収支バランス、家計の状況

4. 健康状態・医療サービス

- ・ 現在の心身の状態等
- ・ 最近 1 か月に、健康上の理由等で普段の活動ができなかった日の有無、その日数
- ・ 過去 1 年間に医療受診できなかった経験の有無、その理由
- ・ 施設等で受けていた治療等を受けられなくなった経験の有無、その理由
- ・ 受診後の支払い方法

5. 生活していた施設等とのつながり・相談相手

- ・ 施設等との連絡頻度、その充足感
- ・ 施設等で生活していた人や当事者団体とのつながり・関わり
- ・ 相談相手

6. 最後に生活していた施設等から受けたサポートの内容と評価

- ・ 退所に向けたサポートの内容
- ・ 退所後に受けたサポートの内容
- ・ これまでに受けたサポートの評価

7. 公的なサポートへの意見・要望

- ・ 施設等を退所する前に退所に向けて不安や心配だったこと
- ・ 現在困っていることや不安なこと、心配なこと
- ・ 今後利用したいサポートやサービスの内容
- ・ 現在目標としていることや、向き合いたいこと、生活する上での希望や願望等と、実現するために必要なサポート・サービス

8. その他

- ・ 国や自治体、施設等に伝えたいこと

(7) 留意事項

- ・クロス集計結果について、回答数が 10 件以下の項目を非掲載とした。

図表 4 都道府県別 回答件数

都道府県	調査対象者数	回答件数	回答率
北海道(札幌市含む)	998	197	19.3%
青森県	208	32	15.4%
岩手県	249	55	22.1%
宮城県(仙台市含む)	287	27	9.4%
秋田県	112	8	7.1%
山形県	139	28	20.1%
福島県	237	52	21.9%
茨城県	389	52	13.4%
栃木県	362	67	18.5%
群馬県	252	19	7.5%
埼玉県(さいたま市含む)	887	121	13.6%
千葉県(千葉市含む)	578	68	11.8%
東京都	2,328	340	14.6%
神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市含む)	1,037	198	19.3%
新潟県(新潟市含む)	167	13	7.8%
富山県	87	26	29.9%
石川県(金沢市含む)	108	14	13.0%
福井県	114	15	13.2%
山梨県	155	24	14.1%
長野県	318	57	18.0%
岐阜県	555	22	4.0%
静岡県(静岡市・浜松市含む)	300	33	11.0%
愛知県(名古屋市含む)	821	151	18.4%
三重県	325	50	15.4%
滋賀県	285	21	7.4%
京都府(京都市含む)	539	119	22.1%
大阪府(大阪市・堺市含む)	2,066	289	13.9%
兵庫県(神戸市・明石市含む)	1,100	74	6.7%
奈良県	192	16	8.3%
和歌山県	215	42	19.5%
鳥取県	158	18	11.4%
島根県	149	13	7.8%
岡山県(岡山市含む)	374	76	20.3%
広島県(広島市含む)	433	47	10.9%
山口県	318	32	10.1%
徳島県	217	28	12.9%
香川県	156	59	37.8%
愛媛県	285	6	2.1%
高知県	241	37	15.4%
福岡県(福岡市・北九州市含む)	761	100	13.1%
佐賀県	143	11	7.7%
長崎県	398	71	17.8%
熊本県(熊本市含む)	453	91	20.1%
大分県	223	49	22.0%
宮崎県	215	19	8.8%
鹿児島県	465	47	10.1%
沖縄県	230	19	8.3%
無回答	-	27	-
合計	20,629	2,980	14.4%

(注1) 自治体が回答した調査対象者数(過去5年の退所者数)と本人記入調査での回答件数を用いて、回答率を計算した(回答件数÷調査対象者数×100)。

(注2) 本人記入調査では、最後に生活していた施設等の所在地を都道府県別に尋ねたため、回収率は都道府県単位で算出している。

図表 5 施設の種別別 回答件数

	調査 対象者数	回答件数	回答率	配布数	配布数に対する 回答率
児童養護施設	13,006	2,259	17.4%	5,630	40.1%
児童自立支援施設	2,110	137	6.5%	437	31.4%
児童心理治療施設	778	48	6.2%	169	28.4%
ファミリーホーム	747	63	8.4%	103	61.2%
自立援助ホーム	1,976	232	11.7%	545	42.6%
里親	2,073	201	9.7%	497	40.4%
不明・無回答	-	40	-	-	-
合計	20,690	2,980	14.4%	7,385	40.4%

(注 1) 配布数は、施設職員・里親家庭記入調査において、本人記入調査を「案内した」と回答した人数のこと。施設職員・里親家庭記入調査の回収率は措置解除者等の人数ベースで 66.0%である。

(注 2) 配布数に対する回答率は、施設等から回答があった「配布数」を分母とし、本人記入調査の回答件数を分子として割り出した比率のこと（回答件数÷配布数×100）。

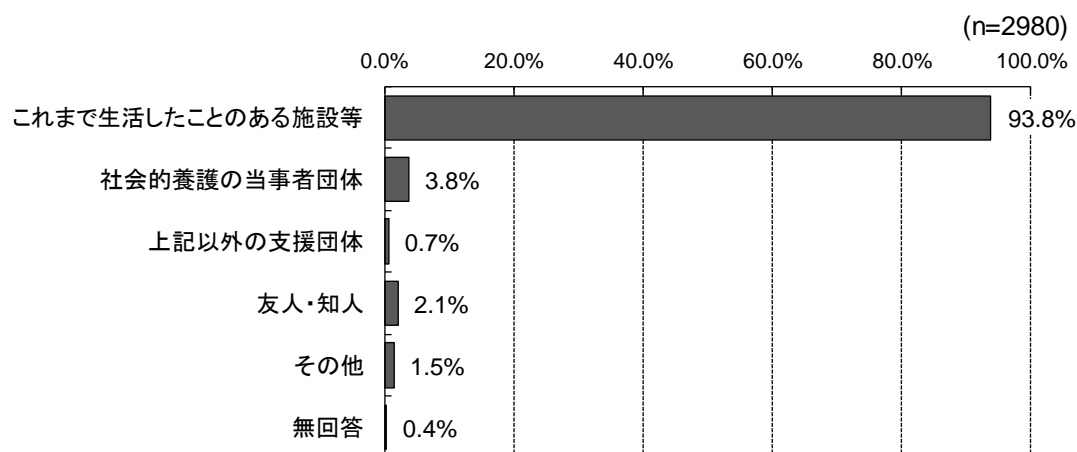
2. 集計結果

(1) 基本属性

① アンケートを紹介された相手

アンケートを紹介された相手を見ると、「これまで生活したことのある施設等」の割合が最も高く 93.8% (2,796 人) となっている。次いで、「社会的養護の当事者団体 (3.8%)」、「友人・知人 (2.1%)」となっている。

図表 6 アンケートを紹介された相手 (複数回答)



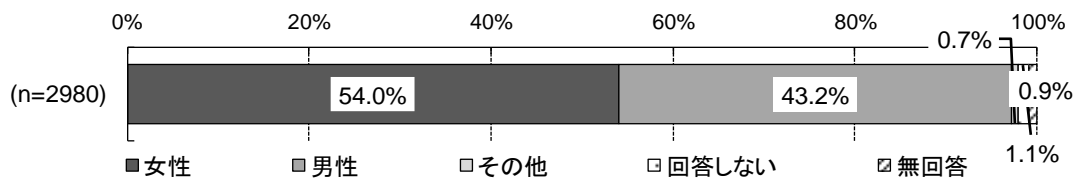
図表 7 アンケートを紹介された相手 (複数回答) (施設の種類の別、退所年度別)

		(n)	これまで生活したことのある施設等	社会的養護の当事者団体	上記以外の支援団体	友人・知人	その他	無回答
Total		2980	93.8%	3.8%	0.7%	2.1%	1.5%	0.4%
施設の 種類	児童養護施設	2259	95.8%	2.7%	0.4%	2.3%	0.7%	0.3%
	児童自立支援施設	137	92.7%	5.1%	0.0%	2.9%	0.7%	0.0%
	児童心理治療施設(旧:情緒障害 児短期治療施設)	48	95.8%	0.0%	0.0%	2.1%	2.1%	0.0%
	ファミリーホーム	63	92.1%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
	自立援助ホーム	232	91.8%	5.2%	3.0%	1.3%	1.3%	0.4%
	里親	201	78.1%	11.4%	2.0%	1.5%	9.0%	0.5%
退所年 度	2015年4月以前	110	89.1%	5.5%	0.9%	6.4%	3.6%	0.0%
	2015年度	289	96.9%	0.3%	0.0%	3.1%	0.7%	0.0%
	2016年度	421	96.0%	2.1%	0.5%	2.1%	0.7%	0.0%
	2017年度	525	95.2%	3.2%	0.8%	3.0%	1.3%	0.2%
	2018年度	703	94.5%	4.1%	0.9%	1.1%	1.1%	0.0%
	2019年度	742	93.5%	4.7%	0.8%	1.5%	1.3%	0.0%
	2020年4月以降	126	88.9%	9.5%	0.8%	0.8%	3.2%	0.0%

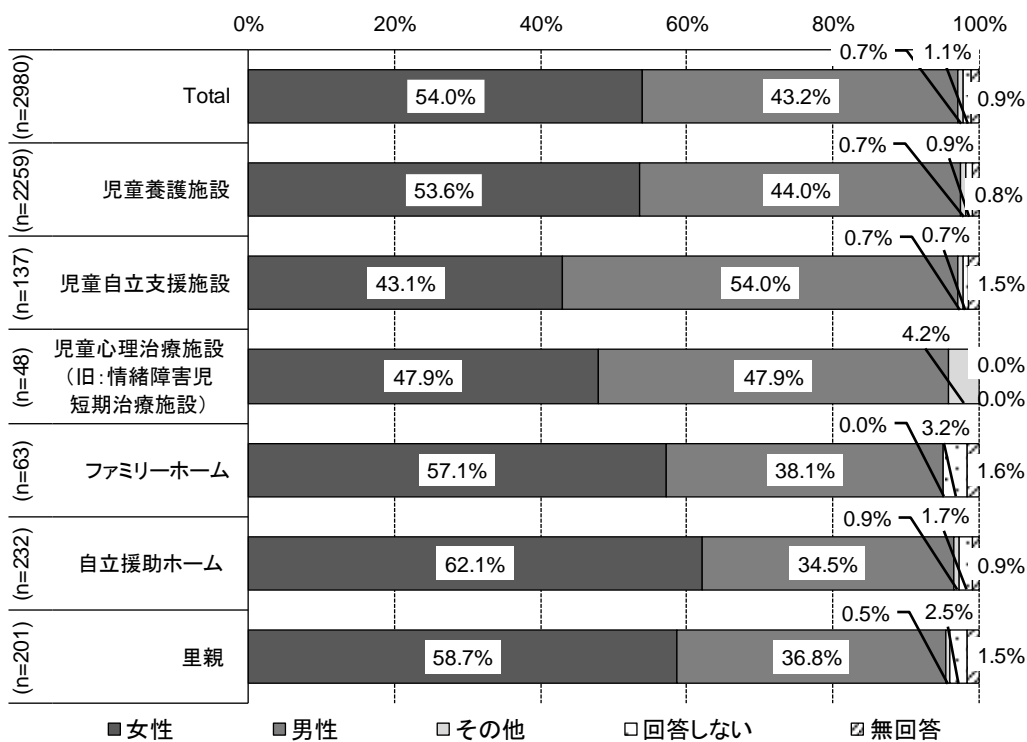
② 性別

性別をみると、「女性」の割合が最も高く 54.0%（1,609 人）となっている。次いで、「男性（43.2%）」、「回答しない（1.1%）」となっている。

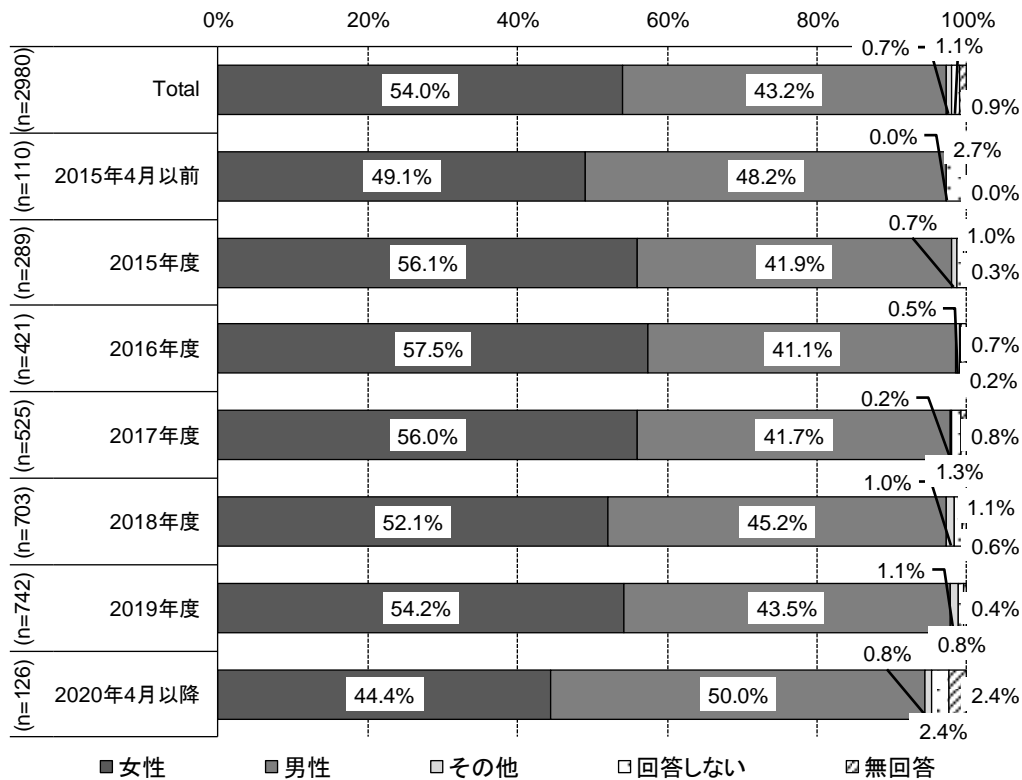
図表 8 性別



図表 9 性別（施設の種別別）



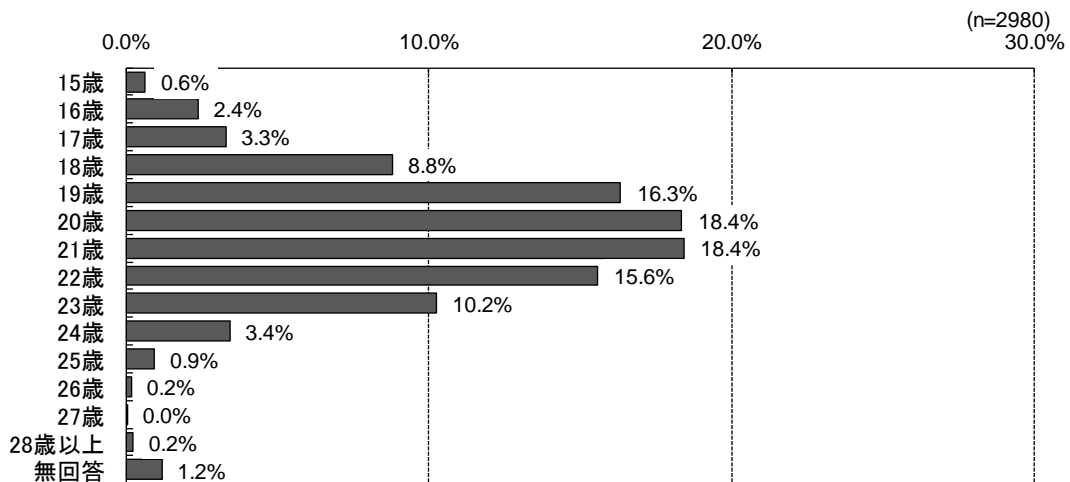
図表 10 性別（退所年度別）



③ 年齢

現在の年齢をみると、「21 歳」の割合が最も高く 18.4%（549 人）となっている。次いで、「20 歳（18.4%、547 人）」、「19 歳（16.4%）」となっている。

図表 11 2020 年 11 月 1 日時点の年齢



図表 12 年齢（施設の種別別）

	Total	児童養護施設	児童自立支援施設	児童心理治療施設 (旧:情緒障害児短期 治療施設)	ファミリーホーム	自立援助ホーム	里親
	(n=2980)	(n=2259)	(n=137)	(n=48)	(n=63)	(n=232)	(n=201)
15歳	0.6%	0.4%	5.1%	4.2%	1.6%	0.0%	0.0%
16歳	2.4%	1.5%	17.5%	8.3%	4.8%	0.9%	1.5%
17歳	3.3%	2.9%	12.4%	12.5%	0.0%	1.3%	1.5%
18歳	8.8%	8.5%	14.6%	22.9%	11.1%	6.0%	8.5%
19歳	16.3%	17.8%	11.7%	18.8%	19.0%	8.2%	11.4%
20歳	18.4%	19.1%	12.4%	6.3%	14.3%	13.4%	23.4%
21歳	18.4%	18.6%	10.9%	8.3%	15.9%	23.7%	9.9%
22歳	15.6%	16.2%	7.3%	8.3%	17.5%	18.5%	13.9%
23歳	10.2%	10.3%	2.2%	6.3%	6.3%	12.5%	12.9%
24歳	3.4%	2.8%	1.5%	2.1%	4.8%	9.9%	3.0%
25歳	0.9%	0.6%	2.2%	0.0%	1.6%	3.0%	2.0%
26歳	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
27歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
28歳以上	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
無回答	1.2%	1.0%	2.2%	2.1%	1.6%	1.7%	1.5%

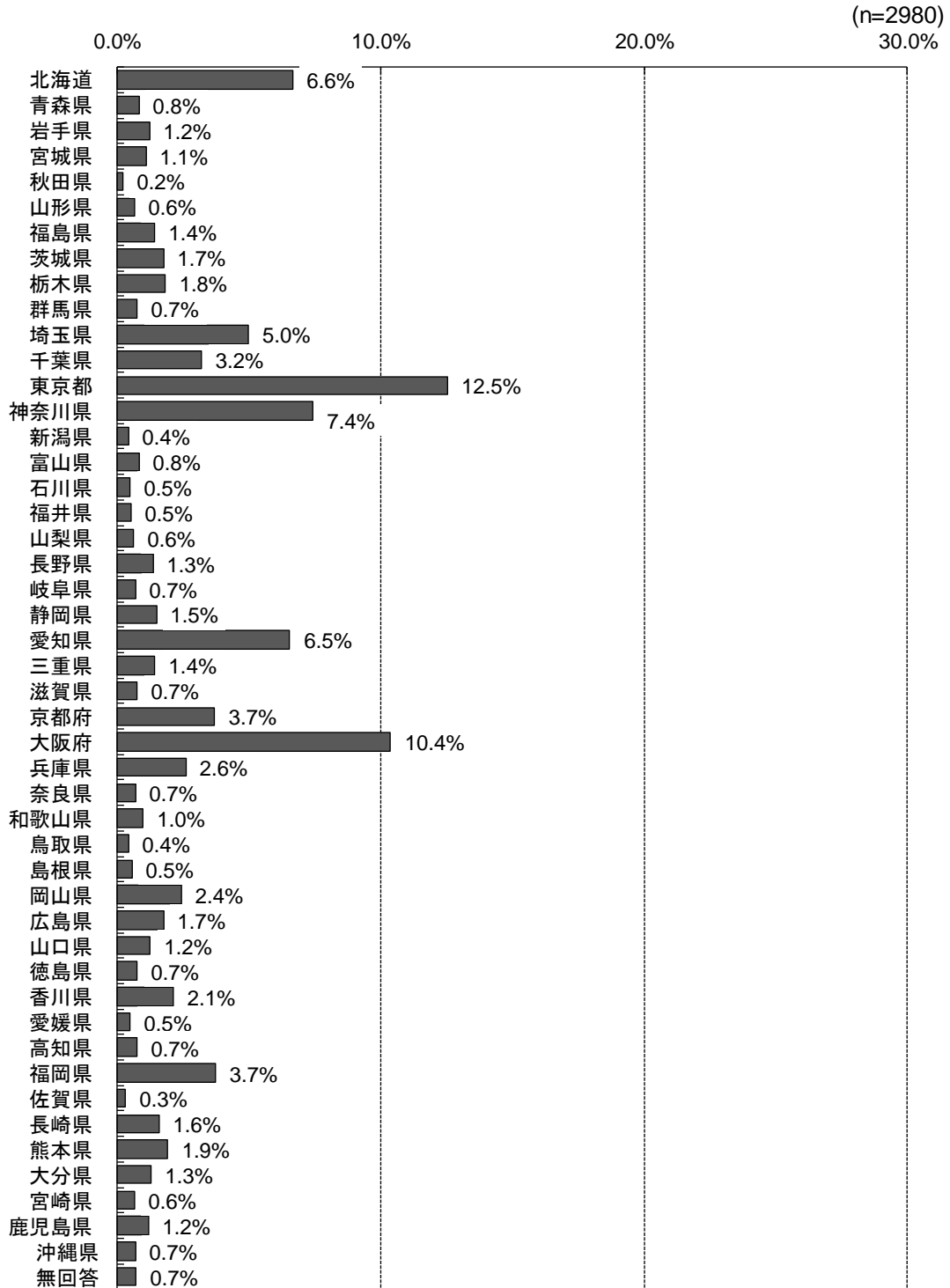
図表 13 年齢（退所年度別）

	Total	2015年 4月以前	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年 4月以降
	(n=2980)	(n=110)	(n=289)	(n=421)	(n=525)	(n=703)	(n=742)	(n=126)
15歳	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%
16歳	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	5.7%	7.9%
17歳	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	4.7%	5.3%	2.4%
18歳	8.8%	0.0%	0.0%	3.3%	5.0%	4.8%	22.4%	16.7%
19歳	16.3%	0.0%	5.5%	6.2%	4.8%	16.1%	35.2%	34.1%
20歳	18.4%	4.5%	6.2%	5.0%	19.2%	35.1%	16.3%	20.6%
21歳	18.4%	9.1%	5.5%	20.7%	36.8%	21.9%	8.5%	12.7%
22歳	15.6%	13.6%	28.4%	37.8%	21.1%	10.0%	2.3%	2.4%
23歳	10.2%	39.1%	37.7%	16.9%	6.7%	3.1%	1.1%	1.6%
24歳	3.4%	19.1%	10.0%	7.4%	1.9%	1.0%	0.0%	0.8%
25歳	0.9%	5.5%	4.5%	1.2%	0.4%	0.0%	0.1%	0.8%
26歳	0.2%	1.8%	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%
27歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
28歳以上	0.2%	4.5%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
無回答	1.2%	2.7%	2.1%	1.2%	0.6%	0.4%	0.4%	0.0%

④ 現在住んでいる都道府県

現在住んでいる都道府県をみると、「東京都」の割合が最も高く 12.5%（373 人）となっている。次いで、「大阪府（10.4%）」、「神奈川県（7.4%）」となっている。

図表 14 現在住んでいる都道府県

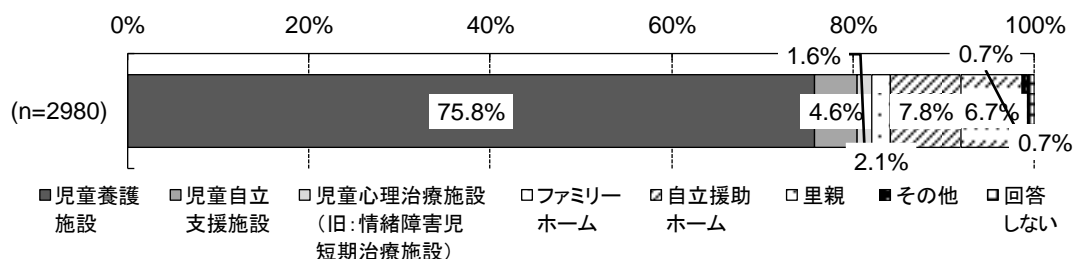


⑤ 最後に生活していた施設等

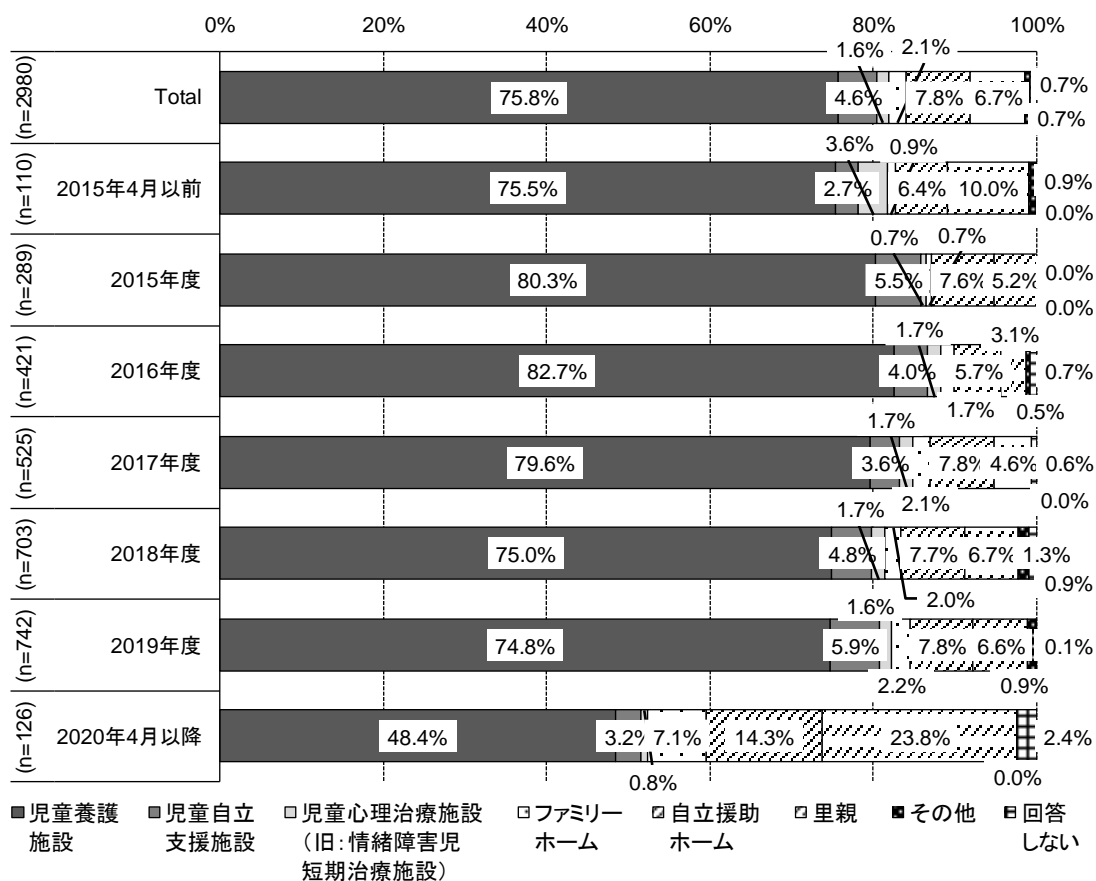
1) 最後に生活していた施設等の種類

最後に生活していた施設等の施設の種類をみると、「児童養護施設」の割合が最も高く 75.8% (2,259 人) となっている。次いで、「自立援助ホーム (7.8%)」、「里親 (6.7%)」となっている。

図表 15 施設の種類



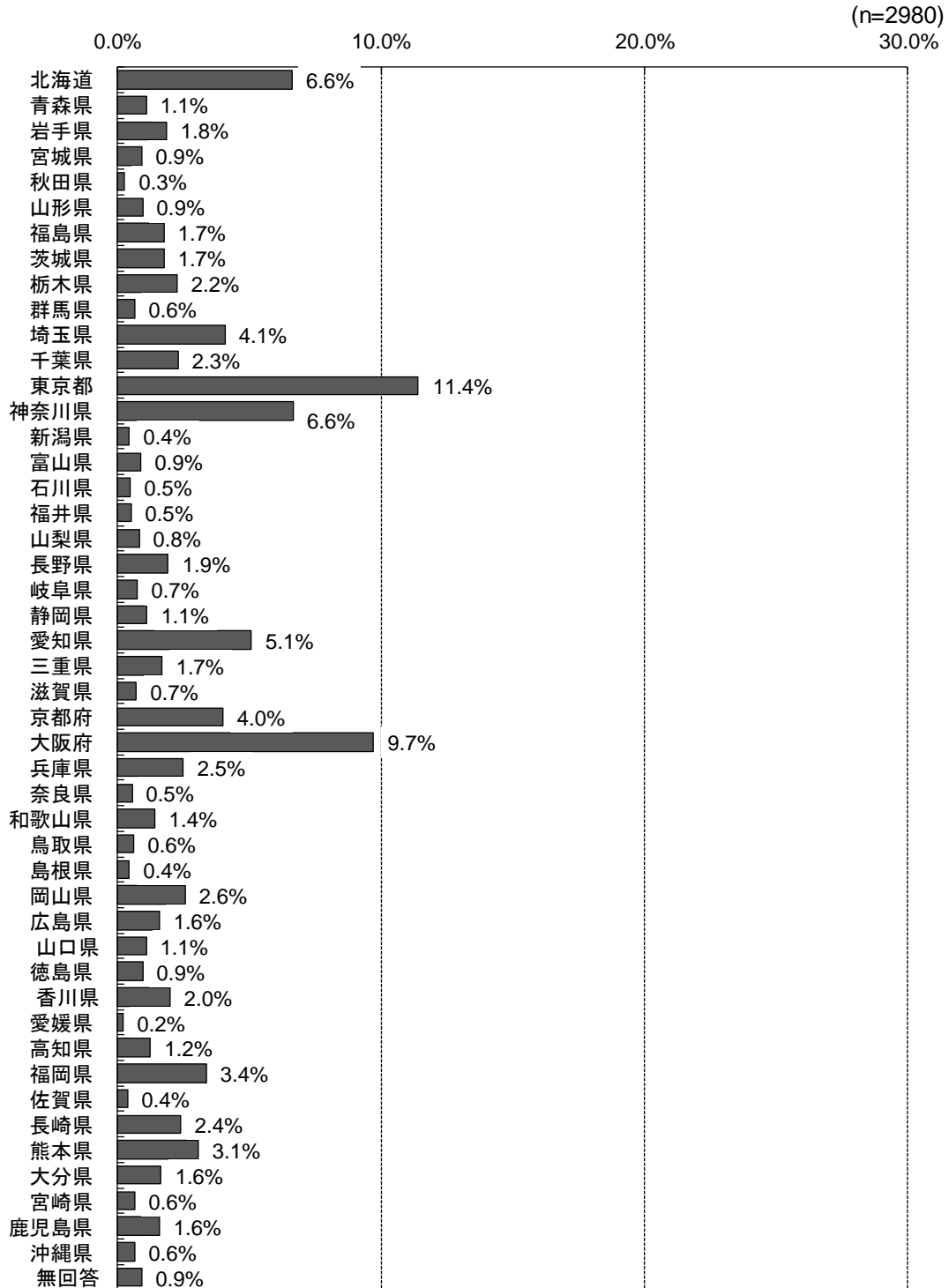
図表 16 施設の種類 (退所年度別)



2) 最後に生活していた施設等の都道府県

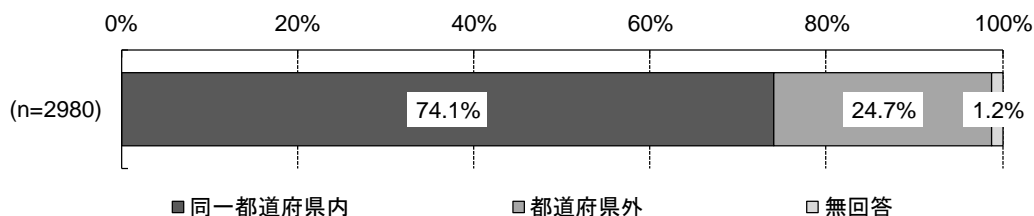
最後に生活していた施設等の所在地（都道府県）をみると、「東京都」の割合が最も高く 11.4%（340 人）となっている。次いで、「大阪府（9.7%）」、「神奈川県（6.6%）」となっている。

図表 17 最後に生活していた施設等の所在地（都道府県）

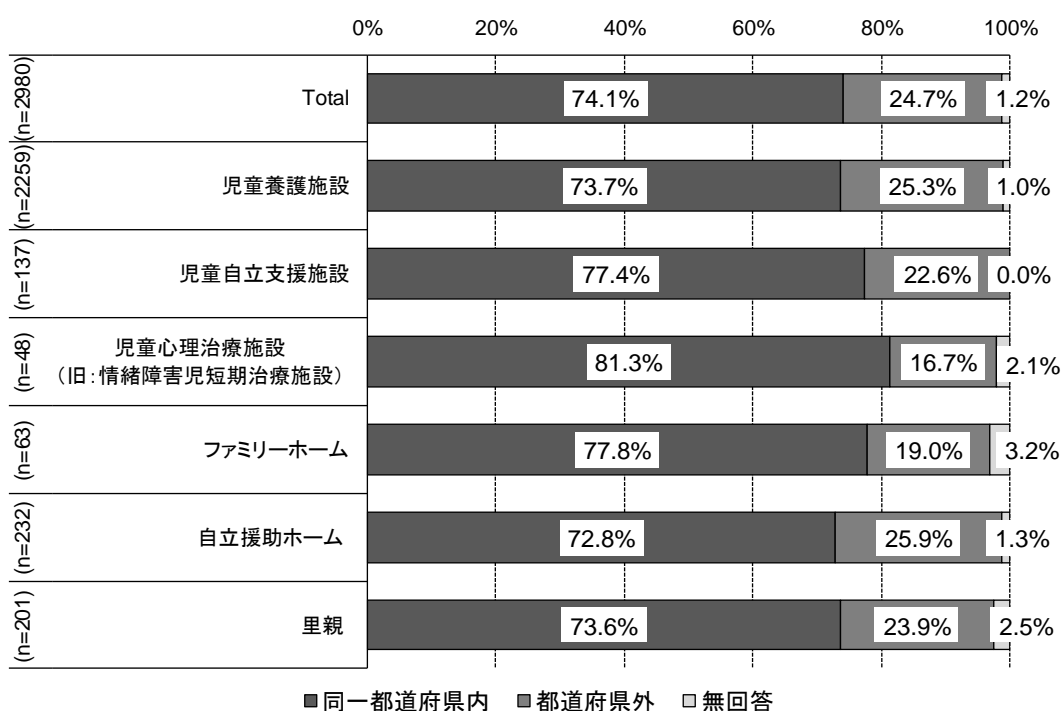


また、最後に生活していた施設等と現在住んでいる都道府県の場所をみると、「同一都道府県内」の割合が最も高く74.1%（2,208人）となっている。次いで、「都道府県外（24.7%）」となっている。

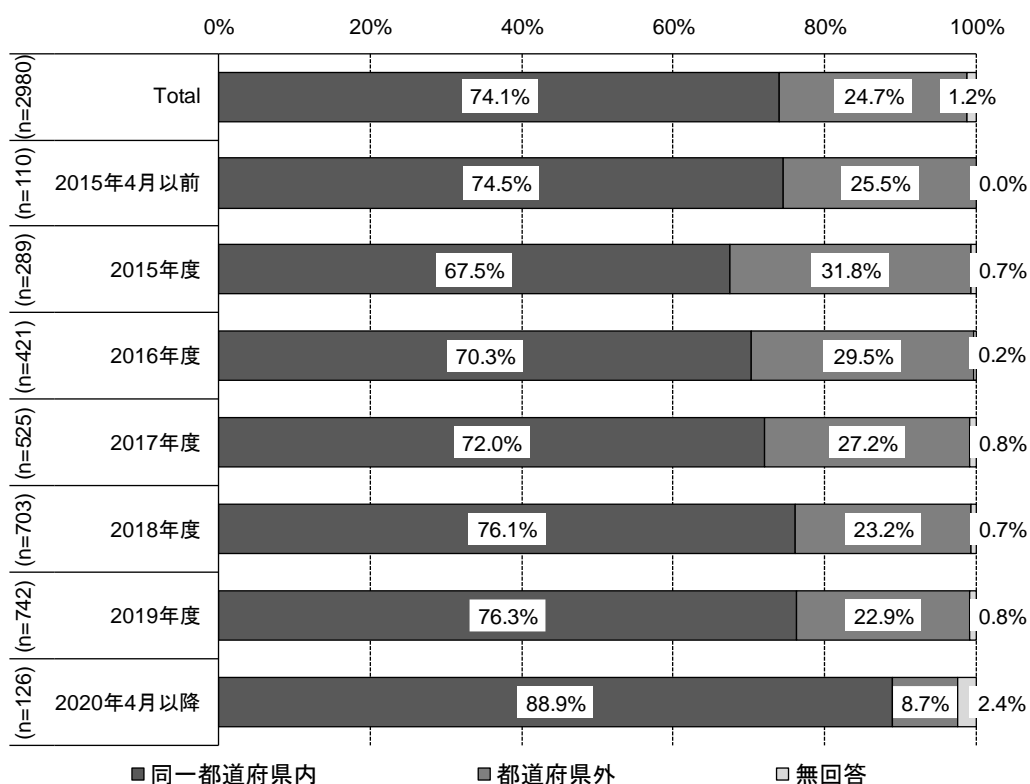
図表 18 最後に生活していた施設等と現在住んでいる都道府県の場所



図表 19 最後に生活していた施設等と現在住んでいる都道府県の場所（施設の種類別）



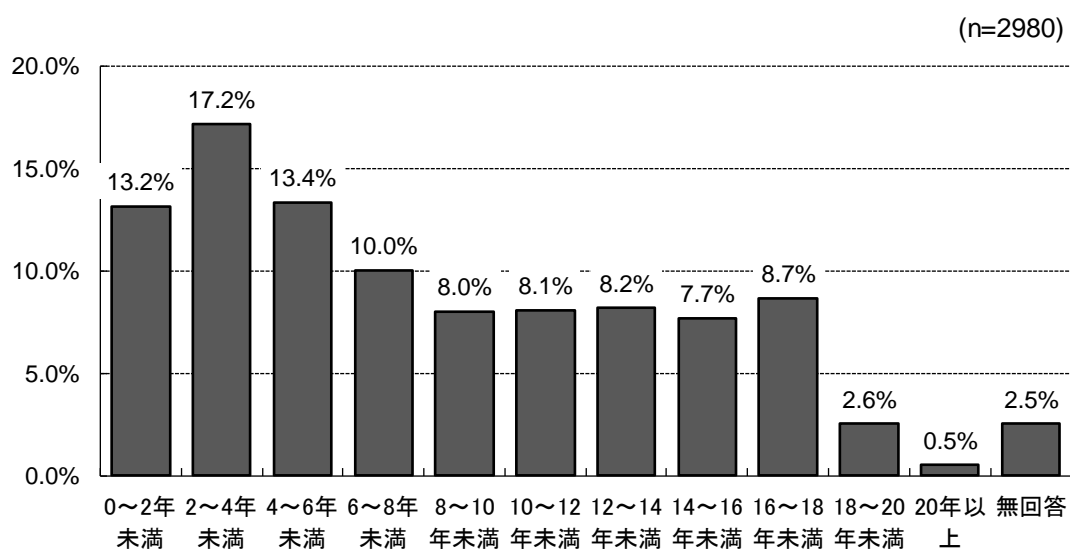
図表 20 最後に生活していた施設等と現在住んでいる都道府県の場合（退所年度別）



⑥ 最後に生活していた施設等で過ごした期間

最後に生活していた施設等で過ごした期間をみると、「2～4 年未満」の割合が最も高く 17.2%（512 人）となっている。次いで、「4～6 年未満（13.4%）」、「0～2 年未満（13.2%）」となっている。

図表 21 最後に生活していた施設等で過ごした期間



図表 22 最後に生活していた施設等で過ごした期間（施設の種別別）

	Total	児童養護施設	児童自立支援施設	児童心理治療施設 (旧・情緒障害児短期治療施設)	ファミリーホーム	自立援助ホーム	里親
	(n=2980)	(n=2259)	(n=137)	(n=48)	(n=63)	(n=232)	(n=201)
0～2年未満	13.2%	5.4%	52.6%	12.5%	19.0%	62.1%	14.4%
2～4年未満	17.2%	13.7%	32.8%	39.6%	22.2%	27.2%	23.9%
4～6年未満	13.4%	14.2%	6.6%	27.1%	20.6%	6.0%	12.9%
6～8年未満	10.0%	11.8%	1.5%	10.4%	7.9%	1.7%	7.0%
8～10年未満	8.0%	10.1%	0.0%	4.2%	4.8%	0.0%	2.5%
10～12年未満	8.1%	9.8%	0.7%	2.1%	7.9%	0.0%	6.5%
12～14年未満	8.2%	9.8%	2.2%	2.1%	4.8%	0.0%	6.5%
14～16年未満	7.7%	9.5%	2.2%	2.1%	4.8%	0.0%	4.0%
16～18年未満	8.7%	10.7%	0.7%	0.0%	1.6%	0.0%	5.5%
18～20年未満	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%	3.2%	0.4%	6.5%
20年以上	0.5%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.5%
無回答	2.5%	2.3%	0.7%	0.0%	3.2%	2.6%	5.0%

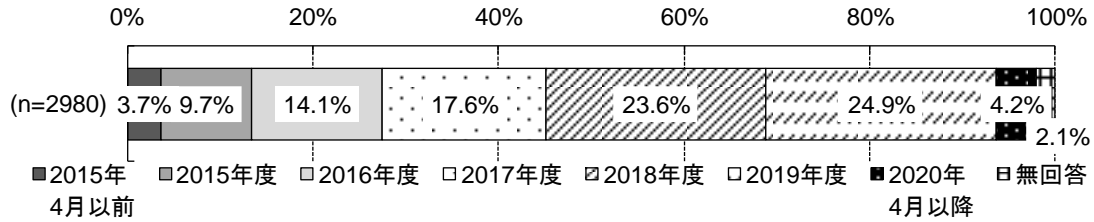
図表 23 最後に生活していた施設等で過ごした期間（退所年度別）

	Total	2015年4月以前	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年4月以降
	(n=2980)	(n=110)	(n=289)	(n=421)	(n=525)	(n=703)	(n=742)	(n=126)
0～2年未満	13.2%	12.7%	11.8%	13.5%	12.2%	12.1%	15.8%	13.5%
2～4年未満	17.2%	16.4%	13.8%	13.8%	19.0%	19.9%	17.7%	18.3%
4～6年未満	13.4%	19.1%	15.9%	15.9%	10.9%	12.7%	13.9%	11.1%
6～8年未満	10.0%	11.8%	12.5%	10.7%	10.3%	10.0%	8.8%	11.9%
8～10年未満	8.0%	8.2%	7.6%	9.5%	7.6%	9.1%	7.5%	4.0%
10～12年未満	8.1%	4.5%	10.7%	7.4%	8.4%	6.3%	10.0%	7.9%
12～14年未満	8.2%	6.4%	8.3%	8.8%	9.5%	8.7%	7.4%	7.1%
14～16年未満	7.7%	5.5%	8.7%	7.8%	9.0%	7.4%	7.8%	5.6%
16～18年未満	8.7%	10.0%	8.3%	9.7%	8.4%	9.8%	6.6%	11.9%
18～20年未満	2.6%	1.8%	1.7%	2.4%	2.9%	2.7%	2.7%	2.4%
20年以上	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.6%	0.4%	2.4%
無回答	2.5%	3.6%	0.7%	0.2%	1.7%	0.9%	1.5%	4.0%

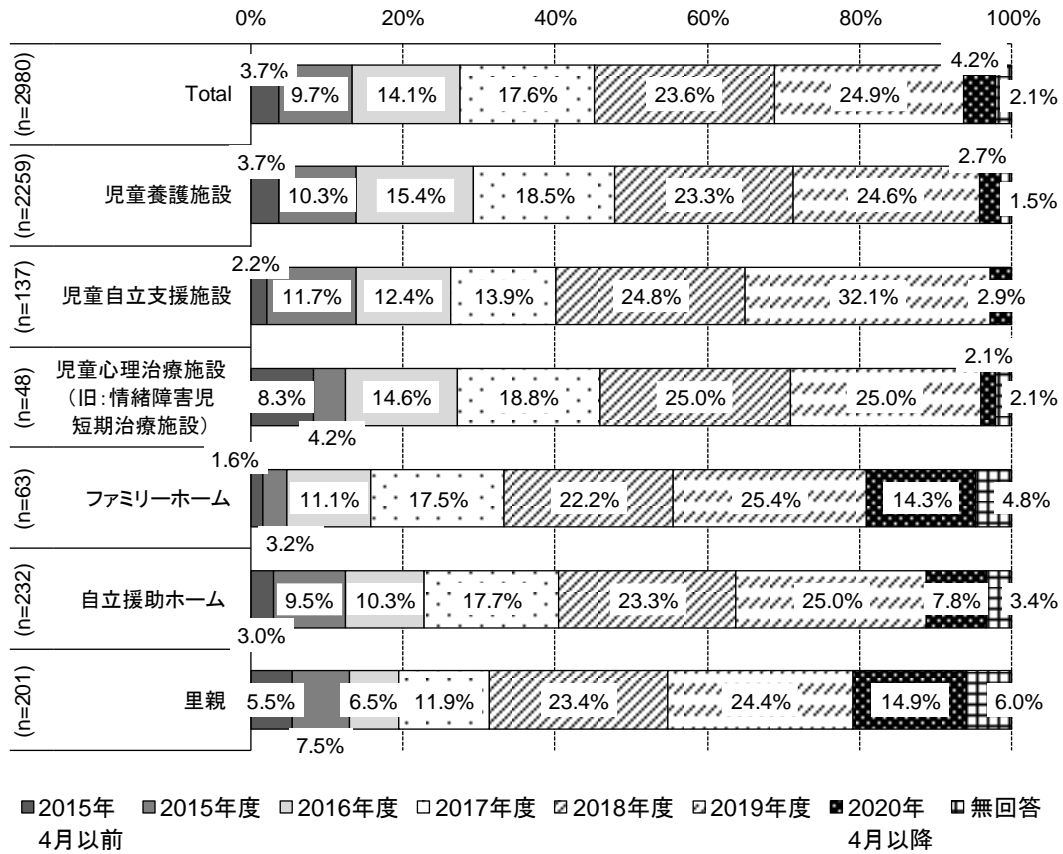
⑦ 退所年度

退所年度をみると、「2019 年度」の割合が最も高く 24.9%（742 人）となっている。次いで、「2018 年度（23.6%）」、「2017 年度（17.6%）」となっている。

図表 24 退所年度



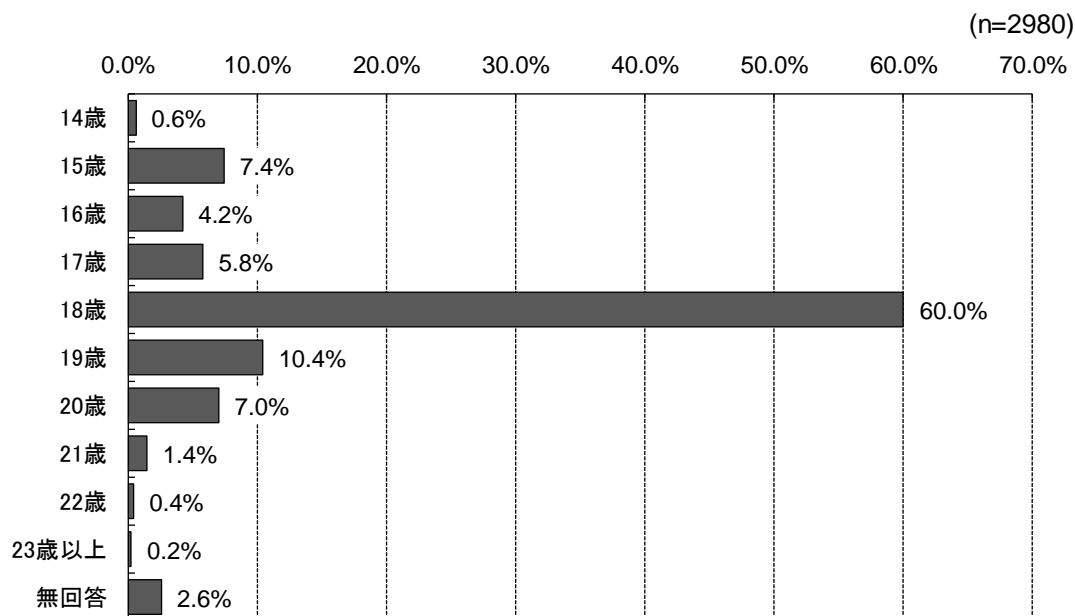
図表 25 退所年度（施設の種類の別）



⑧ 退所時点の年齢

退所時点の年齢をみると、「18歳」の割合が最も高く60.0%（1,788人）となっている。次いで、「19歳（10.4%）」、「15歳（7.4%）」となっている。

図表 26 退所時点の年齢



図表 27 退所時点の年齢（施設の種類の別）

	Total	児童養護施設	児童自立支援施設	児童心理治療施設 (旧:情緒障害児短期治療施設)	ファミリーホーム	自立援助ホーム	里親
	(n=2980)	(n=2259)	(n=137)	(n=48)	(n=63)	(n=232)	(n=201)
14歳	0.6%	0.6%	1.5%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
15歳	7.4%	5.5%	44.5%	35.4%	6.3%	0.9%	5.0%
16歳	4.2%	3.6%	16.1%	8.3%	6.3%	3.9%	2.0%
17歳	5.8%	5.3%	7.3%	10.4%	1.6%	12.1%	4.0%
18歳	60.0%	69.5%	15.3%	37.5%	42.9%	17.7%	47.8%
19歳	10.4%	8.3%	8.0%	4.2%	15.9%	31.5%	10.4%
20歳	7.0%	4.6%	5.8%	2.1%	19.0%	22.0%	14.4%
21歳	1.4%	0.4%	0.7%	0.0%	1.6%	7.8%	5.5%
22歳	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	1.5%
23歳以上	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	2.0%
無回答	2.6%	2.1%	0.7%	2.1%	1.6%	2.6%	7.5%

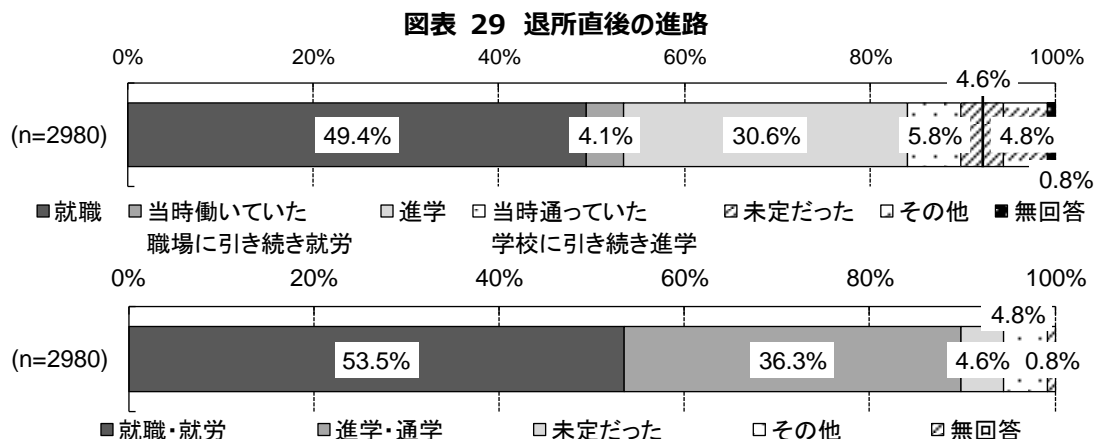
図表 28 退所時点の年齢（退所年度別）

	Total	2015年 4月以前	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年 4月以降
	(n=2980)	(n=110)	(n=289)	(n=421)	(n=525)	(n=703)	(n=742)	(n=126)
14歳	0.6%	0.9%	1.0%	1.2%	1.0%	0.3%	0.1%	0.0%
15歳	7.4%	9.1%	10.4%	7.4%	6.3%	6.5%	8.8%	4.8%
16歳	4.2%	0.9%	5.2%	6.4%	2.9%	4.6%	4.0%	4.0%
17歳	5.8%	8.2%	6.2%	5.7%	7.8%	3.7%	6.2%	4.0%
18歳	60.0%	62.7%	60.2%	65.8%	64.6%	61.0%	57.4%	46.0%
19歳	10.4%	8.2%	11.4%	7.4%	8.6%	12.1%	12.0%	11.9%
20歳	7.0%	5.5%	4.5%	4.5%	7.0%	7.8%	7.4%	16.7%
21歳	1.4%	0.0%	0.0%	1.2%	1.0%	2.0%	1.3%	6.3%
22歳	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.8%	2.4%
23歳以上	0.2%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.6%
無回答	2.6%	3.6%	1.0%	0.5%	1.0%	1.6%	1.5%	2.4%

(2) 就労・就学の状況

① 退所直後の進路

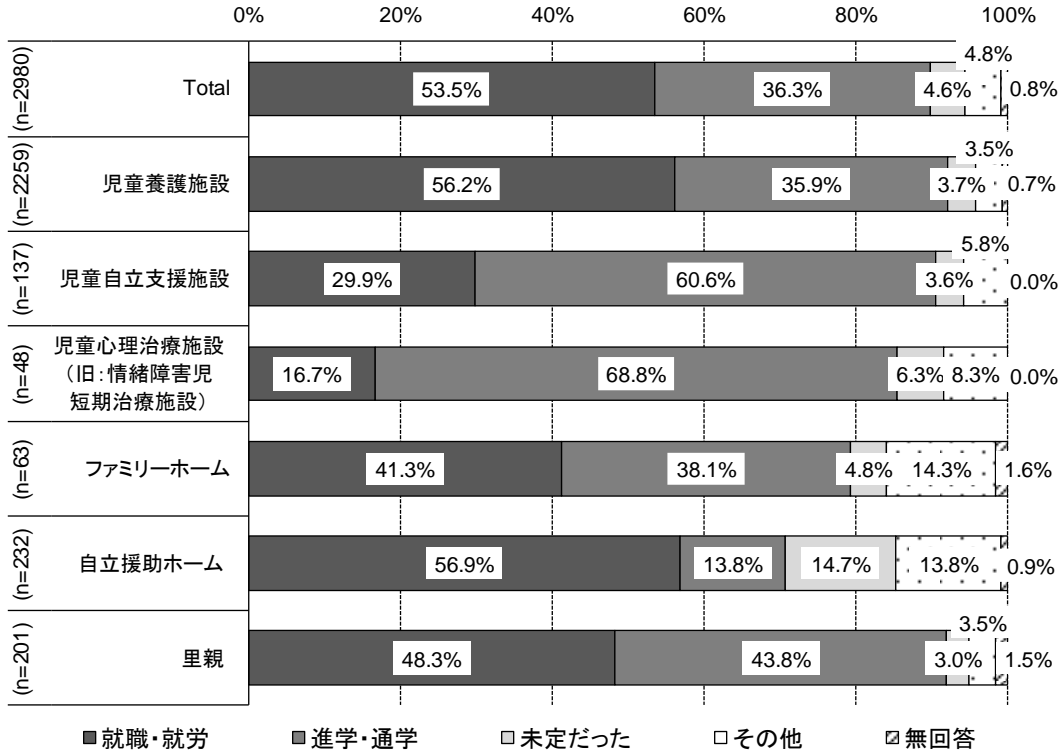
退所直後の進路をみると、「就職」の割合が最も高く49.4%（1,472人）となっている。次いで、「進学（30.6%）」、「当時通っていた学校に引き続き進学（5.8%）」となっている。また、「就職」と「当時働いていた職場に引き続き就労」を足すと53.5%、「進学」と「当時通っていた学校に引き続き進学」を足すと36.3%となっている。



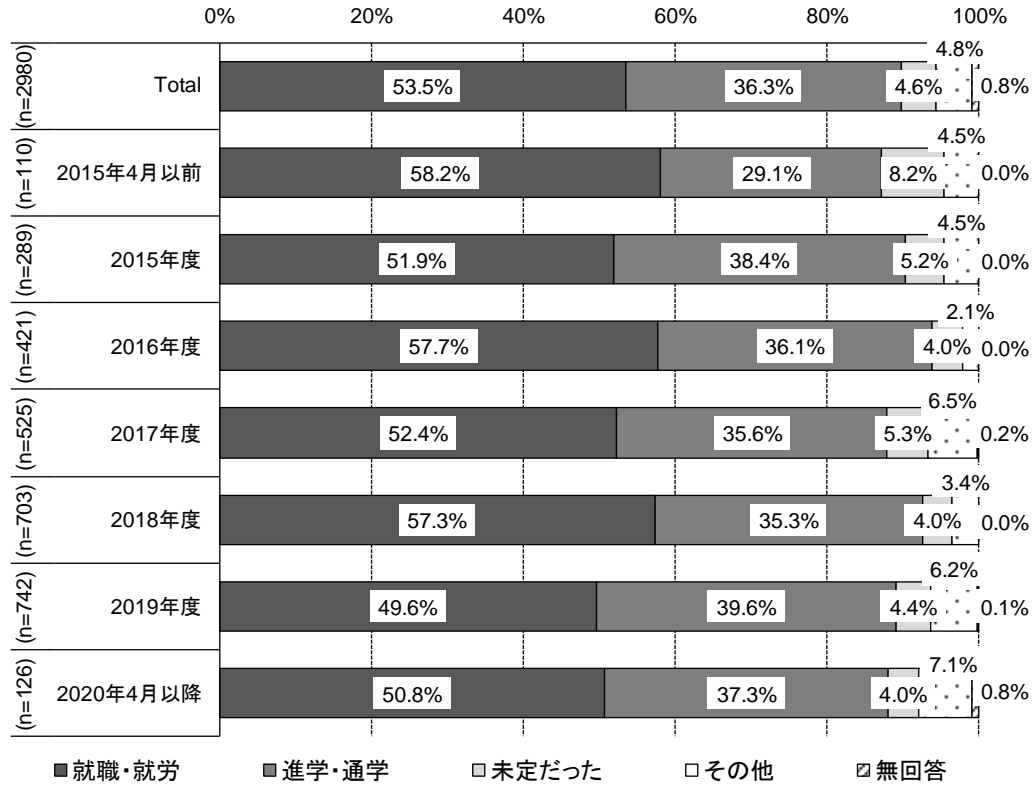
(注1) 「就職」「当時働いていた職場に引き続き就労」の回答を合わせて「就職・就労」、「進学」「当時通っていた学校に引き続き進学」の回答を合わせて「進学・通学」とした。

(注2) 「その他」として、「結婚・出産・育児」、「就労継続支援 B 型作業所」、「障害者支援施設」、「職業訓練校」、「生活介護事業所」、「少年院」、「ニート」などが挙げられた。

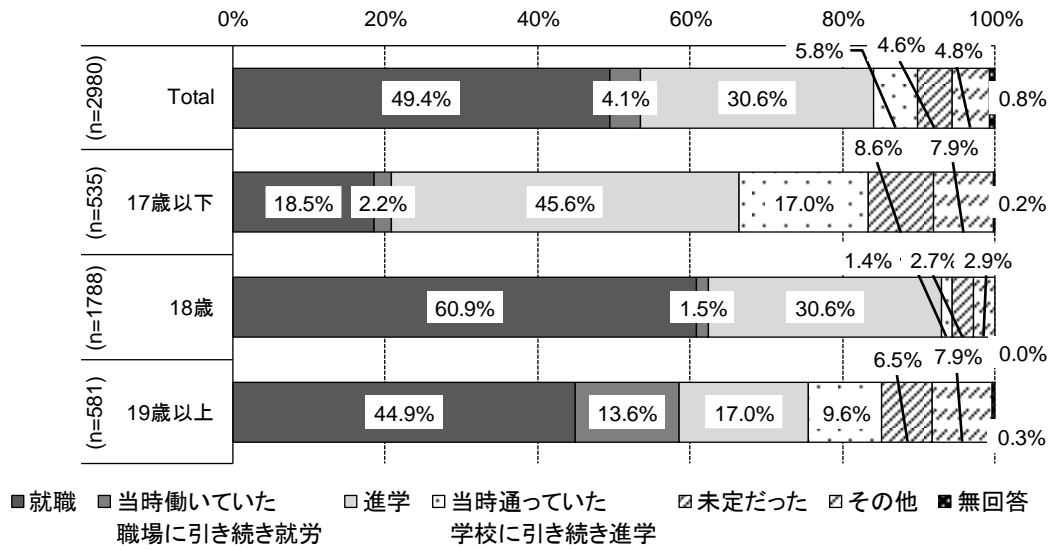
図表 30 退所直後の進路（施設の種別別）



図表 31 退所直後の進路（退所年度別）



図表 32 退所直後の進路（退所時点の年齢別）

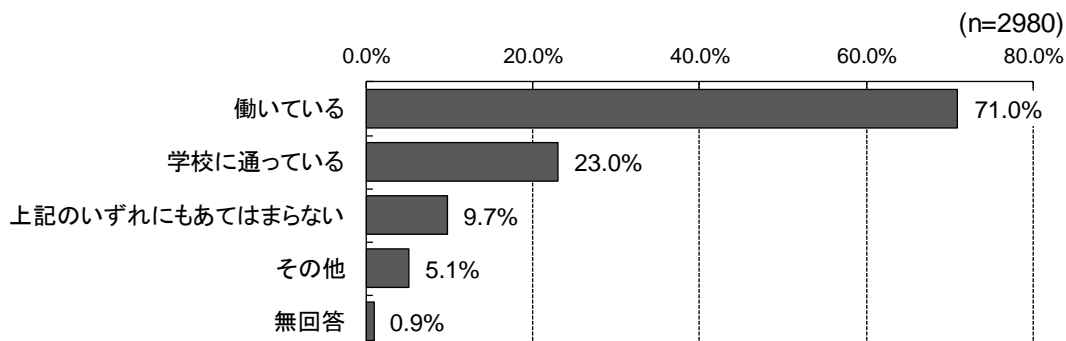


② 現在の通学・就労の状況

1) 現在の通学・就労の状況

現在の通学・就労の状況を見ると、「働いている」の割合が最も高く 71.0% (2,115 人) となっている。次いで、「学校に通っている (23.0%)」、「上記のいずれにもあてはまらない (9.7%)」となっている。

図表 33 現在の就労・就学の状況 (複数回答)



(注1) 「働いている」には、パートやアルバイト、日雇いを含む。また、「学校に通っている」には、実際には通学せずオンライン授業の受講や通信制の学校等を含む。

(注2) 「その他」として、「主婦」、「無職」、「育児休暇中」、「求職中」、「休職中」、「療養中」、「自立訓練」、「就労継続支援 B 型作業所」、「障害者支援施設」などが挙げられた。

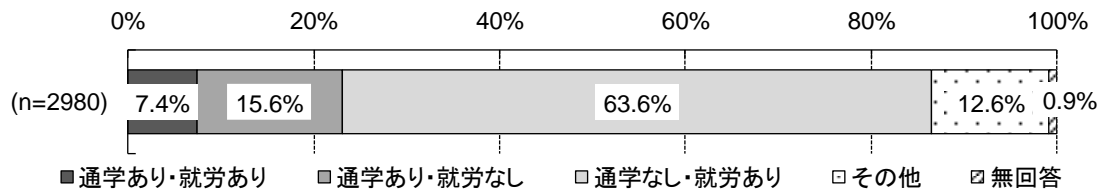
図表 34 現在の通学・就労の状況 (複数回答) (施設の種類別、退所年度別)

		(n)	働いている	学校に通っている	上記のいずれにもあてはまらない	その他	無回答
Total		2980	71.0%	23.0%	9.7%	5.1%	0.9%
施設の種類	児童養護施設	2259	73.4%	22.8%	8.2%	4.8%	0.7%
	児童自立支援施設	137	55.5%	29.2%	14.6%	8.8%	1.5%
	児童心理治療施設(旧:情緒障害児短期治療施設)	48	33.3%	54.2%	18.8%	6.3%	0.0%
	ファミリーホーム	63	68.3%	30.2%	9.5%	4.8%	1.6%
	自立援助ホーム	232	67.7%	9.1%	21.6%	8.6%	1.3%
	里親	201	69.2%	29.4%	6.5%	2.5%	1.0%
退所年度	2015年4月以前	110	76.4%	4.5%	14.5%	10.0%	0.0%
	2015年度	289	80.6%	10.0%	8.7%	6.9%	0.3%
	2016年度	421	77.9%	14.5%	9.5%	4.3%	0.5%
	2017年度	525	74.8%	21.3%	9.9%	4.0%	0.2%
	2018年度	703	74.3%	24.6%	9.4%	4.3%	0.3%
	2019年度	742	65.1%	34.4%	9.7%	5.8%	0.3%
	2020年4月以降	126	61.9%	33.3%	8.7%	5.6%	0.0%

2) 現在の通学と就労の組み合わせ

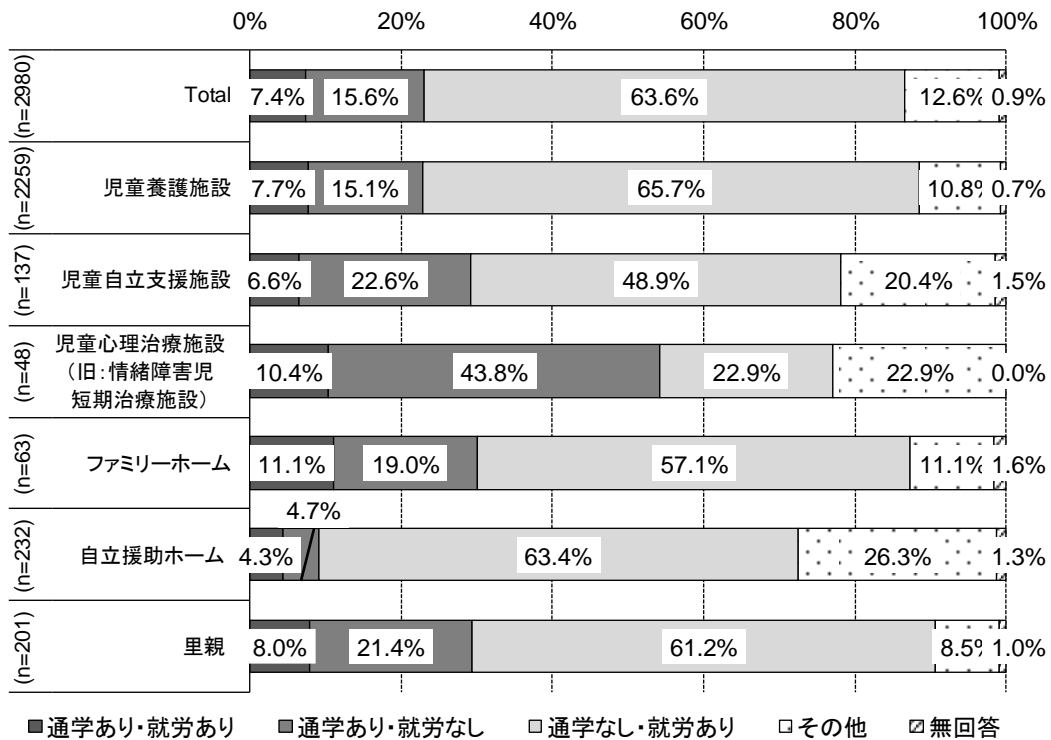
また、通学と就労の組み合わせをみると、「通学なし・就労あり」の割合が最も高く63.6%（1,894人）となっている。次いで、「通学あり・就労なし（15.6%）」、「その他（12.6%）」となっている。

図表 35 現在の通学・就労の状況

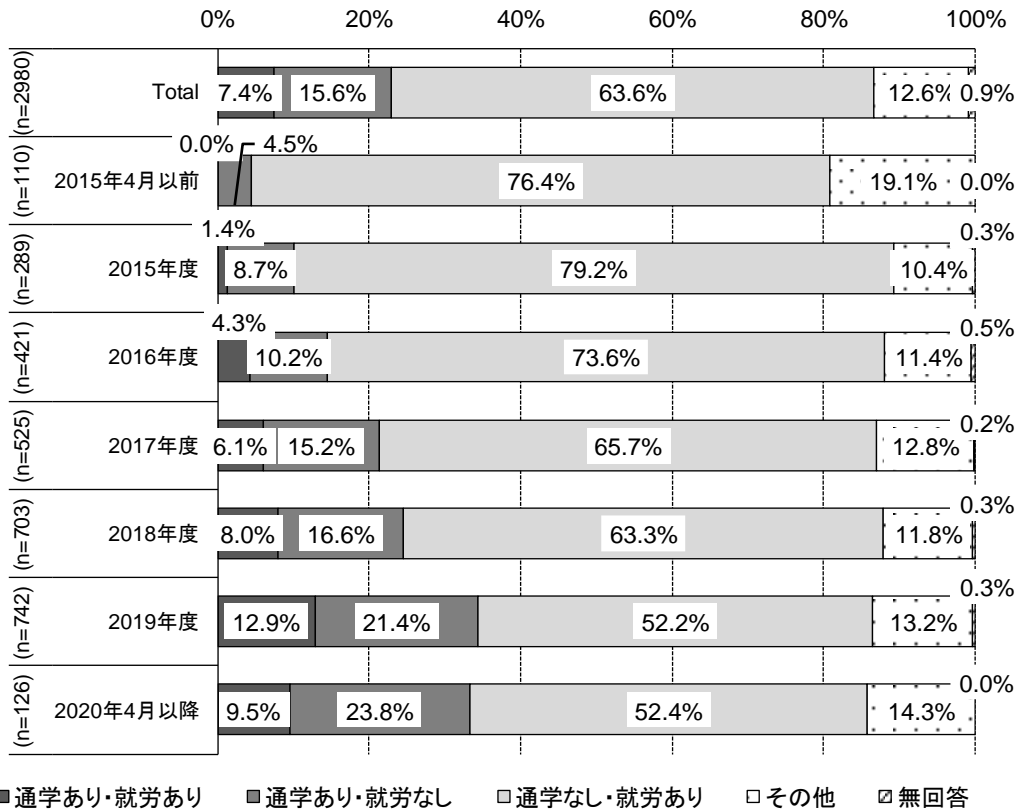


(注) 「働いている」と「学校に通っている」のいずれも選択なかった人を「その他」とした。

図表 36 現在の通学・就労の状況（施設の種類別）

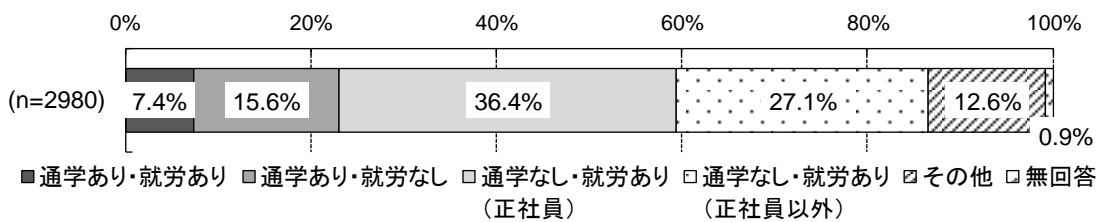


図表 37 現在の通学・就労の状況（退所年度別）



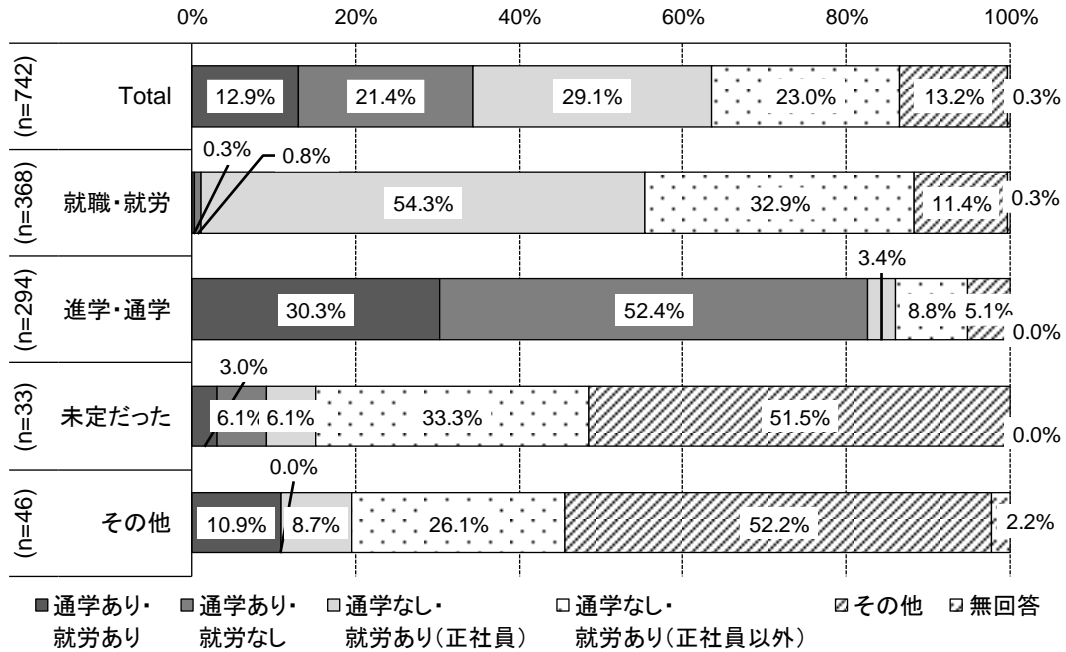
3) 【参考】現在の通学・就労の組み合わせと雇用の状況

図表 38 現在の就労・就学の組み合わせと雇用の状況

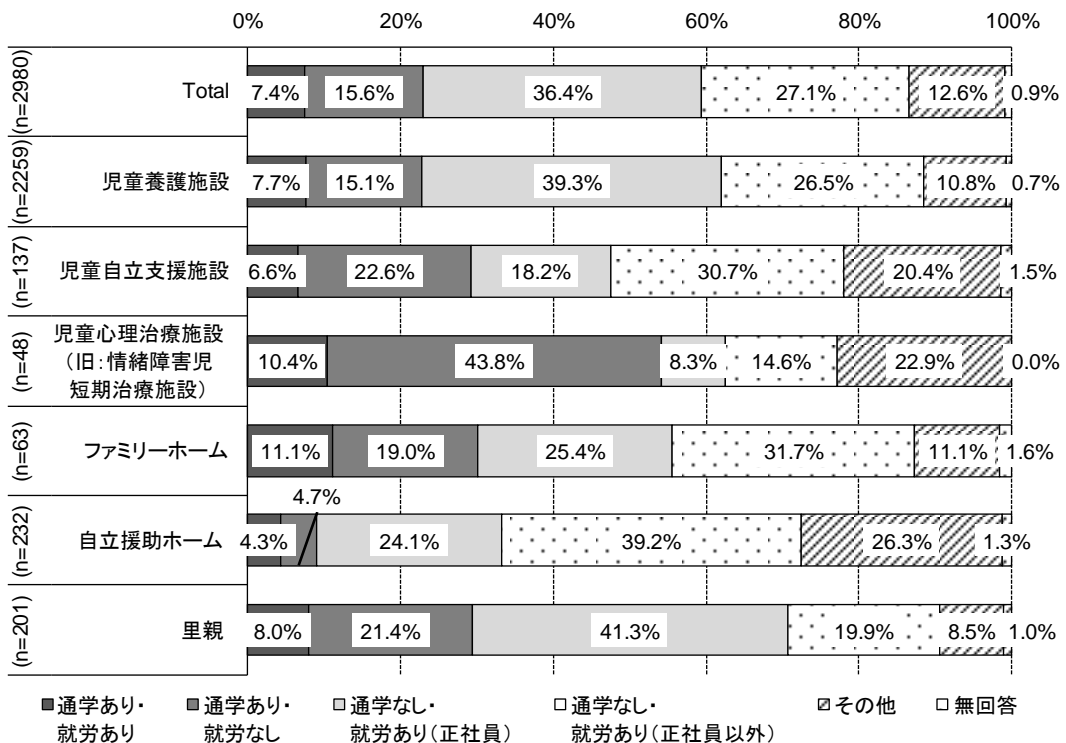


(注) 現在の就労・就学の状況で「学校に通っている」を回答した人以外で、雇用形態について「正社員」を回答した人を「通学なし・就労あり (正社員)」とし (1か所以上で勤務している場合も、正社員に含む)、正社員以外の雇用形態を回答した人を「通学なし・就労あり (正社員以外)」とした。

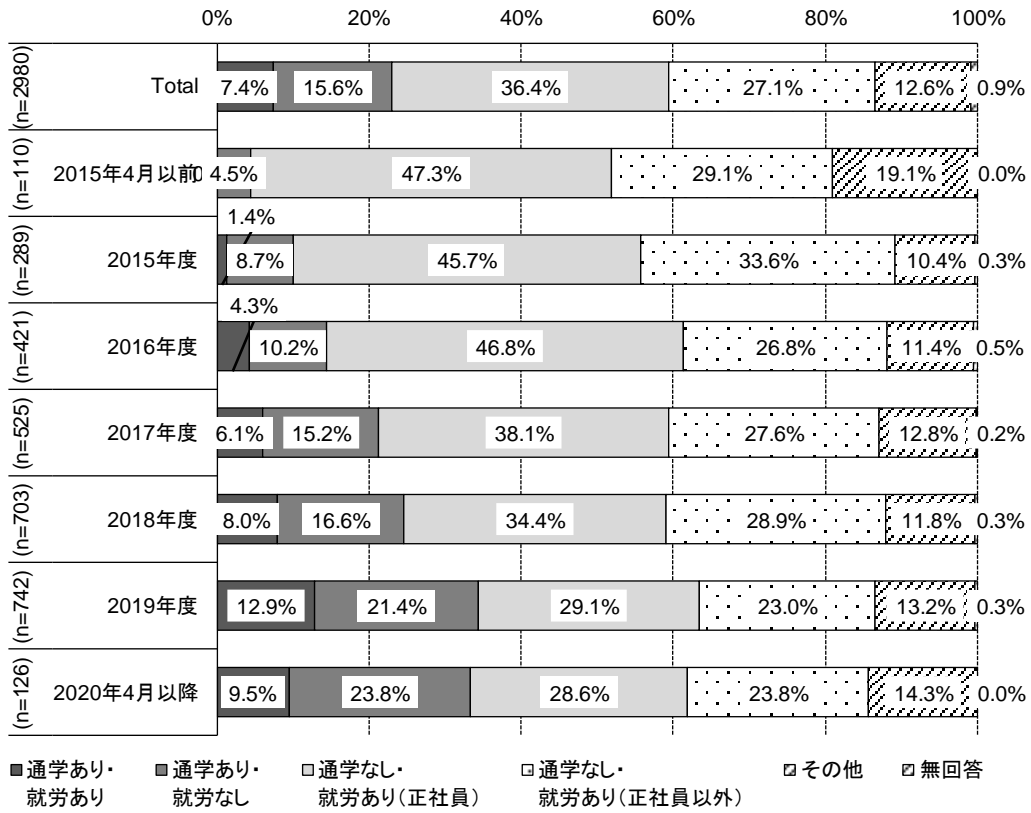
図表 39 現在の就労・就学の状況と雇用の状況（2019年度退所者のみ）（退所直後の進路別）



図表 40 現在の就労・就学の組み合わせと雇用の状況（施設の種類の別）



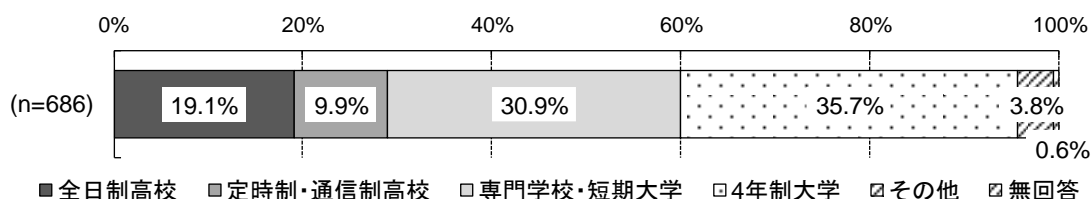
図表 41 現在の就労・就学の組み合わせと雇用の状況（退所年度別）



③ 学校の種別

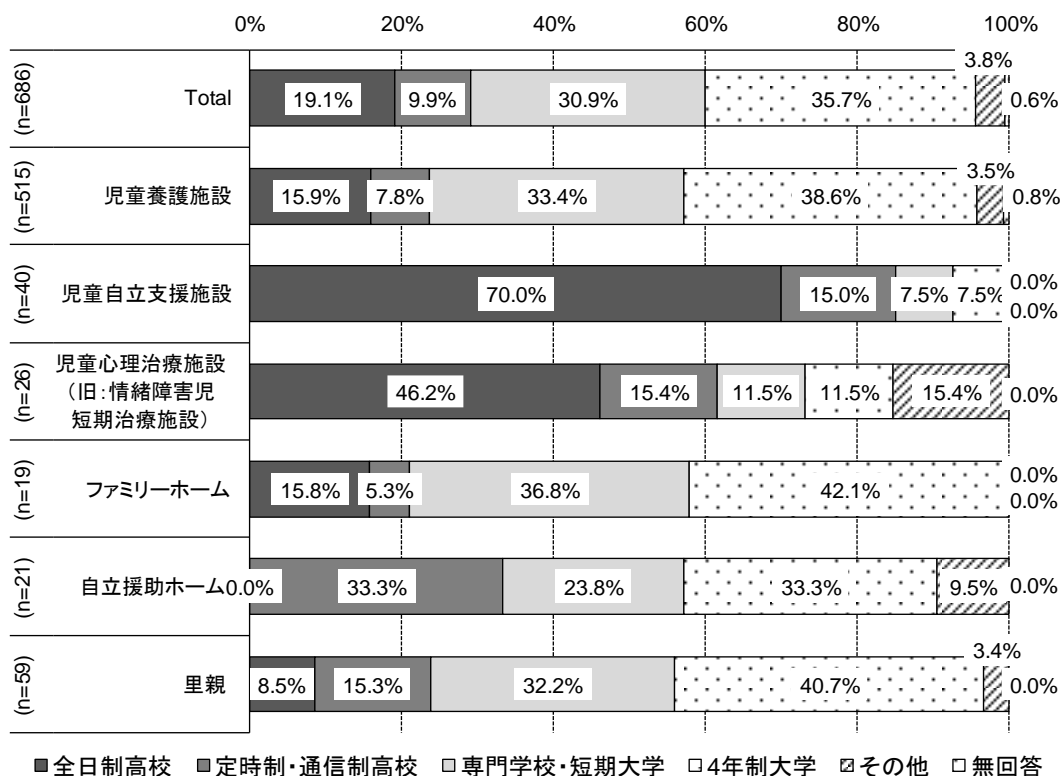
現在通っている学校の種類をみると、「4年制大学」の割合が最も高く35.7%（245人）となっている。次いで、「専門学校・短期大学（30.9%）」、「全日制高校（19.1%）」となっている。

図表 42 学校の種類（学校に通っている人）

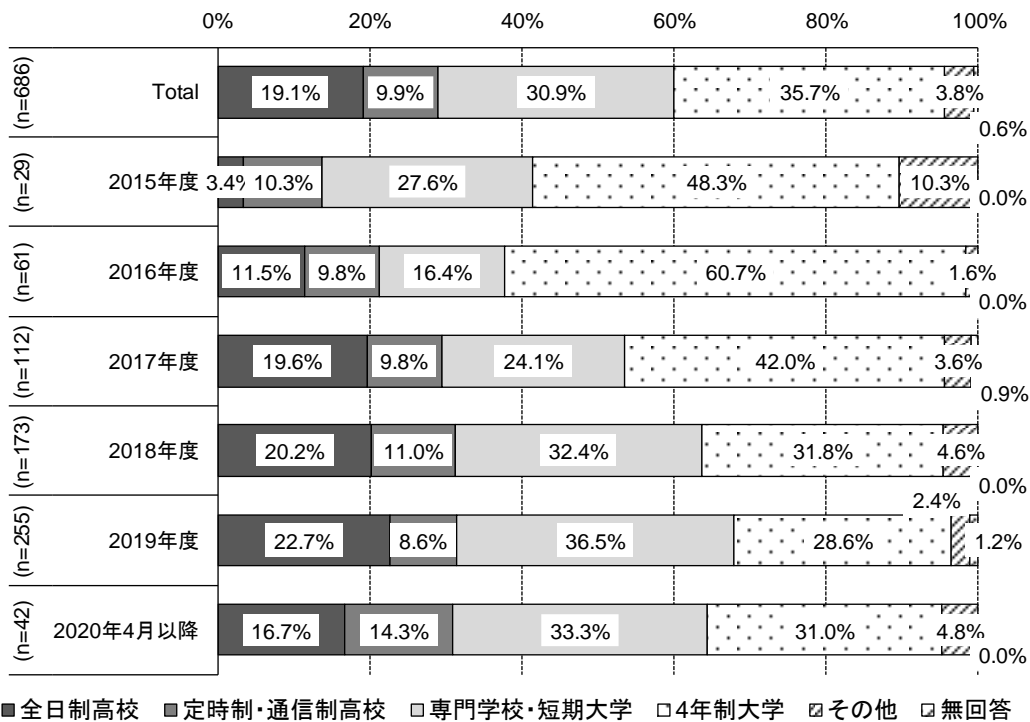


(注) 「その他」として、「特別支援学校」、「職業訓練校」、「高等専門学校」、「6年制大学」、「大学院」などが挙げられた。

図表 43 学校の種類（学校に通っている人）（施設の種別別）



図表 44 学校の種類（学校に通っている人）（退所年度別）



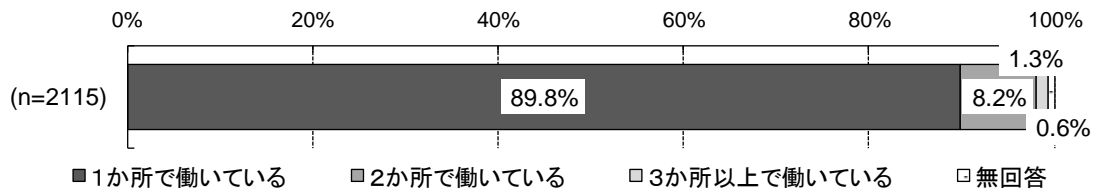
(注) サンプル数が少ないことから、「2015年4月以前」の結果は掲載していない。

④ 現在の就労の状況

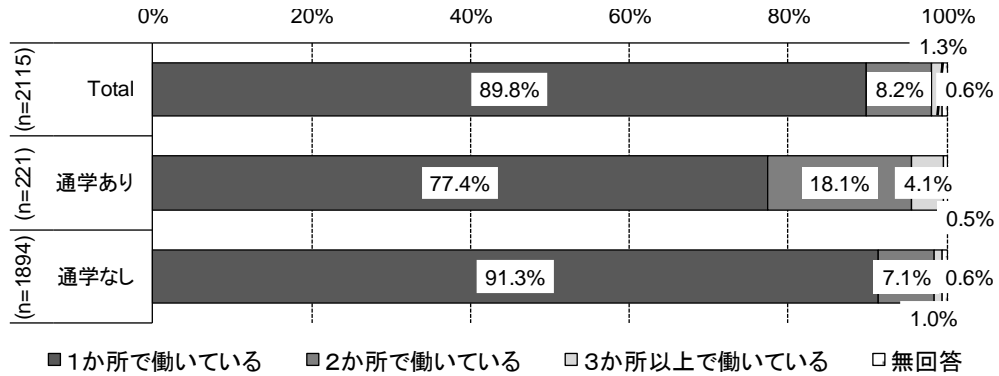
1) 勤務先の数

現在の就労・通学の状況について、「働いている」を回答した人の勤務先の数を見ると、「1か所で働いている」の割合が最も高く 89.8%（1,900人）となっている。次いで、「2か所で働いている（8.2%）」、「3か所以上で働いている（1.3%）」となっている。

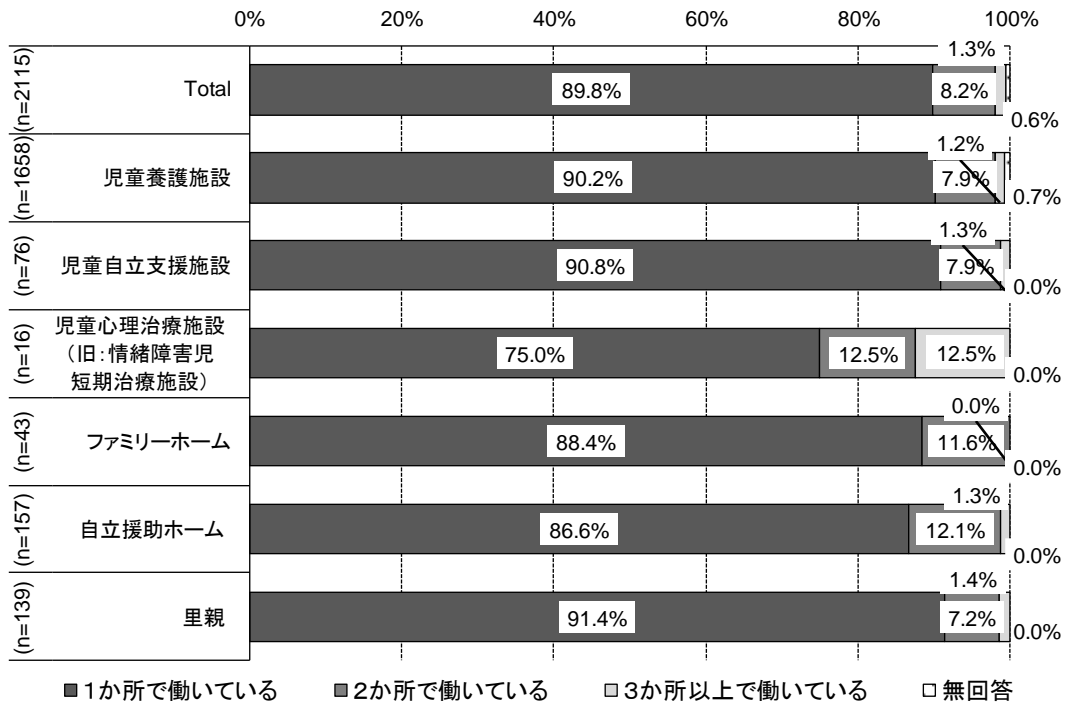
図表 45 勤務先の数（働いている人）



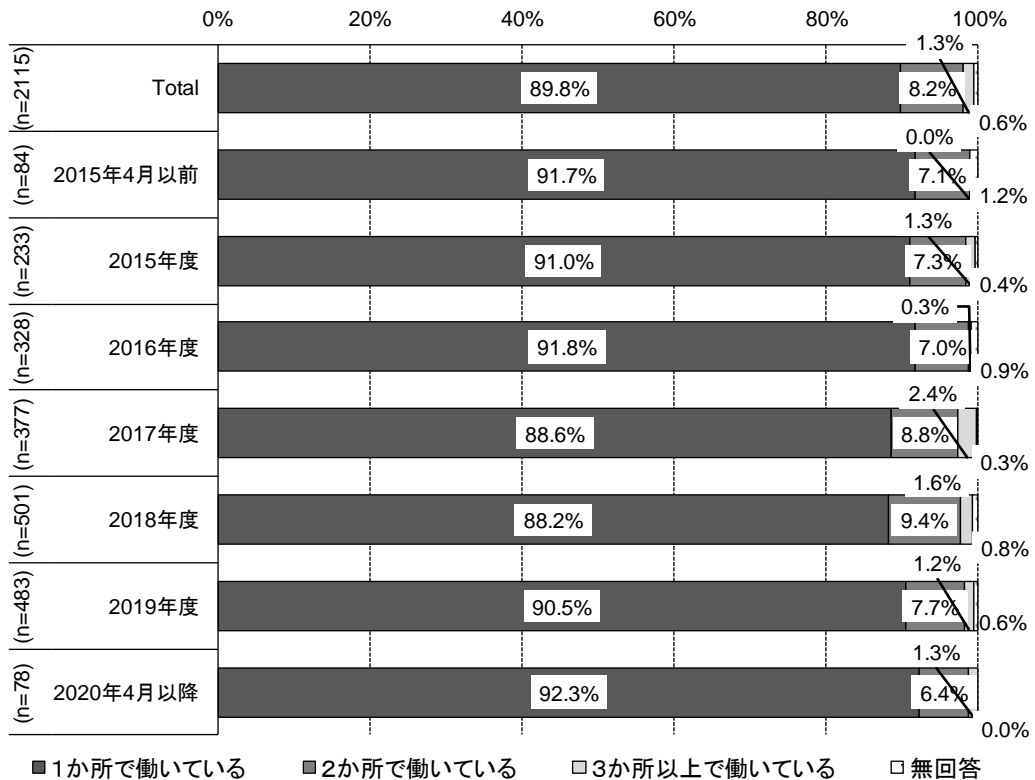
図表 46 勤務先の数（働いている人）（通学の有無別）



図表 47 勤務先の数（働いている人）（施設の種類の別）



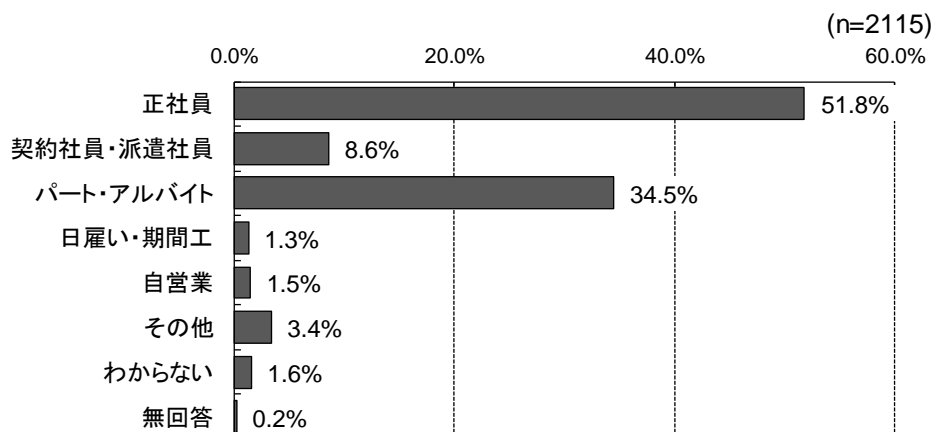
図表 48 勤務先の数（働いている人）（退所年度別）



2) 雇用形態

現在の就労・通学の状況について、「働いている」を回答した人の雇用形態をみると、「正社員」の割合が最も高く51.8%（1,096人）となっている。次いで、「パート・アルバイト（34.5%）」、「契約社員・派遣社員（8.6%）」となっている。

図表 49 雇用形態（複数回答）



(注) 「その他」として、「インターン」、「自立支援」などが挙げられた。

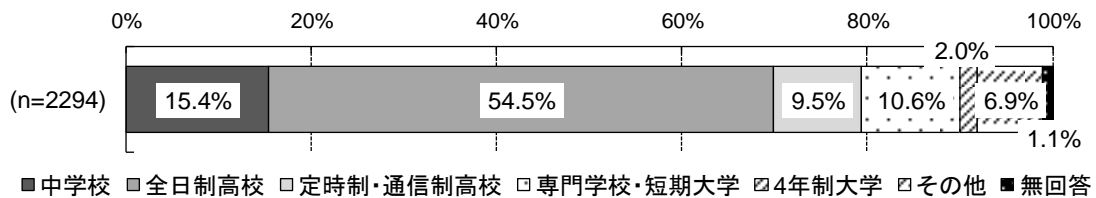
図表 50 雇用形態（複数回答）（施設の種別別、退所年度別、通学の有無別）

		(n)	正社員	契約社員・派遣社員	パート・アルバイト	日雇い・期間工	自営業	その他	わからない	無回答
Total		2115	51.8%	8.6%	34.5%	1.3%	1.5%	3.4%	1.6%	0.2%
施設の 種類	児童養護施設	1658	33.9%	8.8%	32.7%	0.8%	1.4%	3.2%	1.6%	0.1%
	児童自立支援施設	76	32.9%	11.8%	44.7%	1.3%	3.9%	5.3%	2.6%	0.0%
	児童心理治療施設(旧・情緒障害児短期治療施設)	16	25.0%	6.3%	56.3%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%
	ファミリーホーム	43	37.2%	7.0%	51.2%	2.3%	0.0%	2.3%	2.3%	0.0%
	自立援助ホーム	157	36.9%	7.6%	47.8%	4.5%	1.9%	3.8%	1.3%	1.3%
	里親	139	61.2%	6.5%	28.1%	2.2%	0.7%	3.6%	0.0%	0.0%
退所年 度	2015年4月以前	84	61.9%	9.5%	20.2%	0.0%	3.6%	6.0%	2.4%	0.0%
	2015年度	233	55.7%	8.6%	27.9%	2.1%	2.6%	3.0%	1.3%	0.0%
	2016年度	328	60.4%	10.7%	27.1%	1.2%	1.5%	1.5%	0.6%	0.3%
	2017年度	377	54.4%	9.3%	31.8%	1.1%	1.3%	2.9%	2.4%	0.3%
	2018年度	501	48.7%	7.8%	38.5%	1.0%	1.4%	4.4%	0.6%	0.0%
	2019年度	483	45.1%	8.1%	41.2%	1.7%	0.4%	3.7%	1.9%	0.2%
	2020年4月以降	78	46.2%	3.8%	41.0%	0.0%	1.3%	2.6%	3.8%	1.3%
現在の 通学の 有無	通学あり	221	5.0%	3.2%	90.5%	1.8%	0.9%	0.9%	0.0%	0.5%
	通学なし	1894	57.3%	9.2%	27.9%	1.2%	1.5%	3.6%	1.7%	0.2%

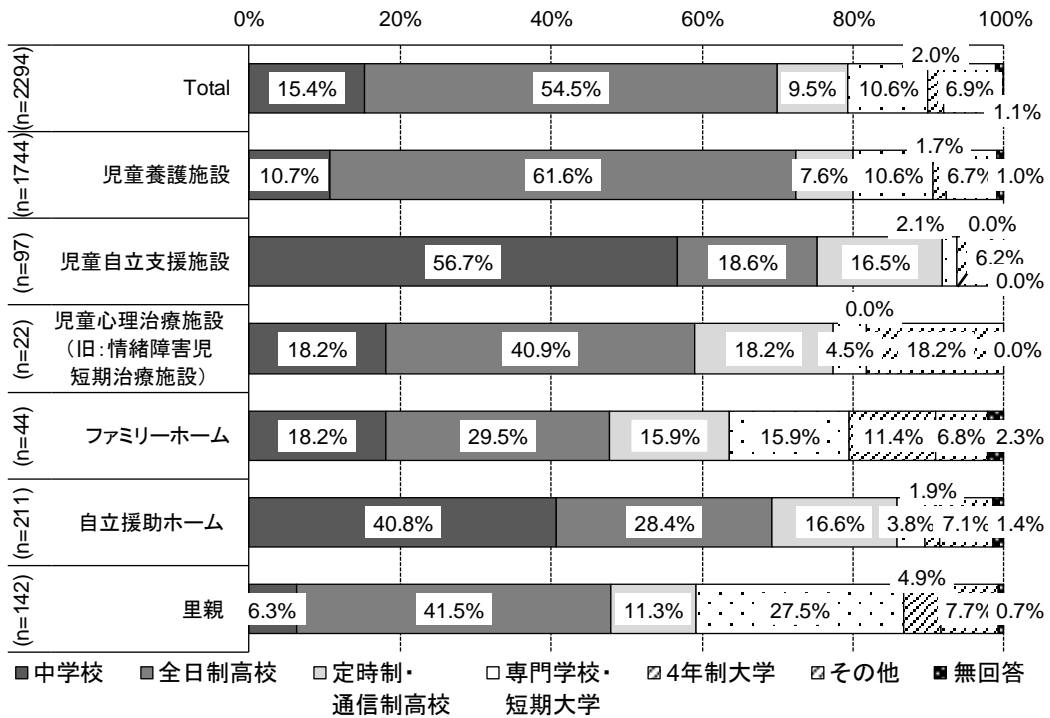
⑤ 最終学歴

現在の就労・通学の状況について「学校に通っている」を回答した人を除き、最終学歴をみると、「全日制高校」の割合が最も高く 54.5%（1,250 人）となっている。次いで、「中学校（15.4%）」、「専門学校・短期大学（10.6%）」となっている。

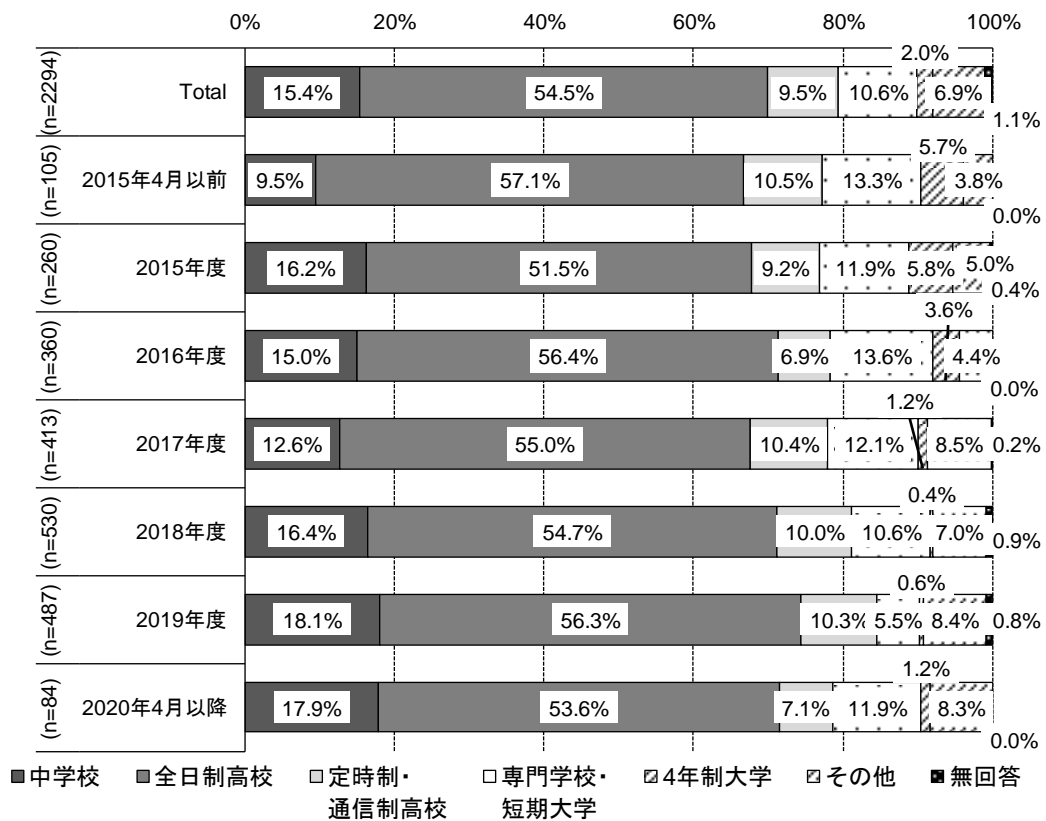
図表 51 最終学歴（学校に通っている人以外）



図表 52 最終学歴（学校に通っている人以外）（施設の種類の別）



図表 53 最終学歴（学校に通っている人以外）（退所年度別の別）



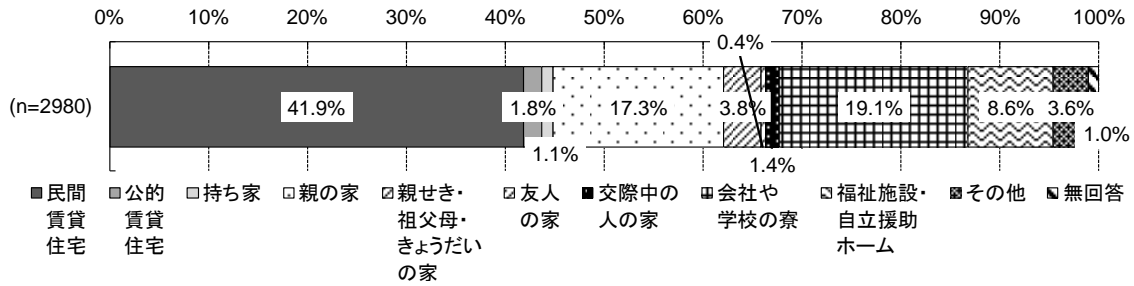
(3) 住まい・家計の状況

① 退所直後の住まい

退所直後の住まいをみると、「民間賃貸住宅」の割合が最も高く41.9%（1,249人）となっている。次いで、「会社や学校の寮（19.1%）」、「親の家（17.3%）」となっている。

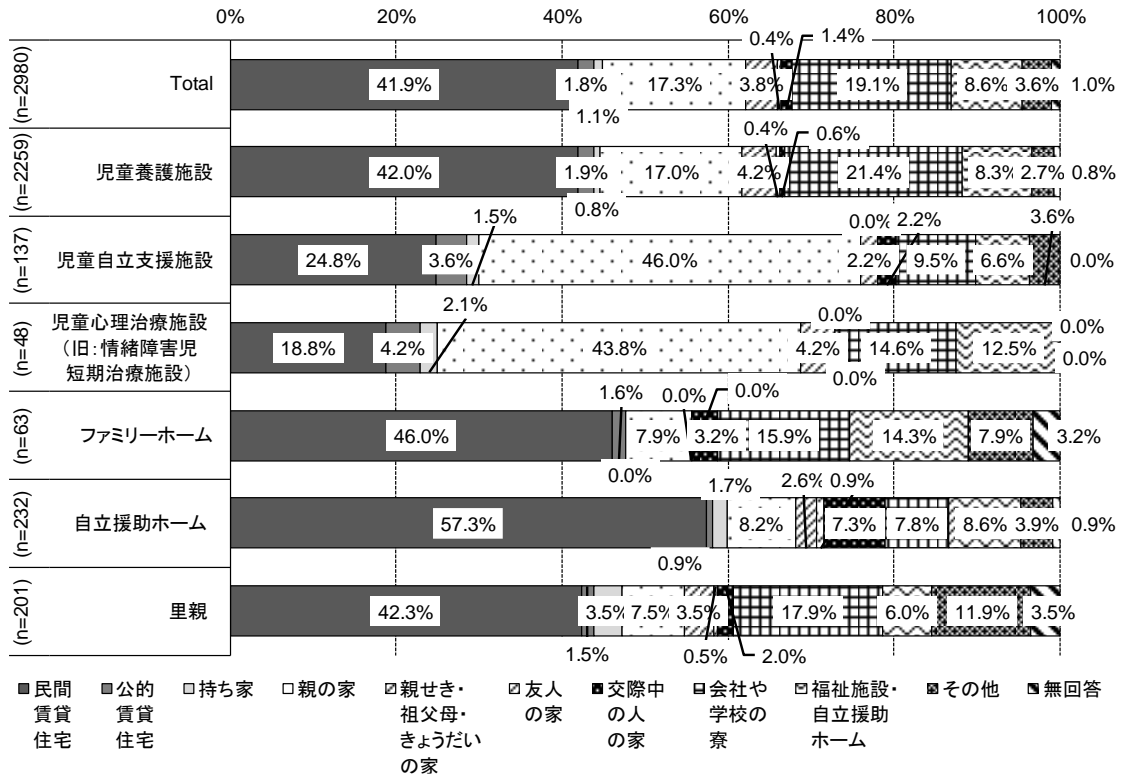
施設の種別別にみると、「児童養護施設」では「民間賃貸住宅」が42.0%、「児童自立支援施設」では「親の家」が46.0%、「児童心理治療施設（旧：情緒障害児短期治療施設）」では「親の家」が43.8%、「ファミリーホーム」では「民間賃貸住宅」が46.0%、「自立援助ホーム」では「民間賃貸住宅」が57.3%、「里親」では「民間賃貸住宅」が42.3%と、それぞれもっとも割合が高くなっている。

図表 54 退所直後の住まい

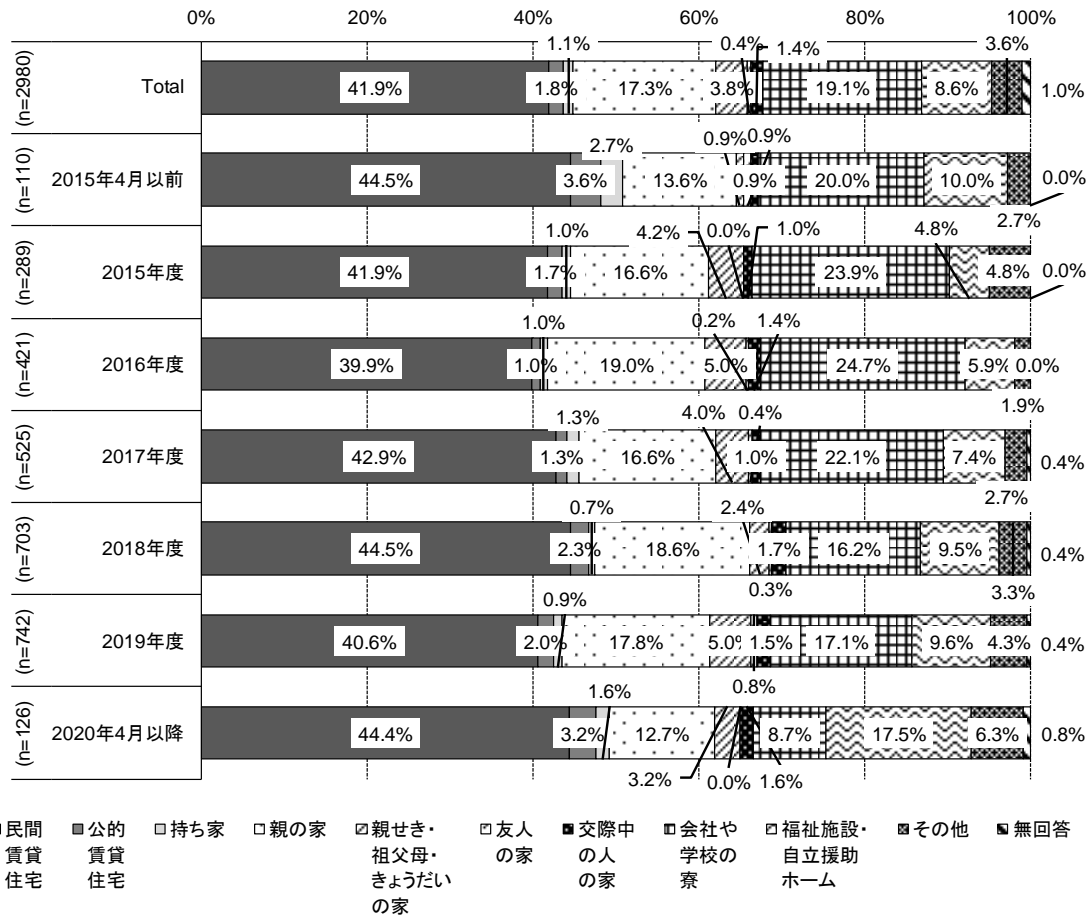


(注) 「その他」として、「グループホーム」、「里親宅」、「共同生活支援事業所」、「無料定額宿泊所」などが挙げられた。

図表 55 退所直後の住まい（施設の種別別）



図表 56 退所直後の住まい（退所年度別）

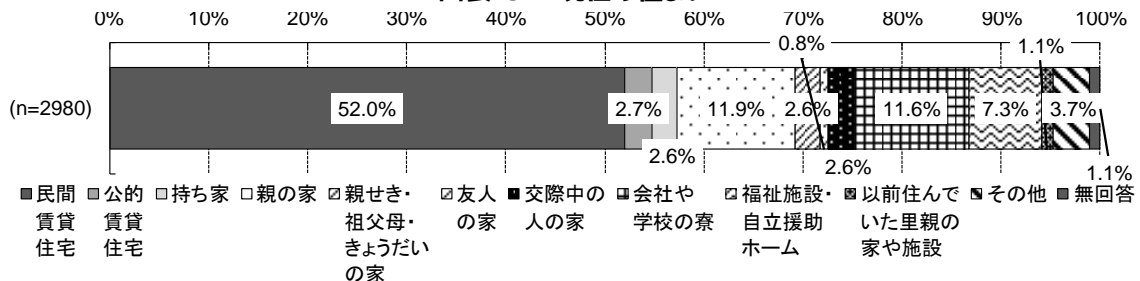


② 現在の住まい

現在の住まいをみると、「民間賃貸住宅」の割合が最も高く 52.0%（1,551 人）となっている。次いで、「親の家（11.9%）」、「会社や学校の寮（11.6%）」となっている。

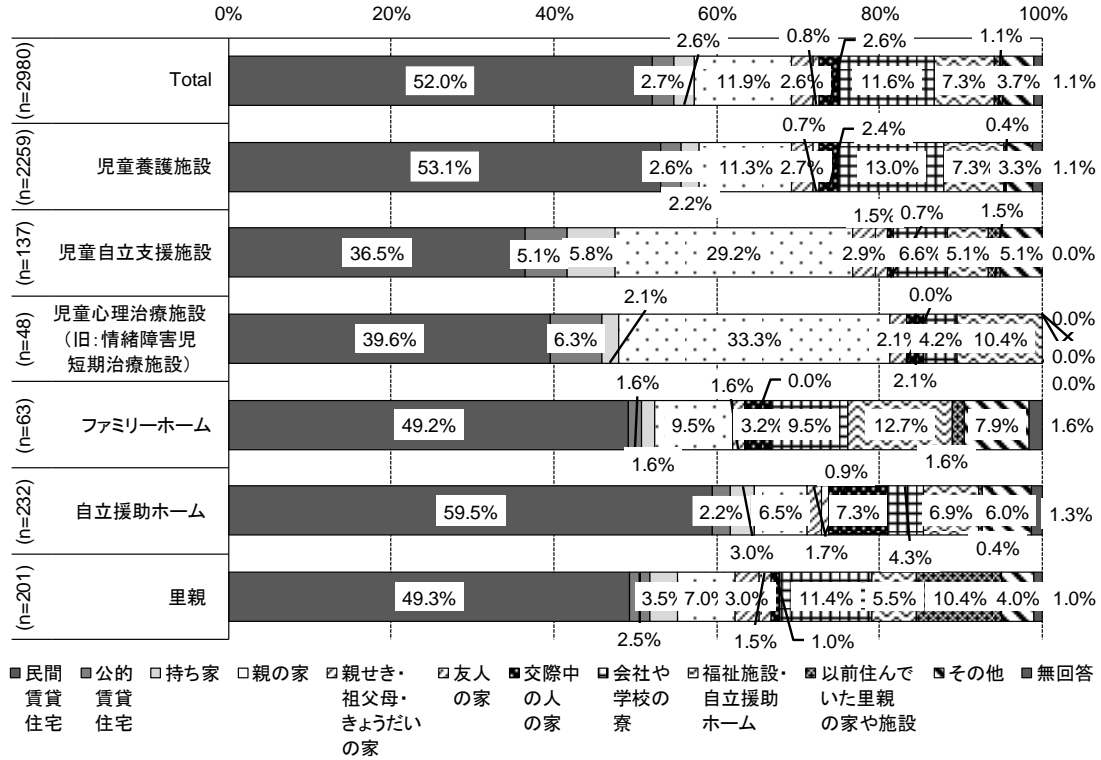
施設の種類の別に見ると、いずれの施設等でも、「民間賃貸住宅」がそれぞれもっとも割合が高くなっている。

図表 57 現在の住まい

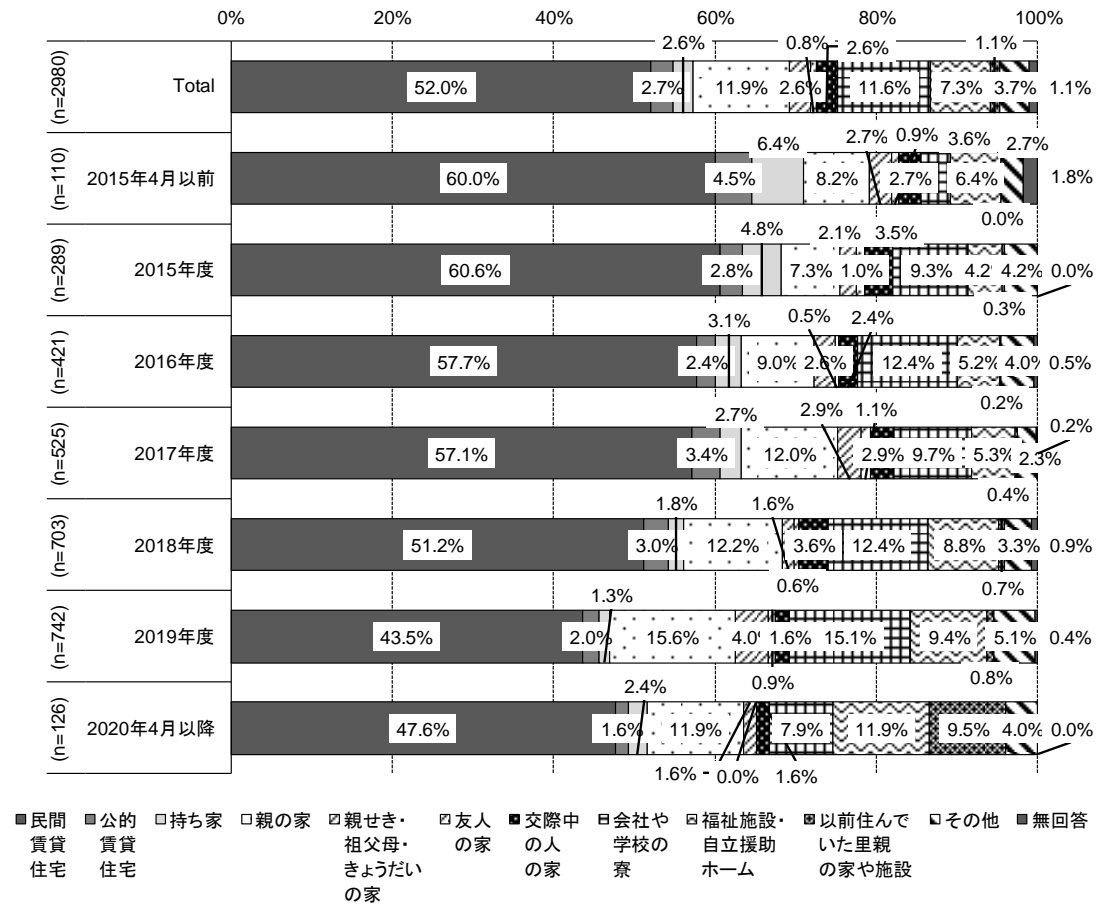


（注）「その他」として、「グループホーム」、「配偶者の実家」、「シェアハウス」、「共同生活支援事業所」、「無料定額宿泊所」、「駐屯地」、「母子寮」などが挙げられた。

図表 58 現在の住まい（施設の種別別）



図表 59 現在の住まい（退所年度別）

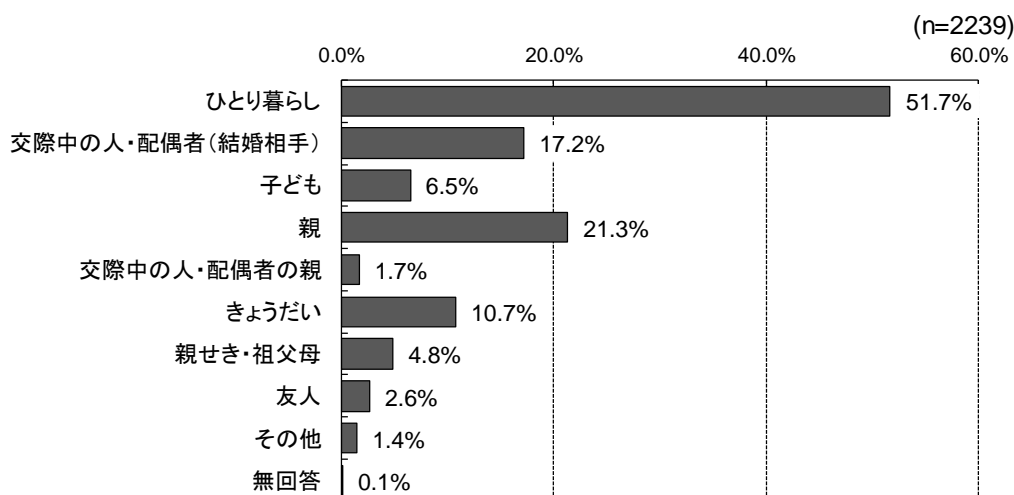


③ 同居している相手

1) 同居している相手

同居している相手を見ると、「ひとり暮らし」の割合が最も高く 51.7%（1,157 人）となっている。次いで、「親（21.3%）」、「交際中の人・配偶者（結婚相手）（17.2%）」となっている。

図表 60 同居している相手（複数回答）



（注 1）現在の住まいについて、「民間賃貸住宅」「公的賃貸住宅」「持ち家」「親の家」「親せき・祖父母・きょうだいの家」「友人の家」「交際中の人の家」のいずれかを回答した人にたずねた。

（注 2）「その他」として、「ファミリーホームの 1 人と」、「職場の人」、「他人」などが挙げられた。

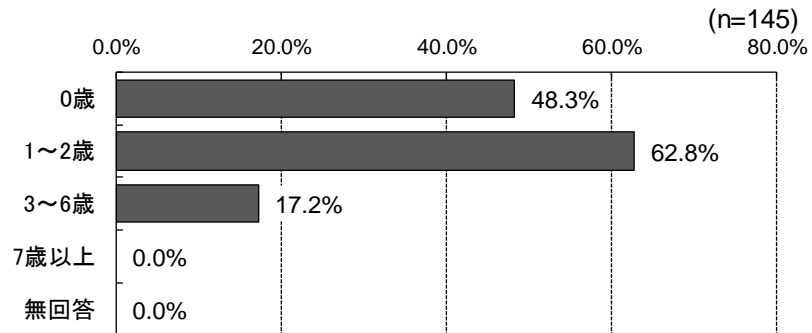
図表 61 同居している相手（複数回答）（施設の種類の別、退所年度別）

		(n)	ひとり暮らし	交際中の人・配偶者(結婚相手)	子ども	親	交際中の人・配偶者の親	きょうだい	親せき・祖父母	友人	その他	無回答
Total		2239	51.7%	17.2%	6.5%	21.3%	1.7%	10.7%	4.8%	2.6%	1.4%	0.1%
施設の 種類	児童養護施設	1693	53.8%	16.4%	6.0%	20.3%	1.7%	9.8%	4.7%	2.4%	1.7%	0.0%
	児童自立支援施設	112	17.0%	20.5%	13.4%	54.5%	0.9%	28.6%	5.4%	4.5%	0.0%	0.0%
	児童心理治療施設(旧:情緒障害児短期治療施設)	41	29.3%	9.8%	2.4%	53.7%	2.4%	22.0%	9.8%	0.0%	0.0%	2.4%
	ファミリーホーム	42	59.5%	14.3%	7.1%	19.0%	0.0%	4.8%	2.4%	0.0%	4.8%	0.0%
	自立援助ホーム	188	54.3%	28.7%	9.0%	10.1%	1.6%	6.9%	2.7%	3.2%	0.5%	0.0%
	里親	136	57.4%	13.2%	4.4%	11.8%	2.2%	8.1%	7.4%	5.9%	0.0%	0.7%
退所年 度	2015年4月以前	94	53.2%	19.1%	9.6%	13.8%	2.1%	8.5%	4.3%	4.3%	2.1%	0.0%
	2015年度	237	50.6%	27.0%	14.3%	13.9%	1.7%	5.5%	3.0%	3.4%	1.3%	0.0%
	2016年度	327	44.0%	28.7%	10.4%	16.8%	2.8%	10.1%	5.2%	2.4%	0.9%	0.0%
	2017年度	431	52.7%	18.3%	5.8%	20.0%	1.6%	9.7%	4.6%	3.5%	2.1%	0.0%
	2018年度	520	54.0%	14.2%	4.6%	21.3%	2.3%	10.8%	3.3%	2.1%	1.3%	0.2%
	2019年度	513	52.6%	8.2%	3.1%	29.0%	0.6%	13.6%	7.4%	2.5%	1.0%	0.0%
	2020年4月以降	84	60.7%	4.8%	0.0%	25.0%	0.0%	15.5%	6.0%	0.0%	2.4%	1.2%

2) 子どもの年齢

同居している相手について「子ども」を回答した人の子どもの年齢をみると、「1～2歳」の割合が最も高く62.8%（91人）となっている。次いで、「0歳（48.3%）」、「3～6歳（17.2%）」となっている。

図表 62 子どもの年齢（複数回答）



図表 63 子どもの年齢（複数回答）（施設の種類の別、退所年度別）

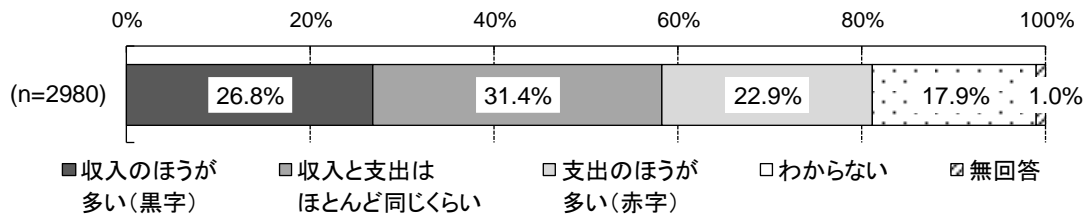
		(n)	0歳	1～2歳	3～6歳	7歳以上	無回答
Total		145	48.3%	62.8%	17.2%	0.0%	0.0%
施設の 種類	児童養護施設	101	41.6%	62.4%	17.8%	0.0%	0.0%
	児童自立支援施設	15	60.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	自立援助ホーム	17	64.7%	52.9%	17.6%	0.0%	0.0%
退所年 度	2015年度	34	41.2%	67.6%	26.5%	0.0%	0.0%
	2016年度	34	35.3%	79.4%	17.6%	0.0%	0.0%
	2017年度	25	28.0%	76.0%	16.0%	0.0%	0.0%
	2018年度	24	75.0%	37.5%	4.2%	0.0%	0.0%
	2019年度	16	75.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%

（注）「児童心理治療施設（旧：情緒障害児短期治療施設）」「ファミリーホーム」「里親」「2015年4月以前」については、サンプル数が少ないことから、集計結果を掲載していない。

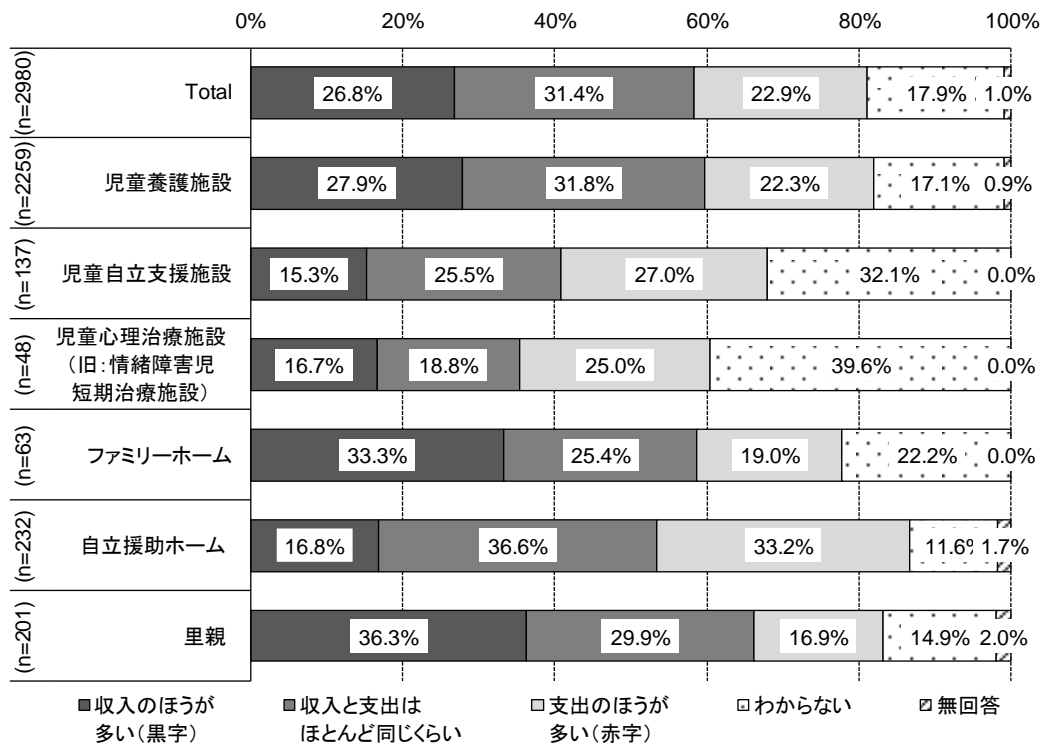
④ 月々の収支バランス

月々の収支バランスをみると、「収入と支出はほとんど同じくらい」の割合が最も高く 31.4% (937 人) となっている。次いで、「収入のほうが多い(黒字) (26.8%)」、「支出のほうが多い(赤字) (22.9%)」となっている。

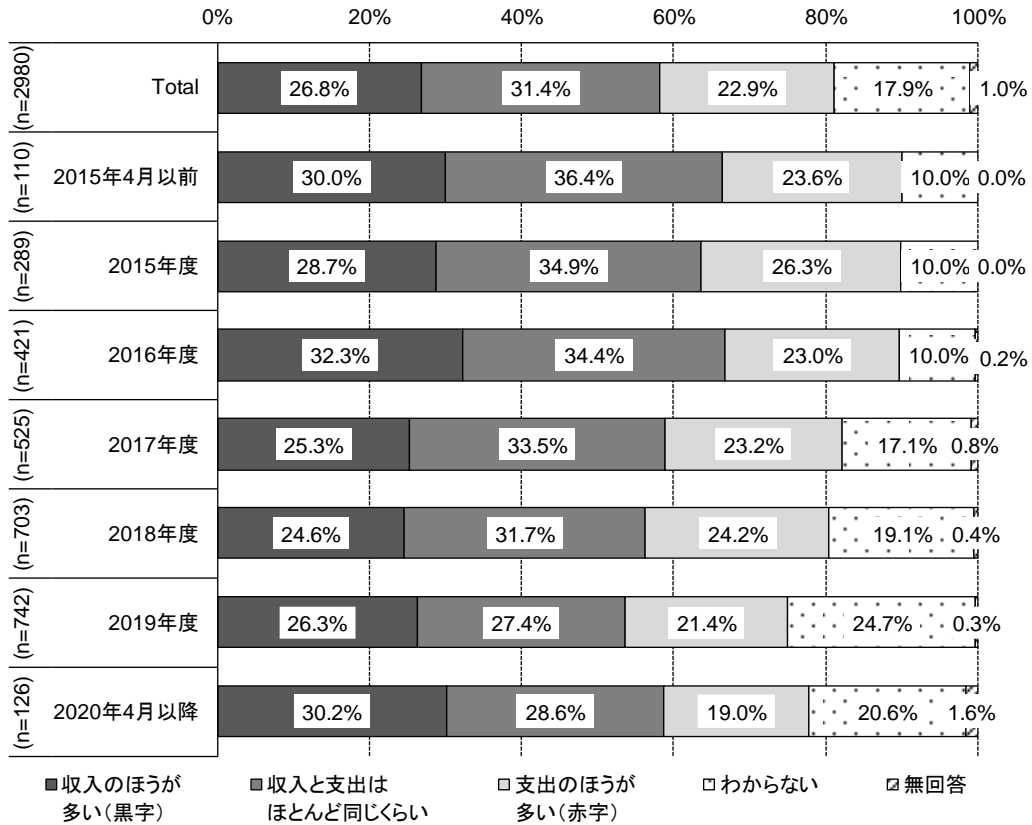
図表 64 収支バランス



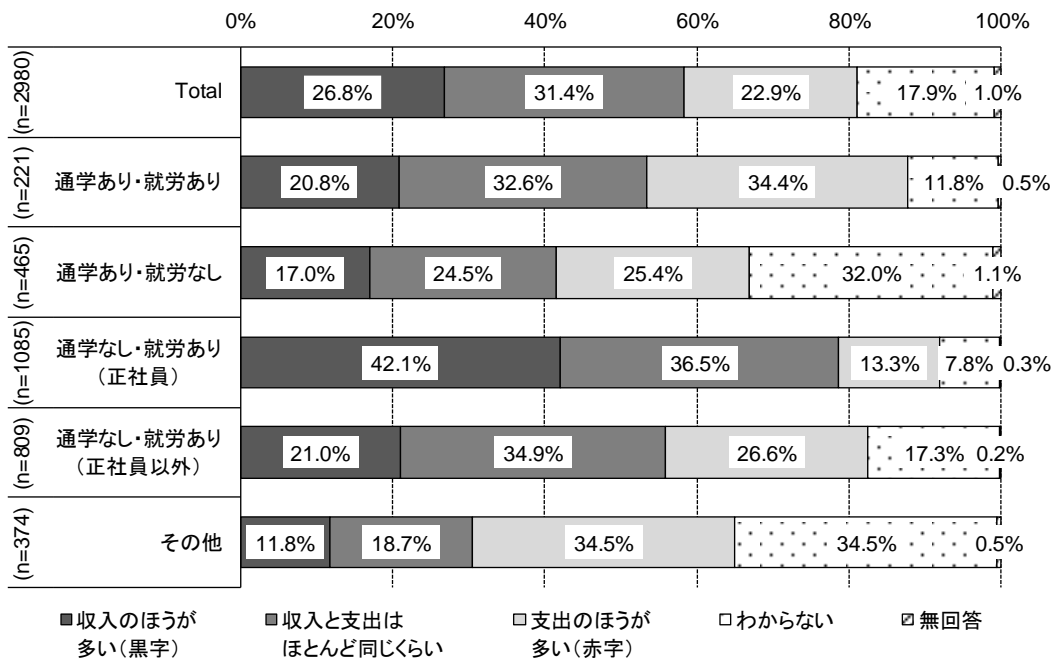
図表 65 収支バランス(施設の種別別)



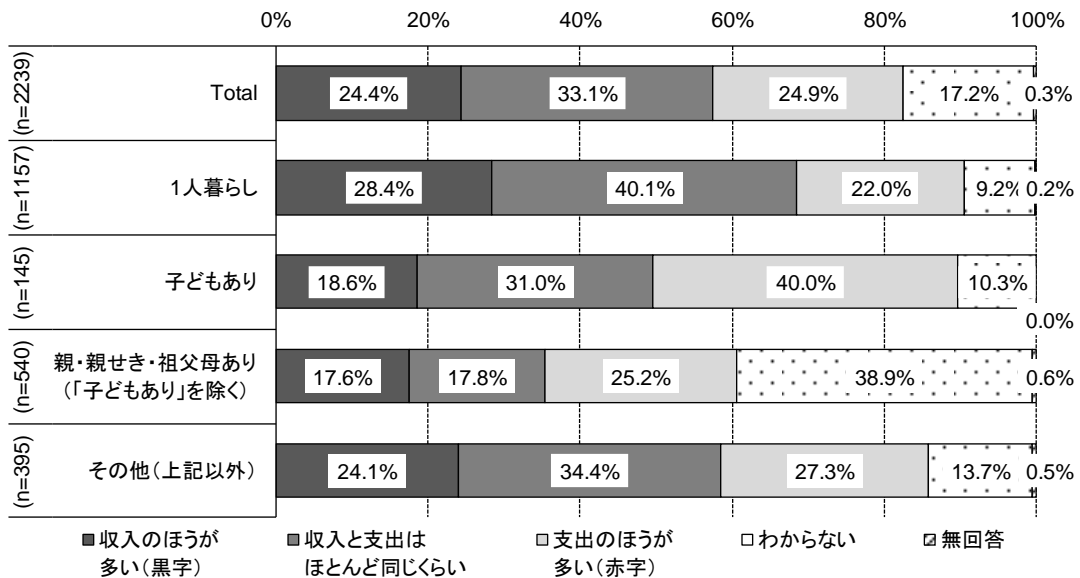
図表 66 収支バランス（退所年度別）



図表 67 収支バランス（現在の就労・就学の状況別）

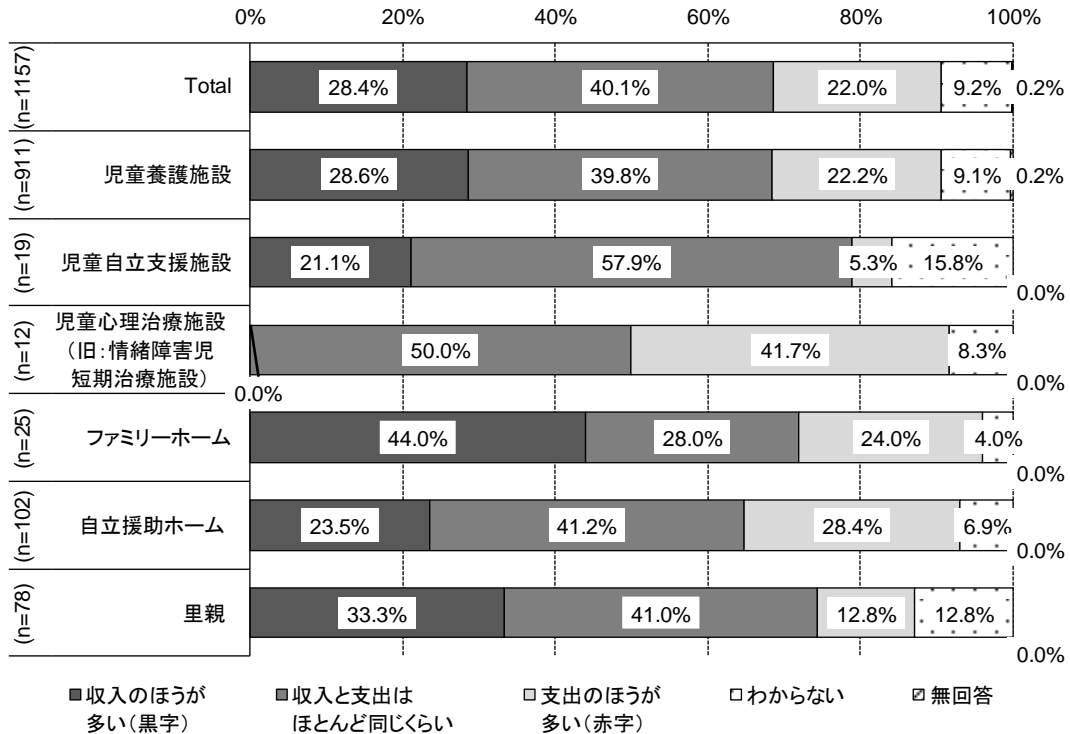


図表 68 収支バランス（同居する相手の状況別）



(注) 現在の住まいについて、「民間賃貸住宅」、「公的賃貸住宅」、「持ち家」、「親の家」、「親せき・祖父母・きょうだいの家」、「友人の家」、「交際中の人の家」のいずれかを回答した人に限定し集計。

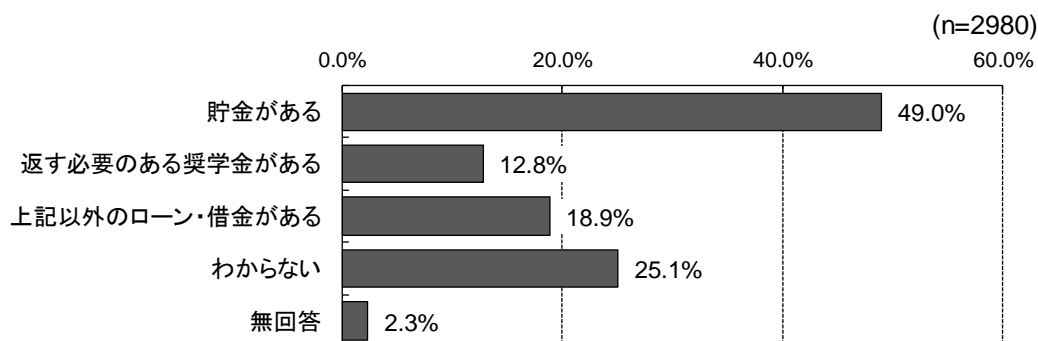
図表 69 収支バランス（1人暮らしの人のみ）（施設の種別別）



⑤ 現在の家計の状況

現在の家計の状況を見ると、「貯金がある」の割合が最も高く 49.0%（1,459 人）となっている。次いで、「わからない（25.1%）」、「上記以外のローン・借金がある（18.9%）」となっている。

図表 70 家計の状況（複数回答）



図表 71 家計の状況（複数回答）（施設の種類の別、退所年度別、現在の通学・就労の状況別）

		(n)	貯金がある	返す必要のある奨学金がある	上記以外のローン・借金がある	わからない	無回答
Total		2980	49.0%	12.8%	18.9%	25.1%	2.3%
施設の種類の別	児童養護施設	2259	51.7%	13.3%	18.6%	22.8%	2.2%
	児童自立支援施設	137	32.1%	9.5%	16.1%	46.7%	0.7%
	児童心理治療施設 (旧:情緒障害児短期治療施設)	48	31.3%	18.8%	8.3%	41.7%	4.2%
	ファミリーホーム	63	30.8%	7.9%	12.7%	30.2%	4.8%
	自立援助ホーム	232	32.3%	6.9%	32.3%	29.3%	3.4%
	里親	201	52.7%	17.9%	13.9%	22.9%	2.5%
退所年度	2015年4月以前	110	40.9%	14.5%	34.5%	19.1%	1.8%
	2015年度	289	42.6%	14.5%	32.2%	19.4%	1.4%
	2016年度	421	52.0%	15.7%	28.0%	16.6%	1.2%
	2017年度	525	47.8%	13.7%	21.0%	23.4%	2.7%
	2018年度	703	50.1%	11.1%	16.9%	26.9%	1.6%
	2019年度	742	51.3%	11.9%	9.2%	32.1%	1.5%
	2020年4月以降	126	54.0%	9.5%	9.5%	27.0%	2.4%
現在の通学・就労の状況	通学あり・就労あり	221	55.2%	26.7%	7.2%	21.3%	2.7%
	通学あり・就労なし	465	42.2%	28.2%	4.9%	31.4%	2.4%
	通学なし・就労あり(正社員)	1085	64.4%	8.8%	23.3%	12.3%	1.3%
	通学なし・就労あり(正社員以外)	809	40.3%	8.5%	24.6%	29.5%	2.2%
	その他	374	29.7%	6.7%	19.0%	47.9%	1.3%
同居相手の状況	1人暮らし	1157	52.6%	16.8%	19.4%	18.4%	2.2%
	子どもあり	145	34.5%	11.0%	41.4%	24.1%	1.4%
	親・親せき・祖父母あり(「子どもあり」を除く)	540	35.4%	11.1%	13.1%	44.4%	0.7%
	その他(上記以外)	395	38.2%	12.2%	30.9%	25.6%	2.8%

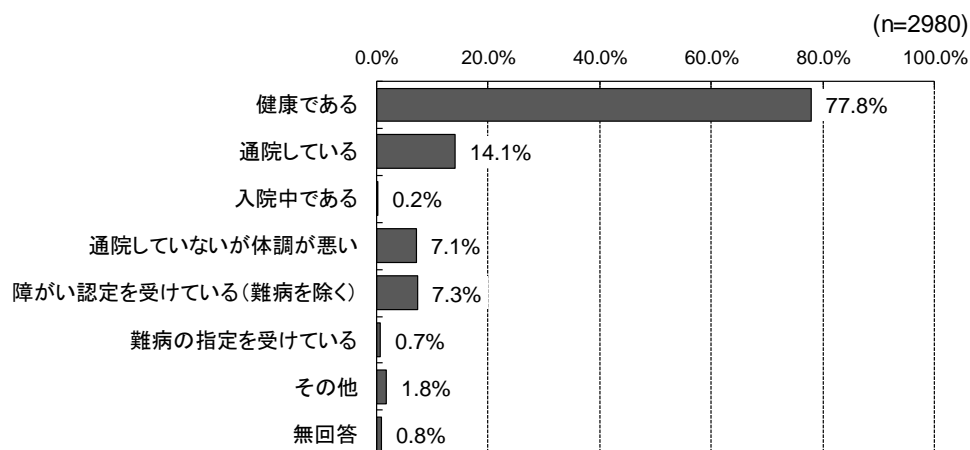
(注) 同居相手の状況は、現在の住まいについて、「民間賃貸住宅」、「公的賃貸住宅」、「持ち家」、「親の家」、「親せき・祖父母・きょうだいの家」、「友人の家」、「交際中の人の家」のいずれかを回答した人にたずねた。当該設問において、「一人暮らし」を回答した人を「1人暮らし」、「子ども」を回答した人を「子どもあり」、「子ども」を選ばなかった人の中で「親」、「親せき・祖父母」のいずれかを回答した人を「親・親せき・祖父母あり」、いずれにも該当しない人を「その他」と整理した。

(4) 健康状態・医療サービス

① 現在の心身の状態等

現在の心身の状態等をみると、「健康である」の割合が最も高く 77.8% (2,319 人) となっている。次いで、「通院している (14.1%)」、「障がい認定を受けている (難病を除く) (7.3%)」となっている。

図表 72 現在の心身の状態等 (複数回答)



(注) 「その他」として、「うつ病」、「精神不安定」、「妊娠中」、「ADHD」、「摂食障害」、「ヘルニア」、「B 型肝炎」、「てんかん」などが挙げられた。

図表 73 現在の心身の状態等 (複数回答) (施設の種類の別、退所年度別、現在の通学・就労の状況別、同居相手の状況別)

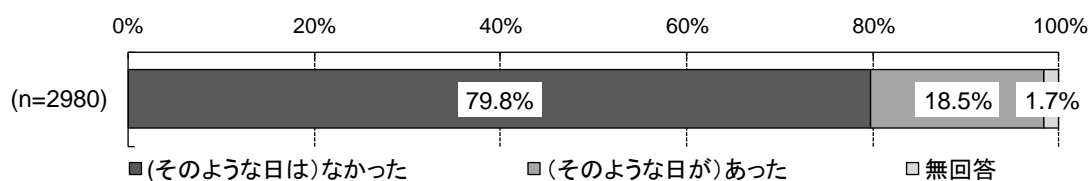
		(n)	健康である	通院している	入院中である	通院していないが体調が悪い	障がい認定を受けている(難病を除く)	難病の指定を受けている	その他	無回答
Total		2980	77.8%	14.1%	0.2%	7.1%	7.3%	0.7%	1.8%	0.8%
施設の種類の別	児童養護施設	2259	79.6%	12.2%	0.2%	6.9%	6.2%	0.7%	1.7%	0.8%
	児童自立支援施設	137	79.6%	20.4%	0.0%	4.4%	9.5%	1.5%	0.7%	0.0%
	児童心理治療施設(旧:情緒障害児短期治療施設)	48	39.6%	47.9%	0.0%	10.4%	33.3%	2.1%	2.1%	0.0%
	ファミリーホーム	63	69.8%	12.7%	0.0%	11.1%	14.3%	0.0%	1.6%	1.6%
	自立援助ホーム	232	68.1%	22.8%	0.4%	10.3%	11.2%	0.9%	3.4%	0.4%
	里親	201	80.1%	12.9%	0.0%	6.0%	5.5%	0.5%	1.0%	0.5%
退所年度	2015年4月以前	110	72.7%	19.1%	0.0%	5.5%	12.7%	1.8%	0.9%	0.0%
	2015年度	289	77.9%	13.8%	0.0%	6.2%	7.3%	0.7%	2.1%	0.3%
	2016年度	421	81.0%	11.9%	0.0%	7.4%	5.9%	0.5%	1.9%	0.0%
	2017年度	525	78.7%	13.0%	0.6%	7.4%	7.6%	0.6%	1.0%	0.2%
	2018年度	703	76.0%	14.5%	0.1%	8.3%	7.7%	0.4%	1.6%	0.9%
	2019年度	742	78.3%	15.5%	0.1%	6.7%	6.9%	0.9%	2.8%	0.3%
	2020年4月以降	126	84.1%	10.3%	0.8%	6.3%	7.9%	0.8%	0.8%	0.0%
現在の通学・就労の状況	通学あり・就労あり	221	82.8%	9.5%	0.5%	9.0%	1.8%	0.0%	1.8%	0.0%
	通学あり・就労なし	465	82.4%	12.3%	0.0%	5.4%	5.2%	0.9%	0.9%	0.0%
	通学なし・就労あり(正社員)	1085	86.3%	8.3%	0.1%	6.0%	3.2%	0.5%	1.5%	0.2%
	通学なし・就労あり(正社員以外)	809	76.1%	14.8%	0.1%	8.0%	10.1%	0.7%	2.5%	0.5%
	その他	374	51.3%	34.8%	0.8%	9.6%	19.0%	1.6%	2.4%	1.1%
同居相手の状況	1人暮らし	1157	79.6%	12.5%	0.2%	8.0%	5.3%	0.6%	1.6%	0.2%
	子どもあり	145	79.3%	15.9%	0.0%	4.8%	4.8%	0.7%	1.4%	0.0%
	親・親せき・祖父母あり(「子どもあり」を除く)	540	78.5%	13.5%	0.4%	8.1%	8.5%	1.1%	1.1%	0.2%
	その他(上記以外)	395	77.7%	13.2%	0.0%	7.8%	2.5%	0.8%	3.5%	1.0%

② 最近 1 か月の間に、健康上の理由で寝込んだり、普段の活動ができなかった日があったか

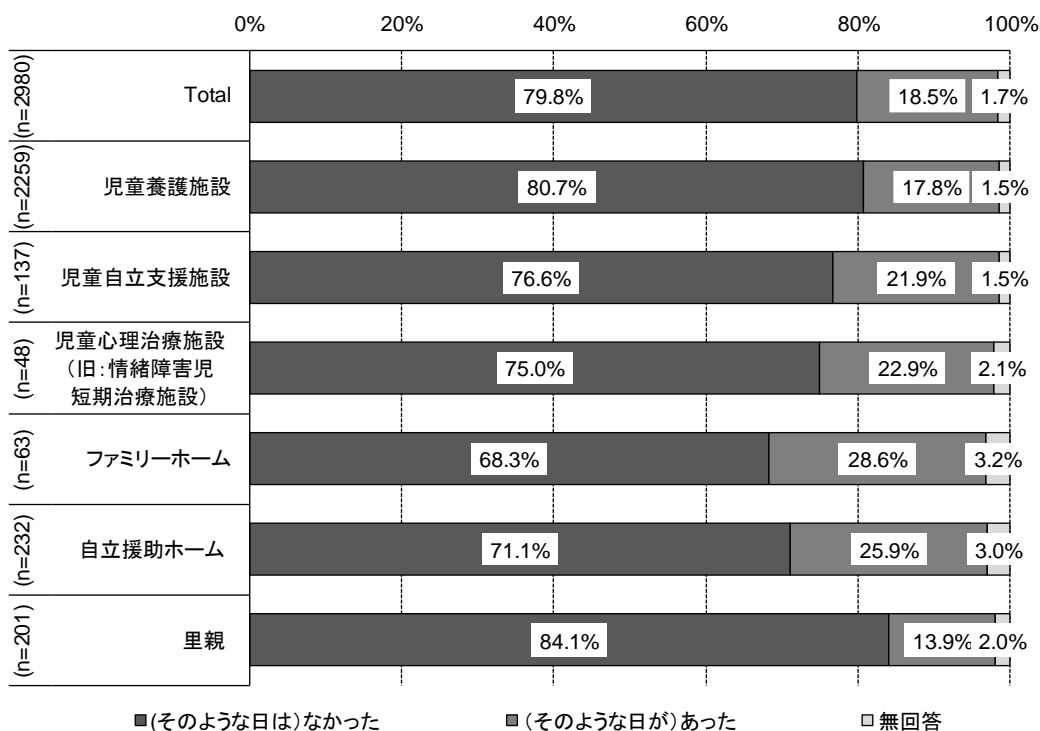
最近 1 か月の間に、健康上の理由で寝込んだり、普段の活動ができなかった日があったかについて、「(そのような日は) なかった」の割合が最も高く 79.8% (2,378 人) となっている。次いで、「(そのような日) があった (18.5%) 」となっている。

また、「(そのような日) があった」と回答した人に、その日数をたずねたところ、「1～3 未満 (単位: 日)」の割合が最も高く 22.6% (125 人) となっている。

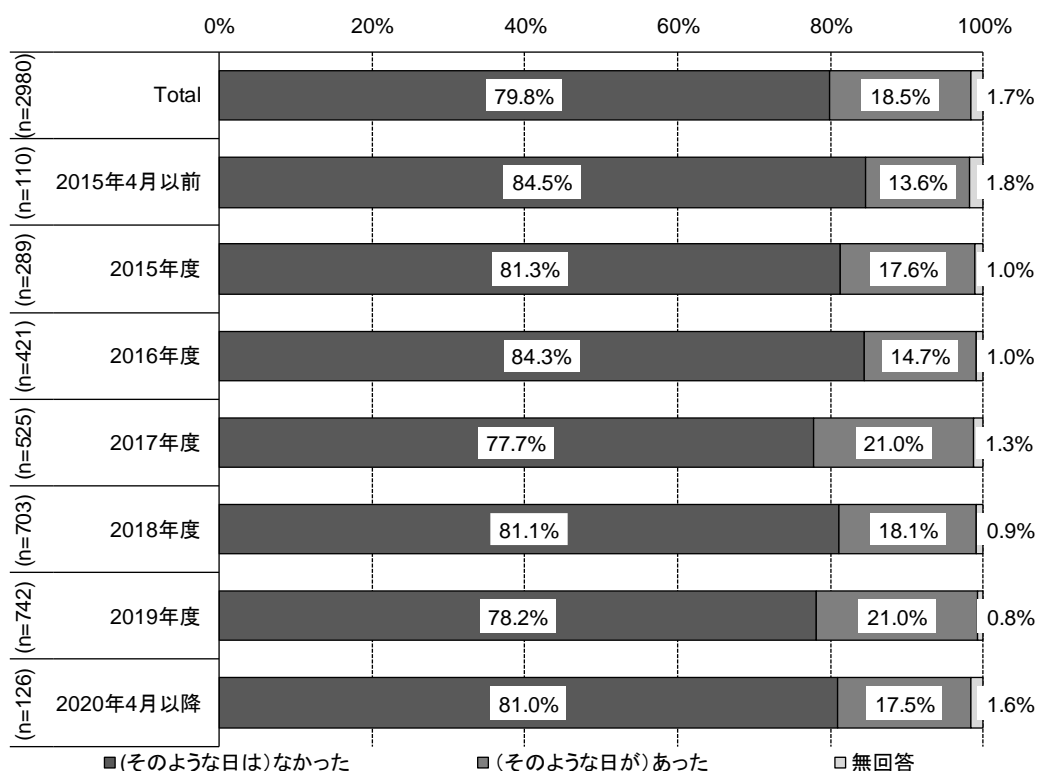
図表 74 最近 1 か月の間に、健康上の理由で寝込んだり、普段の活動ができなかった日があったか



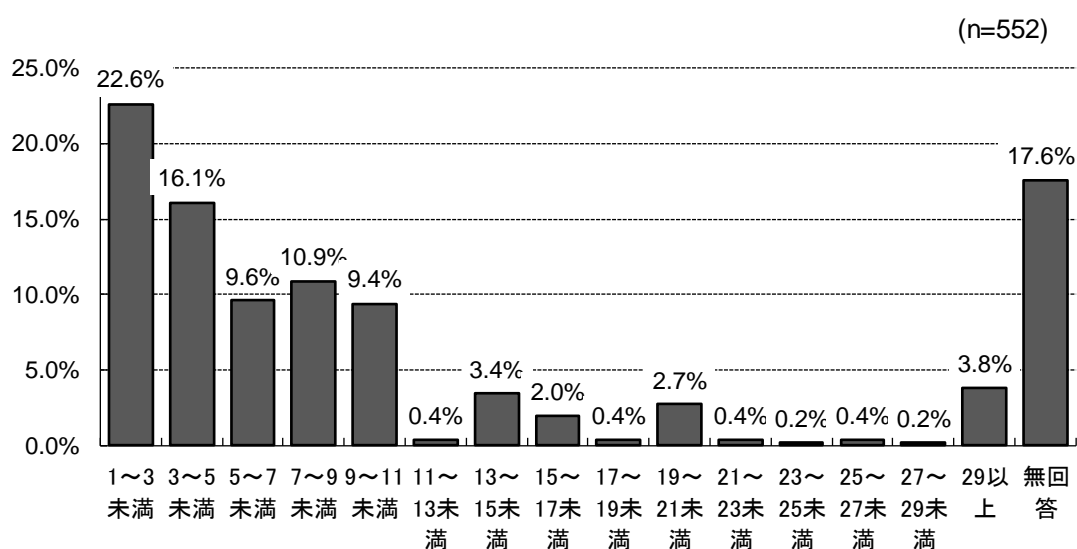
図表 75 最近 1 か月の間に、健康上の理由で寝込んだり、普段の活動ができなかった日があったか (施設の種類の別)



図表 76 最近 1 か月の間に、健康上の理由で寝込んだり、普段の活動ができなかった日があったか
(退所年度別別)



図表 77 その日数 (単位：日)



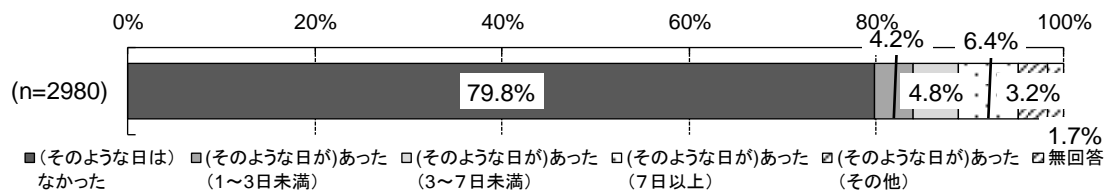
図表 78 その日数（施設の種別）（単位：日）

	Total	児童養護施設	児童自立支援施設	児童心理治療施設(旧:情緒障害児短期治療施設)	ファミリーホーム	自立援助ホーム	里親
	(n=552)	(n=402)	(n=30)	(n=11)	(n=18)	(n=60)	(n=28)
1~3未満	22.6%	22.6%	13.3%	18.2%	38.9%	26.7%	17.9%
3~5未満	16.1%	16.2%	23.3%	18.2%	5.6%	16.7%	14.3%
5~7未満	9.6%	8.2%	10.0%	18.2%	22.2%	11.7%	14.3%
7~9未満	10.9%	10.9%	6.7%	18.2%	5.6%	6.7%	25.0%
9~11未満	9.4%	9.5%	10.0%	18.2%	16.7%	6.7%	3.6%
11~13未満	0.4%	0.2%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13~15未満	3.4%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	7.1%
15~17未満	2.0%	2.0%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
17~19未満	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%
19~21未満	2.7%	2.5%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%
21~23未満	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
23~25未満	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%
25~27未満	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
27~29未満	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
29以上	3.8%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%
無回答	17.6%	17.9%	16.7%	9.1%	11.1%	18.3%	14.3%

図表 79 その日数（退所年度別）（単位：日）

	Total	2015年 4月以前	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年 4月以降
	(n=552)	(n=15)	(n=51)	(n=62)	(n=110)	(n=127)	(n=156)	(n=22)
1~3未満	22.6%	20.0%	23.5%	22.6%	24.5%	21.3%	19.9%	36.4%
3~5未満	16.1%	20.0%	15.7%	14.5%	16.4%	17.3%	16.7%	9.1%
5~7未満	9.6%	20.0%	9.8%	8.1%	8.2%	8.7%	10.9%	13.6%
7~9未満	10.9%	0.0%	7.8%	11.3%	10.0%	12.6%	14.1%	0.0%
9~11未満	9.4%	6.7%	13.7%	12.9%	10.9%	8.7%	6.4%	9.1%
11~13未満	0.4%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%
13~15未満	3.4%	0.0%	7.8%	6.5%	1.8%	0.8%	4.5%	4.5%
15~17未満	2.0%	0.0%	3.9%	3.2%	0.9%	3.1%	1.3%	0.0%
17~19未満	0.4%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%
19~21未満	2.7%	0.0%	3.9%	6.5%	2.7%	2.4%	1.9%	0.0%
21~23未満	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.6%	0.0%
23~25未満	0.2%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25~27未満	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%	0.0%
27~29未満	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
29以上	3.8%	6.7%	2.0%	1.6%	5.5%	4.7%	3.8%	0.0%
無回答	17.6%	13.3%	11.8%	11.3%	16.4%	19.7%	19.2%	22.7%

図表 80 【参考】最近1か月の間に、健康上の理由で寝込んだり、普段の活動ができなかった日があったか

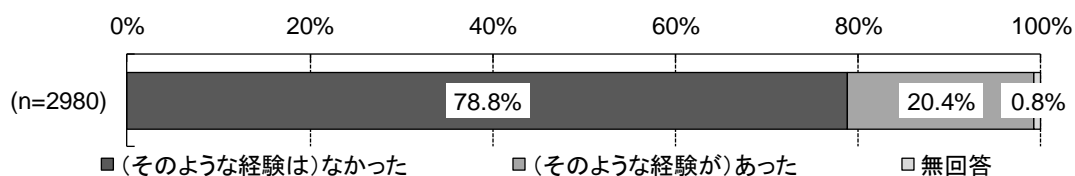


(注) 普段の活動ができなかった日の有無について、「あった」を回答した人のうち、日数が無回答だった人を「あった(その他)」とした。

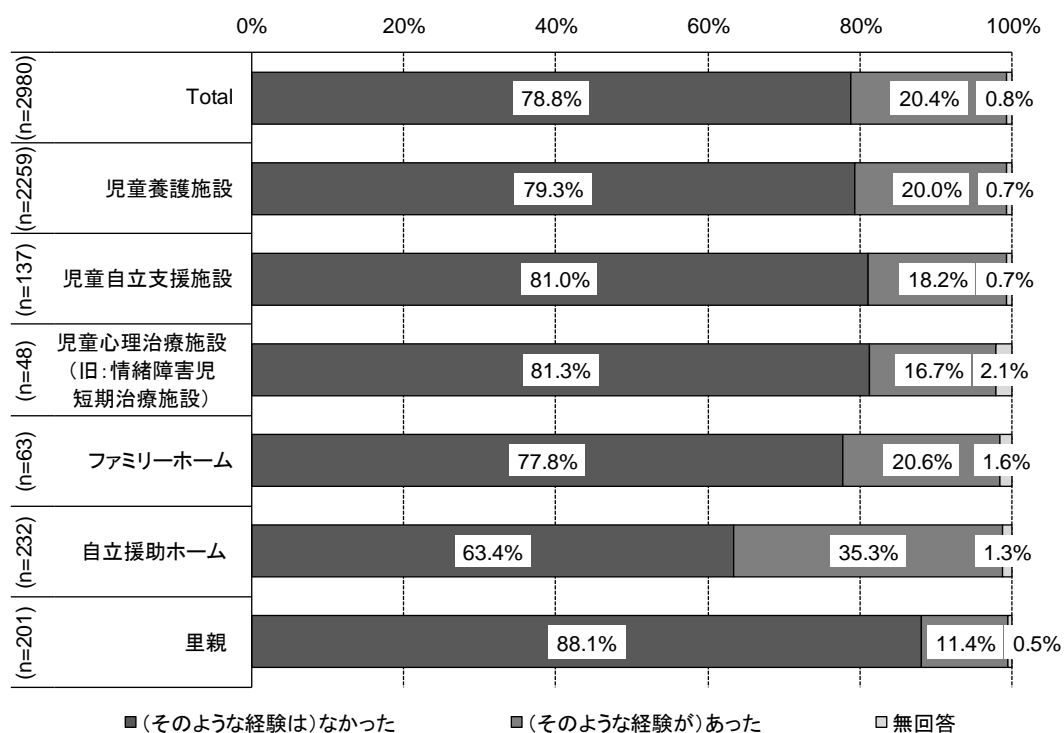
③ 過去1年間に病院や歯科等を受診できなかった経験の有無とその理由

過去1年間に病院や歯科等を受診できなかった経験について、「(そのような経験は)なかった」の割合が最も高く78.8% (2,348人) となっている。次いで、「(そのような経験が)あった (20.4%)」となっている。

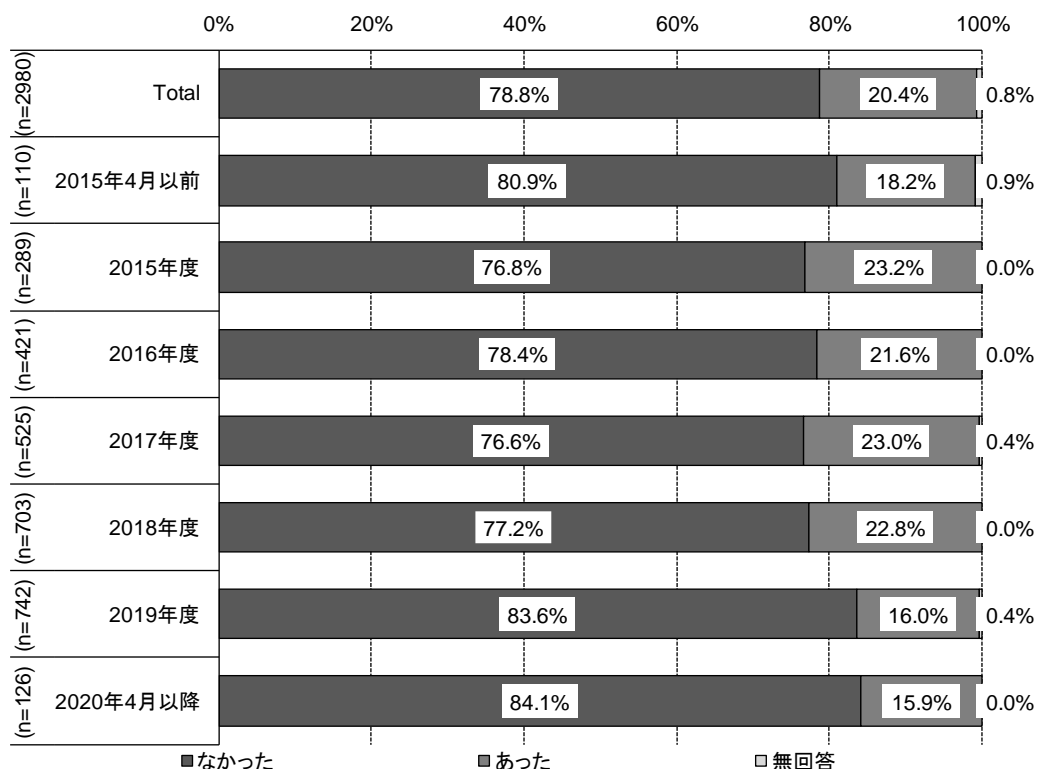
図表 81 過去1年間に病院や歯科等を受診できなかった経験の有無



図表 82 過去1年間に病院や歯科等を受診できなかった経験の有無 (施設の種類の別)

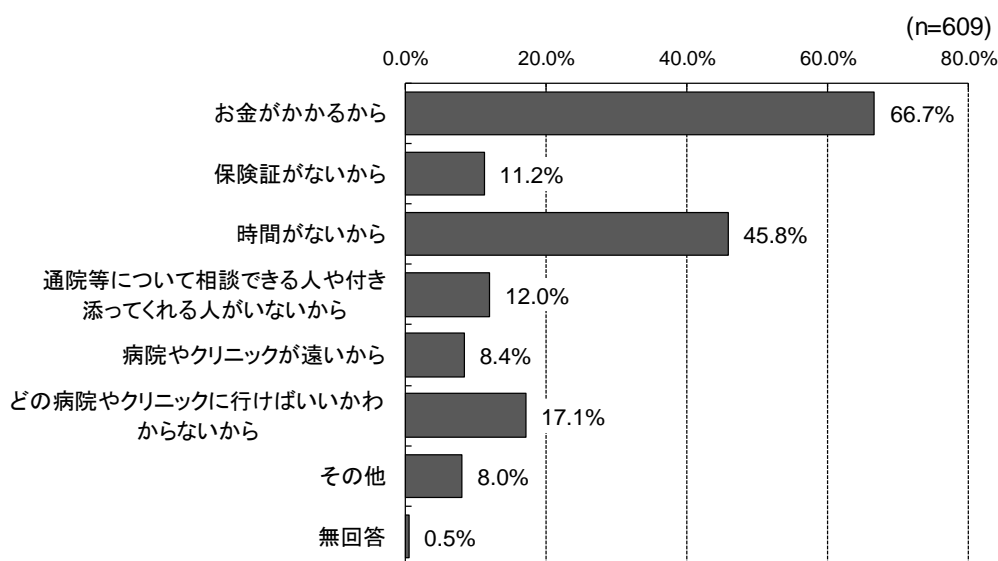


図表 83 過去 1 年間に病院や歯科等を受診できなかった経験の有無（退所年度別）



受診できなかった理由をみると、「お金がかかるから」の割合が最も高く 66.7%（406 人）となっている。次いで、「時間がないから（45.8%）」、「どの病院やクリニックに行けばいいかわからないから（17.1%）」となっている。

図表 84 受診できなかった理由（複数回答）



（注）「その他」として、「新型コロナウイルスの影響」、「精神的な理由」、「めんどくさい」、「保険証がない」、「仕事の都合」、「親に行くと言われた」などが挙げられた。

図表 85 受診できなかった理由（複数回答）（施設の種別別、退所年度別、現在の通学・就労の状況別、同居相手の状況別）

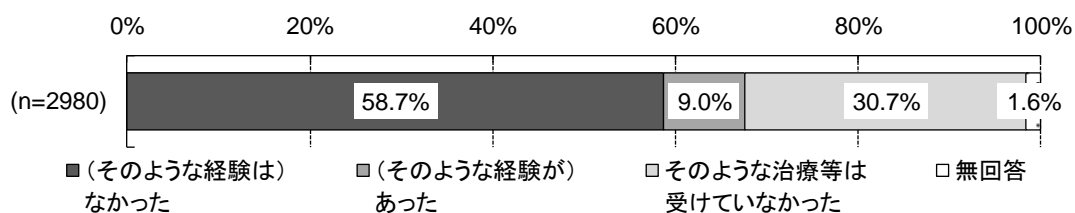
		(n)	お金がかか るから	保険証がな いから	時間がない から	通院等につ いて相談で きる人や付 き添ってく れる人がい ないから	病院やクリ ニックが遠 いから	どの病院や クリニックに 行けばいい かわからな いから	その他	無回答
Total		609	66.7%	11.2%	45.8%	12.0%	8.4%	17.1%	8.0%	0.5%
施設の 種類	児童養護施設	452	66.4%	12.8%	45.6%	12.2%	8.6%	18.4%	7.5%	0.7%
	児童自立支援施設	25	84.0%	8.0%	40.0%	20.0%	12.0%	16.0%	0.0%	0.0%
	ファミリーホーム	13	61.5%	7.7%	46.2%	15.4%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%
	自立援助ホーム	82	74.4%	7.3%	45.1%	9.8%	7.3%	14.6%	8.5%	0.0%
	里親	23	47.8%	0.0%	56.5%	0.0%	0.0%	8.7%	8.7%	0.0%
退所年 度	2015年4月以前	20	65.0%	15.0%	40.0%	5.0%	10.0%	10.0%	10.0%	5.0%
	2015年度	67	71.6%	9.0%	50.7%	6.0%	4.5%	9.0%	4.5%	0.0%
	2016年度	91	67.0%	16.5%	53.8%	11.0%	6.6%	16.5%	11.0%	0.0%
	2017年度	121	72.7%	9.1%	43.0%	11.6%	6.6%	17.4%	6.6%	0.0%
	2018年度	160	61.3%	9.4%	42.5%	11.9%	5.6%	14.4%	6.9%	1.3%
	2019年度	119	66.4%	11.8%	47.9%	17.6%	16.8%	27.7%	9.2%	0.0%
	2020年4月以降	20	60.0%	15.0%	40.0%	10.0%	15.0%	10.0%	15.0%	0.0%
現在の 通学・ 就労の 状況	通学あり・就労あり	54	77.8%	7.4%	59.3%	9.3%	11.1%	24.1%	5.6%	0.0%
	通学あり・就労なし	69	66.7%	10.1%	36.2%	14.5%	5.8%	26.1%	10.1%	1.4%
	通学なし・就労あり(正社員)	176	65.1%	5.7%	58.0%	6.8%	5.7%	10.8%	4.5%	0.6%
	通学なし・就労あり(正社員以外)	198	76.3%	15.2%	42.9%	14.1%	8.1%	15.7%	7.1%	0.5%
	その他	110	62.7%	15.5%	31.8%	16.4%	13.6%	20.9%	14.5%	0.0%
同居相 手の状 況	1人暮らし	257	68.1%	10.1%	47.9%	10.9%	8.2%	13.2%	7.0%	0.4%
	子どもあり	45	71.1%	4.4%	53.3%	8.9%	8.9%	6.7%	4.4%	0.0%
	親・親せき・祖父母あり(「子どもあり」を除く)	78	65.4%	6.4%	46.2%	15.4%	7.7%	23.1%	15.4%	0.0%
	その他(上記以外)	113	80.5%	20.4%	38.9%	11.5%	8.8%	23.0%	4.4%	0.0%

(注) 「児童心理治療施設」については、サンプル数は少ないため、掲載していない。

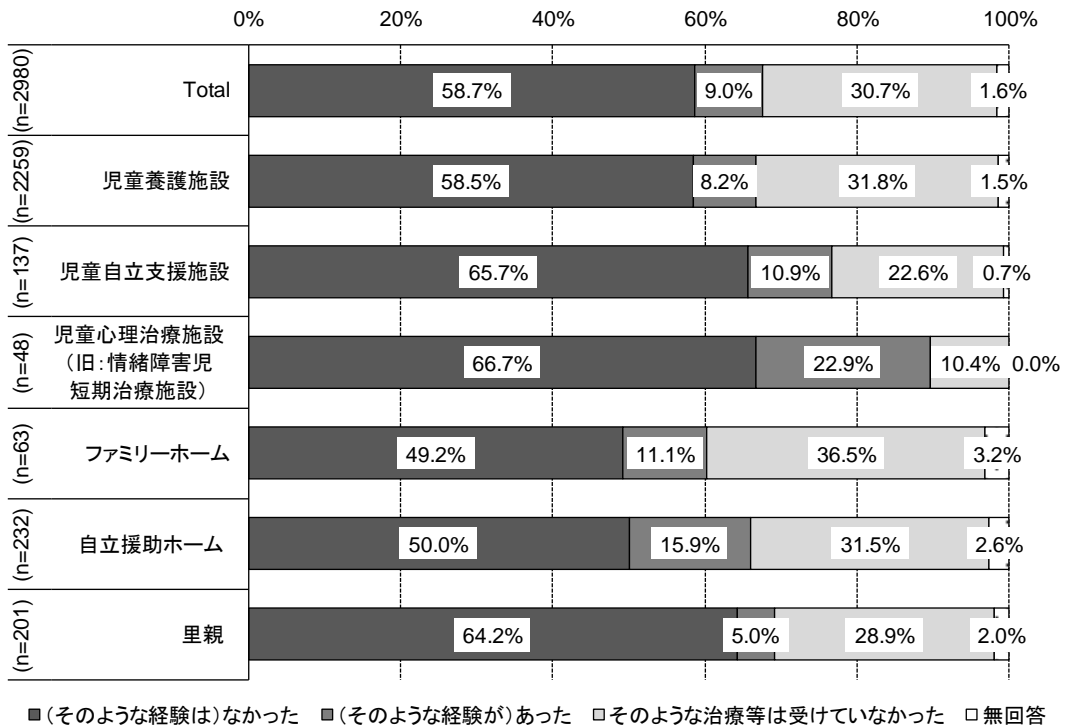
④ 施設等で受けていた治療等を受けられなくなった経験の有無とその理由

施設等で受けていた治療等を受けられなくなった経験の有無をみると、「(そのような経験は) なかった」の割合が最も高く 58.7% (1,748 人) となっている。次いで、「そのような治療等は受けていなかった (30.7%)」、「(そのような経験が) あった (9.0%)」となっている。

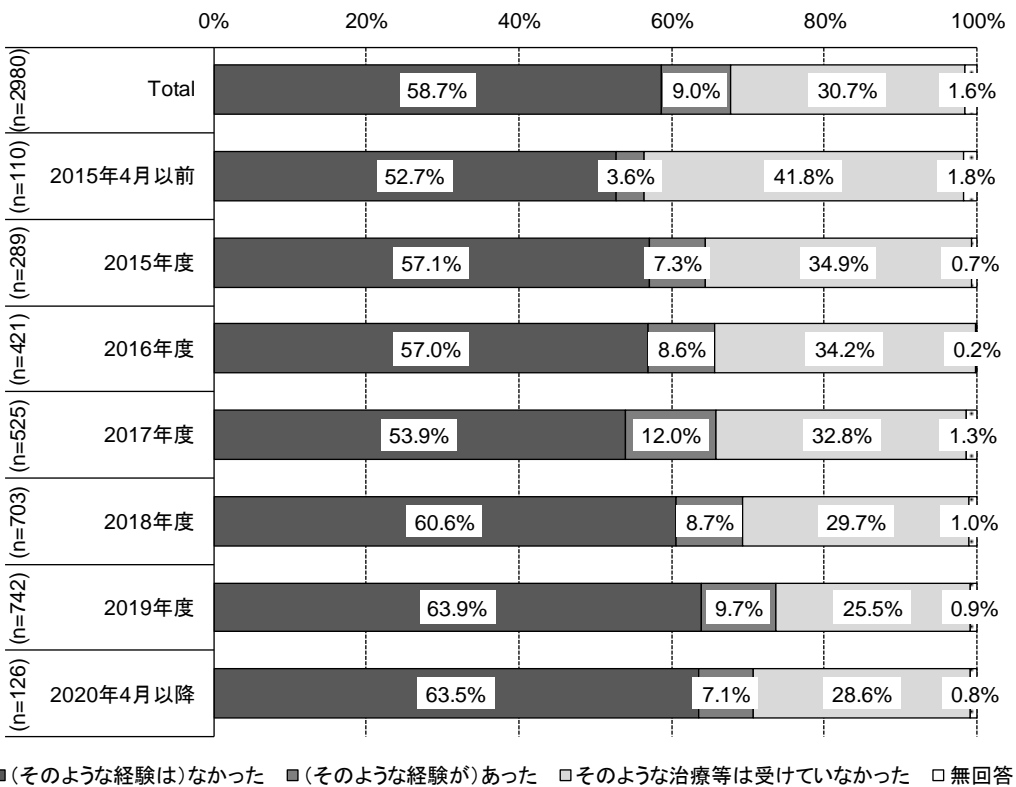
図表 86 施設等で受けていた治療等を受けられなくなった経験の有無



図表 87 施設等で受けていた治療等を受けられなくなった経験の有無（施設の種類の別）

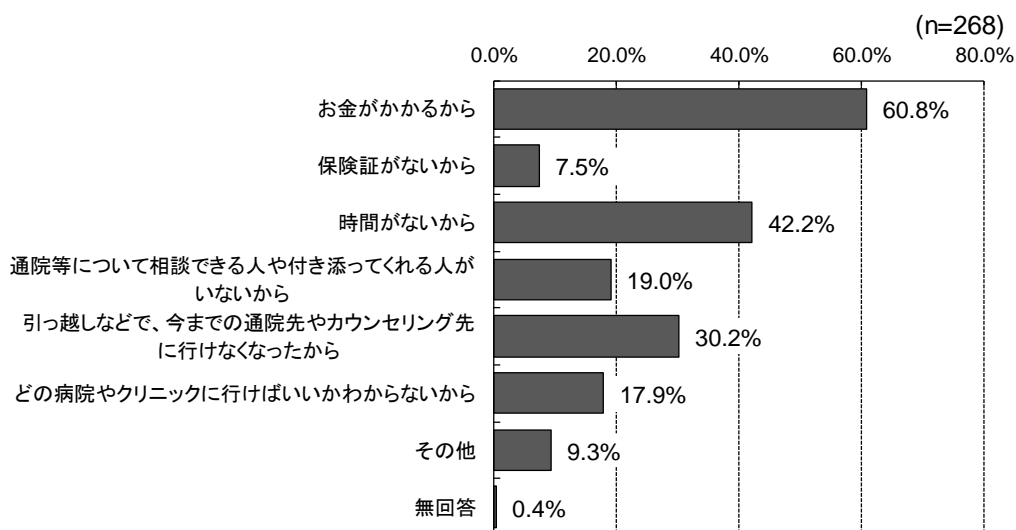


図表 88 施設等で受けていた治療等を受けられなくなった経験の有無（退所年度別の別）



治療等を受けられなくなった理由をみると、「お金がかかるから」の割合が最も高く 60.8%（163 人）となっている。次いで、「時間がないから（42.2%）」、「引越など、今までの通院先やカウンセリング先に行けなくなったから（30.2%）」となっている。

図表 89 施設等で受けていた治療等を受けられなくなった理由（複数回答）



(注) 「その他」として、「親が嫌がった」、「めんどくさい」、「仕事の都合」などが挙げられた。

図表 90 施設等で受けていた治療等を受けられなくなった理由（複数回答）（施設の種類の別、退所年度別、現在の通学・就労の状況別、同居相手の状況別）

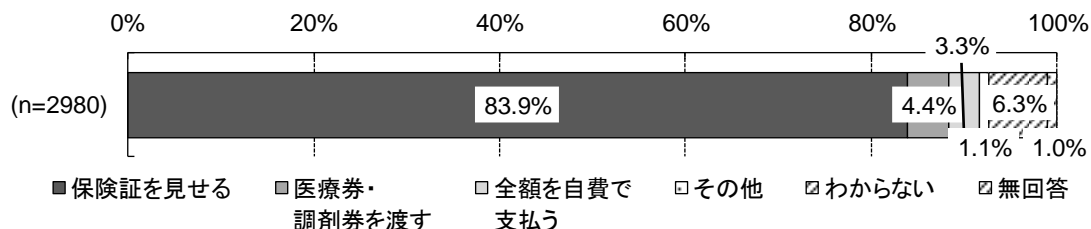
		(n)	お金がかかるから	保険証がないから	時間がないから	通院等について相談できる人や付き添ってくれる人がいないから	病院やクリニックが遠いから	どの病院やクリニックに行けばいいかわからないから	その他	無回答
Total		268	60.8%	7.5%	42.2%	19.0%	30.2%	17.9%	9.3%	0.4%
施設の種類の別	児童養護施設	186	61.8%	8.1%	42.5%	17.7%	29.6%	22.6%	9.1%	0.5%
	児童自立支援施設	15	60.0%	0.0%	73.3%	26.7%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%
	児童心理治療施設(旧:情緒障害児短期治療施設)	11	36.4%	9.1%	36.4%	9.1%	63.6%	9.1%	18.2%	0.0%
	自立援助ホーム	37	70.3%	8.1%	21.6%	29.7%	32.4%	8.1%	10.8%	0.0%
	里親	10	30.0%	0.0%	70.0%	10.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%
退所年度の別	2015年度	21	66.7%	9.5%	57.1%	14.3%	23.8%	14.3%	0.0%	0.0%
	2016年度	36	52.8%	13.9%	33.3%	16.7%	41.7%	19.4%	16.7%	2.8%
	2017年度	63	68.3%	7.9%	39.7%	17.5%	20.6%	19.0%	7.9%	0.0%
	2018年度	61	59.0%	4.9%	37.7%	11.5%	29.5%	11.5%	6.6%	0.0%
	2019年度	72	56.9%	4.2%	47.2%	29.2%	31.9%	23.6%	13.9%	0.0%
現在の通学・就労の状況の別	通学あり・就労あり	31	71.0%	3.2%	54.8%	9.7%	19.4%	16.1%	9.7%	0.0%
	通学あり・就労なし	29	51.7%	3.4%	37.9%	20.7%	44.8%	17.2%	6.9%	0.0%
	通学なし・就労あり(正社員)	68	61.8%	7.4%	30.0%	17.6%	19.1%	17.6%	7.4%	0.0%
	通学なし・就労あり(正社員以外)	78	60.3%	9.0%	37.2%	28.2%	35.9%	24.4%	9.0%	1.3%
	その他	61	60.7%	9.8%	34.4%	13.1%	34.4%	11.5%	13.1%	0.0%
同居相手の状況の別	1人暮らし	105	63.8%	7.6%	37.1%	15.2%	33.3%	15.2%	3.8%	1.0%
	子どもあり	17	58.8%	0.0%	35.3%	0.0%	35.3%	11.8%	11.8%	0.0%
	親・親せき・祖父母あり(「子どもあり」を除く)	53	49.1%	3.8%	30.9%	22.6%	22.6%	17.0%	11.3%	0.0%
	その他(上記以外)	50	80.0%	18.0%	38.0%	28.0%	34.0%	22.0%	8.0%	0.0%

(注) 「ファミリーホーム」「2015年4月以前」「2020年4月以降」については、サンプル数は少ないため、掲載していない。

⑤ 受診時の支払い方法

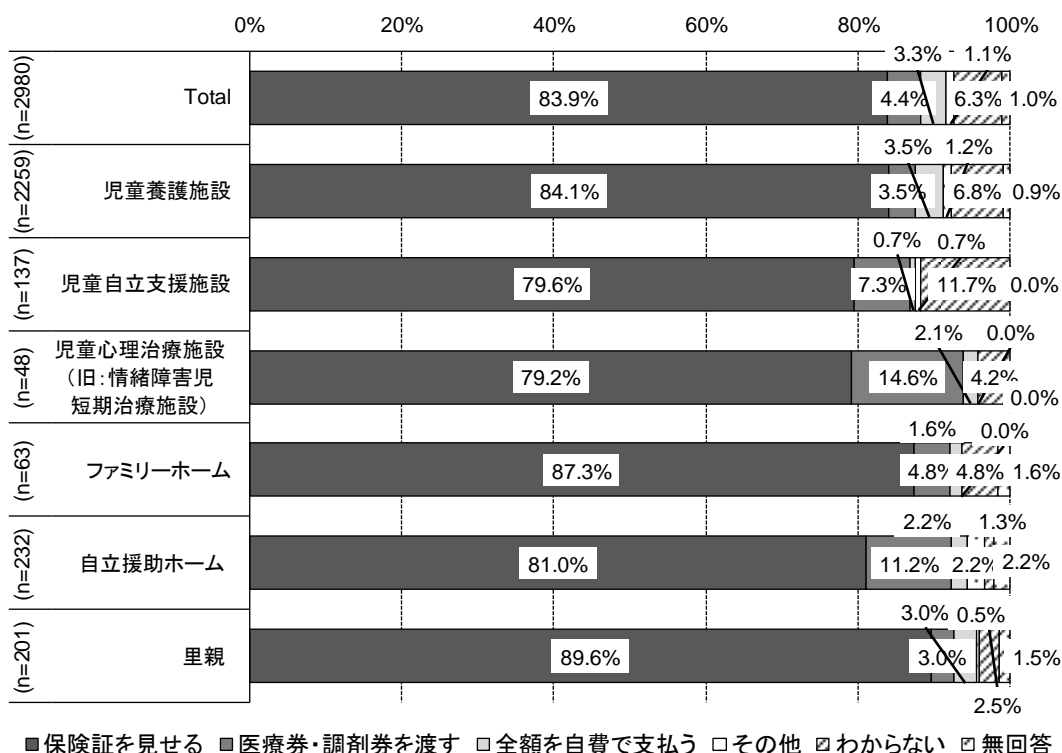
受診時の支払い方法をみると、「保険証を見せる」の割合が最も高く83.9%（2,499人）となっている。次いで、「わからない（6.3%）」、「医療券・調剤券を渡す（4.4%）」となっている。

図表 91 受診時の支払い方法

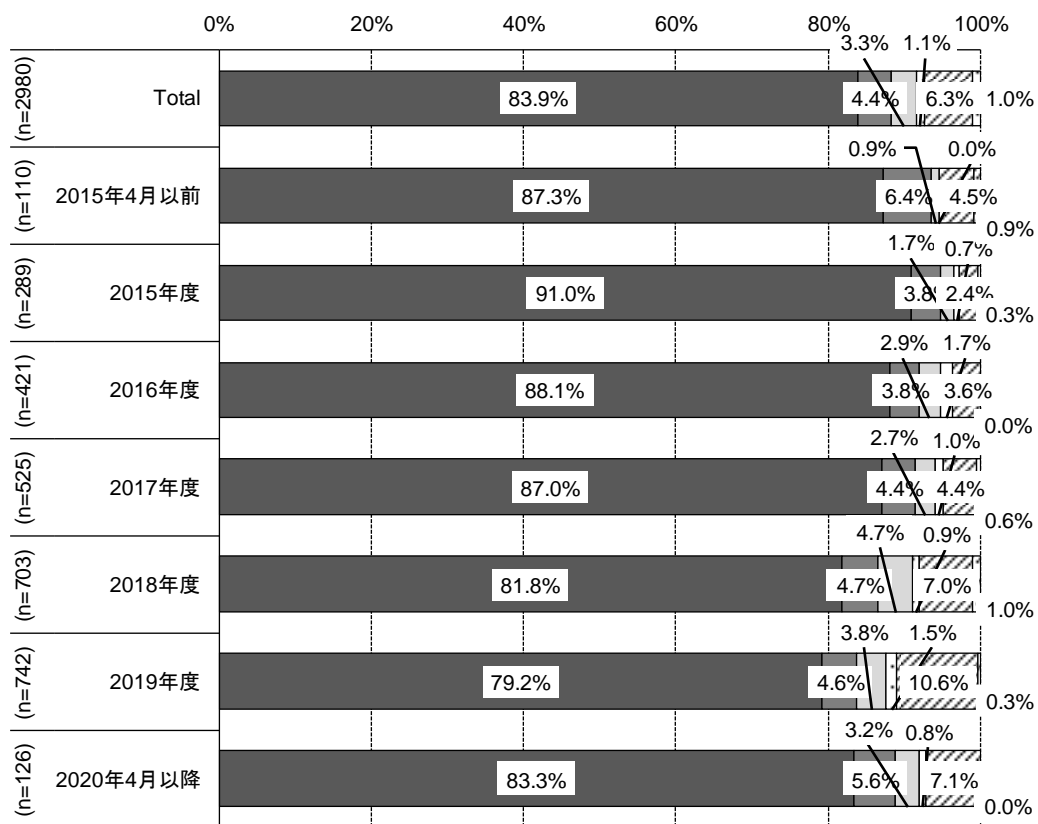


(注) 「その他」として、「自立支援医療制度」、「行かない」、「医療費受給者証」などが挙げられた。

図表 92 受診時の支払い方法（施設の種類別）



図表 93 受診時の支払い方法（退所年度別）



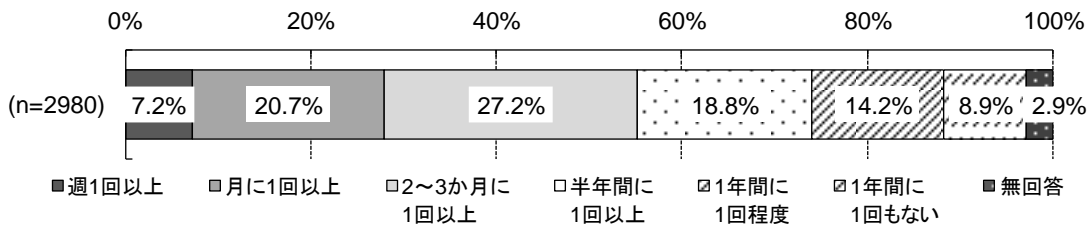
■ 保険証を見せる ■ 医療券・調剤券を渡す □ 全額を自費で支払う □ その他 □ わからない □ 無回答

(5) 生活していた施設等とのつながり・相談相手

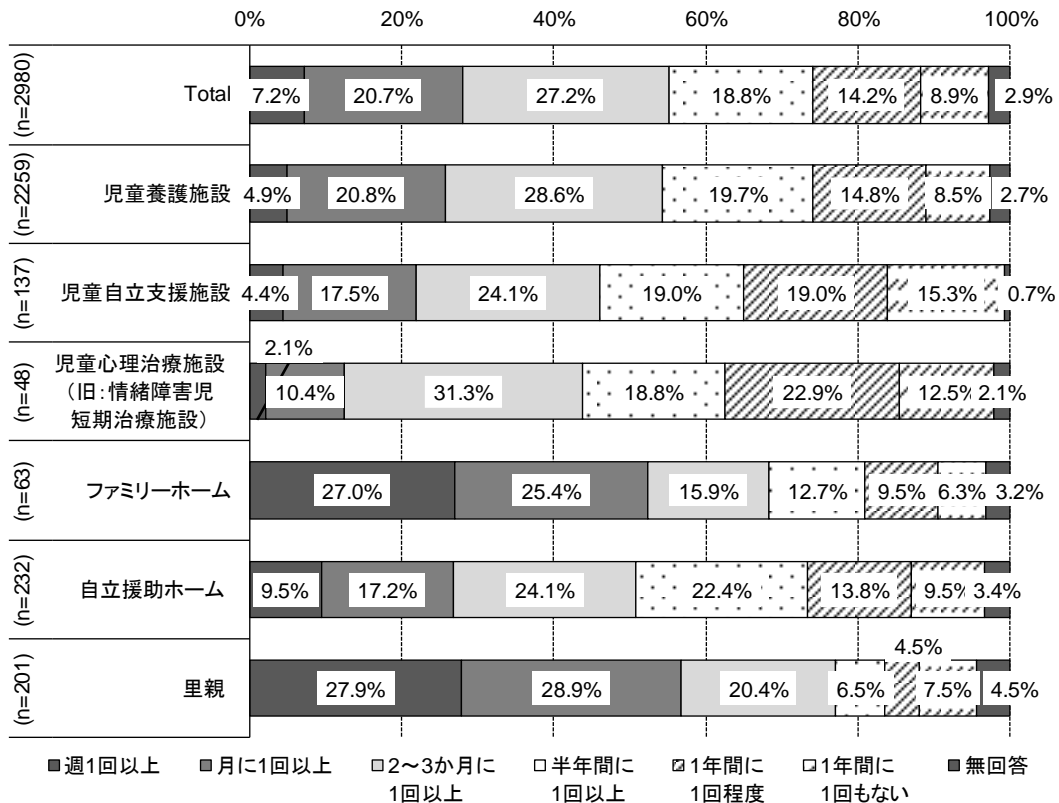
① 施設等との連絡頻度（直近1年間）

直近1年間の施設等との連絡頻度をみると、「2～3か月に1回以上」の割合が最も高く27.2%（811人）となっている。次いで、「月に1回以上（20.7%）」、「半年間に1回以上（18.8%）」となっている。

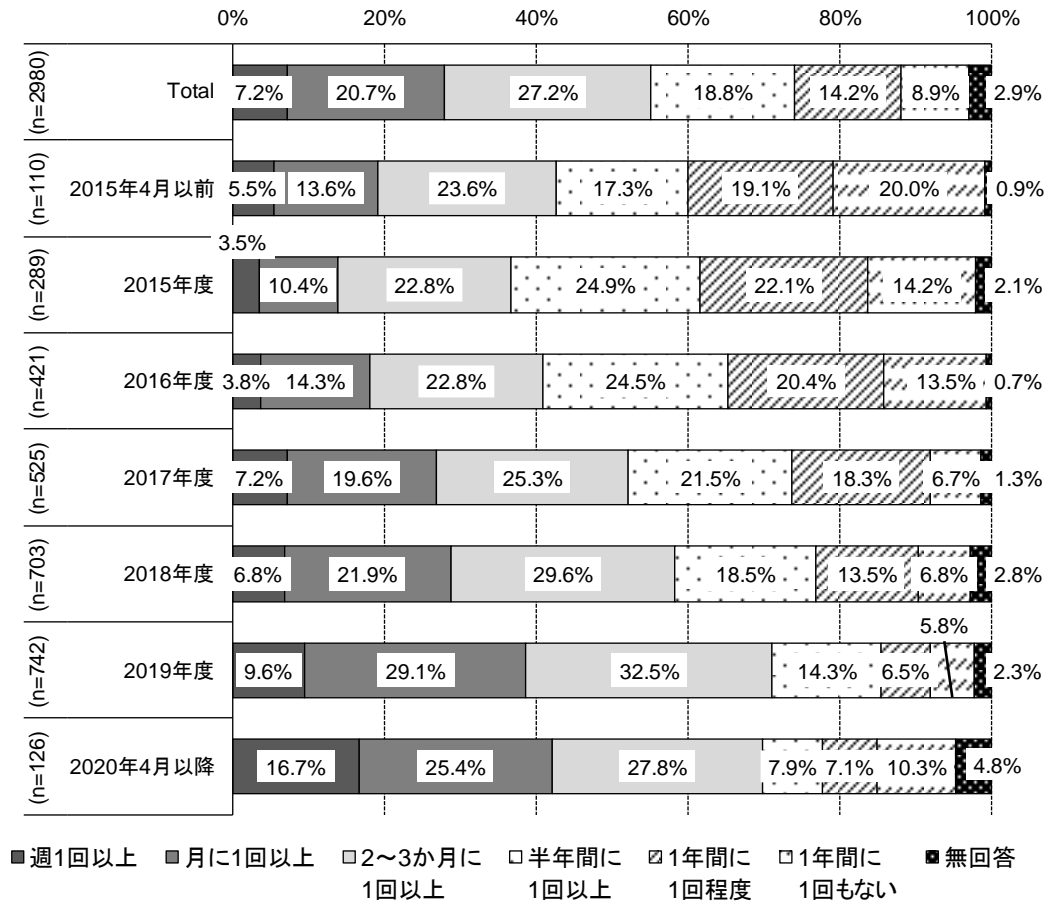
図表 94 施設等との連絡頻度



図表 95 施設等との連絡頻度（施設の種類の別）



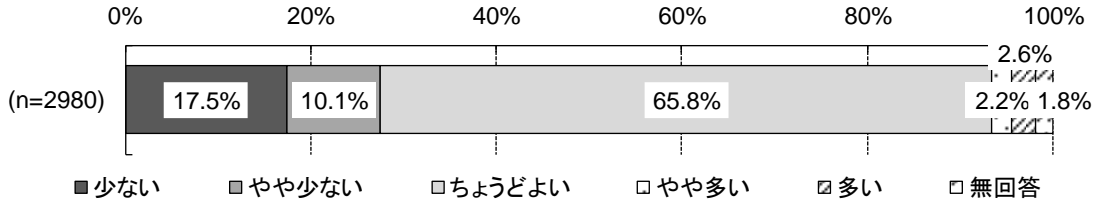
図表 96 施設等との連絡頻度（退所年度別）



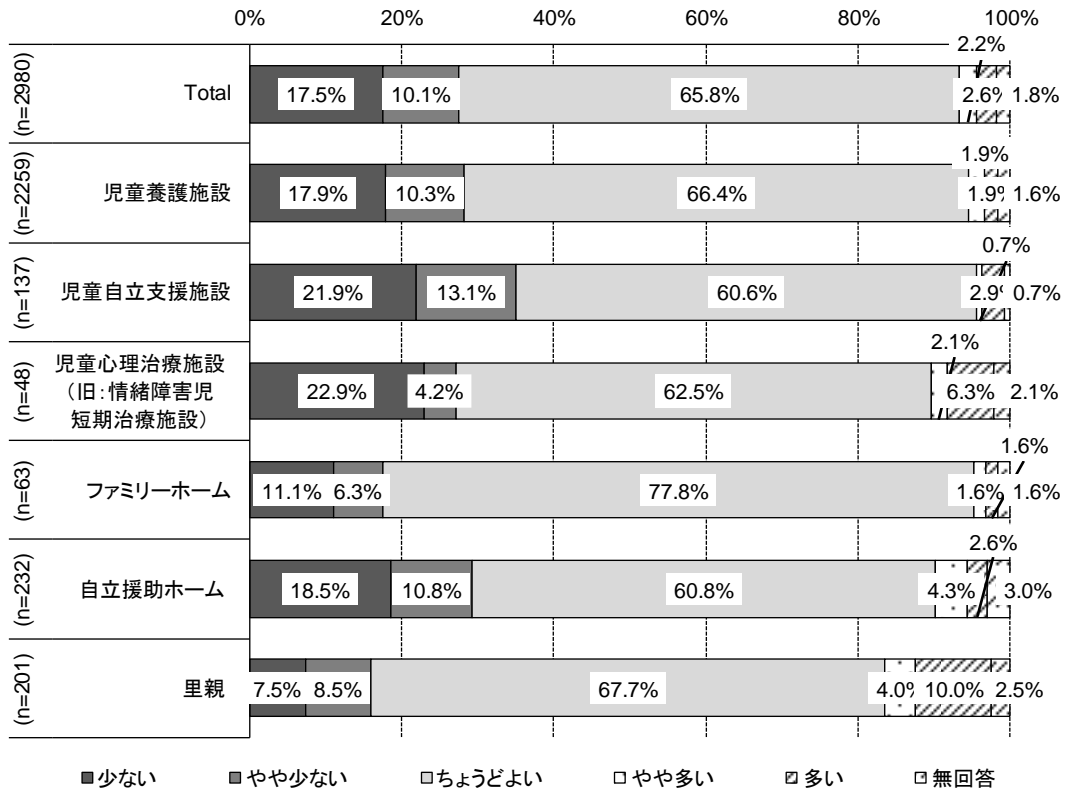
② 施設等との連絡頻度の充足感

施設等との連絡頻度の充足感をみると、「ちょうどよい」の割合が最も高く65.8%（1,961人）となっている。次いで、「少ない（17.5%）」、「やや少ない（10.1%）」となっている。

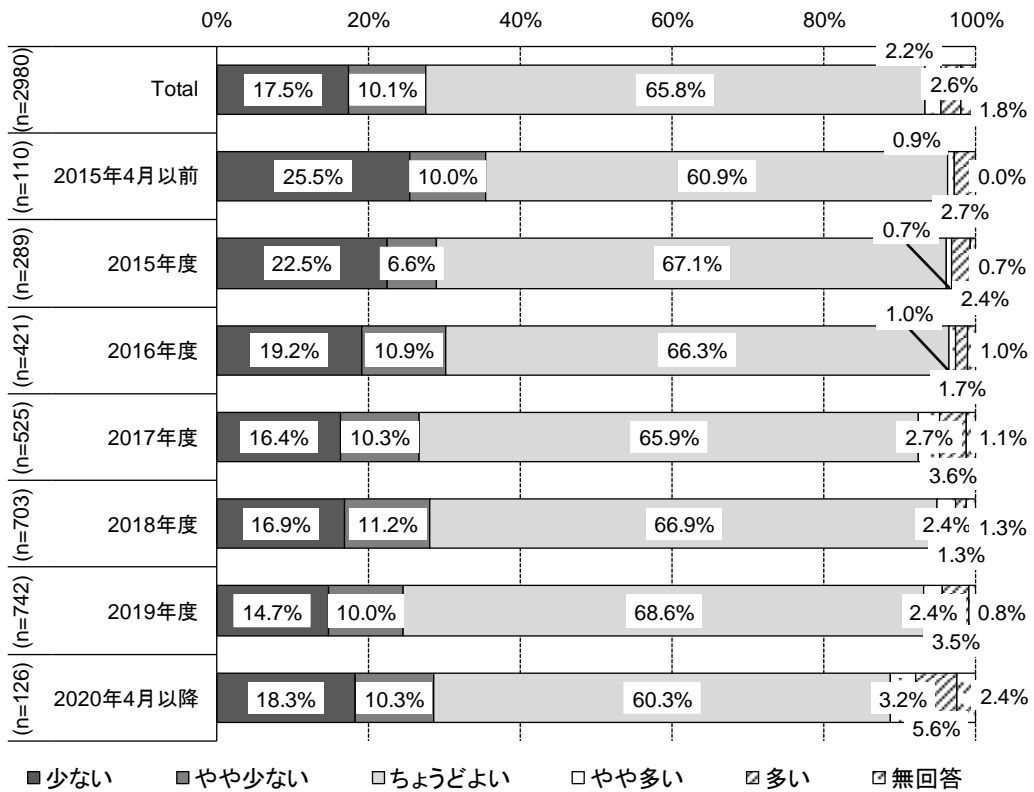
図表 97 施設等との連絡頻度の充足感



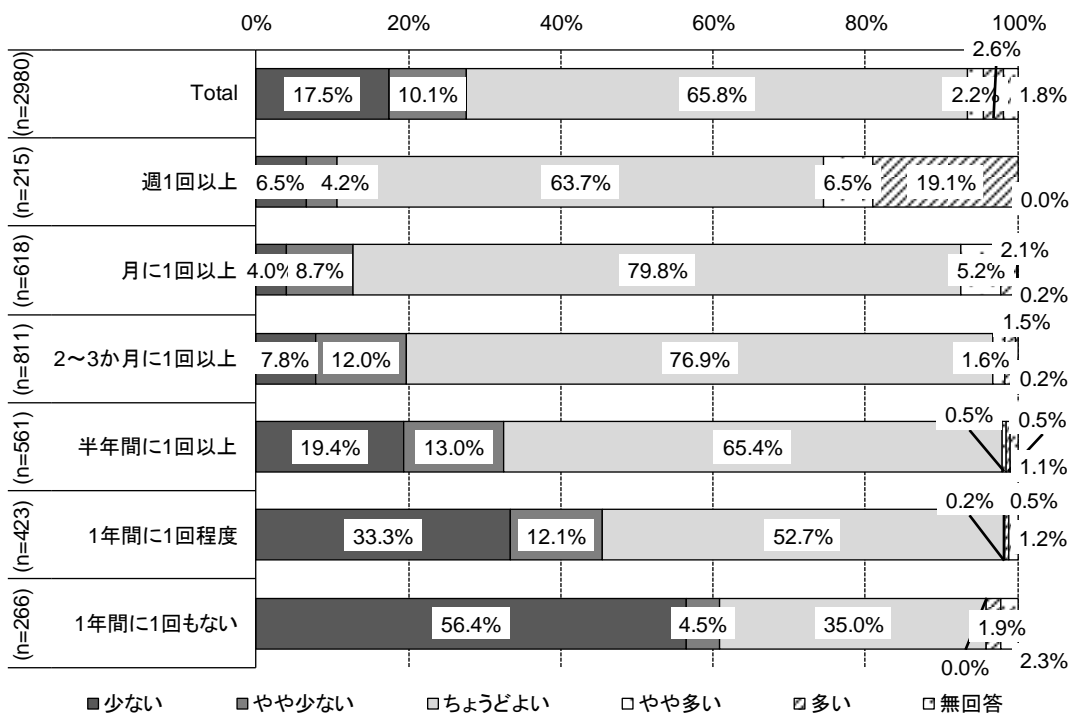
図表 98 施設等との連絡頻度の充足感（施設の種類別）



図表 99 施設等との連絡頻度の充足感（退所年度別）



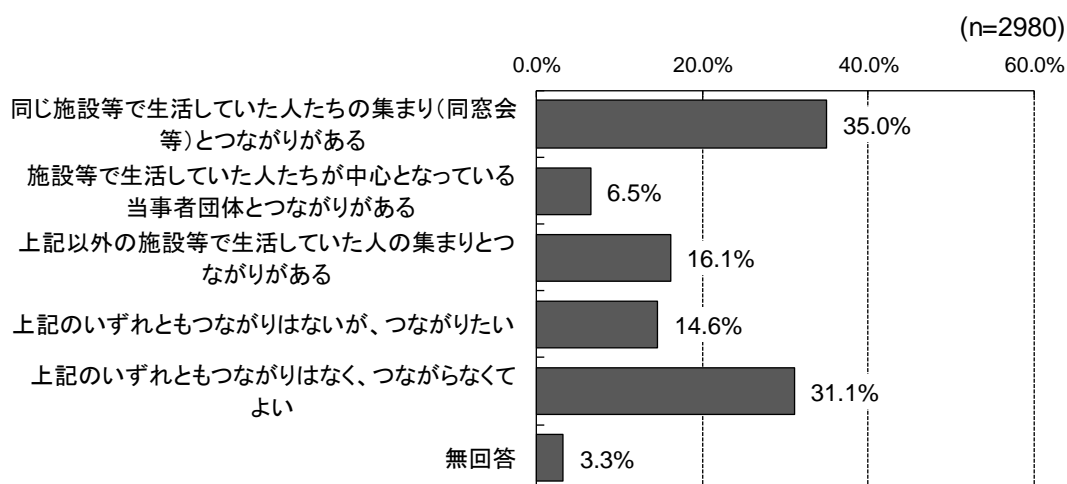
図表 100 施設等との連絡頻度の充足感（連絡の頻度別）



③ 施設等で生活していた人の集まりや当事者団体とのつながり

施設等で生活していた人の集まりや当事者団体とのつながりをみると、「同じ施設等で生活していた人たちの集まり（同窓会等）とつながりがある」の割合が最も高く 35.0%（1,042 人）となっている。次いで、「上記のいずれともつながりはなく、つながらなくてよい（31.1%）」、「上記以外の施設等で生活していた人の集まりとつながりがある（16.1%）」となっている。

図表 101 施設等で生活していた人の集まりや当事者団体とのつながり（複数回答）



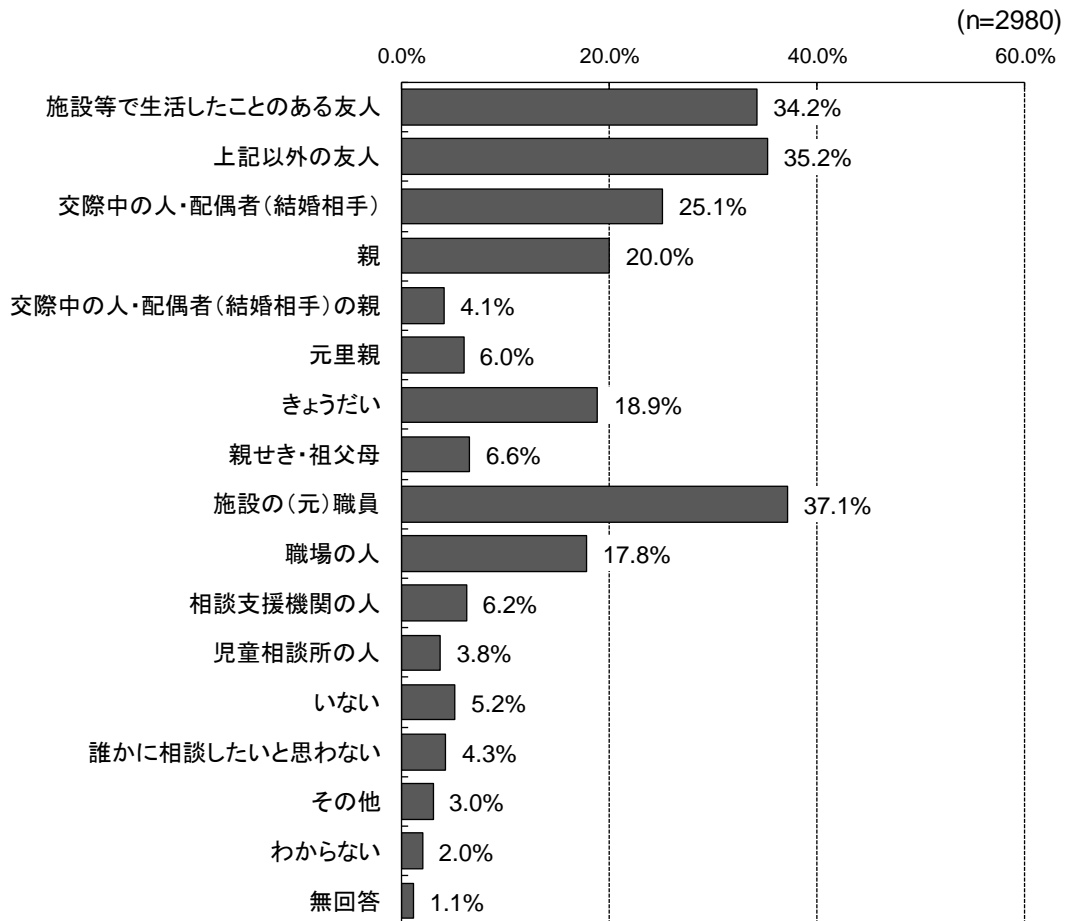
図表 102 施設等で生活していた人の集まりや当事者団体とのつながり（複数回答）（施設の種類の別、退所年度別、最後に生活していた施設等と現在住んでいる都道府県の場合別）

		(n)	同じ施設等で生活していた人たちの集まり(同窓会等)とつながりがある	施設等で生活していた人たちが中心となっている当事者団体とつながりがある	上記以外の施設等で生活していた人の集まりとつながりがある	上記のいずれともつながりはないが、つながりたい	上記のいずれともつながりはなく、つながらなくてよい	無回答
Total		2980	35.0%	6.5%	16.1%	14.6%	31.1%	3.3%
施設の種類	児童養護施設	2259	36.5%	5.7%	16.6%	14.1%	30.4%	3.1%
	児童自立支援施設	137	29.9%	4.4%	13.9%	19.0%	38.0%	0.7%
	児童心理治療施設(旧・情緒障害児短期治療施設)	48	16.7%	8.3%	14.6%	35.4%	33.3%	2.1%
	ファミリーホーム	63	49.2%	4.8%	11.1%	9.5%	31.7%	1.6%
	自立援助ホーム	232	31.9%	10.3%	16.8%	18.1%	29.7%	3.9%
	里親	201	28.4%	12.4%	13.9%	11.9%	31.3%	5.5%
退所年度	2015年4月以前	110	39.1%	9.1%	20.9%	14.5%	26.4%	0.9%
	2015年度	289	40.8%	5.2%	15.9%	13.5%	31.5%	1.0%
	2016年度	421	39.7%	4.3%	15.2%	15.4%	30.4%	1.2%
	2017年度	525	35.4%	6.7%	15.4%	14.5%	30.5%	2.7%
	2018年度	703	36.7%	8.0%	14.9%	16.6%	29.7%	2.1%
	2019年度	742	29.9%	5.9%	17.9%	13.6%	34.0%	3.5%
	2020年4月以降	126	27.0%	10.3%	18.3%	15.9%	32.5%	4.8%
施設等の場所	同一都道府県内	2208	35.3%	6.4%	17.2%	13.9%	31.3%	2.9%
	都道府県外	736	34.9%	7.1%	13.6%	17.3%	31.0%	2.0%

④ 困った時の相談相手

困ったことがあったときの相談相手を見ると、「施設の（元）職員」の割合が最も高く 37.1%（1,106 人）となっている。次いで、「上記以外の友人（35.2%）」、「施設等で生活したことのある友人（34.2%）」となっている。

図表 103 困った時の相談相手（複数回答）



（注）「その他」として、「学校の先生」、「医師・看護師」、「義父母」、「後見人」、「市役所の職員」、「近所の人」などが挙げられた。

図表 104 困った時の相談相手（複数回答）（施設の種別別、退所年度別、施設等での生活・施設職員等の対応の評価別、施設等の場所別、同居相手の状況別）

		(n)	施設等で生活したことがある友人	上記以外の友人	交際中の人・配偶者(結婚相手)	親	交際中の人・配偶者(結婚相手)の親	元里親	きょうだい	親せき・祖父母	施設の(元)職員	職場の人	相談支援機関の人	児童相談所の人	いない	誰かに相談したいと思わない	その他	わからない	無回答
Total		2980	34.2%	35.2%	25.1%	20.0%	4.1%	6.0%	18.9%	6.6%	37.1%	17.8%	6.2%	3.8%	5.2%	4.3%	3.0%	2.0%	1.1%
施設の種別	児童養護施設	2259	37.9%	36.4%	24.4%	19.7%	3.9%	1.4%	19.8%	6.2%	40.4%	18.6%	5.2%	3.4%	5.2%	4.2%	2.8%	1.9%	1.2%
	児童自立支援施設	137	29.9%	33.6%	25.5%	40.1%	5.8%	1.5%	16.8%	8.0%	32.1%	12.4%	5.1%	5.8%	2.9%	2.2%	2.2%	1.5%	0.0%
	児童心理治療施設(旧・情緒障害児短期治療施設)	48	25.0%	25.0%	12.5%	29.2%	6.3%	0.0%	8.3%	12.5%	41.7%	10.4%	18.8%	8.3%	10.4%	2.1%	6.3%	6.3%	0.0%
	ファミリーホーム	63	23.8%	34.9%	20.6%	9.5%	4.8%	33.3%	17.5%	4.8%	23.8%	12.7%	7.9%	6.3%	7.9%	6.3%	4.8%	3.2%	1.6%
	自立援助ホーム	232	28.0%	28.0%	38.4%	16.8%	6.0%	0.4%	14.7%	4.7%	40.5%	18.1%	13.4%	5.2%	5.6%	6.0%	4.7%	1.3%	0.9%
	里親	201	10.9%	33.3%	25.4%	14.4%	2.5%	59.7%	17.4%	9.5%	6.0%	12.4%	6.0%	3.5%	3.0%	2.5%	3.5%	2.0%	2.0%
退所年度	2015年4月以前	110	35.5%	32.7%	25.5%	20.9%	2.7%	6.4%	14.5%	3.6%	34.5%	21.8%	7.3%	2.7%	5.5%	3.6%	1.8%	1.8%	0.9%
	2015年度	289	28.7%	37.0%	29.1%	17.6%	5.9%	5.2%	14.9%	6.9%	29.4%	22.1%	5.2%	1.7%	4.2%	5.9%	2.8%	2.1%	0.3%
	2016年度	421	34.0%	35.4%	34.4%	25.9%	6.7%	4.3%	22.1%	5.0%	36.6%	19.0%	3.8%	2.4%	5.2%	3.3%	3.1%	1.4%	0.2%
	2017年度	525	35.2%	36.6%	29.0%	17.9%	4.4%	5.0%	21.0%	6.9%	38.5%	16.2%	6.1%	4.0%	6.1%	4.0%	3.4%	1.0%	0.8%
	2018年度	703	36.8%	35.1%	24.6%	18.3%	4.0%	6.0%	18.2%	5.8%	39.0%	19.6%	7.1%	3.3%	6.3%	5.0%	3.3%	2.3%	0.4%
	2019年度	742	35.8%	36.1%	18.6%	22.6%	2.7%	5.4%	17.9%	8.2%	40.7%	14.3%	6.9%	5.4%	3.6%	4.0%	3.0%	2.2%	0.5%
	2020年4月以降	126	28.6%	30.2%	15.9%	12.7%	0.8%	16.7%	21.4%	7.9%	31.7%	18.3%	10.3%	6.3%	7.1%	3.2%	1.6%	2.4%	2.4%
施設等での生活・施設職員等の対応	よくなかった	114	18.4%	37.7%	27.2%	17.5%	7.9%	5.3%	14.0%	4.4%	12.3%	14.0%	7.9%	7.0%	8.8%	9.6%	5.3%	1.8%	0.0%
	あまりよくなかった	113	33.6%	37.2%	27.4%	18.6%	3.5%	1.8%	23.9%	3.5%	16.8%	23.9%	6.2%	2.7%	11.5%	6.2%	7.1%	2.7%	0.0%
	どちらともいえない	364	26.6%	28.6%	26.4%	14.3%	4.4%	2.5%	14.0%	5.8%	27.5%	12.4%	4.1%	3.0%	10.4%	6.3%	4.1%	2.5%	0.3%
	まあよかった	693	31.2%	35.5%	27.6%	22.1%	3.8%	3.9%	19.6%	6.6%	34.9%	16.9%	7.4%	3.8%	5.5%	3.2%	3.5%	2.7%	0.6%
	よかった	1561	40.6%	37.0%	24.8%	21.5%	4.2%	7.4%	20.2%	7.4%	45.9%	19.7%	6.3%	4.0%	3.1%	3.7%	2.1%	1.3%	0.3%
わからない・覚えていない	91	13.2%	34.1%	13.2%	15.4%	2.2%	15.4%	14.3%	4.4%	12.1%	15.4%	3.3%	2.2%	6.6%	7.7%	1.1%	5.5%	1.1%	
施設等の場所	同一都道府県内	2208	34.7%	33.6%	23.8%	20.1%	4.0%	6.2%	18.3%	6.6%	36.5%	17.9%	7.6%	4.1%	5.4%	4.1%	3.4%	2.4%	0.7%
	都道府県外	736	33.7%	40.5%	29.9%	20.1%	4.5%	5.2%	20.9%	6.7%	39.7%	17.8%	2.6%	2.7%	4.6%	4.8%	2.0%	0.7%	0.5%
同居相手の状況	1人暮らし	1157	34.7%	40.4%	19.0%	13.6%	1.5%	6.1%	16.9%	5.9%	39.3%	18.4%	5.6%	2.6%	6.2%	4.6%	2.9%	1.5%	0.6%
	子どもあり	145	40.0%	22.8%	74.5%	23.4%	21.4%	6.9%	21.4%	6.2%	35.2%	12.4%	4.1%	2.8%	2.8%	0.7%	2.1%	0.0%	0.0%
	親・親せき・祖父母あり(「子どもあり」を除く)	540	31.1%	33.9%	14.4%	37.4%	3.0%	2.0%	18.3%	8.5%	29.3%	10.0%	3.7%	6.1%	6.1%	5.2%	3.7%	4.1%	0.7%
その他(上記以外)	395	33.4%	31.9%	57.0%	16.7%	8.6%	4.8%	23.8%	4.1%	38.0%	15.2%	1.8%	2.8%	3.8%	4.1%	2.0%	0.5%	1.0%	

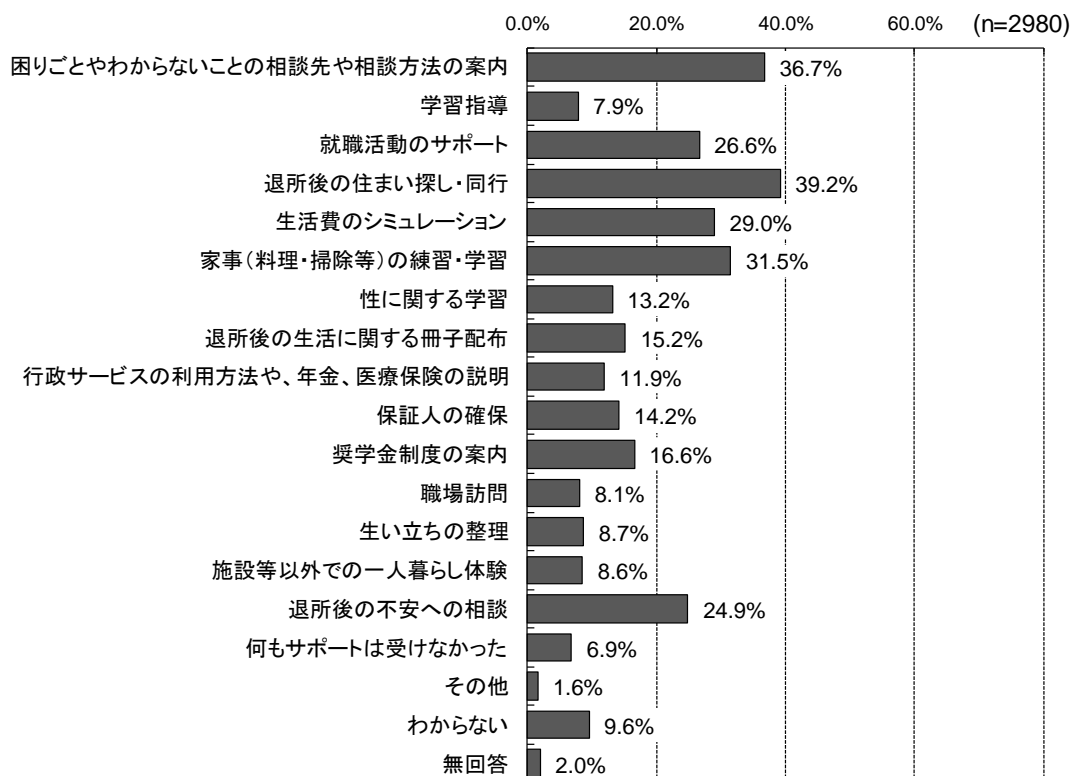
(注) クロス集計軸の項目ごとに最も多かった回答を赤色で塗りつぶした。

(6) 最後に生活していた施設等から受けたサポート

① 退所に向けて受けたサポート

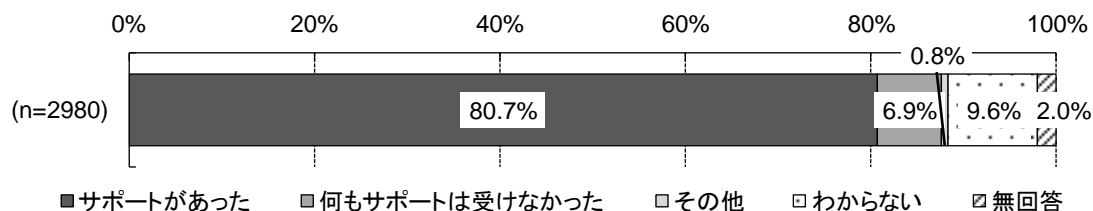
退所に向けて受けたサポートの内容をみると、「退所後の住まい探し・同行」の割合が最も高く 39.2% (1,167 人) となっている。次いで、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内 (36.7%)」、「家事 (料理・掃除等) の練習・学習 (31.5%)」となっている。

図表 105 退所に向けて受けたサポート (複数回答)



(注) 「その他」として、「引っ越しの準備」、「退所後に必要なものの買い出し」、「自動車免許の取得」、「精神的なサポート」「諸手続き・書類作成の手伝い」などが挙げられた。

図表 106 退所に向けて受けたサポートの有無



(注) 退所に向けて受けたサポートについて、13 個のサポート内容のうち 1 つ以上回答があった人を「サポートがあった」、13 個のサポート内容のうちいずれも選択せず「その他」を回答した人を「その他」とした。

図表 107 退所に向けて受けたサポート（複数回答）（施設の種別、退所年度別、退所時点の年齢別、退所直後の進路別、退所に向けたサポートに対する評価別）

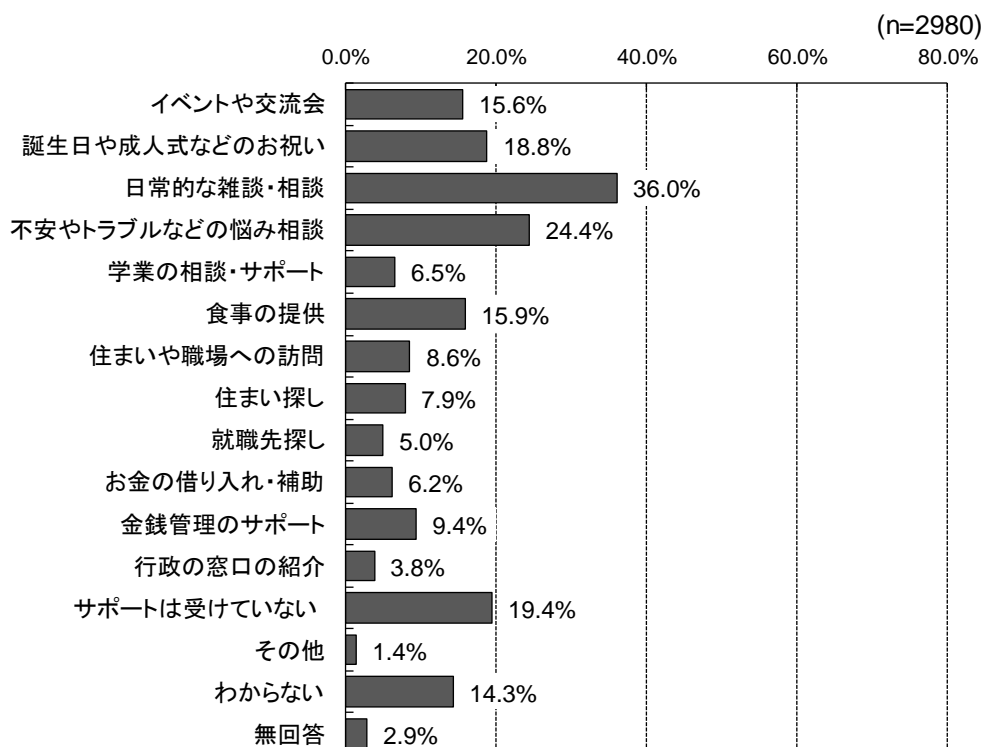
	(n)	困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内	学習指導	就職活動のサポート	退所後の住まい探し・同行	生活費のシミュレーション	家事（料理・掃除等）の練習・学習	性に関する学習	退所後の生活に関する冊子配布	行政サービスの利用方法や、年金、医療保険の説明	保証人の確保	奨学金制度の案内	職場訪問	生い立ちの整理	施設等以外での一人暮らし体験	退所後の不安への相談	何もサポートは受けなかった	その他	わからない	無回答	
Total	2980	36.7%	7.9%	26.6%	39.2%	29.0%	31.5%	13.2%	15.2%	11.9%	14.2%	16.6%	8.1%	8.7%	8.6%	24.9%	6.9%	1.6%	9.6%	2.0%	
施設の種別	児童養護施設	2259	37.1%	6.6%	28.2%	41.5%	30.9%	34.0%	14.2%	17.2%	12.0%	14.4%	18.3%	8.5%	9.0%	9.8%	25.6%	6.2%	1.5%	9.3%	1.9%
	児童自立支援施設	137	46.0%	34.3%	18.2%	14.6%	9.5%	22.6%	24.8%	11.7%	3.6%	7.3%	5.8%	2.2%	13.1%	1.5%	32.8%	5.8%	1.5%	8.0%	0.7%
	児童心理治療施設(旧・情緒障害児短期治療施設)	48	33.3%	20.8%	20.8%	18.8%	16.7%	37.5%	25.0%	18.8%	12.5%	4.2%	8.3%	10.4%	10.4%	12.5%	22.9%	8.3%	2.1%	14.6%	0.0%
	ファミリーホーム	63	31.7%	4.8%	17.5%	39.7%	33.3%	23.8%	12.7%	7.9%	19.0%	14.3%	25.4%	7.9%	6.3%	4.8%	25.4%	17.5%	1.6%	6.3%	1.6%
	自立援助ホーム	232	37.9%	3.9%	23.7%	42.7%	32.8%	21.6%	3.4%	8.6%	16.4%	17.7%	6.5%	9.5%	5.6%	8.2%	25.4%	10.3%	2.2%	6.5%	2.2%
里親	201	28.9%	7.0%	21.9%	31.8%	20.4%	22.9%	3.5%	4.0%	9.0%	15.4%	16.9%	4.5%	7.5%	2.0%	12.9%	8.5%	2.0%	12.4%	4.0%	
退所年度	2015年4月以前	110	40.0%	8.2%	28.2%	36.4%	25.5%	24.5%	5.5%	13.6%	8.2%	12.7%	9.1%	8.2%	4.5%	10.9%	24.5%	4.5%	0.9%	13.6%	0.0%
	2015年度	289	30.8%	5.9%	19.7%	40.5%	22.8%	28.7%	10.4%	14.2%	9.7%	12.1%	13.8%	7.6%	7.6%	6.2%	21.5%	11.1%	2.8%	10.0%	0.7%
	2016年度	421	32.3%	7.6%	25.7%	37.3%	26.8%	34.2%	10.5%	13.5%	10.0%	14.5%	13.5%	8.3%	7.6%	4.8%	22.1%	8.6%	1.9%	9.0%	1.0%
	2017年度	525	36.0%	7.8%	28.8%	41.5%	29.9%	32.0%	12.8%	17.0%	13.5%	18.7%	17.3%	7.8%	8.8%	9.3%	25.7%	7.4%	1.3%	7.2%	1.0%
	2018年度	703	39.3%	7.8%	28.9%	41.4%	30.0%	31.0%	14.7%	14.9%	11.9%	13.7%	17.9%	10.0%	9.4%	9.1%	24.6%	5.5%	2.4%	8.8%	1.4%
	2019年度	742	42.3%	9.0%	27.4%	38.8%	32.3%	34.5%	17.0%	17.5%	13.6%	13.7%	19.5%	7.4%	10.5%	10.4%	30.2%	5.5%	0.9%	10.5%	1.2%
2020年4月以降	126	33.3%	11.9%	25.4%	37.3%	31.7%	26.2%	13.5%	11.9%	14.3%	11.9%	18.3%	5.6%	7.9%	11.1%	19.0%	7.9%	0.0%	11.1%	5.6%	
退所時点の年齢	17歳以下	535	29.0%	15.1%	10.1%	11.2%	7.9%	14.6%	11.8%	6.9%	3.7%	3.7%	3.7%	2.8%	7.9%	1.9%	21.1%	16.3%	1.9%	19.6%	1.7%
	18歳	1788	39.2%	6.8%	32.3%	44.7%	34.1%	37.2%	16.1%	18.7%	13.2%	15.7%	20.1%	9.7%	9.8%	9.8%	26.7%	4.5%	1.6%	6.7%	1.1%
	19歳以上	581	38.7%	5.2%	27.4%	50.8%	34.6%	32.2%	6.4%	12.9%	16.7%	20.0%	18.4%	8.4%	6.9%	11.5%	25.1%	5.3%	1.5%	7.6%	1.5%
退所直後の進路	就職・就労	1593	37.9%	6.2%	42.0%	43.6%	30.4%	35.3%	13.8%	15.3%	12.7%	15.4%	4.4%	13.2%	8.0%	9.9%	24.1%	5.4%	1.1%	8.0%	1.6%
	進学・通学	1083	37.8%	11.4%	8.2%	35.1%	30.7%	29.8%	13.9%	16.5%	11.3%	14.5%	38.4%	1.2%	10.3%	7.5%	27.4%	7.2%	2.2%	9.8%	1.3%
	未定だった	137	29.9%	5.1%	11.7%	29.9%	13.1%	13.1%	5.8%	9.5%	6.6%	7.3%	2.9%	4.4%	6.6%	4.4%	21.9%	18.2%	2.2%	16.8%	1.5%
	その他	143	28.0%	3.5%	13.3%	35.7%	18.9%	24.5%	9.8%	11.9%	14.7%	7.7%	2.8%	7.7%	8.4%	7.0%	21.7%	11.2%	2.8%	17.5%	0.7%
退所直後の住まい	親の家	515	32.8%	13.8%	16.7%	5.6%	9.9%	21.9%	11.5%	9.3%	4.5%	2.9%	9.3%	3.1%	7.2%	1.7%	25.4%	12.4%	1.4%	18.4%	1.2%
	親せき・祖父母・きょうだいの家	113	31.9%	3.5%	15.9%	8.0%	15.9%	24.8%	14.2%	11.5%	8.0%	8.8%	15.0%	4.4%	5.3%	6.2%	22.1%	17.7%	1.8%	15.0%	0.9%
	その他	2322	38.3%	6.9%	29.7%	48.6%	34.2%	34.4%	13.7%	16.9%	13.9%	17.1%	18.4%	9.4%	9.3%	10.3%	25.2%	5.2%	1.7%	7.2%	1.4%
退所に向けたサポートに対する評価	よくなかった	46	32.6%	4.3%	15.2%	28.3%	23.9%	26.1%	15.2%	17.4%	10.9%	15.2%	13.0%	15.2%	8.7%	13.0%	19.6%	0.0%	4.3%	19.6%	4.3%
	あまりよくなかった	71	19.7%	1.4%	15.5%	40.8%	18.3%	22.5%	9.9%	14.1%	9.9%	12.7%	21.1%	2.8%	4.2%	7.0%	9.9%	0.0%	2.8%	9.9%	0.0%
	どちらともいえない	296	27.0%	5.1%	21.3%	36.1%	19.9%	20.6%	7.8%	11.1%	7.1%	12.2%	14.9%	5.7%	6.1%	7.1%	15.5%	0.0%	2.4%	13.2%	1.0%
	まあよかった	549	35.5%	7.8%	27.5%	39.7%	31.1%	35.0%	13.5%	16.8%	10.7%	13.5%	18.4%	7.3%	10.4%	9.3%	27.3%	0.0%	1.6%	7.1%	1.5%
	よかった	1452	49.5%	10.9%	35.1%	50.1%	38.7%	41.5%	17.7%	19.8%	16.8%	19.1%	21.6%	11.2%	11.5%	11.1%	34.4%	0.0%	1.4%	5.2%	0.9%
	わからない・覚えていない	233	20.2%	5.6%	15.5%	21.9%	13.7%	15.9%	6.9%	6.9%	5.2%	5.6%	4.3%	4.7%	3.4%	3.4%	11.2%	0.0%	2.1%	36.5%	1.3%
利用したことがない	237	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	85.7%	1.3%	11.4%	1.7%	

(注) 回答の割合が高いほど濃くなるように赤色でセルを塗りつぶした。

② 退所後、退所した施設等や公的な相談支援機関から受けたサポート

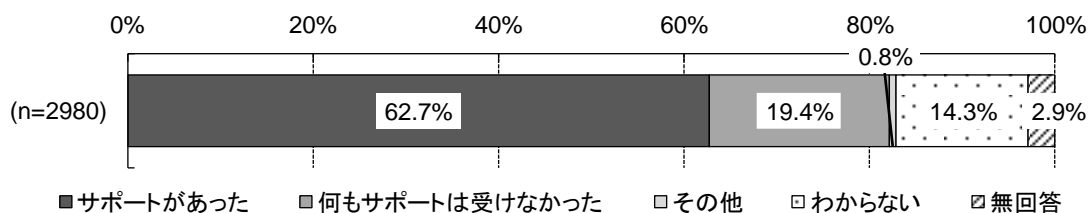
退所後に受けたサポートの内容をみると、「日常的な雑談・相談」の割合が最も高く 36.0%（1,073 人）となっている。次いで、「不安やトラブルなどの悩み相談（24.4%）」、「サポートは受けていない（19.4%）」となっている。

図表 108 退所後、退所した施設等や公的な相談支援機関から受けたサポート（複数回答）



(注) 「その他」として、「奨学金」、「食料の提供」、「運転免許のサポート」、「携帯電話を借りた」、「アルバイトさせてもらっている」、「里親委託証明書の準備」、「出産への準備」などが挙げられた。

図表 109 退所後、退所した施設等や公的な相談支援機関から受けたサポートの有無



(注) 退所後に受けたサポートについて、12 個のサポート内容のうち 1 つ以上回答があった人を「サポートがあった」、12 個のサポート内容のうち 1 つも選択せず「その他」を回答した人を「その他」とした。

図表 110 退所後、退所した施設等や公的な相談支援機関から受けたサポート（複数回答）（施設の種別、退所年度別、現在の通学・就労の状況別、月々の収支バランス別、同居相手の状況別、退所後の施設等からのサポートに対する評価別、退所後の施設等以外からのサポートに対する評価別）

	(n)	イベントや交流会	誕生日や成人式などのお祝い	日常的な雑談・相談	不安やトラブルなどの悩み相談	学業の相談・サポート	食事の提供	住まいや職場への訪問	住まい探し	就職先探し	お金の借り入れ・補助	金銭管理のサポート	行政の窓口の紹介	サポートは受けていない	その他	わからない	無回答	
Total	2980	15.6%	18.8%	36.0%	24.4%	6.5%	15.9%	8.6%	7.9%	5.0%	6.2%	9.4%	3.8%	19.4%	1.4%	14.3%	2.9%	
施設の種別	児童養護施設	2259	15.5%	18.1%	35.9%	23.6%	6.1%	15.1%	7.9%	7.2%	4.4%	5.8%	9.3%	3.4%	19.2%	1.3%	14.3%	3.0%
	児童自立支援施設	137	8.8%	9.5%	35.0%	27.0%	7.3%	9.5%	8.8%	2.2%	2.9%	2.2%	4.4%	2.9%	22.6%	1.5%	19.0%	0.7%
	児童心理治療施設(旧・情緒障害児短期治療施設)	48	14.6%	8.3%	29.2%	35.4%	10.4%	2.1%	8.3%	6.3%	4.2%	0.0%	2.1%	6.3%	27.1%	2.1%	20.8%	0.0%
	ファミリーホーム	63	25.4%	30.2%	38.1%	20.6%	9.5%	31.7%	7.9%	19.0%	12.7%	11.1%	15.9%	12.7%	28.6%	1.6%	6.3%	1.6%
	自立援助ホーム	232	20.3%	21.6%	38.4%	30.6%	4.7%	21.1%	14.7%	8.2%	6.9%	6.0%	11.2%	4.7%	18.5%	3.0%	8.2%	3.4%
	里親	201	13.9%	30.8%	39.3%	25.4%	11.9%	21.9%	9.5%	14.9%	7.0%	13.9%	12.4%	4.0%	18.4%	3.0%	14.9%	2.0%
退所年度	2015年4月以前	110	19.1%	20.0%	32.7%	20.0%	4.5%	13.6%	10.9%	4.5%	5.5%	8.2%	8.2%	2.7%	22.7%	0.9%	17.3%	0.0%
	2015年度	289	20.4%	21.5%	37.7%	20.8%	6.2%	15.2%	6.9%	8.3%	4.2%	5.2%	6.9%	3.1%	19.7%	1.4%	10.4%	1.7%
	2016年度	421	20.4%	23.3%	36.6%	21.6%	5.2%	17.1%	8.1%	8.8%	3.3%	4.8%	8.6%	2.9%	21.9%	1.7%	13.1%	1.7%
	2017年度	525	17.7%	23.4%	35.2%	27.6%	6.3%	16.8%	10.3%	9.3%	7.6%	6.5%	10.7%	5.5%	20.2%	1.9%	11.0%	2.5%
	2018年度	703	14.8%	19.5%	38.4%	27.7%	7.0%	16.1%	8.0%	8.4%	6.4%	7.1%	9.7%	5.5%	18.8%	1.0%	14.5%	2.1%
	2019年度	742	11.5%	12.5%	36.1%	23.7%	8.1%	15.5%	8.8%	6.7%	3.2%	6.2%	10.2%	2.6%	18.2%	1.1%	17.3%	2.0%
2020年4月以降	126	10.3%	15.9%	31.7%	23.0%	6.3%	15.1%	8.7%	7.1%	2.4%	7.1%	11.1%	1.6%	20.6%	1.6%	18.3%	5.6%	
現在の通学・就労の状況	通学あり・就労あり	221	15.4%	19.9%	36.7%	26.2%	19.9%	18.1%	7.7%	10.0%	4.5%	12.7%	16.7%	2.3%	16.3%	3.2%	11.8%	0.5%
	通学あり・就労なし	465	13.1%	15.5%	36.1%	19.8%	14.2%	15.7%	6.9%	7.7%	1.3%	6.0%	10.8%	4.1%	19.1%	1.5%	15.1%	3.4%
	通学なし・就労あり(正社員)	1085	16.8%	22.0%	39.8%	24.4%	3.9%	16.8%	7.9%	7.6%	4.5%	5.6%	7.1%	2.8%	18.0%	1.0%	13.8%	2.1%
	通学なし・就労あり(正社員以外)	809	16.3%	18.3%	33.1%	26.1%	3.6%	16.2%	10.4%	7.8%	7.4%	6.2%	9.8%	4.9%	20.1%	1.2%	15.6%	2.6%
	その他	374	14.2%	15.0%	32.1%	25.9%	3.5%	12.3%	9.4%	8.6%	5.9%	4.5%	9.6%	5.1%	25.4%	1.6%	13.9%	2.1%
月々の収支バランス	収入のほうが多い(黒字)	798	18.0%	21.8%	41.7%	25.8%	5.9%	17.4%	9.9%	8.3%	5.5%	6.1%	9.9%	5.0%	18.4%	1.5%	10.5%	2.0%
	収入と支出はほとんど同じくらい	937	16.9%	21.3%	37.9%	25.3%	7.4%	18.0%	8.0%	8.8%	4.6%	5.9%	9.8%	4.4%	21.1%	1.6%	9.6%	2.6%
	支出のほうが多い(赤字)	683	15.5%	17.6%	36.2%	26.2%	7.8%	17.7%	10.0%	7.8%	5.3%	9.2%	10.4%	3.8%	20.5%	1.6%	11.9%	2.0%
	わからない	533	10.3%	12.2%	25.5%	19.5%	4.9%	8.3%	6.0%	6.6%	4.3%	3.2%	6.9%	1.1%	17.3%	0.8%	31.7%	1.9%
同居相手の状況	1人暮らし	1157	16.9%	21.3%	39.1%	27.7%	7.3%	21.3%	9.8%	12.7%	5.7%	8.9%	11.8%	4.7%	16.1%	1.8%	11.0%	2.1%
	子どもあり	145	17.9%	23.4%	30.3%	20.7%	3.4%	14.5%	9.0%	3.4%	3.4%	5.5%	4.8%	31.0%	2.1%	9.0%	0.7%	
	親・親せき・祖父母あり(「子どもあり」を除く)	540	12.8%	11.3%	27.2%	17.8%	7.4%	7.0%	3.7%	2.2%	3.1%	2.4%	3.1%	1.5%	24.6%	1.7%	22.4%	2.6%
退所後の施設等からのサポートに対する評価	よくなかった	98	5.1%	3.1%	12.2%	15.3%	3.1%	6.1%	5.1%	5.1%	4.1%	5.1%	4.1%	3.1%	49.0%	1.0%	13.3%	1.0%
	あまりよくなかった	76	13.2%	14.5%	25.0%	21.1%	2.6%	5.3%	5.3%	7.9%	2.6%	1.3%	7.9%	6.6%	32.9%	2.6%	6.6%	2.6%
	どちらともいえない	392	12.8%	11.0%	25.8%	13.8%	4.3%	8.4%	5.4%	5.6%	1.5%	3.3%	3.6%	2.6%	27.0%	1.8%	16.1%	2.6%
	まあよかった	495	16.2%	21.4%	40.6%	27.1%	6.1%	17.6%	8.3%	7.3%	4.4%	6.5%	9.9%	4.0%	12.1%	1.4%	10.7%	2.4%
	よかった	1331	21.6%	27.0%	43.4%	35.2%	9.9%	24.3%	12.7%	11.4%	7.7%	9.2%	14.4%	5.6%	8.5%	1.6%	10.9%	1.4%
	わからない・覚えていない	236	6.8%	8.5%	20.8%	9.3%	3.0%	5.1%	4.2%	3.8%	2.1%	3.4%	3.4%	0.4%	18.2%	0.8%	37.7%	2.1%
	利用したことがない	299	5.0%	4.0%	10.0%	4.3%	1.3%	2.3%	1.7%	1.7%	1.7%	1.0%	2.0%	0.0%	59.9%	0.3%	17.7%	1.0%
退所後の施設等以外からのサポートに対する評価	よくなかった	115	11.3%	13.0%	25.2%	20.0%	5.2%	8.7%	6.1%	9.6%	5.2%	4.3%	4.3%	2.6%	37.4%	4.3%	10.4%	2.6%
	あまりよくなかった	67	11.9%	22.4%	34.3%	23.9%	4.5%	6.0%	10.4%	4.5%	23.0%	3.0%	3.0%	3.0%	23.9%	0.0%	9.0%	3.0%
	どちらともいえない	379	14.8%	14.5%	32.5%	25.1%	5.5%	12.1%	7.9%	8.4%	6.6%	5.8%	8.4%	4.7%	24.0%	1.8%	13.5%	2.1%
	まあよかった	328	16.2%	16.8%	33.5%	22.0%	6.4%	14.6%	7.9%	7.3%	4.0%	5.2%	7.9%	4.9%	16.2%	0.9%	14.9%	1.8%
	よかった	797	21.6%	24.2%	44.5%	32.5%	8.7%	23.1%	13.3%	12.2%	8.4%	9.5%	14.4%	5.6%	8.7%	1.0%	11.5%	1.9%
わからない・覚えていない	373	10.5%	13.7%	32.2%	20.6%	7.5%	11.8%	7.2%	5.1%	4.3%	5.6%	9.9%	2.9%	16.4%	1.1%	27.3%	1.6%	
利用したことがない	858	14.2%	19.7%	35.4%	20.9%	5.5%	15.5%	6.1%	5.7%	1.9%	4.7%	7.2%	2.0%	28.2%	1.6%	12.5%	1.2%	

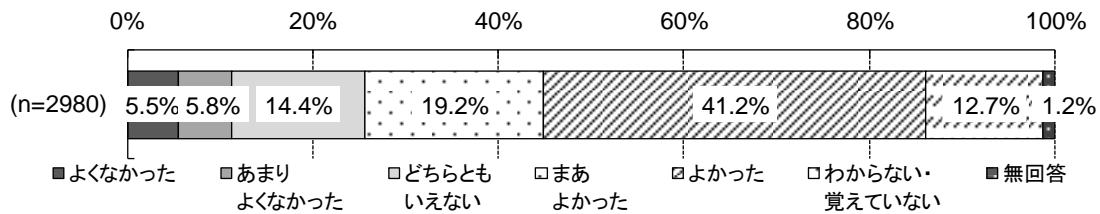
③ これまでに受けたサポートに対する評価

1) 児童相談所の職員の対応

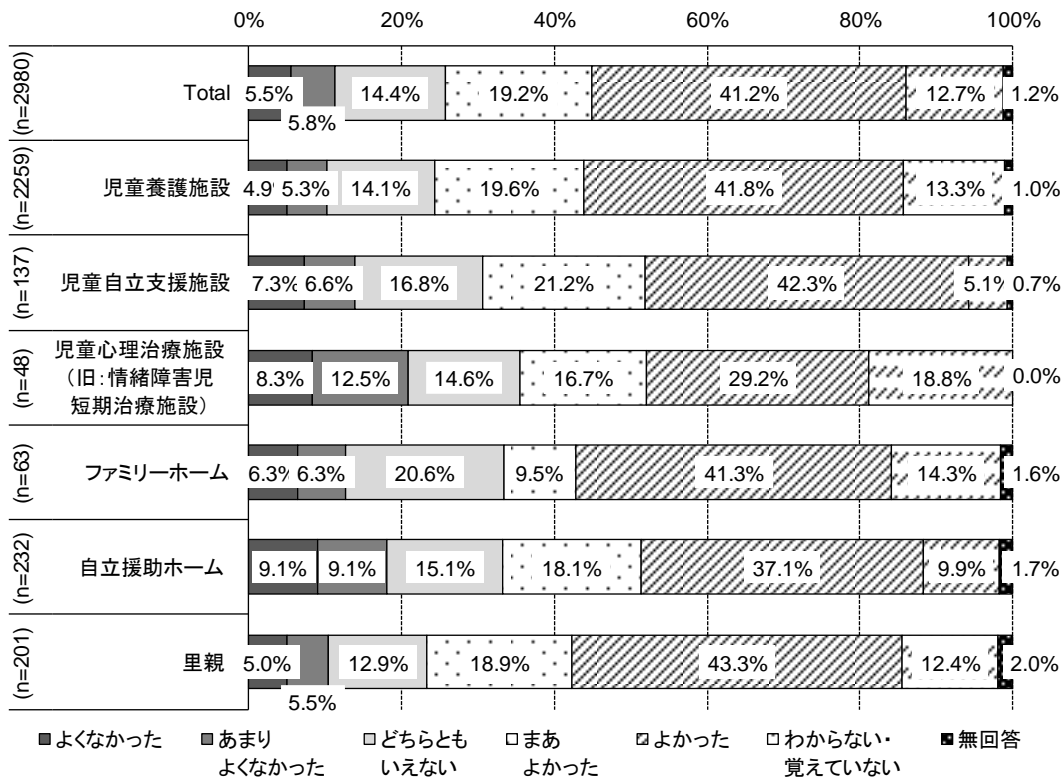
a) 評価

児童相談所の職員の対応に対する評価をみると、「よかった」の割合が最も高く 41.2% (1,229 人) となっている。次いで、「まあよかった (19.2%)」、「どちらともいえない (14.4%)」となっている。

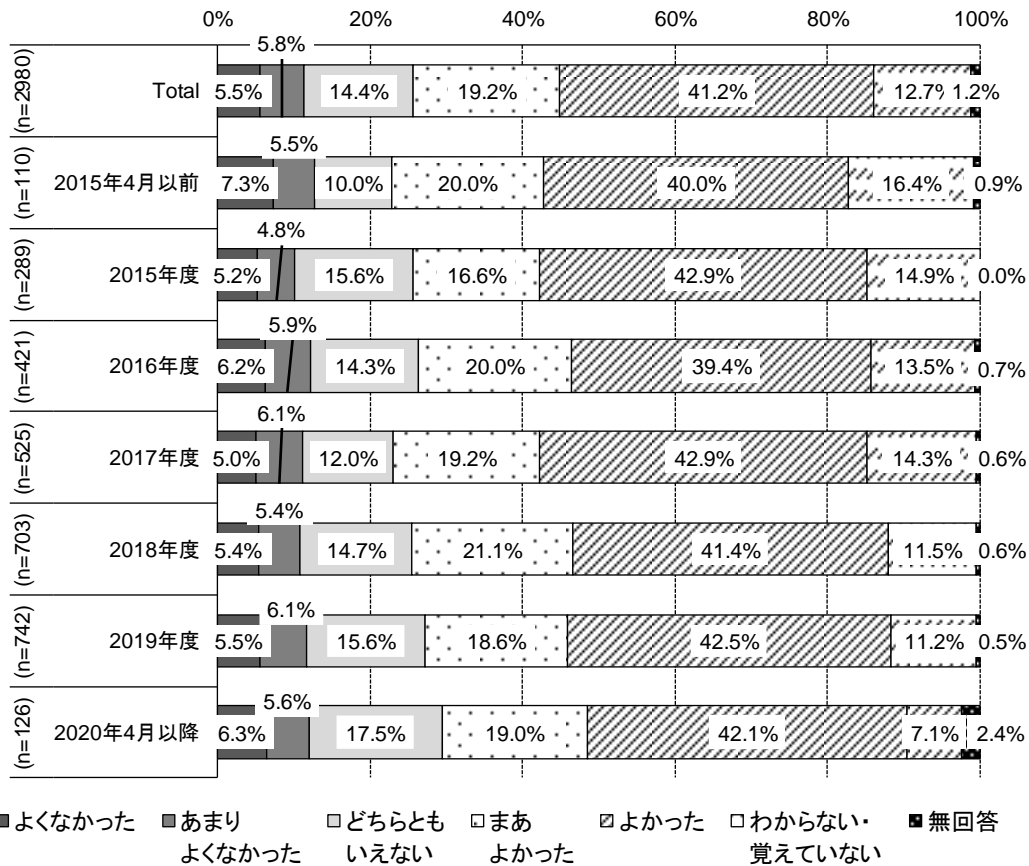
図表 111 児童相談所の職員の対応



図表 112 児童相談所の職員の対応 (施設の種別別)



図表 113 児童相談所の職員の対応（退所年度別）



b) 特によかったことや今後改善したらよいこと

特によかったことや、今後改善したらよいこと等を自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 114 特によかったことや、今後改善したらいいと思うこと（児童相談所について）（自由記述式）

- 良かったこと
- ・ 児相は生活費や学費の奨学金の案内等して下さり、とてもよかった。
 - ・ 児相の職員さんは一時保護所入所から施設入所まで自分の意見をしっかり聞き入れてくれた。
 - ・ 児童相談所で知り合った女性の方がいい人すぎて、退所後もずっと気にかけてくれて頻りに会ってくれます。ひとりぼっちに感じて行き詰まっていた時も、何度もひとりじゃないと思わせてくれた方でした。
 - ・ 現在、ずっと里親の家で生活しているが、一時保護所を退所した今でも児童相談所から連絡があったり、何かと気にかけてくれていて、ありがたいと感じている。
- 改善したらいいと思うこと
- ・ 20歳過ぎても児相に通所できたらいいなと思いました。
 - ・ 児童相談所の対応を改善して欲しい。せめて月に一度は、訪問して欲しい。
 - ・ 児童相談所の職員の対応がいい人と悪い人の差が激しかった。何人かはとてもよかったが、他の人は

特に何もしてくれなかった。

- ・ 児童相談所がお願いしたことをしてくれなかった。せめて難しいのであればそのことをしっかり言ってほしかった。
- ・ 児相の職員は、もっと、子どもの気持ちを聴いてから、ちゃんと準備をしてから、施設に入ることを考えた方がいいと思う。
- ・ 児相の職員を増やすことや、事務処理業務の効率化を進めていくべきだと思います。訪問の度に CW や里親担当が変わっているのが覚えられませんでした。
- ・ 担当の児童相談所の職員が変わったなど施設にいた時に 1、2 回しか知らされなかった為、担当が変わった時は児童にちゃんと言うべき。
- ・ 児童相談所の職員の対応については相手による(ケースワーカー)。協力的な人もいればそうじゃない人もいます。ころころケースワーカーや心理さんを変えるもやめてほしかった。(心理士、ケースワーカーとの相性が合わないから変えるならいいと思う)。
- ・ 児相の対応で職員によって善し悪しがあまりにも激しいのでしっかりと引き継ぎや子供との面会などによるコミュニケーションをもっととって欲しかったです。

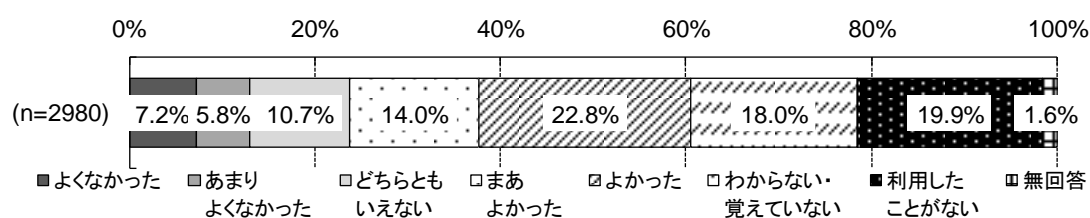
(注) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

2) 一時保護所の職員の対応

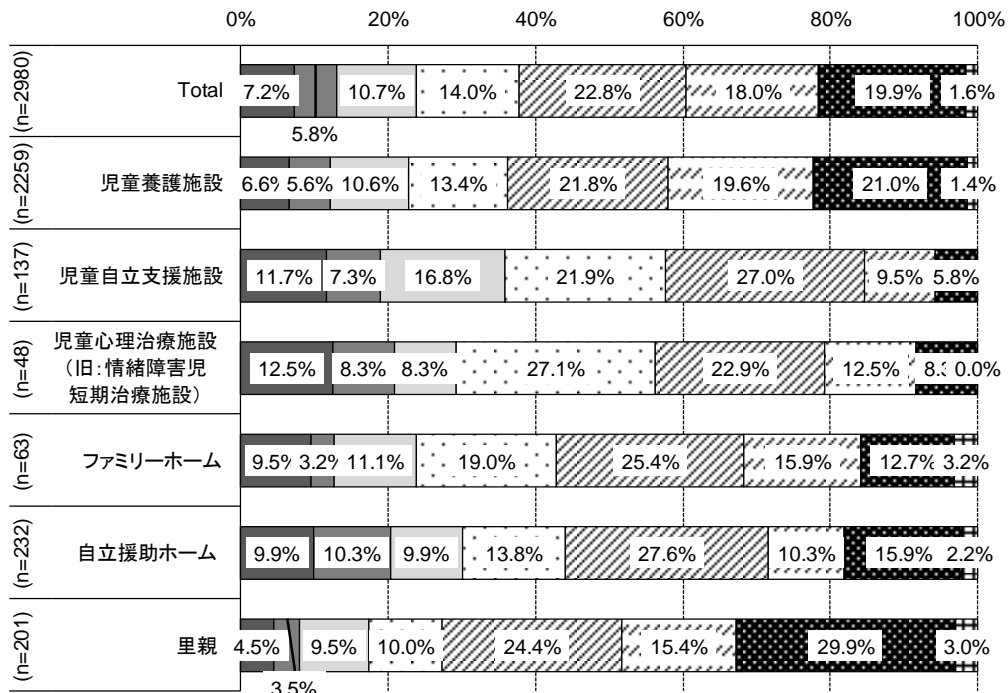
a) 評価

一時保護所の職員の対応に対する評価をみると、「よかった」の割合が最も高く 22.8% (678 人) となっている。次いで、「利用したことがない (19.9%)」、「わからない・覚えていない (18.0%) 」となっている。

図表 115 一時保護所の職員の対応

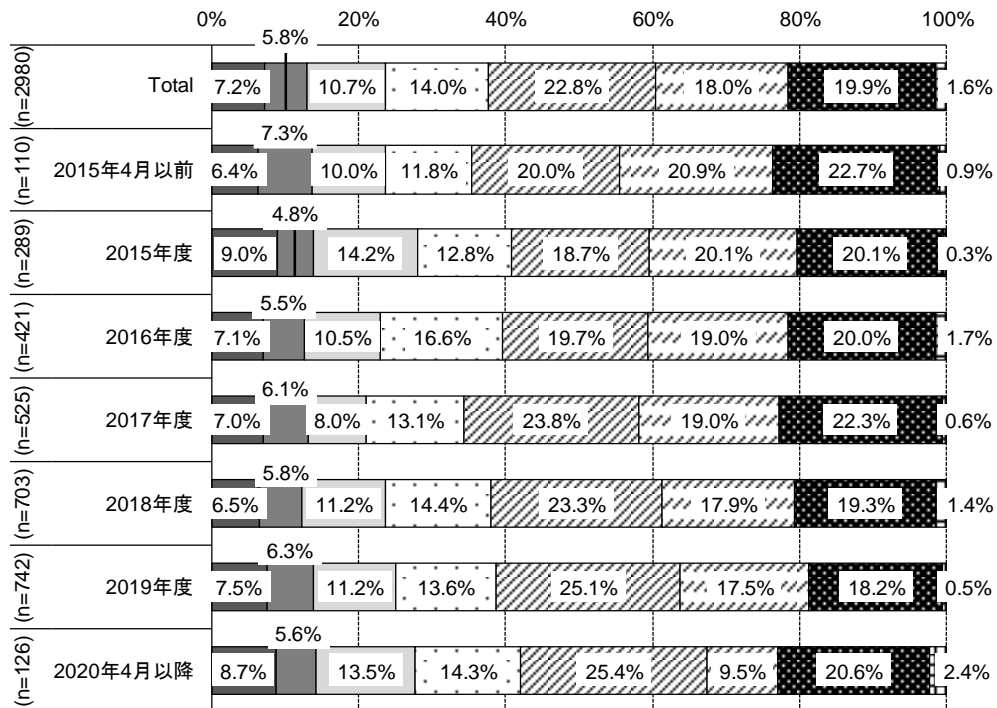


図表 116 一時保護所の職員の対応（施設の種別別）



■よくなかった ■あまり □どちらとも □まあ □よかった □わからない ■利用した □無回答
よくなかった いえない よかった わかからない 覚えていない ことがない

図表 117 一時保護所の職員の対応（退所年度別）



■よくなかった ■あまり □どちらとも □まあ □よかった □わからない ■利用した □無回答
よくなかった いえない よかった わかからない 覚えていない ことがない

b) 特によかったことや今後改善したらよいこと

特によかったことや、今後改善したらよいこと等を自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 118 特によかったことや、今後改善したらいいと思うこと（一時保護所について）（自由記述式）

○良かったこと

- ・ 一時保護所の職員はある程度の距離感があり、心身を休める事ができたと思う。

○改善したらいいと思うこと

- ・ 何ヶ所もいった為場所によってはほんとに辛い場所もあった。
- ・ 一時保護については保護所は当たり外れがあるなと感じた。2つ経験したが、1つはのびのび過ごせたがもう1つは監獄みたいな生活だった。精神的にギリギリなのにルール厳しすぎるのはしんどく感じた。保護所の運用を見直してほしい。
- ・ 刑務所みたいで居心地悪すぎ。きょうだいと喋るのも許してもらえないのは酷すぎた。
- ・ 悪いことをして入ったのではないのに厳密な規則があり刑務所のようなだった。特に辛かったのは、お願いしても規則だからと復習用のテキストしか与えられず学習を先に進められないことで遅れをとってしまうことだった。数ヶ月保護所にいたことで、理数系科目に遅れが生じ、受験の際に苦労した。
- ・ 1時保護所は、次の施設に移す時大事なこと(病気、アレルギーのある方)をちゃんと話して欲しい。そのせいで病気が悪化した人がいた。

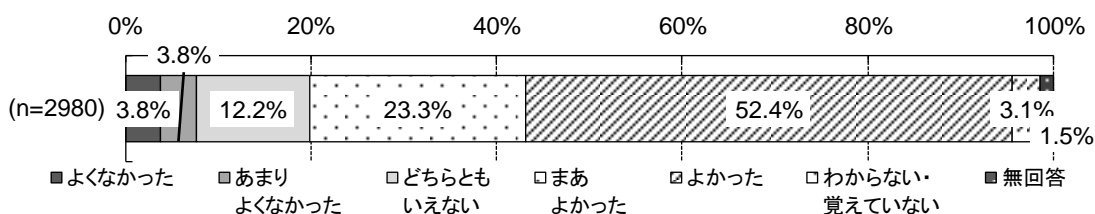
(注) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

3) 施設等での生活・施設職員等の対応

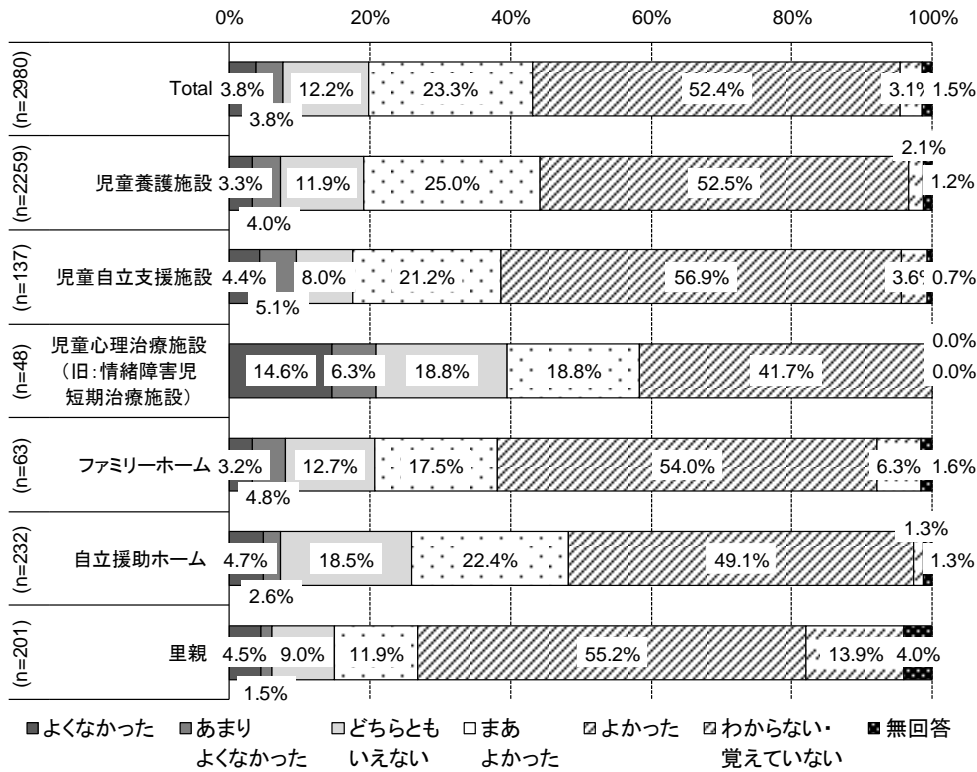
a) 評価

施設等での生活・施設職員等の対応に対する評価をみると、「よかった」の割合が最も高く 52.4% (1,561 人) となっている。次いで、「まあよかった (23.3%)」、「どちらともいえない (12.2%)」となっている。

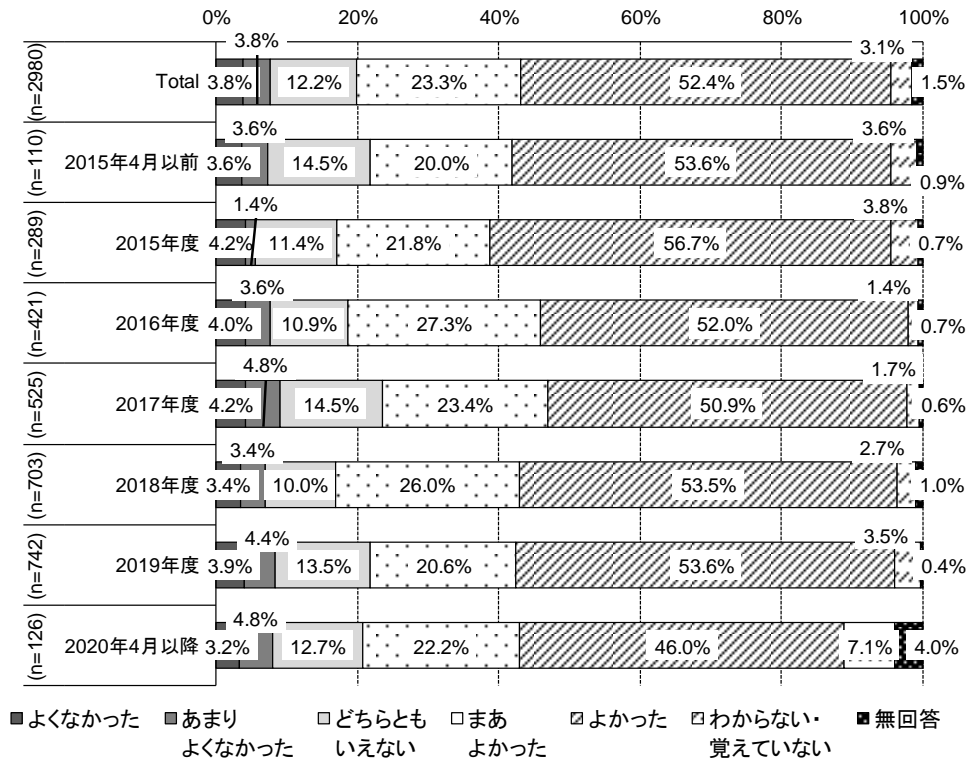
図表 119 施設等での生活・施設職員等の対応



図表 120 施設等での生活・施設職員等の対応（施設の種別別）



図表 121 施設等での生活・施設職員等の対応（退所年度別）



b) 特によかったことや今後改善したらよいこと

特によかったことや、今後改善したらよいこと等を自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 122 特によかったことや、今後改善したらいいと思うこと（施設等での生活・施設職員等の対応）
（自由記述式）

○良かったこと

- ・ 1 番に伝えたい事は、制限はあるものの日々の生活の中で常識を学べたことが 1 番自分にとって財産です。
- ・ 施設の先生は、進学相談や悩みなど親身になって聞いてくれました。
- ・ 親やきょうだいのことなど、むずかしい問題にも解決に向けて対応してくれた。今の幸せがあるのは、児童養護施設の先生方のお陰です。
- ・ しっかり児童 1 人ひとりのことを理解した上で、向き合ってくれたこと。
- ・ 施設の先生方は生徒に対して面と向かってぶつかってくれたので私的には成長できた場所だと言えます。
- ・ 在籍していた施設は親身に対応してくれて相談しやすかった。ルールを守らなければいけないこと（門限など）守っていれば自由にやりたいことができたのでのびのび過ごすことができた。
- ・ 私は施設で生活していく中で不安や不満がたくさんありわがままを言うことが多かったのですが、何がどのように不安であるのか、抱えている不満をどう解消していけばいいのか一緒に考えひとつずつ問題を減らしていけるように親身になってくださいました。
- ・ また顔見せてねとみんなに声をかけてくれるし、卒業して行った子たちのことを大丈夫かな？と心配していた。そんな先生達の姿を見て卒業をしたので、卒業したあともすごく安心だった。すぐ頼ってもいい場所なんやと思わせてくれた。
- ・ 悪い事したらしかる。良いことをしたらほめる。とめりはりのある指導で何が良くて悪いのかははっきりわかりました。自分がどことなくせがあり、どう考えてしまうのか、前にしてしまった過ち、これからの生活にむけて明確にしてくださって、とても今の自分に役立っています。

○改善したらいいと思うこと

- ・ もっと 1 人 1 人大切に接してほしい。
- ・ 施設での外出の制限について見直して欲しい。
- ・ 生活をする上で制限されることがとても多く、友人関係など困る部分が多々あった。
- ・ もっと子供達が聞いて欲しい事やして欲しい事などの要件に耳を傾けるべきだと思う。
- ・ 施設での行事の強制や早すぎる門限、スマホを持たなかったこと、1 部職員による強いストレスを覚える対応、その事について長く改善がないことなど、私のいた施設にはもっと改善して欲しい。
- ・ 施設にいた頃はアーティスト活動をしたかったのですが、職員の方に制限されなかなかできなかったの、養護施設にいる時でも自由にアーティスト活動ができるようにしてほしいです。
- ・ 「生い立ちの整理」をしたかった。生みの親について触れると里親からあまり良い顔をされずに、聞きづらく今も聞けていない状態である。「生みの親に取られるのではないか」、「生みの親を知ることは幸せにならない」という里親の気持ちや児相職員などの気持ちは分かるが、一般家庭が知っている当たり前のことを知りたいという気持ちをもっと尊重して欲しい。

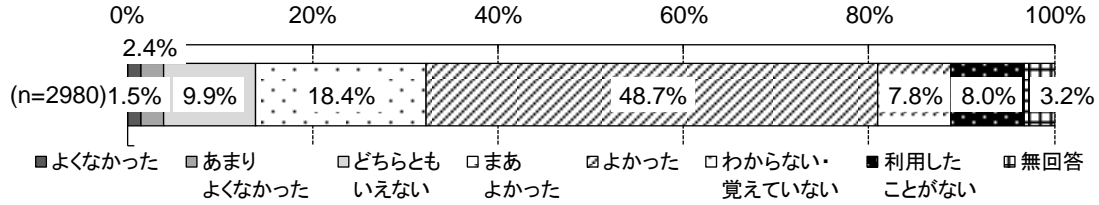
(注) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

4) 退所に向けたサポート

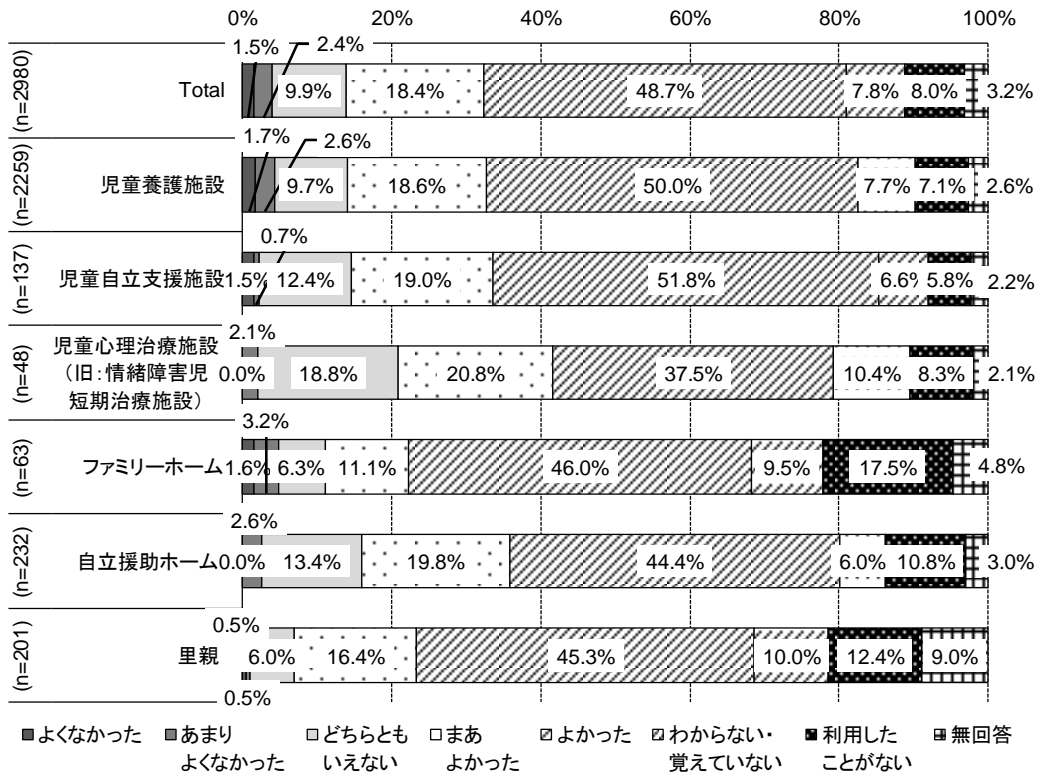
a) 評価

退所に向けたサポートに対する評価をみると、「よかった」の割合が最も高く49.1%（1,452人）となっている。次いで、「まあよかった（19.0%）」、「どちらともいえない（11.0%）」となっている。

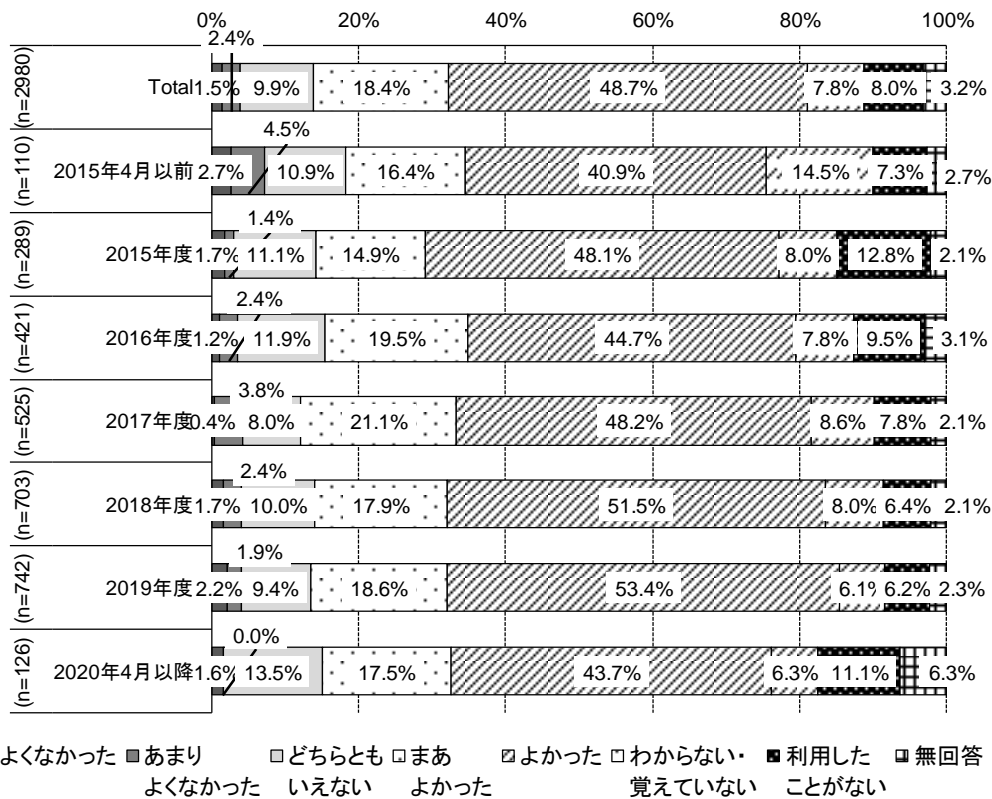
図表 123 退所に向けたサポート



図表 124 退所に向けたサポート（施設の種類別）



図表 125 退所に向けたサポート（退所年度別）



b) 特によかったことや今後改善したらよいこと

特によかったことや、今後改善したらよいこと等を自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 126 特によかったことや、今後改善したらいいと思うこと（退所に向けたサポート）
（自由記述式）

- 良かったこと
- ・ 銀行の使い方、車の契約の立ち会い。
 - ・ 自分は親がいないため就職する際に未成年後見人を探してもらい就職できました。
 - ・ 一人では生きていけないが一人で生きていく姿勢の大事さを教えてもらった。
 - ・ 担当の先生が親身になっていろいろ動いてくれたり、先のことを考えてくれたり、大学で出す書類を手伝ってくれて嬉しかった。
 - ・ 退所時に生活する為のお金が出たり、当時私を担当していた職員の方が一人暮らしの為の部屋探しをサポートしてくれた事も大変ありがたい事でした。
 - ・ お金の使い方やどのくらい月に出費が出るなどを教えてくれたり、ためになりました。
 - ・ お金の使い方や生活する上でのお金に関する見積もりをしてくれたおかげで、金銭面での具体的なイメージを持つことができた。日常生活の中で、洗濯、料理、掃除について自然と学べたので、不自由なく生活ができて良かった。
 - ・ 退所前のサポート(不動産同行等のサポートや保険などの退所後必要なサービスの説明など)は一人暮らしを始める前に指導・サポートをもらいとても助かりました。

- ・ 遠方への進学の為、退所後は他の人よりも直接的なサポートは少なかったと思うが、退所前に細かく説明や準備をしてくれた点はとても良かったです。

○改善したらいいと思うこと

- ・ 退所前に生い立ちの整理をしたかった。
- ・ 退所時にこれから何に困るのか、何を相談したらいいのかも思いつかなかった。困りそうな事を予測して提案して欲しかった。
- ・ 施設で生活してる間は毎月 5000 円のお小遣いだったので、退所する時に数十万の貯金全額もらい、金銭感覚がおかしくなった。少しずつ慣らしたほうがよかったかなとおもった。
- ・ 退所後の進路(就職)では現代において、ほとんどの場合 PC スキルが求められるため施設在中の期間に基本的な PC 操作の講習の機会が必要だと思います(施設によっては PC を扱う機会が全く無いため)。各種手続き、制度についての説明があれば自立後に役に立つと思います。(例)確定申告制度、年末調整制度、年金制度、マイナンバー制度、など。
- ・ 施設職員から施設退所の際に何もサポートを受けていなかった(今回のアンケートを見て初めてサポートがあることを知った)ので退所の時にもっと手厚いサポートがあれば心構えももう少し違っただろうなと思います。
- ・ 退所前に今後相談、サポート、施設で暮らしたことのある人達での交流会等の紹介、案内をしてほしかった。
- ・ 私がいた養護施設から進学を希望する子どもは今までいなかったため、先生方も何もわからない状態で、進学を決めた後も全て手探りでした。なので、子どもたちと早くから進路についての相談の時間を設けて、もう少し余裕を持って、将来への設計図を一緒に考えてあげてほしいです。安心して退所できないし、本当に望んでいる進路を我慢している場合もあります。

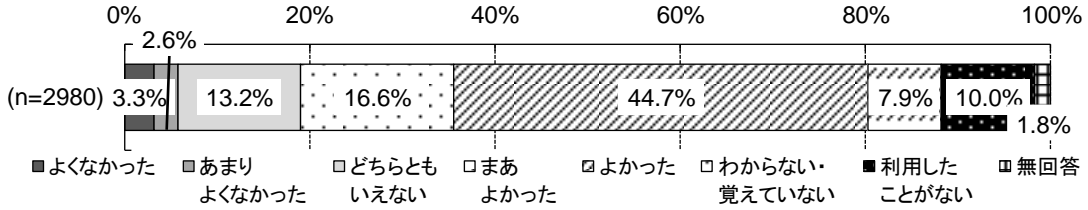
(注) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

5) 退所後の施設等からのサポート

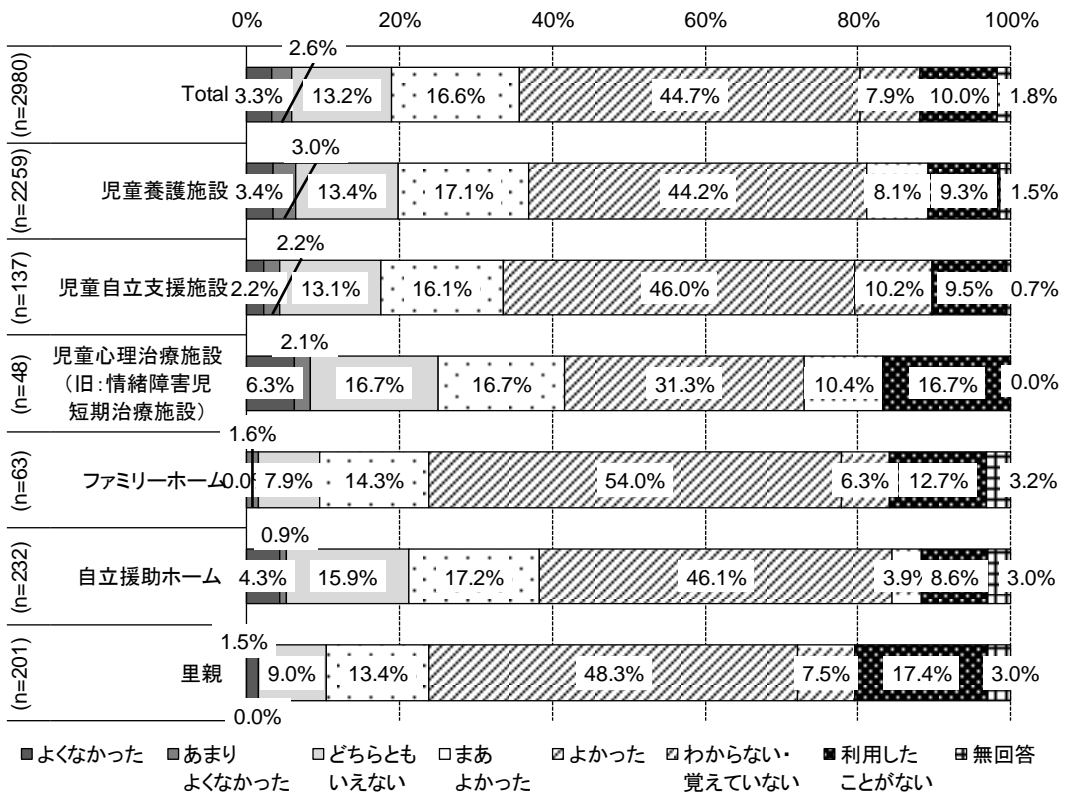
a) 評価

退所後の施設等からのサポートに対する評価をみると、「よかった」の割合が最も高く 44.7%（1,331人）となっている。次いで、「まあよかった（16.6%）」、「どちらともいえない（13.2%）」となっている。

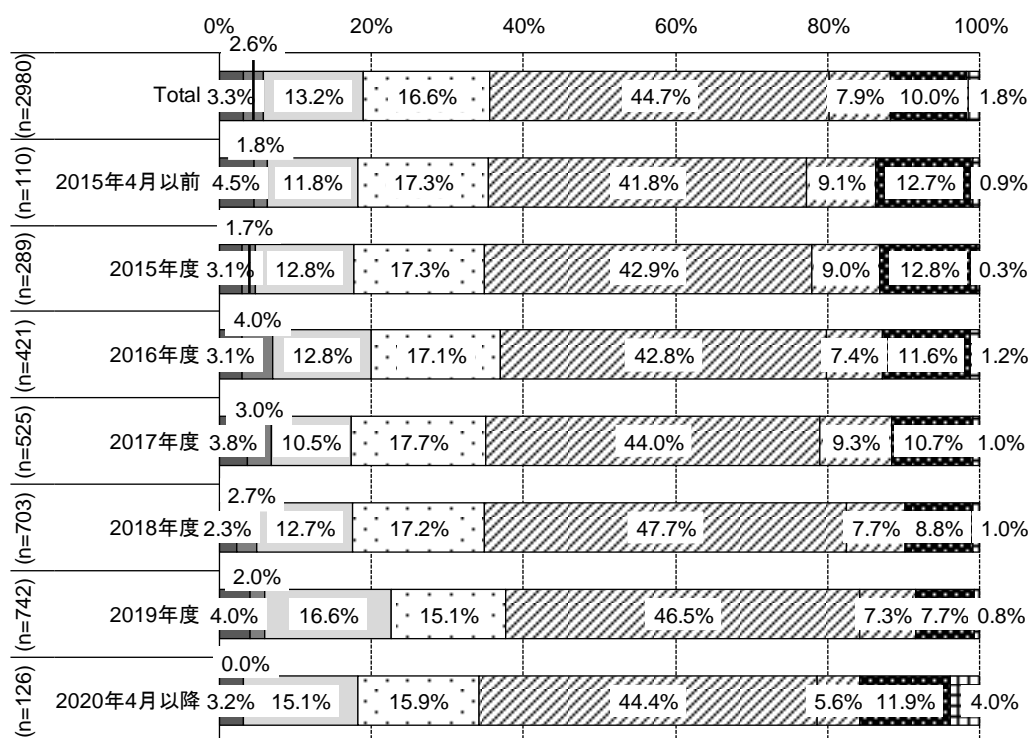
図表 127 退所後の施設等からのサポート



図表 128 退所後の施設等からのサポート（施設の種類の別）



図表 129 退所後の施設等からのサポート（退所年度別）



■よくなかった ■あまりよくなかった □どちらともいえない □まあよかった □よかった □利用した □覚えていない □無回答
 □覚えていない □よかった □覚えていない □よかった □覚えていない □よかった □覚えていない □よかった

b) 特によかったことや今後改善したらよいこと

特によかったことや、今後改善したらよいこと等を自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 130 特によかったことや、今後改善したらいいと思うこと（退所後の施設等からのサポート）
（自由記述式）

- 良かったこと
- ・ ダンボールで食料を届けてくれたことがよかった。
 - ・ 退所後も私の元施設の職員が奨学金の案内や食料や日用品の援助をしていただいたこと。
 - ・ コロナでの物資の支援有難かったです。卒業してからも話を聞いてくれる相談に乗ってくれる職員がいるのがとても有難い。
 - ・ 一人暮らしの家に来てくれたことや、通話で、悩みを聞いてくれたり、たわいもない話を聞いてくれたりと、退所してからも色々と考えて連絡をとってくれて嬉しかった。
 - ・ 困ったことがあったら施設に連絡していた。半年に1回は施設に顔を出しているが暖かく迎えてくれるのが嬉しい。
 - ・ 誕生日やクリスマスなどイベント事がある度に招待して下さったり、お祝いに駆けつけてもらった。出身と退所先が違い友達も少なく独りで過ごすことが多かったため、すごく嬉しかった。
 - ・ 大学生の私にとってコロナ禍においてアルバイトでの収入が見込めず、施設の職員から支援の案内情報を沢山頂きました。そもそも情報がなかなか直接私にはリーチしなかったため。

- ・ 施設で子供の頃から育つと社会での生き方がわからないことが多いので、複雑な手続きなどのやり方を退去後もサポートしてもらえてよかった。例えば、住居変更する時に何が市役所で必要かとか、病院行くために保険証作らないと行けないとかなど、生活面で必ず必要な事だけど、教えてもらう機会がない複雑な手続き等。
- ・ 私が結婚して子供が生まれてからも里孫と言って自分の孫のように可愛がってくれています。里親といえど本当の親同然で、巣立ってからも私の人生に関わってくれることが私への 1 番のサポートなのだろうと思っています。

○改善したらいいと思うこと

- ・ 退所後の生活について、全くサポートはありませんでした。退所後 1 年間など期限を設けて、困ったことを相談できるように、義務的に連絡を取る仕組みにした方が良くと思います。
- ・ 施設を出てからのサポートが良くない。施設を出たらほぼ関係が無くなるのでいきなり 1 人はなかなかキツイ。
- ・ 退所後ちゃんとサポートするべきやと思う。私は親に引き取られましたが大々直ぐに元の関係に戻るまで時間がかかったのと家に居にくかった。
- ・ 忙しいから仕方ないとは思いますが、連絡をとっても素っ気ない対応だったり、他の同じ施設の退所者によって、対応が違うのが悲しかったです。私は退所後、全く先生たちと会っていないのに、他の子は連絡先を交換していたり、会ったりしています。私にも頼れる親や人は全くいないし、困った時も相談する相手がない時もあり、非常に辛い時がありました。だから、子どもたちによって差をつくらないようにしてほしいです。
- ・ 児童相談所の職員さんも一時保護所の職員さんも児童養護施設の職員さんもみんな良い人達だったが、退所して措置が切れてからは職員さん達は忙しそうで近況報告がしたくても連絡が取りづらい。職員さん達から近況を尋ねる連絡ができれば欲しい。もう一度話がしたい人がたくさんいます。
- ・ 私が一人暮らしを始める前は職員が一人暮らしの子どもの家に訪問してあれやこれや話を聞いたり指導をしていたと聞いた。職員が変わるとそれはなくなった。やるかやらないかは人によりけり。訪問を制度化してほしい。同時に相談の機会も得られる。

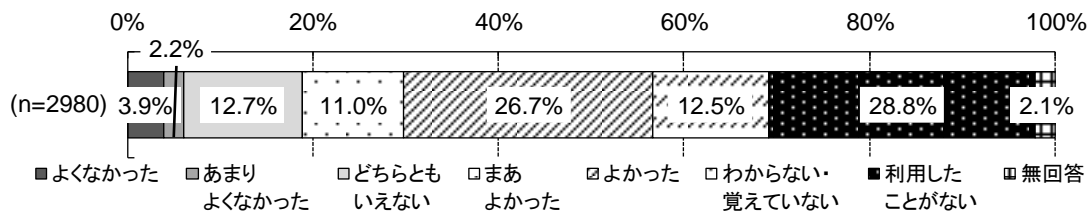
(注) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

6) 退所後の施設等以外からのサポート

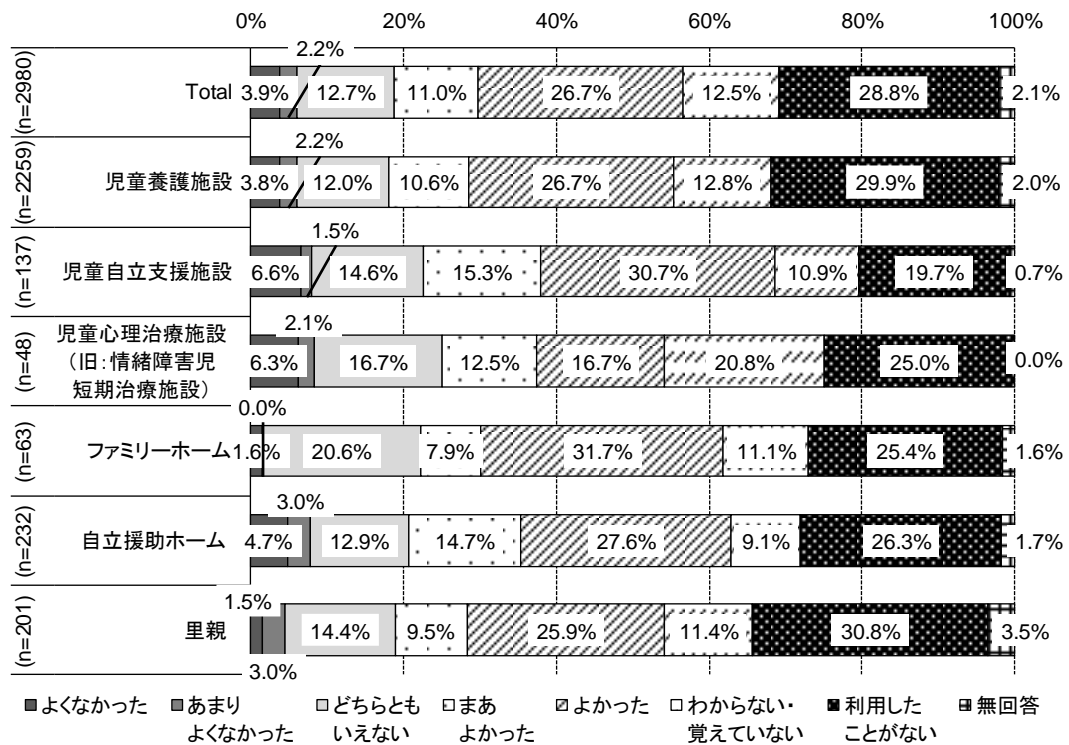
a) 評価

退所後の施設等以外からのサポートに対する評価をみると、「利用したことがない」の割合が最も高く28.8%（858人）となっている。次いで、「よかった（26.7%）」、「どちらともいえない（12.7%）」となっている。

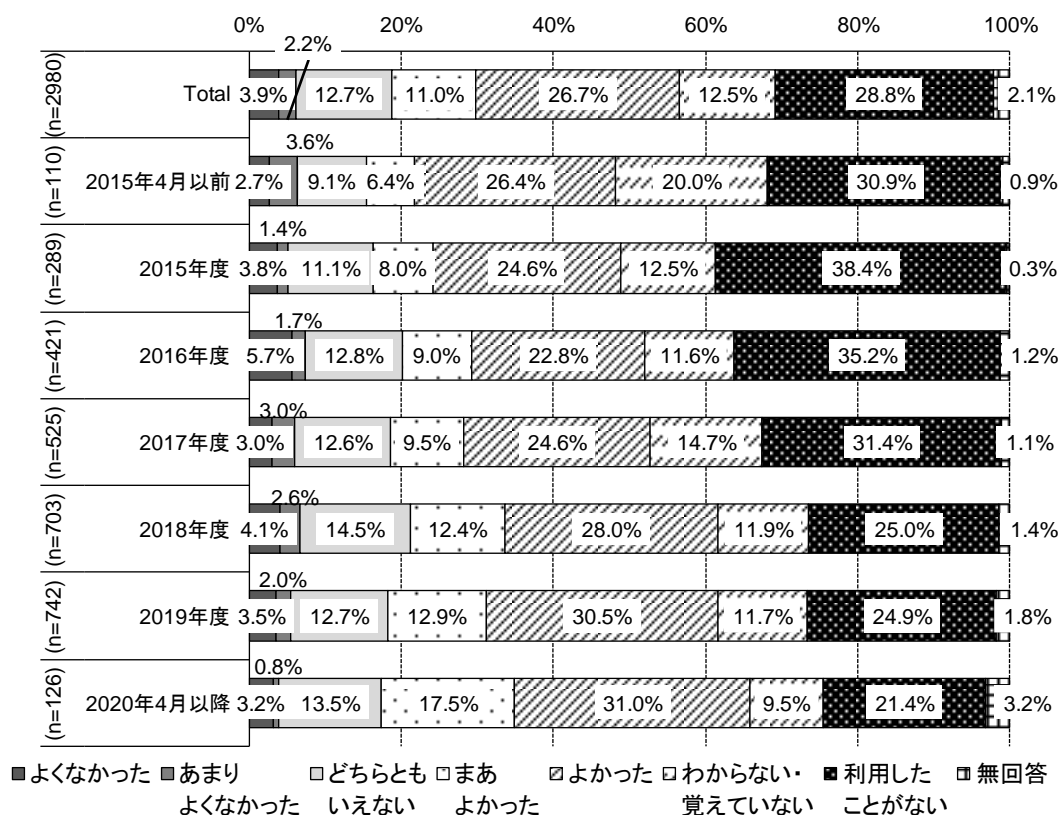
図表 131 退所後の施設等以外からのサポート



図表 132 退所後の施設等以外からのサポート（施設の種類の別）



図表 133 退所後の施設等以外からのサポート（退所年度別）



b) 特によかったことや今後改善したらよいこと

特によかったことや、今後改善したらよいこと等を自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 134 特によかったことや、今後改善したらよいと思うこと（退所後の施設等以外からのサポート）
（自由記述式）

- 良かったこと
- 施設を退所する時に、都道府県の方からお金をもらったこと。このお金があって社会人の数か月を乗り越えられた。
 - アフターケア事業所の方が相談に乗ってくれて頼りにできる大人の方がいることがよかったです。施設の職員とも良好な関係で、たまに相談したりもできているので安心して生活出来ています。
 - （アフターケア事業所について）とても素晴らしい支援をしてくださり、生活費が厳しい時は、食事を提供してくれて小さな事でも相談に乗っていただいて、友達のように接していただけます。とても、心強い味方です。
 - 公的機関よりも民間の慈善事業を通して主に物質的ではあるが様々なサポートを受けることができた。これは生活の支えになることもあったので感謝している。
 - 都道府県の奨学金を借りることが出来ていたので、バイトに入らないことがあっても、お金の困らずに済みました。もし学生支援機構の奨学金だけしか借りられていなかったら、生活がとても大変なものになっていたと思います。

- ・ 社会福祉協議会からの家賃補助がとても生活のたしになって助かりました。
- ・ 施設を出た後、私の時はですが●歳まで 毎月数万円支援してくださる 支援団体様にお世話になってました。今でもほんとに大きな存在だったなと思うのでこれからもあると良いなと思います。

○改善したらいいと思うこと

- ・ 精神面でのサポートが受けれる場所が欲しい。
- ・ 施設を退所した後に家族間などでトラブルがあった時にどこに相談すれば良いのかが分からなかった。高校生以上だと扱ってくれないところもあった。
- ・ 今後の改善としては、退所した施設の職員を頼りすぎるのは気が引けたり、迷惑なんじゃ無いかな？って思うってしまうので、施設職員以外の相談相手が居てくれれば良いなと思います。
- ・ 退所後のサポートについて、施設や福祉施設からの支援よりも行政からの金銭的な支援がほしいなと思う(生活保護とは別のシステムで)。どれだけ心身のサポートをしてもらっても結果的には生活が優先されるし金銭的なことで困ったことがあっても大体「話したって無駄だな」と思うってしまう。

(注) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

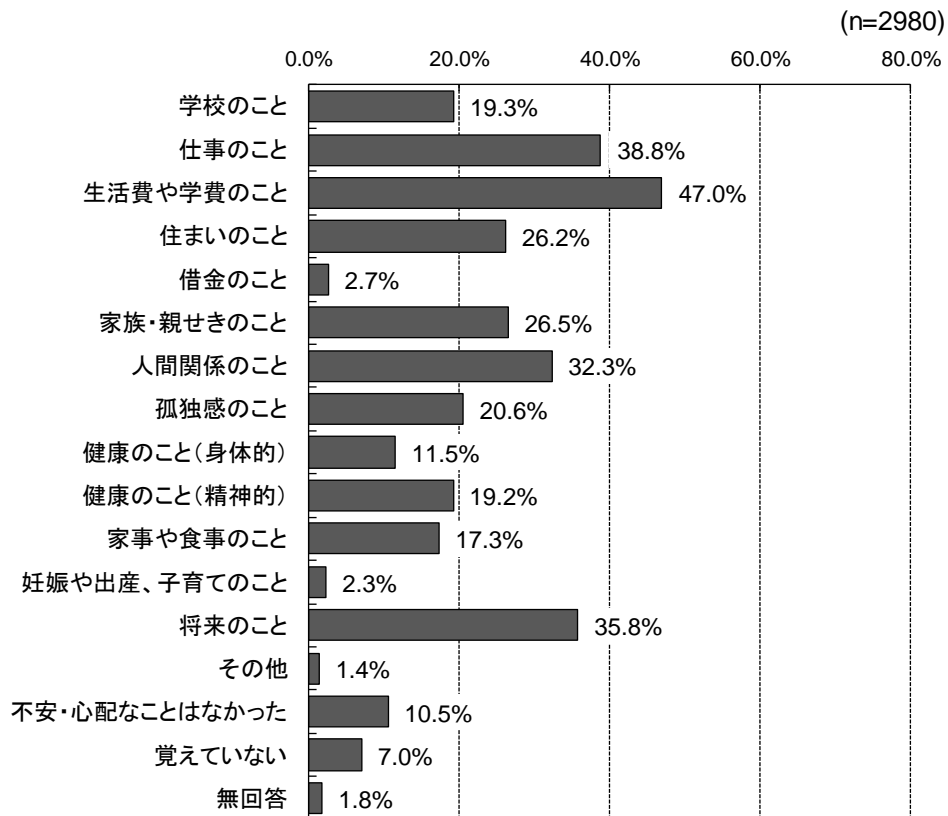
(7) 公的なサポートへの意見・要望

① 退所に向けて、不安や心配だったこと

1) 退所に向けての不安や心配だったこと

退所に向けての不安や心配だったことをみると、「生活費や学費のこと」の割合が最も高く 47.0% (1,400 人) となっている。次いで、「仕事のこと (38.8%)」、「将来のこと (35.8%)」となっている。

図表 135 退所に向けて不安や心配だったこと (複数回答)



図表 136 退所に向けて不安や心配だったこと（複数回答）（施設の種別、退所年度別、退所時点の年齢別、退所直後の進路別、リービングケアの有無別）

		(n)	学校のこと	仕事のこと	生活費や学費のこと	住まいのこと	借金のこと	家族・親せきのこと	人間関係のこと	孤独感のこと	健康のこと(身体的)	健康のこと(精神的)	家事や食事のこと	妊娠や出産、子育てのこと	将来のこと	その他	不安・心配なことはなかった	覚えていない	無回答
Total		2980	19.3%	38.8%	47.0%	26.2%	2.7%	26.5%	32.3%	20.6%	11.5%	19.2%	17.3%	2.3%	35.8%	1.4%	10.5%	7.0%	1.8%
施設の種別	児童養護施設	2259	18.1%	39.9%	47.9%	25.7%	2.4%	26.5%	30.8%	19.6%	11.8%	18.1%	17.6%	2.0%	34.5%	1.3%	10.5%	7.1%	1.6%
	児童自立支援施設	137	42.3%	23.4%	27.7%	20.4%	1.5%	35.8%	51.1%	23.4%	4.4%	20.4%	6.6%	3.6%	35.0%	1.5%	6.6%	9.5%	0.7%
	児童心理治療施設(旧・情緒障害児短期治療施設)	48	43.8%	20.8%	29.2%	25.0%	4.2%	47.9%	58.3%	33.3%	18.8%	33.3%	20.8%	0.0%	50.0%	4.2%	0.0%	10.4%	0.0%
	ファミリーホーム	63	17.5%	30.2%	54.0%	38.1%	6.3%	23.8%	33.3%	23.8%	6.3%	22.2%	20.6%	0.0%	38.1%	0.0%	17.5%	3.2%	1.6%
	自立援助ホーム	232	12.1%	46.6%	57.3%	34.1%	5.6%	25.4%	29.3%	28.9%	15.5%	28.4%	23.7%	4.3%	40.9%	1.3%	9.5%	7.3%	3.4%
	里親	201	20.9%	36.3%	43.3%	24.4%	1.5%	20.4%	35.8%	18.9%	9.5%	17.9%	13.9%	3.5%	41.8%	2.5%	14.9%	5.5%	1.5%
退所年度	2015年4月以前	110	14.5%	40.9%	40.0%	25.5%	5.5%	21.8%	23.6%	15.5%	5.5%	10.0%	12.7%	1.8%	34.5%	0.9%	11.8%	13.6%	0.0%
	2015年度	289	17.6%	35.3%	45.0%	22.5%	1.4%	29.1%	32.9%	18.7%	5.9%	13.1%	13.8%	2.1%	28.4%	0.3%	12.8%	9.3%	0.0%
	2016年度	421	17.8%	38.5%	48.2%	24.9%	4.0%	26.4%	32.3%	20.0%	8.8%	13.3%	15.9%	3.8%	34.7%	1.7%	12.1%	7.8%	1.2%
	2017年度	525	18.9%	43.8%	47.0%	29.7%	1.7%	28.2%	31.6%	21.0%	12.6%	21.7%	16.2%	2.1%	40.8%	1.3%	9.7%	7.2%	1.0%
	2018年度	703	16.9%	38.4%	47.9%	25.3%	2.8%	25.9%	30.6%	22.0%	12.8%	19.6%	17.4%	2.3%	33.1%	1.0%	11.0%	6.1%	1.3%
	2019年度	742	24.3%	38.8%	48.8%	27.1%	2.8%	27.8%	36.8%	21.0%	14.3%	23.7%	20.9%	2.0%	37.7%	2.2%	9.0%	6.1%	1.1%
2020年4月以降	126	23.8%	34.9%	46.8%	28.6%	1.6%	21.4%	31.7%	23.0%	15.1%	27.0%	19.8%	0.8%	44.4%	0.8%	12.7%	5.6%	2.4%	
退所時点の年齢	17歳以下	535	16.4%	20.2%	27.9%	20.2%	1.5%	37.6%	35.9%	17.4%	6.9%	16.6%	9.7%	2.1%	33.5%	1.1%	11.8%	10.7%	2.1%
	18歳	1788	16.3%	43.7%	50.2%	26.6%	2.6%	25.1%	32.5%	20.2%	11.9%	18.0%	18.8%	1.9%	36.1%	1.3%	10.5%	6.0%	0.9%
	19歳以上	581	12.7%	42.9%	56.3%	31.2%	4.3%	22.9%	29.9%	25.1%	15.3%	26.2%	20.3%	4.0%	38.6%	1.9%	10.5%	6.7%	0.9%
退所直後の進路	就職・就労	1593	2.6%	56.2%	43.3%	26.6%	2.1%	23.0%	33.7%	19.9%	12.4%	17.6%	17.2%	1.9%	32.6%	1.3%	11.7%	7.3%	1.0%
	進学・通学	1083	45.8%	13.6%	53.5%	24.0%	3.7%	32.0%	30.7%	21.1%	10.3%	19.6%	18.4%	1.6%	39.6%	1.6%	9.2%	6.1%	1.2%
	未定だった	137	16.1%	43.1%	46.0%	35.8%	2.9%	28.5%	35.0%	26.3%	12.4%	28.5%	15.3%	5.1%	47.4%	2.2%	8.8%	8.0%	2.2%
	その他	143	10.5%	37.1%	47.6%	32.9%	1.4%	26.6%	30.8%	21.7%	12.6%	28.7%	15.4%	10.5%	36.4%	0.7%	10.5%	11.2%	1.4%
退所直後の住まい	親の家	515	30.9%	25.4%	26.8%	15.0%	1.9%	41.9%	35.7%	14.2%	7.2%	16.3%	8.9%	1.9%	33.2%	0.8%	10.9%	9.5%	1.4%
	親せき・祖父母・きょうだいの家	113	22.1%	31.0%	41.6%	26.5%	0.0%	31.9%	28.3%	16.8%	8.8%	18.6%	10.6%	1.8%	34.5%	0.9%	12.4%	9.7%	0.9%
	その他	2322	16.8%	42.5%	52.2%	28.9%	3.0%	23.0%	32.0%	22.4%	12.8%	20.0%	19.7%	2.5%	36.8%	1.6%	10.5%	6.4%	1.1%
リービングケアの有無	サポートがあった	2404	20.0%	42.1%	51.6%	28.1%	2.7%	27.8%	33.9%	21.8%	12.5%	20.4%	19.0%	2.5%	37.6%	1.3%	9.7%	4.8%	0.9%
	何もサポートは受けなかった	205	22.9%	30.2%	39.0%	25.9%	4.4%	25.9%	27.3%	18.5%	11.2%	21.5%	14.1%	2.9%	34.1%	1.5%	16.1%	11.7%	0.5%
	その他	25	4.0%	12.0%	20.0%	20.0%	4.0%	20.0%	20.0%	28.0%	8.0%	20.0%	12.0%	4.0%	28.0%	12.0%	32.0%	4.0%	4.0%
	わからない	285	14.7%	23.9%	20.7%	13.3%	1.4%	20.0%	27.7%	14.7%	4.9%	9.8%	8.4%	0.7%	26.0%	1.4%	14.4%	22.5%	0.7%

(注) 回答の割合が高いほど濃くなるように赤色でセルを塗りつぶした。

2) 不安や心配だったことの具体的な内容

退所に向けての不安や、心配だったことの具体的な内容を自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 137 施設等を退所する前に、退所に向けて不安や心配だったこと（自由記述式）

<学校のこと>

- ・ 大学などの大事な手続きを、ひとりでできるのか。
- ・ 奨学金の書類など分からないところが多く不安がありました。
- ・ 学校に最後まで通えるか。本当に進学を選んで良かったのか。
- ・ 学校に馴染めるかどうか。自分で身の回りのことができるのか。
- ・ 生活費と学費を専門学校と両立してアルバイトで稼がないといけないという不安。

<仕事のこと>

- ・ 仕事が辛くて途中で投げ出さないか、仕事での人間関係を上手く築けるのかが心配でした。
- ・ もし、仕事を辞めたらどうしようか不安だった。
- ・ 人間関係に悩みやすいので、仕事を続けられるか不安でした。
- ・ しっかり稼いでいけるのか不安でした。私の場合、親や親戚などの後ろ盾がなく自分が倒れたら生きていけなくなる不安感で押し潰されそうでした。
- ・ 知らない人と話すのが苦手な為、仕事はしたいが打ち解けられるかという心配がありました。また仕事をしっかりこなせていけるのかも当時の心配事の一つでした。

<生活費や学費のこと>

- ・ とにかくお金の不安が大きかった。もしお金が足りなくなった時に頼れるところがなかった。
- ・ お金の管理は施設の人がしていたので自分でできるのか。
- ・ お金の心配が一番大きかった。返さなければならぬ奨学金もあるので、将来の生活が不安だった。
- ・ お金に関しては貯金も無いままの一人暮らしだったため、当面の生活費がほとんどなかった。
- ・ バイトで貯金はあったものの親からの金銭的支援は全くとって貰えないとわかっていたので学費や家賃、生活費が足りるか不安になった。

<家族・親せきのこと>

- ・ 施設という盾が無い中で親と仲良くやっていけるかということ。
- ・ 長い間離れていたのに自分のことを理解してくれるのか。
- ・ 親とずっと一緒に住んでなかったし、親戚の人とかともあまり面識がなかったから上手くやってけるかとても不安だった。
- ・ 未成年で携帯の機種変更や引っ越しの手続きのとき、親の承諾を得なければいけないのでできないことが多かった（親と連絡を取りたくなかったので）。

<人間関係のこと>

- ・ 価値観が違う友人が大学でできるかどうか。
- ・ 施設にいたことで偏見を持たれないかどうか。

- ・ 職場の人と上手くやっていけるかどうか心配だった。
- ・ 施設に入所中は、同じ境遇にいる人ばかりで、理解もされやすいが社会に出てからどのように周りから思われるかなど心配だった。

<孤独感のこと>

- ・ 1人になるのが寂しい。
- ・ いままで物心ついたときには児童養護施設にいた。常に周りに誰かがいる状況で生活してきた中、一人暮らしの孤独感へ不安を覚えた。しかし、支援いただく制度的に一人暮らし以外認められない点に非常に寂しさを覚えた。
- ・ 何年も生活してきた施設を退所して、いざ一人暮らしした時に、賑やかだった日々がなくなったことに、不安や寂しさを感じました。
- ・ 施設から遠い場所に住む予定だったので、頼れる友人や職員も気軽に会える距離にはいなく知らない場所で1人という孤独感があった。この先やっていけるかどうかものすごく不安だった。
- ・ 進学先は幼少期から過ごしたところではなく遠方の学校に進学しました。身の回りに親しい友人や職員、家族がいないことによる精神面の圧迫感があり、辛い時期がありました。

<健康のこと（身体的）>

- ・ 一人暮らしでしんどくなった時自分で病院に行かないといけない。
- ・ 学生時代体調を崩しやすく持病がありひとりで生活していけるか多少心配があった。
- ・ 体調が崩れた時に1人で対応しなければいけないことが心配だった。
- ・ 体調が悪い時に施設に入ったので、1人で働いて行くにあたって体調が崩れないか心配でした。

<健康のこと（精神的）>

- ・ 過去のトラウマの克服の仕方がわからない為、急に1人になって不安だった。
- ・ 自分自身精神的に落ち込んでしまうことがあり、施設の職員等に相談やカウンセリングをしてもらっていました。社会に出た時に1人で自分の精神をコントロールできるか心配でした。
- ・ 精神的に不安定な部分があったが、退所後の環境上簡単に病院を探し出せるかどうか。退所後は施設の職員に以前ほど相談も出来ないのになにか壁にぶつかるのが不安だった。

<家事や食事のこと>

- ・ 家事ほとんどしなきゃいけないのかという不安と焦り。
- ・ ゴミの捨て方、料理の作り方、一般的な常識に不安があった。
- ・ 施設では調理員さんや職員が食事を用意してくれていたため、自炊経験がなく、生活していけるか不安だった。
- ・ 違う都道府県に行くということもあってきちんと食べて生活できるのかということが不安だった。
- ・ 仕事と家事を1人でやっていけるかどうか不安だった。また、知らない土地での生活に自分が慣れていけるかどうか心配だった。

<その他生活のこと>

- ・ 何かの手续きって無知の世界…契約もそう。知識がなくて不安になった。
- ・ 保証人になって貰えるような人間関係が無いため不自由、不安があった。

- ・ 役所の手続きなどの仕方がわからない。公的書類などの書き方がわからないから。
- ・ 特に、生活費のやりくりの方法や行政サービスについてわからないことが多くて不安だった。

<将来のこと>

- ・ 将来の事で色々不安でした。
- ・ 何十年先の事を考えてもそもそも生きているのか分からなかったし人と上手くコミュニケーション取れるのか、何か予定を立てたいわけでもないし何か行動起こせるのかな？みたいな事ですね。
- ・ 仕事が続くか、親と交流ができるか、浪費癖があるので貯金ができるか、落ち込みやすいので病まないか、ズボラなので家事など毎日できるか、全体的に未来のことが想像出来なかった。

<その他>

- ・ 生き立ちがわからず、不安だった。周囲の人にも聞きづらかった。
- ・ 「分からないことが分からない」ことに不安を感じた。
- ・ 一般家庭がどのような生活をしているか知らないのでその不安や心配すらもわからなかった。一人暮らしが始まってから生きていくのはとても大変だった。普通に生きていくのさえ難しかった。
- ・ 退所時がコロナウイルスの影響下真っ只中だったので生活の様々なところが不安であった。
- ・ 一度失敗したら誰も助けてくれない環境で生活していかなきゃならないことに苛立ちを感じた。

(注1) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

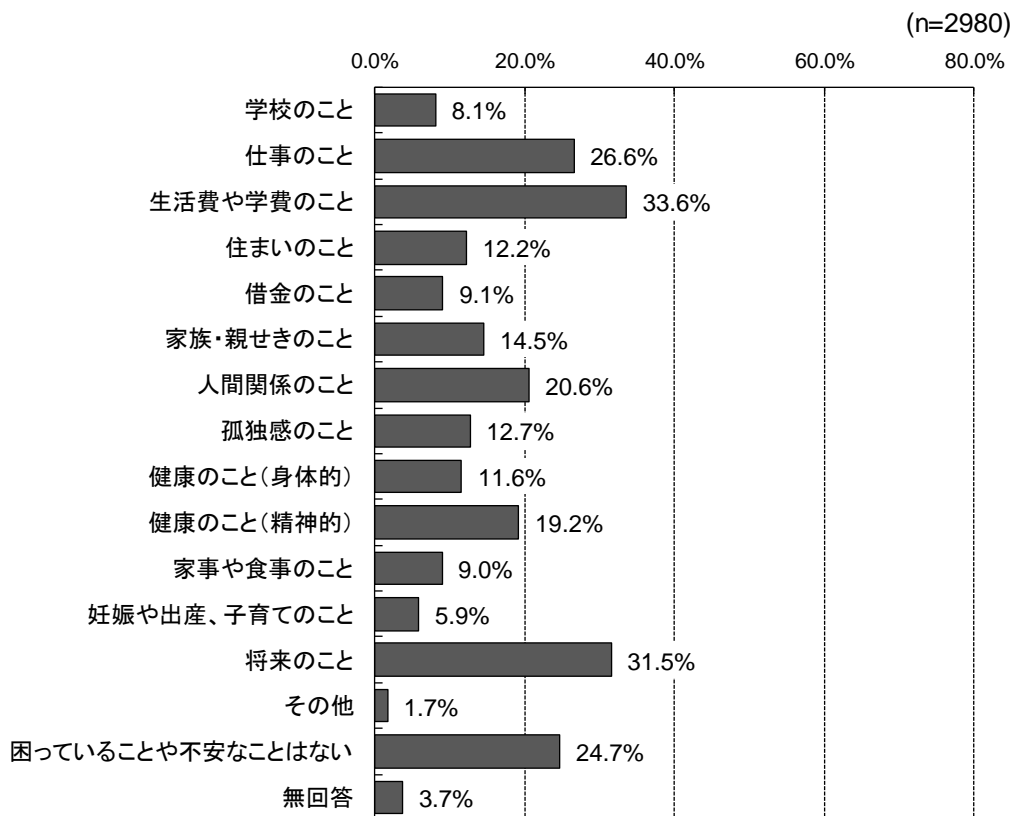
(注2) 自由記述の内容から<>の項目に分類して整理した。各自由記述には複数項目にまたがるものもあるが、ここでは主な一つ項目で整理した。

② 現在の暮らしの中で、困っていることや不安なこと、心配なこと

1) 現在の暮らしの中で、困っていることや不安なこと、心配なこと

現在の暮らしの中で、困っていることや不安なこと、心配なことをみると、「生活費や学費のこと」の割合が最も高く 33.6%（1,000 人）となっている。次いで、「将来のこと（31.5%）」、「仕事のこと（26.6%）」となっている。

図表 138 現在の暮らしの中で、困っていることや不安なこと、心配なこと（複数回答）



図表 139 現在の暮らしの中で、困っていることや不安なこと、心配なこと（複数回答）（施設の種別別、退所年度別、現在の通学・就労の状況別、月々の収支バランス別、同居相手の状況別、普段の活動ができなかった日の有無別、アフターケアの有無別）

	(n)	学校のこと	仕事のこと	生活費や学費のこと	住まいのこと	借金のこと	家族・親せきのこと	人間関係のこと	孤独感のこと	健康のこと(身体的)	健康のこと(精神的)	家事や食事のこと	妊娠や出産、子育てのこと	将来のこと	その他	困っていることや不安なことはない	無回答	
Total	2980	8.1%	26.6%	33.6%	12.2%	9.1%	14.5%	20.6%	12.7%	11.6%	19.2%	9.0%	5.9%	31.5%	1.7%	24.7%	3.7%	
施設の種別	児童養護施設	2259	7.8%	26.2%	34.3%	12.2%	8.9%	14.9%	19.6%	12.3%	11.9%	18.9%	8.9%	5.4%	30.2%	1.7%	24.9%	3.7%
	児童自立支援施設	137	10.9%	24.1%	21.2%	5.8%	8.0%	16.8%	26.3%	10.9%	5.8%	13.1%	3.6%	9.5%	32.8%	2.2%	28.5%	3.6%
	児童心理治療施設(旧:情緒障害児短期治療施設)	48	20.8%	20.8%	22.9%	18.8%	2.1%	22.9%	37.5%	25.0%	22.9%	33.3%	16.7%	6.3%	54.2%	4.2%	18.8%	2.1%
	ファミリーホーム	63	14.3%	28.6%	38.1%	19.0%	7.9%	17.5%	30.2%	12.7%	15.9%	23.8%	7.9%	1.6%	33.3%	0.0%	20.6%	3.2%
	自立援助ホーム	232	5.6%	30.6%	43.5%	16.8%	17.2%	13.8%	23.3%	16.4%	13.8%	25.9%	12.1%	12.1%	37.1%	2.2%	18.1%	3.9%
里親	201	8.5%	26.9%	24.9%	9.0%	6.5%	8.0%	19.9%	11.9%	7.0%	16.9%	8.5%	3.5%	32.8%	1.0%	30.3%	3.5%	
退所年度	2015年4月以前	110	0.9%	28.2%	37.3%	11.8%	18.2%	14.5%	14.5%	15.5%	13.6%	20.0%	12.7%	9.1%	29.1%	1.8%	23.6%	3.6%
	2015年度	289	2.8%	27.0%	30.1%	11.4%	16.6%	14.5%	19.7%	11.8%	10.7%	20.4%	6.9%	9.0%	28.0%	0.7%	28.0%	2.8%
	2016年度	421	5.7%	25.7%	32.1%	12.8%	10.5%	14.3%	19.5%	12.1%	10.9%	17.8%	7.4%	8.6%	31.4%	2.9%	26.8%	2.1%
	2017年度	525	5.7%	28.2%	37.5%	12.4%	10.1%	16.0%	20.8%	13.0%	10.9%	18.9%	8.6%	5.9%	33.9%	1.7%	23.4%	3.6%
	2018年度	703	9.0%	28.6%	35.7%	14.7%	8.0%	12.9%	20.6%	13.5%	11.8%	18.9%	9.5%	6.0%	33.1%	1.6%	22.9%	3.1%
	2019年度	742	12.5%	24.5%	31.9%	10.8%	6.1%	15.8%	22.6%	11.9%	13.1%	20.4%	9.7%	3.4%	32.1%	1.5%	24.5%	3.4%
2020年4月以降	126	14.3%	24.6%	31.0%	11.1%	2.4%	12.7%	21.4%	15.9%	9.5%	19.0%	8.7%	1.6%	26.2%	2.4%	27.8%	4.8%	
現在の通学・就労の状況	通学あり・就労あり	221	31.7%	19.5%	44.3%	10.0%	6.8%	19.9%	16.7%	12.7%	12.2%	20.8%	10.9%	0.9%	38.9%	0.9%	16.7%	3.6%
	通学あり・就労なし	465	28.0%	11.8%	33.3%	9.9%	4.7%	15.3%	19.4%	12.3%	9.0%	17.2%	8.6%	1.5%	37.6%	1.7%	23.7%	3.2%
	通学なし・就労あり(正社員)	1085	0.6%	25.7%	26.1%	8.6%	8.1%	12.4%	17.8%	9.8%	10.2%	13.9%	7.4%	4.5%	24.1%	1.7%	31.6%	3.9%
	通学なし・就労あり(正社員以外)	809	2.5%	34.1%	38.9%	17.9%	11.9%	14.8%	22.0%	14.0%	12.0%	20.8%	9.4%	6.2%	33.9%	1.6%	22.1%	2.7%
その他	374	3.7%	35.8%	39.3%	15.5%	13.4%	16.8%	29.7%	19.5%	18.4%	34.0%	12.3%	17.9%	37.7%	2.7%	17.4%	2.1%	
月々の収支バランス	収入のほうが多い(黒字)	798	5.6%	21.8%	12.0%	8.0%	3.6%	11.0%	16.5%	9.0%	8.6%	14.2%	5.1%	4.1%	25.9%	1.3%	38.2%	4.0%
	収入と支出はほとんど同じくらい	937	6.4%	25.5%	38.5%	11.5%	8.8%	14.8%	18.5%	12.6%	11.3%	17.9%	8.9%	5.8%	30.0%	1.5%	23.6%	3.3%
	支出のほうが多い(赤字)	683	11.3%	34.3%	62.5%	18.2%	21.4%	16.7%	27.1%	18.6%	16.4%	28.8%	14.1%	8.3%	41.9%	1.9%	8.8%	1.9%
	わからない	533	10.7%	26.6%	21.6%	12.6%	2.8%	16.7%	22.5%	11.1%	11.1%	17.3%	8.4%	5.8%	30.2%	2.6%	28.0%	3.0%
同居相手の状況	1人暮らし	1157	8.6%	27.0%	40.3%	10.5%	10.2%	13.6%	17.5%	15.8%	12.8%	20.5%	11.1%	2.2%	30.8%	1.4%	22.6%	2.9%
	子どもあり	145	0.7%	11.0%	40.0%	7.6%	13.8%	13.8%	15.2%	6.9%	8.3%	15.9%	8.3%	44.8%	19.3%	1.4%	23.4%	3.4%
	親・親せき・祖父母あり(「子どもあり」を除く)	540	16.7%	26.5%	27.4%	13.3%	8.3%	22.8%	25.7%	10.4%	8.7%	18.0%	6.3%	1.9%	34.8%	3.0%	27.2%	3.0%
その他(上記以外)	395	2.5%	25.1%	40.5%	15.2%	13.9%	12.9%	19.0%	9.1%	9.9%	18.5%	7.6%	11.4%	32.4%	1.3%	24.8%	3.3%	
普段の活動ができなかった日の有無	なかった	2378	6.7%	23.0%	30.2%	10.3%	8.0%	13.0%	16.3%	9.8%	8.3%	12.8%	7.5%	5.9%	29.5%	1.6%	28.8%	3.6%
	あった	552	14.1%	42.4%	49.1%	20.7%	14.1%	21.4%	39.1%	25.4%	26.4%	47.8%	15.6%	5.4%	41.1%	2.5%	9.1%	0.7%
アフターケアの有無	サポートがあった	1868	8.4%	28.0%	36.0%	13.0%	9.7%	15.7%	22.2%	13.9%	12.2%	20.7%	10.2%	6.5%	34.5%	1.3%	21.6%	2.7%
	何もサポートは受けなかった	579	7.9%	24.5%	33.0%	13.3%	9.7%	13.3%	19.9%	12.8%	12.4%	19.9%	7.9%	6.4%	26.8%	2.1%	30.2%	1.7%
	その他	23	8.7%	39.1%	39.1%	4.3%	13.0%	17.4%	21.7%	13.0%	13.0%	30.4%	13.0%	13.0%	26.1%	8.7%	21.7%	4.3%
わからない	425	7.5%	23.5%	24.9%	8.5%	6.6%	11.8%	16.2%	8.5%	8.2%	12.9%	5.4%	2.8%	28.2%	2.8%	32.5%	3.3%	

(注) 回答の割合が高いほど濃くなるように赤色でセルを塗りつぶした。

2) 現在の暮らしの中で、困っていることや不安なこと、心配なこと（自由記述式）

現在の暮らしの中で、困っていることや、不安なこと、心配なことの具体的な内容を自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 140 現在困っていることや不安に思うこと（自由記述式）

<学校のこと>

- ・ 生活費のために生活の中心がバイトになってきていて、学校の授業・課題の方が疎かになっている。バイトに追われすぎて学校や遊びなど自分の時間の確保があまり出来なくなってきていてあまり満足いく生活ができていない。
- ・ 身体も精神も調子を悪くしてしまい、学校に行けなくなってしまったことが特に心配です。しっかりと勉強しなくてはいけない時期なのにできず、将来の国家試験や就職についての不安があります。
- ・ オンライン授業になって成績が下がった。このような状況で就職もうまくいか心配。
- ・ 学校がオンラインのまま残り●年間をきちんと身のあるものにできるかという不安、学校の課題がとてもハードで時間をとるとともに、アルバイトをしなければ生計を立てるのが難しく、また、そのアルバイトも、夜間の学校という事情から働ける時間が限られ、学校、バイト、課題の3つを両立するために睡眠時間がほとんど取れていないこと。

<仕事のこと>

- ・ 適職が分からず、また資格も特に持っていないため仕事が安定していない。
- ・ 職場の環境がそんな良くなく、先輩からの叱咤激励がきつい。
- ・ 今年度高校を卒業し、就職する予定。正社員ではないためその先どうなるか不安だ。
- ・ 精神的ダメージが大き過ぎて職場に行けなくなったことです。
- ・ どんなに働いてもアルバイトだから、貰える給料は低いから貯金も出来ないし、身体は疲れるし今後が不安。
- ・ 今自分が就いている仕事が本当にやりたい事なのか分からない。自分のやりたい仕事が分からない。
- ・ 職を一度したが辞めてしまい、間が空いてしまったので、再就職がなかなか決まらない。また、就職しても、精神的に安定しない時があるので、きちんと継続して働けるかが不安。
- ・ 仕事をやめたいと思っても、金銭的に頼れる人がいない中でその決断ができない。精神的にも身体的にも体調が悪いなか、仕事も家事も全て自分でやり、不安を口にすることもできない。生きる上で最終的な逃げ場(安全な場所)がない。

<生活費や学費のこと>

- ・ 家賃や光熱費が払えない。
- ・ お金の出費が多く、学費が払えるか心配。
- ・ 給料のほぼ全てが無くなるため、安定して貯金する事が出来ない。
- ・ 貯金があまりできず、収支がギリギリの状態が長く続いている。
- ・ 金銭面が常に厳しく、不安に思うことが多い。それが学業にも影響してきて尚更きつい。
- ・ お金です。親がいないので困った時のお金の助け舟がないので、コロナの影響でほとんど収入がなくなったので今とても困っています。
- ・ お金と孤独感により精神的に参っているが、相談場所がわからず悩んでいる。特に金銭面は如何とも

し難く、借金を抱えたまま社会へ出ることに非常に不安を感じる。

<奨学金のこと>

- ・ コロナで収入が減り、奨学金を払っていきけるか不安です。
- ・ 奨学金を借りているので、しっかりと返すことができるか。
- ・ 非正規として働いているので将来設計ができない。奨学金が数百万円近くあり、返済の見通しが立たない。
- ・ 奨学金の返済があるので、生活費にあまり余裕がない。副業等も会社に禁止されているため、生活費の安定が不安。

<借金のこと>

- ・ お金の管理が出来ず借金しかしていないためコンゴが不安。
- ・ 一時期精神的にしんどい時期があり、今まで貯めていた貯金で生活していた時期があったため、その時に払えなかったお金を分割で払っていったため生活が少し苦しい感じです。その時は公的なお金があることも知らなかったため、それをもう少し前に知ることができたらよかったです。

<家族・親せきのこと>

- ・ 親との接し方、関わり方が分からない。
- ・ 家族が亡くなってしまって 1 人になってしまったから。
- ・ 何年経とうと、親に見つかって酷い仕打ちをされるのではないかと不安は尽きない。
- ・ 親との生活でトラブルが絶えず、精神的な苦痛がたえないことと、一人暮らしをしたいがその場合、金銭的な理由で大学に通い続けることが難しいことです。

<人間関係のこと>

- ・ 寮に入ってからしゃべる人がいない。
- ・ 人と関わるのが怖くて、仕事も出来ません。
- ・ すぐ気持ち的に辛い時に誰にも相談できずに、なんにも出来ずに家にこもってしまう事が増えたこと。
- ・ 施設に対するイメージがあまり良くない(特に年配の方や、親世代の方)為、前住んでいた所の話をする時に嫌な顔をされたり、嫌味を言われる事もしばしばあります。周りの人が実家に帰る時期があるけれど、私にはその時期が 1 番苦痛で、嫌な連休だと感じます。

<孤独感のこと>

- ・ 孤独感が常にあって、いざというとき誰にも相談できない時期があった。
- ・ すぐそばに頼れる人がいないので不安。人間不信になりつつある。
- ・ 周りに相談する人が少なく、誰を頼ればいいのか分からない。頼れる人がいても頼り方が分からない。
- ・ 仕事面では大変充実していますが、私生活で一人しているとふと孤独感に襲われる事があります。
- ・ 施設を退所してしまえば、長い付き合いの職員とも他人になってしまう。そして、信頼できる人をなくし、孤独感を感じる。
- ・ 何か相談したい時に相談しづらい。自分が誰かの一番では無いとわかっているからこそ優先順位の低い自分の事を構わせてしまうのは申し訳ないと感じてしまう。

<健康のこと（身体的）>

- ・ 体調が悪くても病院に行けないことです。
- ・ 一度体を壊してから立て直しが上手くできない。
- ・ 仕事が忙しく、病院に行けない日が続く中、家事や食事がまともにできず健康面で不安だった。
- ・ 仕事の就業時間が長く、職場にほぼ付きっきりになるため多少体調が悪くとも通院することを躊躇うことや、通院による出費を考えると多少後回しにすること。

<健康のこと（精神的）>

- ・ 正直、病院に通った方がいいなと思うくらいには精神的に良くない。
- ・ 気持的に入って体調崩したり、眠れなくなることがよくある。
- ・ 精神的に不安定で、心療内科にかかりたいと思うが、生活費などのことも考えて高額な費用がかかる心療内科には行きにくい。
- ・ 退所後親と関わりを持ち始め一緒に住むことになったが、関係がうまくいきませんでした。精神面に関してもあまり調子がよくなく、仕事も思うようにできずにいます。そのため住まいや金銭面で不安があり、今後の生活が心配です。

<住まいのこと>

- ・ 保証人が居ないのが困る。
- ・ 友達の家に一緒に住んで、凄く不安と危機感を感じています。
- ・ 家族との繋がりが無い為、保証人等をどのようにしたら良いか困っている。
- ・ 新しく一人暮らしする為の住まいが全く見つからない。仕事もできない。
- ・ 施設退所後の友人が、行く場所が無いと言って助けを求めてきたから家に来てもいいと受け入れたけど、職員にも相談したって言ってたけど、正直私に頼られてもどうしたらいいのか分からない。職員がどうにかして欲しい。

<家事や食事のこと>

- ・ 掃除ができない。栄養バランス。
- ・ 生活リズムを整えるのが難しい事。
- ・ 学校で忙しくて栄養のあるご飯を気にして作れない。
- ・ 掃除洗濯自炊をやってもらえる環境だったので、なかなか後回しにしていまいおろそかになります。
- ・ 施設にいた頃は、食事が完成した状態でも出されていたのでほぼ作ることがなく、現在料理には苦勞しています。

<妊娠や出産、子育てのこと>

- ・ 結婚をするうえで出てくる問題の解決方法。
- ・ 子供ができてちゃんとやっていけるか不安。生活面も金銭面も。
- ・ 出産をするにあたって、子供の頃に受けた態度を、自分の子供にしてしまうのではないかと不安があります。
- ・ 2人目を出産したが早かったのかなって思ったり上の子に構ってあげられてなくどう接していいか分からない。すぐ泣く泣いているとイライラする事がたまにある。

<将来のこと>

- ・ 夢がなくて何に向かって頑張ればいいのか分からない。
- ・ 精神的肉体的金銭的な余裕が生まれる将来が想像出来ないこと。
- ・ 今後のキャリアをどう積んでいったらいいか分からない。もう一度やり直したり、チャンスがほしい。
- ・ これから先自分が幸せになれるか時々不安になります。親からの愛情を当たり前で貰ってきた人と自分を比べてしまう時があるがあまり悩みこまないようにはしています。
- ・ やりたい事とかはあるけど、いまだにそういう仕事が見つからないし、将来どんな自分になってるか不安。何をしてるか想像がつかない。
- ・ 今後自分で働いて働いて税金を払って生きていく中で、安定したビジョンが見えてこない。やりたい仕事も見つからない。心配。
- ・ 元々将来やりたいことがあってもお金を貯めるところからスタートの為、本当にやりたいことに対してたどり着くのに時間がかかる。

<その他>

- ・ 改善される訳ではないと思うので言いません。
- ・ 親の助けがない分と、施設からの完璧な離れで過去のことや自分と親の人間関係、精神的な面のアドバイスを頂けない状態で、無理やり過ごしてる感じです。助けてくれる人がいると嬉しいです。
- ・ 社会人になりやはり、わからない事だらけの世界で支払いの内容が理解できなかつたりした時瞬時に聞ける相手がいなく 1 人だと不安になる事があります。

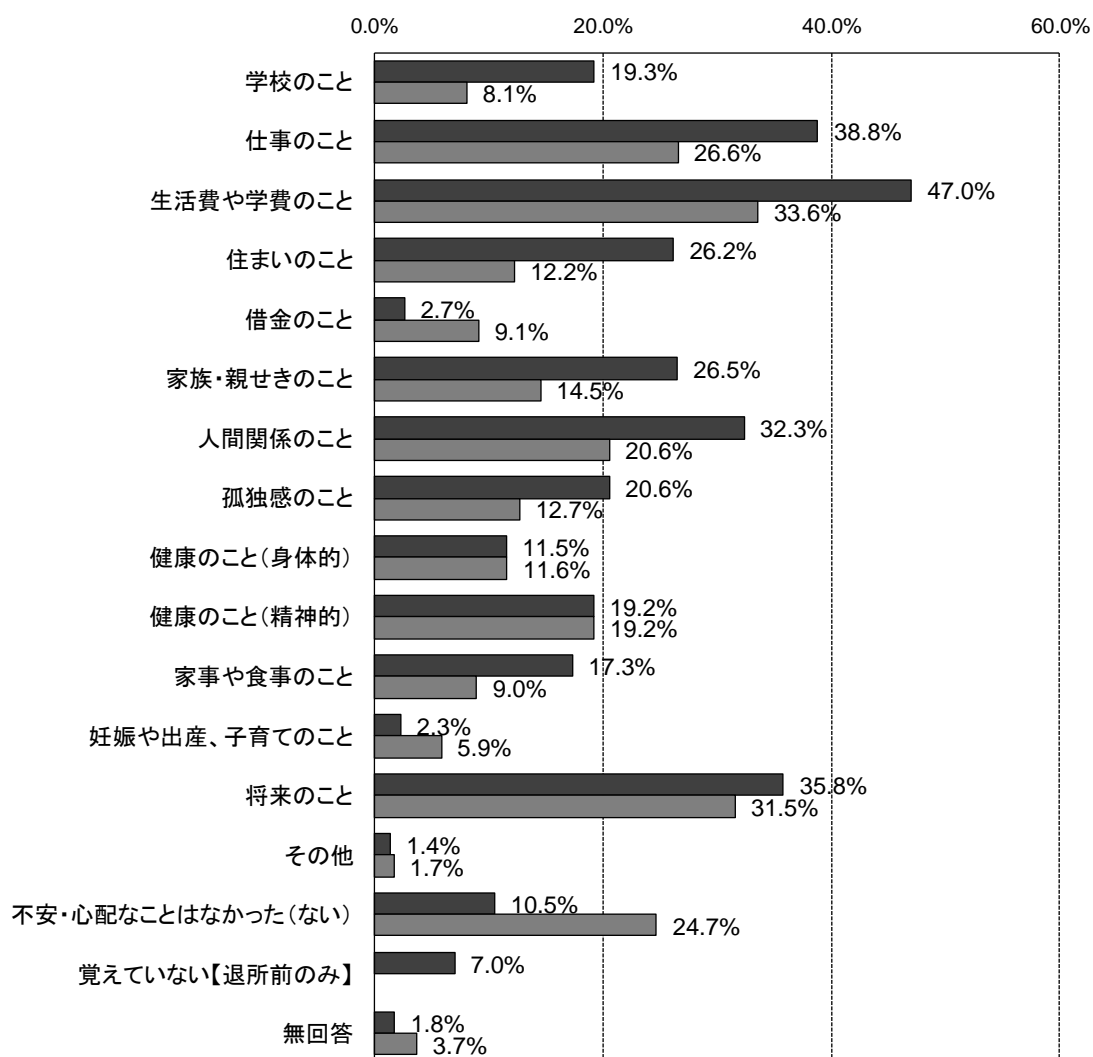
(注1) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

(注2) 自由記述の内容から<>の項目に分類して整理した。各自由記述には複数項目にまたがるものもあるが、ここでは主な一つ項目で整理した。

③ 退所前と現在の不安・心配なことの比較

以降では、施設等を退所する前に、退所に向けて不安だったことや心配だったことと、現在の暮らしの中で、困っていることや不安なこと、心配なことを比較した。また、施設の種別別、退所年度別に、退所前と現在の不安・心配なこと（だったこと）を比較した。

図表 141 施設等を退所する前と、現在の不安なこと、心配なことの比較（複数回答）



■(n=2980) 施設等を退所する前に不安や心配だったこと ■(n=2980) 現在、困っていることや不安・心配なこと

(注) 施設等を退所する前に不安だったこと・心配だったことについてのみ、「覚えていない」の選択肢を設置した。

図表 142 施設等を退所する前と、現在の不安・心配なこととの比較（複数回答）（施設の種別別）

Total (n=2980)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	19.3%	8.1%	-11.17
仕事のこと	38.8%	26.6%	-12.25
生活費や学費のこと	47.0%	33.6%	-13.42
住まいのこと	26.2%	12.2%	-13.93
借金のこと	2.7%	9.1%	6.48
家族・親せきのこと	26.5%	14.5%	-11.98
人間関係のこと	32.3%	20.6%	-11.78
孤独感のこと	20.6%	12.7%	-7.85
健康のこと(身体的)	11.5%	11.6%	0.07
健康のこと(精神的)	19.2%	19.2%	0.03
家事や食事のこと	17.3%	9.0%	-8.36
妊娠や出産、子育てのこと	2.3%	5.9%	3.56
将来のこと	35.8%	31.5%	-4.26
その他	1.4%	1.7%	0.30
不安・心配なことはなかった	10.5%	24.7%	14.16
覚えていない	7.0%		-
無回答	1.8%	3.7%	1.95

児童養護施設 (n=2259)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	18.1%	7.8%	-10.27
仕事のこと	39.9%	26.2%	-13.68
生活費や学費のこと	47.9%	34.3%	-13.63
住まいのこと	25.7%	12.2%	-13.50
借金のこと	2.4%	8.9%	6.46
家族・親せきのこと	26.5%	14.9%	-11.55
人間関係のこと	30.8%	19.6%	-11.20
孤独感のこと	19.6%	12.3%	-7.26
健康のこと(身体的)	11.8%	11.9%	0.04
健康のこと(精神的)	18.1%	18.9%	0.80
家事や食事のこと	17.6%	8.9%	-8.68
妊娠や出産、子育てのこと	2.0%	5.4%	3.32
将来のこと	34.5%	30.2%	-4.29
その他	1.3%	1.7%	0.35
不安・心配なことはなかった	10.5%	24.9%	14.43
覚えていない	7.1%		-
無回答	1.6%	3.7%	2.12

児童自立支援施設 (n=137)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	42.3%	10.9%	-31.39
仕事のこと	23.4%	24.1%	0.73
生活費や学費のこと	27.7%	21.2%	-6.57
住まいのこと	20.4%	5.8%	-14.60
借金のこと	1.5%	8.0%	6.57
家族・親せきのこと	35.8%	16.8%	-18.98
人間関係のこと	51.1%	26.3%	-24.82
孤独感のこと	23.4%	10.9%	-12.41
健康のこと(身体的)	4.4%	5.8%	1.46
健康のこと(精神的)	20.4%	13.1%	-7.30
家事や食事のこと	6.6%	3.6%	-2.92
妊娠や出産、子育てのこと	3.6%	9.5%	5.84
将来のこと	35.0%	32.8%	-2.19
その他	1.5%	2.2%	0.73
不安・心配なことはなかった	6.6%	28.5%	21.90
覚えていない	9.5%		-
無回答	0.7%	3.6%	2.92

児童心理治療施設(旧:情緒障害児短期治療施設) (n=48)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	43.8%	20.8%	-22.92
仕事のこと	20.8%	20.8%	0.00
生活費や学費のこと	29.2%	22.9%	-6.25
住まいのこと	25.0%	18.8%	-6.25
借金のこと	4.2%	2.1%	-2.08
家族・親せきのこと	47.9%	22.9%	-25.00
人間関係のこと	58.3%	37.5%	-20.83
孤独感のこと	33.3%	25.0%	-8.33
健康のこと(身体的)	18.8%	22.9%	4.17
健康のこと(精神的)	33.3%	33.3%	0.00
家事や食事のこと	20.8%	16.7%	-4.17
妊娠や出産、子育てのこと	0.0%	6.3%	6.25
将来のこと	50.0%	54.2%	4.17
その他	4.2%	4.2%	0.00
不安・心配なことはなかった	0.0%	18.8%	18.75
覚えていない	10.4%		-
無回答	0.0%	2.1%	2.08

ファミリーホーム (n=63)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	17.5%	14.3%	-3.17
仕事のこと	30.2%	28.6%	-1.59
生活費や学費のこと	54.0%	38.1%	-15.87
住まいのこと	38.1%	19.0%	-19.05
借金のこと	6.3%	7.9%	1.59
家族・親せきのこと	23.8%	17.5%	-6.35
人間関係のこと	33.3%	30.2%	-3.17
孤独感のこと	23.8%	12.7%	-11.11
健康のこと(身体的)	6.3%	15.9%	9.52
健康のこと(精神的)	22.2%	23.8%	1.59
家事や食事のこと	20.6%	7.9%	-12.70
妊娠や出産、子育てのこと	0.0%	1.6%	1.59
将来のこと	38.1%	33.3%	-4.76
その他	0.0%	0.0%	0.00
不安・心配なことはなかった	17.5%	20.6%	3.17
覚えていない	3.2%		-
無回答	1.6%	3.2%	1.59

自立援助ホーム (n=232)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	12.1%	5.6%	-6.47
仕事のこと	46.6%	30.6%	-15.95
生活費や学費のこと	57.3%	43.5%	-13.79
住まいのこと	34.1%	16.8%	-17.24
借金のこと	5.6%	17.2%	11.64
家族・親せきのこと	25.4%	13.8%	-11.64
人間関係のこと	29.3%	23.3%	-6.03
孤独感のこと	28.9%	16.4%	-12.50
健康のこと(身体的)	15.5%	13.8%	-1.72
健康のこと(精神的)	28.4%	25.9%	-2.59
家事や食事のこと	23.7%	12.1%	-11.64
妊娠や出産、子育てのこと	4.3%	12.1%	7.76
将来のこと	40.9%	37.1%	-3.88
その他	1.3%	2.2%	0.86
不安・心配なことはなかった	9.5%	18.1%	8.62
覚えていない	7.3%		-
無回答	3.4%	3.9%	0.43

里親 (n=201)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	20.9%	8.5%	-12.44
仕事のこと	36.3%	26.9%	-9.45
生活費や学費のこと	43.3%	24.9%	-18.41
住まいのこと	24.4%	9.0%	-15.42
借金のこと	1.5%	6.5%	4.98
家族・親せきのこと	20.4%	8.0%	-12.44
人間関係のこと	35.8%	19.9%	-15.92
孤独感のこと	18.9%	11.9%	-6.97
健康のこと(身体的)	9.5%	7.0%	-2.49
健康のこと(精神的)	17.9%	16.9%	-1.00
家事や食事のこと	13.9%	8.5%	-5.47
妊娠や出産、子育てのこと	3.5%	3.5%	0.00
将来のこと	41.8%	32.8%	-8.96
その他	2.5%	1.0%	-1.49
不安・心配なことはなかった	14.9%	30.3%	15.42
覚えていない	5.5%		-
無回答	1.5%	3.5%	1.99

(注)「ポイント差」とは、現在の不安・心配なことの回答割合から、退所前に不安・心配だったことの回答割合を引いたポイントの差を指す。

図表 143 施設等を退所する前と、現在の不安・心配なことの比較（複数回答）（退所年度別）

Total (n=2980)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	19.3%	8.1%	-11.17
仕事のこと	38.8%	26.6%	-12.25
生活費や学費のこと	47.0%	33.6%	-13.42
住まいのこと	26.2%	12.2%	-13.93
借金のこと	2.7%	9.1%	6.48
家族・親せきのこと	26.5%	14.5%	-11.98
人間関係のこと	32.3%	20.6%	-11.78
孤独感のこと	20.6%	12.7%	-7.85
健康のこと(身体的)	11.5%	11.6%	0.07
健康のこと(精神的)	19.2%	19.2%	0.03
家事や食事のこと	17.3%	9.0%	-8.36
妊娠や出産、子育てのこと	2.3%	5.9%	3.56
将来のこと	35.8%	31.5%	-4.26
その他	1.4%	1.7%	0.30
不安・心配なことはなかった	10.5%	24.7%	14.16
覚えていない	7.0%		-
無回答	1.8%	3.7%	1.95

2015年4月以前 (n=110)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	14.5%	0.9%	-13.64
仕事のこと	40.9%	28.2%	-12.73
生活費や学費のこと	40.0%	37.3%	-2.73
住まいのこと	25.5%	11.8%	-13.64
借金のこと	5.5%	18.2%	12.73
家族・親せきのこと	21.8%	14.5%	-7.27
人間関係のこと	23.6%	14.5%	-9.09
孤独感のこと	15.5%	15.5%	0.00
健康のこと(身体的)	5.5%	13.6%	8.18
健康のこと(精神的)	10.0%	20.0%	10.00
家事や食事のこと	12.7%	12.7%	0.00
妊娠や出産、子育てのこと	1.8%	9.1%	7.27
将来のこと	34.5%	29.1%	-5.45
その他	0.9%	1.8%	0.91
不安・心配なことはなかった	11.8%	23.6%	11.82
覚えていない	13.6%		-
無回答	0.0%	3.6%	3.64

2015年度 (n=289)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	17.6%	2.8%	-14.88
仕事のこと	35.3%	27.0%	-8.30
生活費や学費のこと	45.0%	30.1%	-14.88
住まいのこと	22.5%	11.4%	-11.07
借金のこと	1.4%	16.6%	15.22
家族・親せきのこと	29.1%	14.5%	-14.53
人間関係のこと	32.9%	19.7%	-13.15
孤独感のこと	18.7%	11.8%	-6.92
健康のこと(身体的)	5.9%	10.7%	4.84
健康のこと(精神的)	13.1%	20.4%	7.27
家事や食事のこと	13.8%	6.9%	-6.92
妊娠や出産、子育てのこと	2.1%	9.0%	6.92
将来のこと	28.4%	28.0%	-0.35
その他	0.3%	0.7%	0.35
不安・心配なことはなかった	12.8%	28.0%	15.22
覚えていない	9.3%		-
無回答	0.0%	2.8%	2.77

2016年度 (n=421)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	17.8%	5.7%	-12.11
仕事のこと	38.5%	25.7%	-12.83
生活費や学費のこと	48.2%	32.1%	-16.15
住まいのこと	24.9%	12.8%	-12.11
借金のこと	4.0%	10.5%	6.41
家族・親せきのこと	26.4%	14.3%	-12.11
人間関係のこと	32.3%	19.5%	-12.83
孤独感のこと	20.0%	12.1%	-7.84
健康のこと(身体的)	8.8%	10.9%	2.14
健康のこと(精神的)	13.3%	17.8%	4.51
家事や食事のこと	15.9%	7.4%	-8.55
妊娠や出産、子育てのこと	3.8%	8.6%	4.75
将来のこと	34.7%	31.4%	-3.33
その他	1.7%	2.9%	1.19
不安・心配なことはなかった	12.1%	26.8%	14.73
覚えていない	7.8%		-
無回答	1.2%	2.1%	0.95

2017年度 (n=525)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	18.9%	5.7%	-13.14
仕事のこと	43.8%	28.2%	-15.62
生活費や学費のこと	47.0%	37.5%	-9.52
住まいのこと	29.7%	12.4%	-17.33
借金のこと	1.7%	10.1%	8.38
家族・親せきのこと	28.2%	16.0%	-12.19
人間関係のこと	31.6%	20.8%	-10.86
孤独感のこと	21.0%	13.0%	-8.00
健康のこと(身体的)	12.6%	10.9%	-1.71
健康のこと(精神的)	21.7%	18.9%	-2.86
家事や食事のこと	16.2%	8.6%	-7.62
妊娠や出産、子育てのこと	2.1%	5.9%	3.81
将来のこと	40.8%	33.9%	-6.86
その他	1.3%	1.7%	0.38
不安・心配なことはなかった	9.7%	23.4%	13.71
覚えていない	7.2%		-
無回答	1.0%	3.6%	2.67

2018年度 (n=703)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	16.9%	9.0%	-7.97
仕事のこと	38.4%	28.6%	-9.82
生活費や学費のこと	47.9%	35.7%	-12.23
住まいのこと	25.3%	14.7%	-10.67
借金のこと	2.8%	8.0%	5.12
家族・親せきのこと	25.9%	12.9%	-12.94
人間関係のこと	30.6%	20.6%	-9.96
孤独感のこと	22.0%	13.5%	-8.53
健康のこと(身体的)	12.8%	11.8%	-1.00
健康のこと(精神的)	19.6%	18.9%	-0.71
家事や食事のこと	17.4%	9.5%	-7.82
妊娠や出産、子育てのこと	2.3%	6.0%	3.70
将来のこと	33.1%	33.1%	0.00
その他	1.0%	1.6%	0.57
不安・心配なことはなかった	11.0%	22.9%	11.95
覚えていない	6.1%		-
無回答	1.3%	3.1%	1.85
2019年度 (n=742)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	24.3%	12.5%	-11.73
仕事のこと	38.8%	24.5%	-14.29
生活費や学費のこと	48.8%	31.9%	-16.85
住まいのこと	27.1%	10.8%	-16.31
借金のこと	2.8%	6.1%	3.23
家族・親せきのこと	27.8%	15.8%	-11.99
人間関係のこと	36.8%	22.6%	-14.15
孤独感のこと	21.0%	11.9%	-9.16
健康のこと(身体的)	14.3%	13.1%	-1.21
健康のこと(精神的)	23.7%	20.4%	-3.37
家事や食事のこと	20.9%	9.7%	-11.19
妊娠や出産、子育てのこと	2.0%	3.4%	1.35
将来のこと	37.7%	32.1%	-5.66
その他	2.2%	1.5%	-0.67
不安・心配なことはなかった	9.0%	24.5%	15.50
覚えていない	6.1%		-
無回答	1.1%	3.4%	2.29
2020年4月以降 (n=126)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	23.8%	14.3%	-9.52
仕事のこと	34.9%	24.6%	-10.32
生活費や学費のこと	46.8%	31.0%	-15.87
住まいのこと	28.6%	11.1%	-17.46
借金のこと	1.6%	2.4%	0.79
家族・親せきのこと	21.4%	12.7%	-8.73
人間関係のこと	31.7%	21.4%	-10.32
孤独感のこと	23.0%	15.9%	-7.14
健康のこと(身体的)	15.1%	9.5%	-5.56
健康のこと(精神的)	27.0%	19.0%	-7.94
家事や食事のこと	19.8%	8.7%	-11.11
妊娠や出産、子育てのこと	0.8%	1.6%	0.79
将来のこと	44.4%	26.2%	-18.25
その他	0.8%	2.4%	1.59
不安・心配なことはなかった	12.7%	27.8%	15.08
覚えていない	5.6%		-
無回答	2.4%	4.8%	2.38

(注)「ポイント差」とは、現在の不安・心配なことの回答割合から、退所前に不安・心配だったことの回答割合を引いたポイントの差を指す。

④ 退所前と現在の不安・心配なことの比較（2019年度退所者のみ）

以降では、2019年度に退所した人（以下、「2019年度退所者」とする）について、退所直後の進路別に、施設等を退所する前に、退所に向けて不安だったことや心配だったことと、現在の暮らしの中で、困っていることや不安なこと、心配なことを比較した。

図表 144 施設等を退所する前と、現在の不安・心配なことの比較（複数回答）（2019年度退所者のみ）（退所直後の進路別）

Total (n=742)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	24.3%	12.5%	-11.73
仕事のこと	38.8%	24.5%	-14.29
生活費や学費のこと	48.8%	31.9%	-16.85
住まいのこと	27.1%	10.8%	-16.31
借金のこと	2.8%	6.1%	3.23
家族・親せきのこと	27.8%	15.8%	-11.99
人間関係のこと	36.8%	22.6%	-14.15
孤独感のこと	21.0%	11.9%	-9.16
健康のこと(身体的)	14.3%	13.1%	-1.21
健康のこと(精神的)	23.7%	20.4%	-3.37
家事や食事のこと	20.9%	9.7%	-11.19
妊娠や出産、子育てのこと	2.0%	3.4%	1.35
将来のこと	37.7%	32.1%	-5.66
その他	2.2%	1.5%	-0.67
不安・心配なことはなかった	9.0%	24.5%	15.50
覚えていない	6.1%		-
無回答	1.1%	3.4%	2.29

就職・就労 (n=368)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	1.9%	0.8%	-1.09
仕事のこと	60.3%	32.3%	-27.99
生活費や学費のこと	41.3%	25.3%	-16.03
住まいのこと	25.8%	10.9%	-14.95
借金のこと	1.9%	5.7%	3.80
家族・親せきのこと	20.1%	12.2%	-7.88
人間関係のこと	36.7%	23.1%	-13.59
孤独感のこと	17.7%	10.1%	-7.61
健康のこと(身体的)	13.6%	12.8%	-0.82
健康のこと(精神的)	19.6%	17.7%	-1.90
家事や食事のこと	20.4%	7.9%	-12.50
妊娠や出産、子育てのこと	1.9%	4.9%	2.99
将来のこと	32.3%	25.8%	-6.52
その他	2.4%	1.4%	-1.09
不安・心配なことはなかった	11.4%	28.8%	17.39
覚えていない	3.8%		-
無回答	0.8%	3.5%	2.72

進学・通学(n=294)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	55.1%	29.6%	-25.51
仕事のこと	11.2%	14.3%	3.06
生活費や学費のこと	56.1%	35.4%	-20.75
住まいのこと	24.8%	7.5%	-17.35
借金のこと	4.1%	7.5%	3.40
家族・親せきのこと	34.7%	18.7%	-15.99
人間関係のこと	35.7%	20.1%	-15.65
孤独感のこと	23.5%	12.6%	-10.88
健康のこと(身体的)	14.3%	11.9%	-2.38
健康のこと(精神的)	25.9%	21.1%	-4.76
家事や食事のこと	21.1%	10.5%	-10.54
妊娠や出産、子育てのこと	0.3%	0.3%	0.00
将来のこと	41.8%	36.7%	-5.10
その他	1.7%	1.7%	0.00
不安・心配なことはなかった	6.8%	20.4%	13.61
覚えていない	7.1%		-
無回答	1.4%	3.1%	1.70

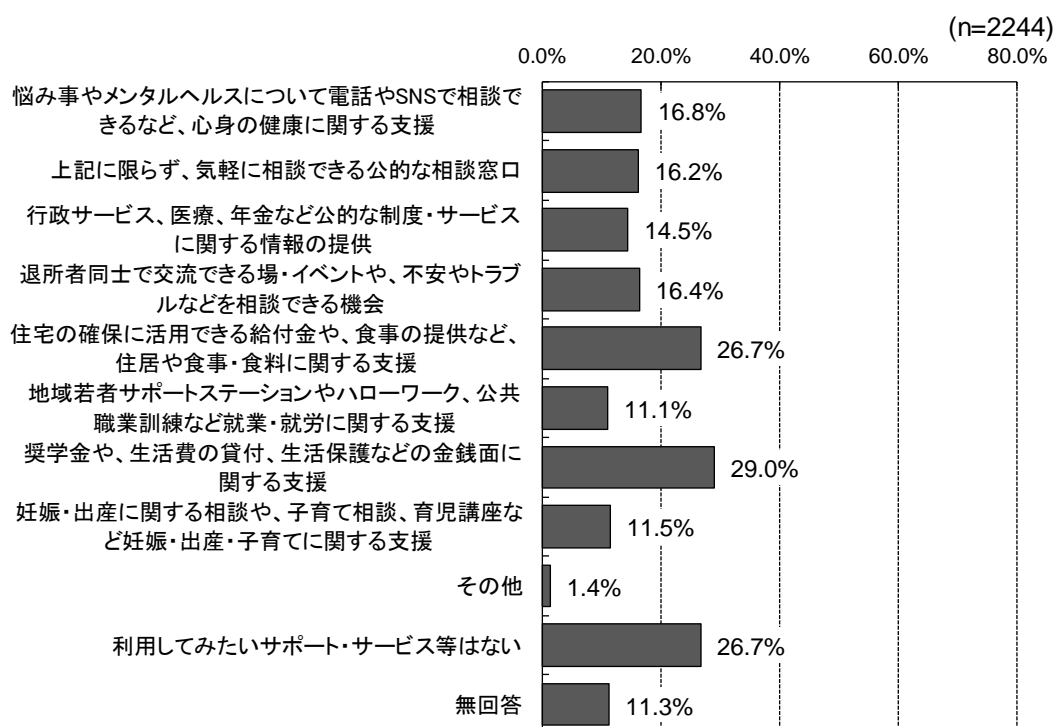
未定だった(n=33)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	21.2%	6.1%	-15.15
仕事のこと	51.5%	30.3%	-21.21
生活費や学費のこと	51.5%	60.6%	9.09
住まいのこと	51.5%	21.2%	-30.30
借金のこと	6.1%	6.1%	0.00
家族・親せきのこと	39.4%	27.3%	-12.12
人間関係のこと	51.5%	45.5%	-6.06
孤独感のこと	27.3%	15.2%	-12.12
健康のこと(身体的)	15.2%	18.2%	3.03
健康のこと(精神的)	39.4%	33.3%	-6.06
家事や食事のこと	24.2%	12.1%	-12.12
妊娠や出産、子育てのこと	3.0%	6.1%	3.03
将来のこと	60.6%	51.5%	-9.09
その他	6.1%	3.0%	-3.03
不安・心配なことはなかった	3.0%	12.1%	9.09
覚えていない	9.1%		-
無回答	3.0%	3.0%	0.00

その他(n=46)			
	退所前に不安・心配だったこと	現在の不安・心配なこと	ポイント差
学校のこと	8.7%	2.2%	-6.52
仕事のこと	34.8%	23.9%	-10.87
生活費や学費のこと	60.9%	43.5%	-17.39
住まいのこと	34.8%	23.9%	-10.87
借金のこと	0.0%	0.0%	0.00
家族・親せきのこと	37.0%	17.4%	-19.57
人間関係のこと	34.8%	19.6%	-15.22
孤独感のこと	28.3%	19.6%	-8.70
健康のこと(身体的)	19.6%	19.6%	0.00
健康のこと(精神的)	32.6%	28.3%	-4.35
家事や食事のこと	21.7%	17.4%	-4.35
妊娠や出産、子育てのこと	13.0%	8.7%	-4.35
将来のこと	39.1%	39.1%	0.00
その他	0.0%	0.0%	0.00
不安・心配なことはなかった	6.5%	23.9%	17.39
覚えていない	15.2%		-
無回答	0.0%	4.3%	4.35

⑤ 今後利用してみたいサポートやサービス

現在困っていることや不安なこと、心配なことについて、「困っていることや不安なことはない」を回答した人を除き、今後利用してみたいサポートやサービスをみると、「奨学金や、生活費の貸付、生活保護などの金銭面に関する支援」の割合が最も高く29.0%(651人)となっている。次いで、「住宅の確保に活用できる給付金や、食事の提供など、住居や食事・食料に関する支援(26.7%)」、「利用してみたいサポート・サービス等はない(26.7%)」、「悩み事やメンタルヘルスについて電話やSNSで相談できるなど、心身の健康に関する支援(16.8%)」となっている。

図表 145 今後利用したいサポートやサービス（複数回答）



(注1) 現在困っていることや不安なこと、心配なことについて、「困っていることや不安なことはない」を回答した人を除き集計。

(注2) 「その他」として、「金銭面のサポート」、「外国籍の子どもに対するサポートや支援」、「進路に関する支援」、「働きながら国家資格がとれるような環境」、「保証人に関するサービス」、「一般的な家事やコミュニケーション、マナー等社会で生活していくための講習会」などが挙げられた。

図表 146 今後利用したいサポートやサービス（複数回答）（施設の種別、退所年度別、現在の通学・就労の状況別、月々の収支バランス別、同居相手の状況別、普段の活動ができなかった日の有無別、アフターケアの有無別）

	(n)	悩み事やメンタルヘルスについて電話やSNSで相談できるなど、心身の健康に関する支援	上記に限らず、気軽に相談できる公的な相談窓口	行政サービス、医療、年金など公的な制度・サービスに関する情報の提供	退所者同士で交流できる場、イベントや、不安やトラブルなどを相談できる機会	住宅の確保に活用できる給付金や、食事の提供など、住居や食事・食料に関する支援	地域若者サポートステーションやハローワーク、公共職業訓練など就業・就労に関する支援	奨学金や、生活費の貸付、生活保護などの金銭面に関する支援	妊娠・出産に関する相談や、子育て相談、育児講座など妊娠・出産・子育てに関する支援	その他	利用してみたいサポート・サービス等はない	無回答	
Total	2244	16.8%	16.2%	14.5%	16.4%	26.7%	11.1%	29.0%	11.5%	1.4%	26.7%	11.3%	
施設の 種類	児童養護施設	1696	15.9%	15.2%	14.0%	16.9%	27.2%	10.6%	29.8%	10.8%	1.4%	27.2%	10.7%
	児童自立支援施設	98	15.3%	16.3%	12.2%	14.3%	17.3%	10.2%	17.3%	15.3%	2.0%	24.5%	22.4%
	児童心理治療施設(旧・情緒障害児短期治療施設)	39	23.1%	23.1%	7.7%	17.9%	20.5%	15.4%	25.6%	7.7%	2.6%	28.2%	2.6%
	ファミリーホーム	50	16.0%	26.0%	24.0%	22.0%	24.0%	18.0%	34.0%	2.0%	0.0%	30.0%	6.0%
	自立援助ホーム	190	25.3%	18.4%	18.9%	16.3%	34.2%	14.2%	30.0%	17.9%	1.1%	18.9%	12.6%
	里親	140	17.1%	22.1%	15.7%	12.1%	22.1%	12.1%	30.7%	15.0%	1.4%	26.4%	12.1%
退所年 度	2015年4月以前	84	16.7%	26.2%	20.2%	19.0%	40.5%	11.9%	36.9%	19.0%	0.0%	23.8%	3.6%
	2015年度	208	19.7%	16.3%	13.5%	17.3%	26.9%	10.1%	26.0%	16.8%	1.9%	26.4%	9.6%
	2016年度	308	16.9%	14.6%	17.9%	17.2%	28.2%	10.7%	27.9%	14.3%	1.9%	23.4%	10.7%
	2017年度	402	15.4%	17.2%	16.9%	17.9%	29.1%	12.7%	33.3%	11.9%	1.7%	23.6%	11.4%
	2018年度	542	18.8%	15.5%	14.8%	17.0%	29.5%	9.4%	28.6%	11.6%	0.7%	27.7%	9.2%
	2019年度	560	15.0%	16.2%	11.6%	15.0%	21.8%	12.3%	28.2%	7.9%	1.4%	31.6%	10.9%
2020年4月以降	91	19.8%	15.4%	9.9%	11.0%	18.7%	11.0%	29.7%	5.5%	3.3%	28.6%	14.3%	
現在の 通学・ 就労の 状況	通学あり・就労あり	184	14.7%	16.3%	16.8%	15.8%	31.0%	9.2%	45.1%	1.1%	1.6%	24.5%	9.2%
	通学あり・就労なし	355	15.8%	19.2%	14.4%	14.9%	25.1%	9.9%	35.5%	4.8%	1.1%	28.2%	9.3%
	通学なし・就労あり(正社員)	742	16.6%	15.9%	11.7%	17.7%	24.7%	7.7%	24.3%	13.3%	0.8%	29.9%	10.1%
	通学なし・就労あり(正社員以外)	630	16.7%	14.0%	15.7%	16.5%	29.0%	11.9%	27.9%	12.4%	1.9%	25.4%	13.0%
	その他	309	21.0%	19.4%	18.1%	15.9%	28.2%	20.7%	27.2%	20.1%	2.3%	23.3%	9.1%
月々の 収支バ ランス	収入のほうが多い(黒字)	493	15.0%	15.8%	13.0%	17.4%	18.9%	8.3%	20.9%	11.6%	0.2%	31.8%	11.0%
	収入と支出はほとんど同じくらい	716	16.6%	16.3%	15.4%	16.9%	32.1%	10.2%	29.9%	12.3%	1.4%	27.4%	8.9%
	支出のほうが多い(赤字)	623	18.1%	17.3%	18.5%	16.5%	36.4%	13.8%	43.5%	11.9%	1.1%	19.7%	8.7%
	わからない	384	17.7%	15.4%	9.1%	14.6%	12.8%	12.5%	16.1%	9.9%	3.6%	32.3%	15.1%
同居相 手の状 況	1人暮らし	896	16.2%	16.0%	16.0%	16.4%	32.4%	10.4%	35.0%	6.7%	1.1%	25.2%	10.6%
	子どもあり	111	11.7%	16.2%	10.8%	18.0%	32.4%	8.1%	27.0%	45.9%	1.8%	19.8%	8.1%
	親・親せき・祖父母あり(「子どもあり」を除く)	393	18.3%	17.8%	11.2%	16.5%	16.3%	9.7%	22.1%	4.8%	1.0%	32.3%	13.2%
	その他(上記以外)	297	13.8%	15.2%	19.9%	16.5%	35.7%	11.1%	34.0%	27.6%	2.0%	23.2%	8.8%
普段の活 動ができ なかつた 日の有無	なかった	1694	13.9%	14.8%	13.4%	14.9%	25.3%	10.5%	27.2%	11.2%	1.1%	30.3%	10.6%
	あった	502	27.1%	22.3%	18.9%	21.9%	33.7%	13.3%	36.9%	12.7%	2.6%	16.1%	9.4%
アフター ケアの 有無	サポートがあった	1464	18.2%	18.4%	16.0%	18.6%	29.2%	12.6%	30.7%	12.2%	1.2%	23.0%	10.3%
	何もサポートは受けなかった	404	15.8%	14.4%	14.9%	14.9%	27.2%	8.7%	29.0%	12.4%	2.0%	33.4%	5.0%
	その他	18	22.2%	33.3%	33.3%	22.2%	33.3%	22.2%	44.4%	16.7%	5.6%	22.2%	16.7%
わからない	287	13.2%	10.1%	8.4%	9.4%	17.1%	7.7%	23.3%	8.4%	1.7%	41.5%	11.1%	

(注 1) 現在困っていることや不安なこと、心配なことについて、「困っていることや不安なことはない」を回答した人を除き集計。

(注 2) 回答の割合が高いほど濃くなるように赤色でセルを塗りつぶした。

⑥ 現在目標としていること等と、それを実現するために必要なサポート

現在目標としていることや、向き合いたいこと、生活する上での希望や願望と、それを実現するために必要なサポート・サービスの内容を自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 147 目標としていることや向き合いたいこと、生活するうえでの希望・願望や、実現するためにあったらよいサポート・サービス（自由記述式）

<学校について>

いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望	実現のためにあったらよいサポート・サービス
学校生活とサッカーを頑張る	食事管理
高校を卒業すること	高校中退の人や、少年院に入ってしまった人の進路や就職先を考えてくれる人や、場所
高校卒業資格を取りつつ専門学校に行き、自分の知識を活用し社会に役立てたい	本当に勉強したい人のために作られた児童養護施設卒限定の大人でも使える奨学金制度
学校を卒業すること。きちんと就職すること。	定期的に学校に通っているか様子を見てほしい(我儘かもしれませんが…)就職支援など。
高等学校卒業、自分の希望職種への就職、結婚、猫飼いたい	資格取得支援(お金の支援ではなく、施設利用、機材利用、教材利用等の勉強支援が欲しいです)
大学行きたい	1.勉強を教えてもらえる、2.お金の援助
行きたいと思った人が誰でも大学進学を叶えられる未来に自分が前例となって貢献すること	児童養護施設出身者など、何か事情を抱える人への住居や金銭面での支援をしてくれる制度
金銭の心配なく大学院に通いたい	退所後の年数にかかわらず利用可能な奨学金が増えたらよい

<仕事について>

いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望	実現のためにあったらよいサポート・サービス
就職をして正社員になりたい	就職支援活動
仕事面でのメンタル強、コミュニケーション能力アップ。	施設退所者に特化したカウンセラーとのカウンセリングサポート。通常のカウンセリングは高価なので、低価格だと嬉しい。
仕事で悩み事が多く出てくるのでそれをきちんと向き合っていきたいです！	仕事で悩み事がある時に、一緒に生活していた施設の職員さんに話を聞いてもらいたい！
将来、自分自身が親になった時に、施設にあずけるといったことがないようなしっかりとした仕事をしたい	転職、再就職のサポート（発達障がいを持った方など不安が多々ある方は特に）
就職	自分の仕事の適性を見つけて欲しい
今の仕事を頑張ること！	応援して欲しい

<将来の夢について>

いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望	実現のためにあったらよいサポート・サービス
好きな事をして生きていきたい	就活をサポートするのもいいと思いますが、本人が何をしたいか、が1番大切だと思うのでそれを一緒に見つけ全力で応援してあげてほしいです。

とりあえず、学校を卒業して資格を取り、技士になる	学費や生活費の支援
もう一度専門学校へ行って、夢を叶えたい	大人になっても借りられる、できれば返済不要の奨学金があつて欲しい
看護師になりたいです	学費支援と生活費の補助
国家資格をとる	辛くなったら気軽に話せる場所

<家庭・家族について>

いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望	実現のためにあつたらよいサポート・サービス
いいパートナーと出会って、家族を作りたい	親がいない事への、周りの見方の変化
結婚して、幸せな家庭を築きたい	退所者が、育児のことについて相談できるサービス（自分が虐待してしまわないかなどの相談）
幸せな家庭を築きたい。子供もほしい。そして、自分と同じ思いはさせたくない。お父さん、お母さんがいて当たり前で暮らせる。これが目標	退所しましたが、今の職員との関係をこれからも続けていきたい。いろんなこと教えてくれるから、
育児で思い通りにいかなかったりしても落ち着いて対処できるようになりたい	具体的な子育てのアドバイス

<健康について>

いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望	実現のためにあつたらよいサポート・サービス
あまり体調を崩さない事、笑顔で人に接すること	気軽に話せる場所が欲しい
元気に生きたい	病院受診サポート
トラウマを直したい	話を聞いて欲しい

<人間関係について>

いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望	実現のためにあつたらよいサポート・サービス
どんな人でもうまく関われるようになりたい。精神状態を安定させたい	相談できる人。病院。
人との繋がりが欲しい。話し合える相手が欲しい	同じ境遇の人達が集まるイベントが増えて欲しい。各地域にて。また、カウンセリングを安く受けられるなどのサービスがあるととても助かります
人間関係はほんとに難しいけど頑張ろうとたくやってく	学校等で先生に相談できる時間を設けてもらう。週に一回など

<生活について>

いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望	実現のためにあつたらよいサポート・サービス
一人暮らしをしたい	一人暮らしにあつたてのサポート
お金を貯め、再度一人暮らしをする	話を聞いてくれるだけでよい
料理が上手になりたい	料理教室
車が欲しい	お金の貸付等。お金があつても保証人がいなくて買えない場合があるので保証人などの制度

1人で寂しいから、犬を飼いたい。もっと一人暮らしでの知恵やお金の使い方を上手になりたい	月1回お米とか届くサポートとかあったら嬉しい
---	------------------------

<経済状況について>

いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望	実現のためにあったらよいサポート・サービス
借金をすべてなくしたい	困った時に優しい条件で貸付をしてくれるサービス
生活面を平均並にはできるようにになりたい	生活費用の補助、主に食事とお金
お金をガンガン稼ぎたい	施設にいる間に自分がしたい活動などのサポートを上向きに支援してくれる環境
貯金をしたい、定職したい	仕事などに関するサポートがあった方がいいです。
お金を貯める	金銭面でのサポートや支援が欲しい
できるだけ安定した収入を稼ぎたい	就労支援サポート

(注1) Web 調査の設問では、「いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望があれば教えてください。犬を飼いたい、宝くじに当選したいなど、どんな些細なことでもかまいません。」「上記を実現するためには、どのようなこと(サポートやサービスなど)があったらいいですか。」とたずねた。両方の項目について、具体的に記載のあるものから抽出した。

(注2) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

(注3) 自由記述の内容から<>の項目に分類して整理した。各自由記述には複数項目にまたがるものもあるが、ここでは主な一つ項目で整理した。

(8) その他

① 国や自治体、施設等に伝えたいこと

国や自治体、施設等に伝えたいことを自由記述式でたずね、主なものをまとめた。なお、個人が特定されるおそれがある回答については、掲載を控えた。

図表 148 国・自治体・施設等に伝えたいこと(自由記述式)

<p>措置中</p> <p>○進路選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職先をもっと考えさせたほうがいいと思います。現と一緒に卒園した人たちは一年足らずでやめる人が多いので。 ・ 高校生の通塾・習い事費用の負担…改善はしているものの現在の社会で大学・専門学校進学を前提としない制度設計に疑問を感じる。周囲からの力添えが少ない施設出身者ほど専門性や社会に出て一人で生きていける術を身につけさせるべきなのではないだろうか。 ・ 施設や里親で育った子ども達への進学への支援を続けて、充実したものにして欲しいです。子ども達が、自由な選択肢から何の負い目を感じることなく、また不安を背負う事なく自分の道を選ぶことができる未来を願っています。 ・ 施設を卒業して、就職した卒業生と子供たち一人一人の話し合いの出来る場所を設けたり、アンケートを取ったりして子供たちがどうゆうふうを考えているのかを聞いた上で、何度も話し合いを重ねてその人にあった進路を決めて行って欲しいです。

○自立に向けたサポート

- ・ 施設を退所するまでの期間に、退所後にも利用できるサービスや制度をしっかりと親身に相談出来る環境だった事が1番嬉しかったです。
- ・ 退所したあと、年金や保険の書類が家に届いた際、とても困りました。誰にも相談できなかつたです。退所する人に向けて、希望者のみでいいのでそういった講座をしてくださると嬉しいです。
- ・ 体験活動の充実を願う。守られて育ち、18歳になるとでなければいけない。1人で生きていくための準備は十分に出来ない。疑似訓練など、失敗してもいい環境があってもいいと思う。適応するには大変なことがたくさんあるし、頼り方も分からない人も多い。
- ・ 施設を卒業し独り立ちする時に、もう少し金銭的な支援がほしい。家を借りるにも礼金敷金管理費、2~3ヶ月分の家賃補助や、家具家電を、必要最低限揃えてくれるなどしてもらえると助かったと思う。高校に通いながらバイトをしてもあまり貯金できない。部活動をしたくてもできなくなる。
- ・ 施設があったおかげで人間らしい生活ができて、すごく自分にとってプラスになる事が多かつたし、本当に助けられた。しかし、退所後の生活ができるようなサポートはもう少ししっかりあった方がいいと思った。家事はもちろん、金銭感覚を養っていくことも大事だと思う。色んな感覚が世間一般と違ってることが多い事を社会に出て感じる事が多い。世間知らずだと思われる事がないように、日常的なところからいっばい的な感覚を養えるといいと思う。

○生活環境

- ・ 施設は職場ではなく児童の生活の場であり、一種の家庭であることをよく理解して欲しい。
- ・ 施設での生活は縛られすぎていると思う。もっと融通を利かせないと交友関係に困っていると感じる人が多くなるのでは。
- ・ 児童養護施設で生活をしてきたからこそ、今生きてると感じています。ですが、何故か児童養護施設のイメージが良くないです。そして、児童養護施設に住んでいる子はある程度の事を我慢しなければならず(例えば、周りはスマホだけど、自分達はガラケーだったり、洋服が周りに比べてダサい、ヨレヨレだったり等)その見た目の違いからイジメに発展する事もあります。周りの人と同じ生活とは言いませんが、周りの人に溶け込めるような対応をしてあげると、子供達も安心して暮らせると思っています。よろしく願います。
- ・ どうか、全ての施設に良い通信環境を整えていただきたいです。可能であれば、児童が希望する場合はできる限り、スマートフォンを持たせてあげてください。周りの同級生と対等に関わっていくためには、もはや必要不可欠です。気持ちで乗り越えられる、というものではありません。公立の学校でも、課題の連絡がLINEで行われることがありました。先生方や学校のクラスメイトにはなんの意図はないのですが、そのコミュニティから除外されているような感覚は衝撃的なものです。

○子どもとの向き合い方

- ・ もっと子供の気持ちや意見を聞き寄り添うべきだと思う。
- ・ 親元を離れて見ず知らずの人間と暮らす子供達は不安、不満しかありません。子供達の声にしっかり耳を傾けてください。
- ・ 表に出さないだけで、色々なことを考えていることをもっと理解してほしい。気持ちや考えていることが整理できていないことがあるので、焦らせずに答えを待ってほしい。
- ・ 施設には色々な子供がいる。それを再認識してそれぞれの子供に向き合って欲しい。この子は強いから大丈夫とか勝手な判断をしないで欲しい。

- ・ 児童養護施設職員の意識が異なるのが一番の問題だと感じる。進学を応援してくれる職員が少なかったり子どもに対して前向きに接してくれる職員を増やすべき。(何事もネガティブにと捉えてリスクヘッジを優先するのではなくその子自身としっかり向き合いその子のやりたい事を一緒に見極めてくれる姿勢であるべき)。

○その他

- ・ 施設の子供達のメンタルケアが怠っているので、そこをもっと強化すべき。
- ・ 障害を持っている児童に対しての、理解や生活へのサポートを増やして言って欲しい。
- ・ 児童相談所のケースワーカーの担当の切り替わりが異常に多いので、お世話になっていた時は正直困りました。

措置解除後

○住まい・生活

- ・ 金銭面でのフォローが少しあれば、生活と学業であたり両立出来るかも…。
- ・ もっと身寄りのない未成年でも安心して過ごせるようにして欲しい(住まいの事や生活面)。頼りたくても頼れない人、頼るところがない人もいることを知って欲しい。
- ・ もっとお金の支援をしてほしいです。家借りる時に今だに大変なので自治体が保証人になって家を借りれるようにしてほしいです。
- ・ 今の支援制度で決して充分ではなく、未だに進学を諦める子どもたちがおり、私自身も保証人について退所後家の契約や奨学金、大学入学の際に困った部分である。また、20歳を超えてしまうと申し込めないサービスが多く、20歳以降もし何か金銭の支援を受けたいとなっても申し込むことができないことがとても多いため、もう少し柔軟にしてもいいのではないかと感じた。

○進学支援

- ・ 進学希望者が金銭面等を理由に進学を諦めることがないようにしてほしいです。
- ・ 児童養護施設などの出身者に対する奨学金や助成金は数年前よりはるかに豊富で、たくさんの子どもたちが夢を持てるようになったと思います。どうか私達の後輩のために、もっともっと充実させてほしいと願います。
- ・ 自分が施設にいる時は大学に対しての制度がなくて大学に通えませんでした。今でも大学に行きたいという思いがありますがお金が無く行けません。こういう思いをしている施設出身者の社会人多いと思うのでそういう人に対する制度が欲しい。チャンスが欲しいです。
- ・ 何をしてもお金は必要なことで里親や児童養護施設で育った子が金銭的に苦労することはあると思います。社会に出たら1人でやっていかなければなりません、学業に関してはお金に支援がもう少しあってもいいと思います。普通の家庭でも大学や専門学校に入るには多額のお金が必要で奨学金を借りたとしても返して行くのは本人で働きながら返して行くのはやはり負担が大きく大変です。どれくらいの支援があるかはわかりませんが学びたいという子には学ばせてあげて欲しいです。奨学金はどうかならないものでしょうか？

○相談支援

- ・ 自分みたいに、やりたいことを見つけるタイミングが遅かったりする人のために相談できる機関があったりすると思う。

- ・ 自分が施設出身であることや、里親家庭ってことをなかなか口に出して誰かに相談できない人が多いと思うから気軽に相談できる場所や人がいたらいいと思う。
- ・ 話を聞いてくれるだけじゃなくて、いろんな公的機関や制度を教えてくれる人と出会えたらいいなと思います。
- ・ とにかく相談できる場所をもっと積極的にみんなに周知して欲しい。私を含め多くの人が相談相手に困っていると思う。専門家に相談した方が友人に相談するよりも遥かにいい答えを持っていると思う。
- ・ 学校や仕事を辞めたあとでも、次の就職先と一緒に見つけてほしい。1人では、不安や、心配事をかかえて、なかなか1人では前に進めない。

○アフターケア

- ・ 退所者対象に同窓会などをしてもらいたい。
- ・ 退所後の不安は在籍時には想像出来るものではありませんでした。見守ってくださると幸いです。
- ・ 退所しても、顔を見に来てくれたり相談や話したいことを最後まで聞いてくれる事がすごく嬉しい。見放されなかったことがすごく安心。これからもよろしくお願いします。
- ・ 施設に直接行かなくても電話やメールで何か困ったことや不安に思うことを職員に気軽に相談出来る窓口みたいなものがあれば嬉しいです。
- ・ 施設にいた時には担当の職員の先生がいい対応してくれてたのに、退職しても関わりが切れる訳では無いのに、全く連絡が無い！！それにコロナが酷くなったからみんなにも会えない！！会いたいのに！！
- ・ 施設からは未だに誕生日付近にメッセージカードや年賀状、定期的な食事会の招待状が来て一人じゃないと思う事ができ、とても励みになっている。施設長や、職員は今でもとても大好きです。とても大変な仕事だと思うけれど、大事な家をこれからも守って欲しい。
- ・ 児童養護施設出身者は、緊急連絡先として記入できる人がいないという方が沢山います。就職や病院での治療など、様々なところで、成人するまで緊急連絡先を求められました。その都度、「家庭が複雑で」「児童養護施設出身者で」と公の場で自ら説明しなければならぬことがすごく辛かったです。なので、施設出身者が緊急連絡先として記入できる機関などがあればいいなと思っています。

○実家のように戻れる場所

- ・ 成人式前やお盆や年末に帰れる場所がほしい。一般の家庭が言う、実家みたいなものが。
- ・ 施設へ里帰りする時、宿泊出来るような設備があればいいなと思います。
- ・ もう少し一人暮らししてる人達にも目を向けて欲しい…孤独でどうしたらいいかわかんない人もいるかもしれないし。施設もすぐ帰れる場所じゃ無くなったからもう少し帰れる場所にして欲しい。
- ・ 施設を出て、親のサポート無しで生活するのはとても大変です。金銭面は勿論ですが、私が特に感じるのは孤独感です。お正月や夏休み、帰省する家が無く、成人式で振り袖を着れなかったり、施設を出てから家族という存在の大きさに気付きました。1人で生活するのはとても寂しく、悲しくなります。

○心身のケア

- ・ 退所後しばらくは希望者にカウンセリングを受けられるようにして欲しい。(精神科で病名を告げられていたりする子とは別で、自己肯定感が低かったりとかで生きづらさを抱えている子に対して。)
- ・ 虐待等を経験した人の精神面のケアを施設在籍中だけでなく退所後も継続して行える環境や制度があるといいなと思います。
- ・ 孤独感到悩まされる人が多いと思うので、精神面のサポートをより重点的に行ってほしい。

○その他

- ・ 同年代の退所者同士の交流をもっと増やした方がいいと思う。
- ・ 18歳もしくは20歳で施設を出ていかなければならない施設が多いのでそこを大学、専門学校卒業するまで施設で生活できるような制度を作って全国に広めてほしいです。
- ・ 車を借りる際や家を借りる際に親権者の同意があるのはなんでですか？今まで育ててきてくれたのは施設の職員であったり困ってる時助けてくれたのはきょうだいなのに結局最後に同意やらするのは何もしてきていない親になるのが納得いきません。

その他

○社会に対して

- ・ もっと児童養護施設の事を、きちんと全ての人に理解してもらえるようにもっと発信して欲しいです。
- ・ 施設出身という理由で偏見の目で見たり、差別する人がどうしてもいます。心が強くない人は立ち直れなくなる場合もあるので、もっと平等な世界になってほしい。
- ・ やはりまだまだ施設の子だからと差別を受けることがあると思います。施設で生活していない人たちからすれば、施設の子達を理解することが難しいのかも知れませんが、少しでも多くの人たちが、施設で暮らしている子ども親が側にいないだけで、可哀想だと決めつけられないように、平等に評価を受けられるように、施設への理解を沢山のの人に深めていてもらいたいと思います。施設の子達がこれからも生まれてきてよかったと思えるような、周りの子たちと変わらない生活ができることを願っています。

○国・自治体に対して

- ・ 国や自治体は施設に対してこれからもっと興味関心をもち、問題を見つけ、改善して欲しい。
- ・ 国や自治体からの援助を、必要としている子ども達のためにもっと多様化してほしい。子ども達が必要としていることをタイムリーに解決してあげてほしい。
- ・ 国へ かなり施設に入った子らの支援対策酷すぎます。出てからかなり不安に感じました。
- ・ 少しずつ奨学金等の制度も変わってきて、私自身も救われています。とても感謝しています。しかし、まだ、家庭になにか事情を抱える人達や、誰でも進学したいと思った人が進学を叶えられる世の中かと言われたら、十分とは言えません。本当に頑張ってる人達、頑張ろうという気持ちを持つ人達を支えてくれる世の中であってほしいです。今回のコロナの状況でも言えることですが、困っている人達に手を差し伸べてくれる国や自治体であってほしいです。今回のように、もっと私たちの声を聞いて頂けないでしょうか。よろしくお願いします。
- ・ 施設で育った人や、施設等の紹介などをもっと発信して欲しい。頑張ってるっていう実感がほしい。自分に自信を持って欲しい。施設で育った事に胸を張って欲しい。そのために国の方や自治体の方には、迷惑をかけるかもしれませんが、もっと頑張って欲しいです。よろしくお願いします。

○感謝の気持ち

- ・ 幼児期から育ててくれてありがとう。施設の職員がもう家族みたいなんだよね。
- ・ 今まで本当にお世話になりました。人生が変わりました。想像以上にとても楽しかったです。施設の友達とも仲良く遊んでいます。ありがとうございました。
- ・ 我々退所者にとっては施設の先生は親代わり。ふとした時に会いたくなる、喋りたくなる。そんな時は笑顔で迎えてくれたら嬉しいです。
- ・ 私の心を救ってくれてありがとうございました。家から離れて、人の大切さ自分を大事にすることを学びま

した。ありがとうございました。

- ・ 今までお世話になりました。世間のイメージは未だに施設に対して冷やかですが、多くの子どもを救って下さっていること心より尊敬しています。
- ・ 1番辛い時に市役所の相談員さん・シェルターの職員の方・児童相談所の方・自立援助ホームの職員の方々に沢山助けられました。今とても充実して過ごしているのはその方達と、私自身の頑張りのおかげだと思っています。これからも、自分の現状をどうにかしたいと思っている若い人達を助けて、導いてあげて欲しいです。
- ・ あのまま保護されなければどんな人生だったかはわかりませんが、保護された事によりすくなくとも保護前より幸せだと思える事が増えました。まだ不安な事や他の家庭を妬んでしまったり、他の家庭の当たり前を受け入れられない時はありますが私は前より幸せです。ありがとうございます。

○施設職員等の労働環境

- ・ 施設職員の給与は上げた方が良い。
- ・ 施設等で働く人たちの雇用形態をもっと良く快適にしてほしい。
- ・ 職員が生き生きと働きやすい環境作りと、子供達に対するサービスの向上を願っています。
- ・ 自立支援施設など児童と一緒に住み込みで働くタイプの現場の職員さんの記録上の休みがかなり気になる。全然休めてない。圧倒的人員不足。無断で施設外へ出てしまう人達もいて夜中も勤務する時もある。人員を増やすべきだと思いました。
- ・ 難しいことかもしれませんが、施設職員の数を増やす政策を考えた方がいいと思います。全体的に施設職員の数が少なく1人の労働量が他の仕事に比べて多いと一緒に生活をして感じました。仕事だからと割り切ってこのまま労働環境を変えないと児童の今後のためにならないと思います。

○子どもの保護・支援のあり方

- ・ 家庭の事情で困ってる子どもたちを見てあげてください。
- ・ もっと困ってる子供たちを見つけて欲しい。寄り添ってあげてほしい。
- ・ 子供は自分から助けてって言えません。虐待されてるかなって思ったら周りの大人達がすぐ助けてあげてください。
- ・ ここでこう書いても仕方ないのですが、被虐待児の保護にもう少し積極的になってもいいんじゃないかと思います。

○一時保護

- ・ 一時保護を見誤らないで欲しい。
- ・ 一時保護所の対応が良くなったので、もっと優しくしてほしい。
- ・ 一時保護所という施設も快適に保護できる場所になってくれればなと思います。
- ・ 一時保護所の無駄に厳しいルールをなくして欲しい。無駄に厳しいから反発したくなるし息苦しい。

○本アンケートについて

- ・ 今回このアンケートがあり、私達のような子供を気にする大人もいるんだと知った。大変だと思うけれど、助けて欲しいです。
- ・ 福祉とか行政とかどうでもいいよ。こんなアンケートやって変わるんならとっくに変わってるよね、なんも期待してないから。無駄なアンケートは暇つぶしになったからいいとするよ。

- ・ 多々、適切だと言いきれない回答もあるかと思いますが、真っ直ぐな思いをぶつけた。アンケートです。どうか、今後に活かして頂けたら嬉しいです。
- ・ このアンケートに答えた卒園生達の悩み、不安が解消されるよう期待しています。よろしくお願いします。
- ・ 施設退所後はほぼ自分の力で動かないといけないため進学と自分の生活の両立が辛かった。もっと私たちの声を聞いてほしいです。
- ・ このようなアンケートを実施し、意見を述べる場を与えていただきありがとうございます。今よりも施設にいる子供たちが、心豊かに生活していけるような環境づくりをよろしくお願いいたします。

(注1) 個人が特定されかねない記載については一部修正・削除を行ったが、基本的には原文のまま掲載をした。

(注2) 自由記述の内容から<>の項目に分類して整理した。各自由記述には複数項目にまたがるものもあるが、ここでは主な一つ項目で整理した。

第4章 施設職員・里親家庭記入調査

1. 調査概要

(1) 調査の目的

- ・ 全国規模で、措置解除者等の現在の状況や支援内容等を把握・整理することを目的として、施設職員・里親家庭に対して退所から現在までの状況をたずねる、施設職員・里親家庭調査（他記式調査）を実施した。

(2) 調査対象

- ・ 本人記入調査（自記式調査）の対象者を最後に養育した児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、ファミリーホーム、自立援助ホーム、里親家庭（悉皆）

（注）本人記入調査の対象者は、2015（平成27）年4月～2020（令和2）年3月に、中学卒業以降で措置解除となった人

(3) 調査方法

- ・ 児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、ファミリーホーム、自立援助ホームについては、施設職員を回答者とする調査票（Excel ファイル形式）を自治体経由で電子メールで配布し、事務局への直接送付により回収した。
- ・ 里親家庭については、里親を回答者とする調査票（紙）を、自治体（又は児童相談所）経由で郵送配布し、回収は事務局への直接送付とした。
- ・ 調査対象となる施設等のリストアップと施設等への依頼は、自治体の社会的養護担当部局にご協力いただいた。

(4) 調査実施期間

- ・ 2020（令和2）年11月30日～2021（令和3）年1月31日

(5) 調査項目

- ・ 調査項目は以下の通りである。

1. 本人記入調査の案内状況

- ・ 措置を行った自治体名
- ・ 本人記入調査の案内状況、案内できない理由

2. 施設退所者等の基本属性

- ・ 性別
- ・ 里親家庭・施設で過ごした期間

3. 措置時点の状況

- ・ 養育者、主な養育者の状況
- ・ 被虐待経験、障害等の状況、ケアラーとしての役割

4. 措置解除時の状況

- ・ 措置解除年度、年齢、学歴
 - ・ 施設職員・里親家庭が心配していたこと、施設職員・里親家庭との関係性
- 5. 措置解除後の状況**
- ・ 進路
 - ・ 住まい
- 6. 回答施設・里親家庭とのつながり**
- ・ 施設職員・里親家庭との交流頻度、交流のない主な理由
- 7. 措置解除者等の生活状況**
- ・ 最終学歴、就労状況、雇用形態
 - ・ 同居者、現在の居住地
- 8. 現在の困難**
- ・ 施設職員・里親家庭が現在心配していること
- 9. 施設退所者等へのアフターケアの状況**
- ・ アフターケア・サービスの利用
 - ・ 施設職員・里親家庭から受けているアフターケア・サービス
 - ・ 自治体から受けているアフターケア・サービス

(6) 回答件数

- ・ 合計で 13,775 件の回答が得られ（回答率 66.6%）、有効回答数は 13,651 件（有効回答率 66.0%）だった。都道府県別の回答件数は次のページに掲載した。

図表 149 施設の種類別 回答件数

	調査対象者数	有効回答件数	有効回答率
児童養護施設	13,006	9,373	72.1%
児童自立支援施設	2,110	1,496	70.9%
児童心理治療施設	778	473	60.8%
ファミリーホーム	747	227	30.4%
自立援助ホーム	1,976	1,251	63.3%
里親	2,073	806	38.9%
不明・無回答	-	25	
合計	20,690	13,651	66.0%

図表 150 都道府県別 有効回答件数・有効回答率（措置解除者等人数ベース）

都道府県別	調査対象者数	有効回答件数	有効回答率
北海道	656	580	88.4%
札幌市	363	307	84.6%
青森県	208	164	78.8%
岩手県	249	200	80.3%
宮城県	158	60	38.0%
仙台市	129	73	56.6%
秋田県	112	70	62.5%
山形県	139	123	88.5%
福島県	237	194	81.9%
茨城県	389	283	72.8%
栃木県	362	298	82.3%
群馬県	252	155	61.5%
埼玉県	747	507	67.9%
さいたま市	140	102	72.9%
千葉県	455	268	58.9%
千葉市	123	64	52.0%
東京都	2,328	1,767	75.9%
神奈川県	261	226	86.6%
横浜市	382	179	46.9%
川崎市	190	107	56.3%
相模原市	81	51	63.0%
横須賀市	111	56	50.5%
新潟県	108	66	61.1%
新潟市	59	34	57.6%
富山県	87	67	77.0%
石川県	108	54	50.0%
福井県	114	67	58.8%
山梨県	170	148	87.1%
長野県	317	249	78.5%
岐阜県	555	294	53.0%
静岡県	226	151	66.8%
静岡市	42	8	19.0%
浜松市	32	32	100.0%
愛知県	481	322	66.9%
名古屋市	340	232	68.2%
三重県	325	210	64.6%
滋賀県	285	141	49.5%
京都府	215	137	63.7%
京都市	324	218	67.3%
大阪府	912	792	86.8%
大阪市	1,036	416	40.2%
堺市	138	114	82.6%
兵庫県	717	231	32.2%
神戸市	362	247	68.2%
明石市	21	3	14.3%
奈良県	192	123	64.1%
和歌山県	215	191	88.8%
鳥取県	158	80	50.6%
島根県	167	152	91.0%
岡山県	222	162	73.0%
岡山市	152	105	69.1%
広島県	249	132	53.0%
広島市	184	82	44.6%
山口県	318	142	44.7%
徳島県	217	157	72.4%
香川県	156	77	49.4%
愛媛県	285	165	57.9%
高知県	241	191	79.3%
福岡県	366	253	69.1%
北九州市	207	125	60.4%
福岡市	188	154	81.9%
佐賀県	143	104	72.7%
長崎県	398	232	58.3%
熊本県	283	154	54.4%
熊本市	170	90	52.9%
大分県	223	171	76.7%
宮崎県	215	133	61.9%
鹿児島県	465	284	61.1%
沖縄県	230	80	34.8%
無回答	-	45	-
合計	20,690	13,651	66.0%

(注) 各自治体が回答した調査対象者数と、施設職員・里親家庭記入調査の回答件数を用いて、回答率を計算した（回答件数÷調査対象者数×100）。

(注) 金沢市は対象者がいなかったため表に含めていない。東京都内の児童相談所設置区については東京都に含めた。

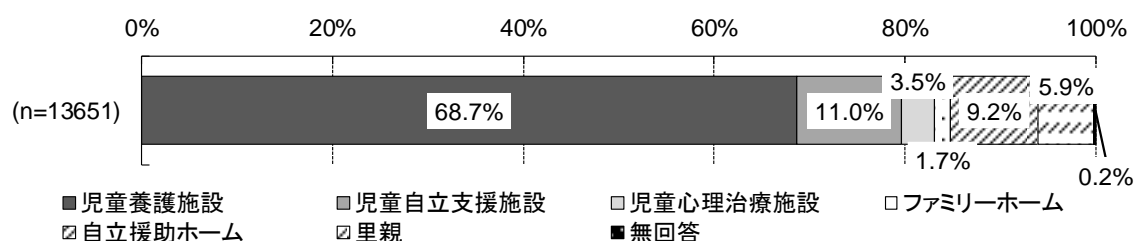
2. 集計結果

(1) 本人記入調査の案内状況

① 施設等の種類

本調査の調査対象とした施設退所者等のうち、措置・委託されていた施設等の種類は、「児童養護施設」が 68.7%、「児童自立支援施設」が 11.0%、「児童心理治療施設」が 3.5%、「ファミリーホーム」が 1.7%、「自立援助ホーム」が 9.2%、「里親」が 5.9%となっている。

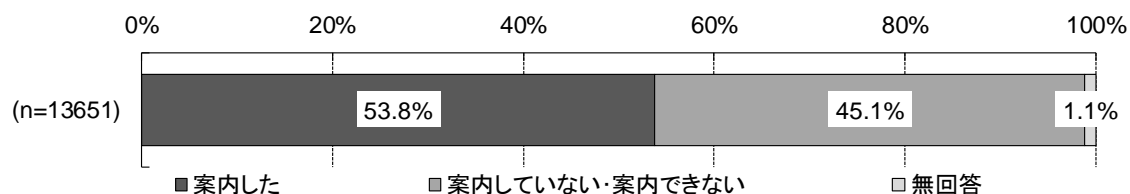
図表 151 措置・委託されていた施設等の種類



② 本人記入調査の案内

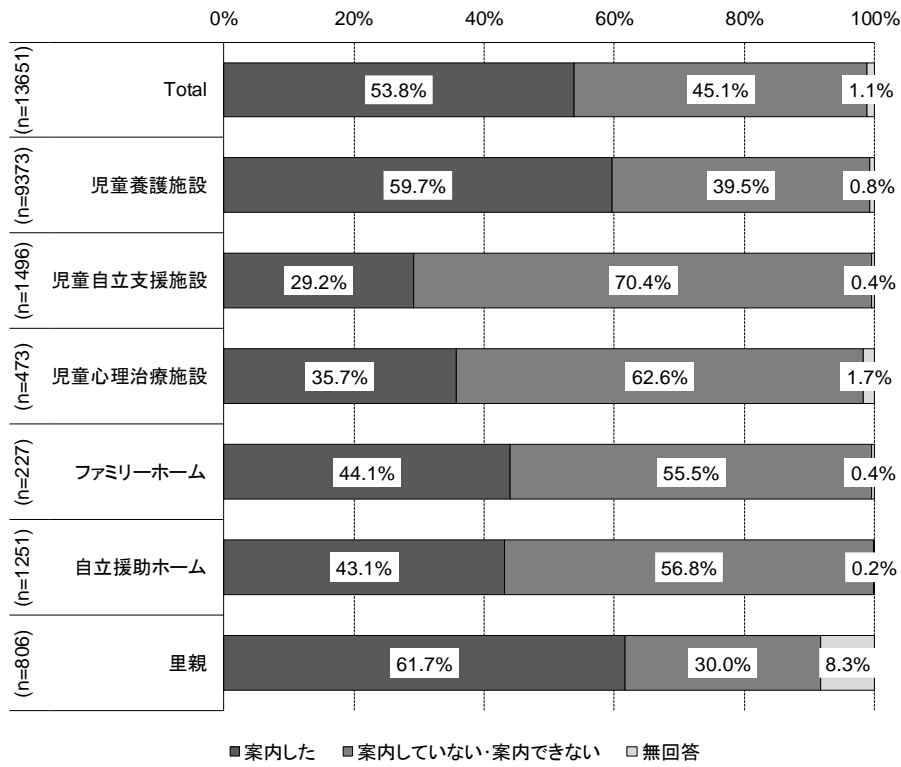
施設職員・里親家庭から施設退所者等へ本人記入調査を案内したかについては、「案内した」が 53.8%、「案内していない・案内できない」が 45.1%となっている。

図表 152 本人記入調査の案内

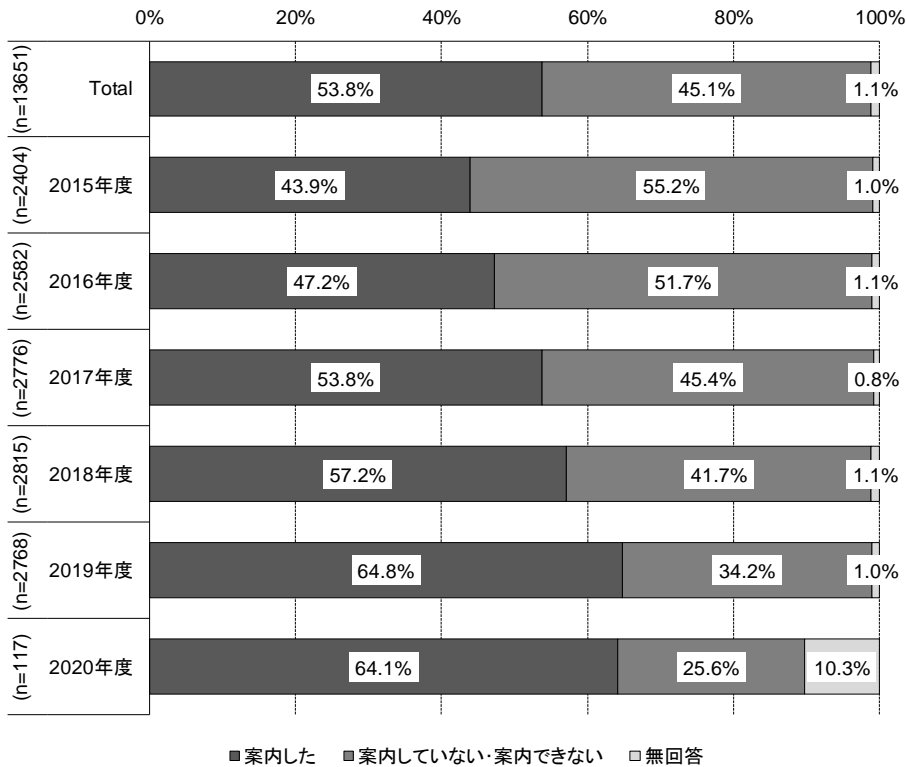


なお、本人記入調査の案内の有無について、どのような調査対象者に「案内した」、「案内していない・案内できない」という回答の傾向がみられたか（案内有無別クロス集計）については、168 ページ以降で詳しく分析している。

図表 153 本人記入調査の案内（施設等の種類別）



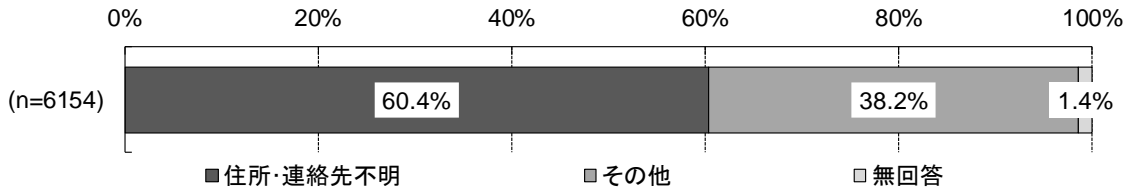
図表 154 本人記入調査の案内（退所年度別）



③ 案内できない理由

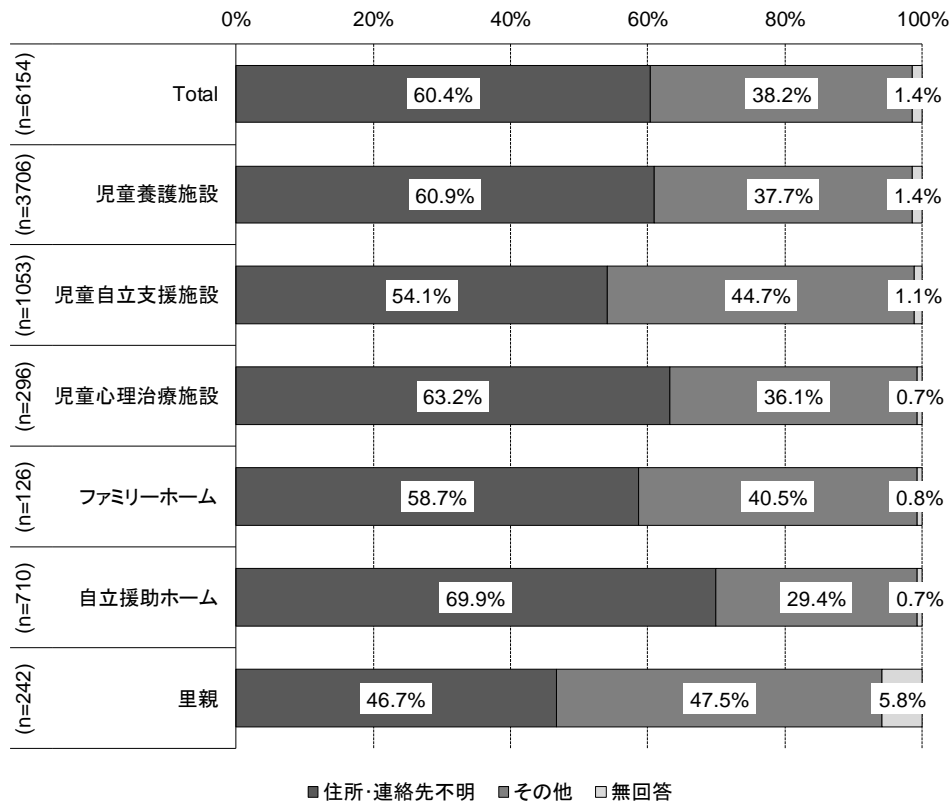
本人記入調査を「案内していない・案内できない」と回答した施設職員・里親家庭に理由をたずねたところ、「住所・連絡先不明」が60.4%、「その他」が38.2%となっている。

図表 155 本人記入調査を案内できない理由

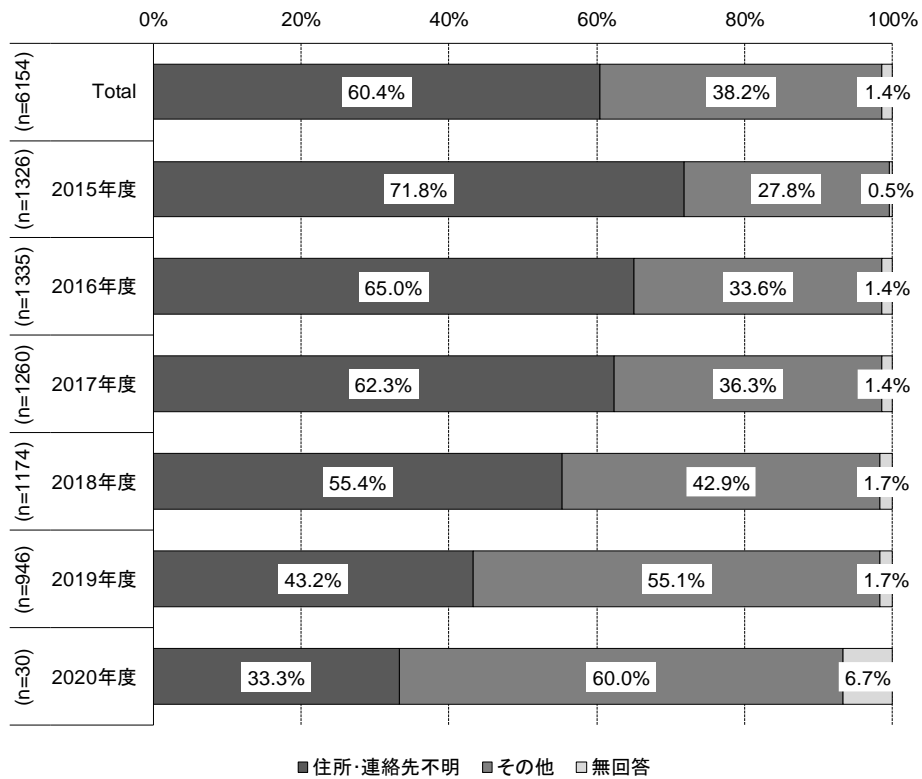


(注) 「その他」の具体的内容については 172 ページで整理した。

図表 156 本人記入調査を案内できない理由（施設等の種類別）



図表 157 本人記入調査を案内できない理由（退所年度別）

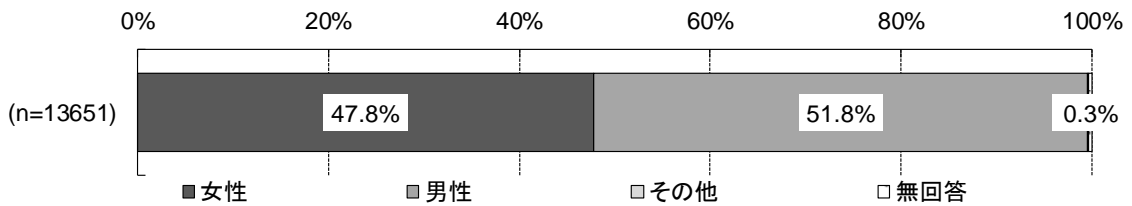


(2) 施設退所者等の基本属性

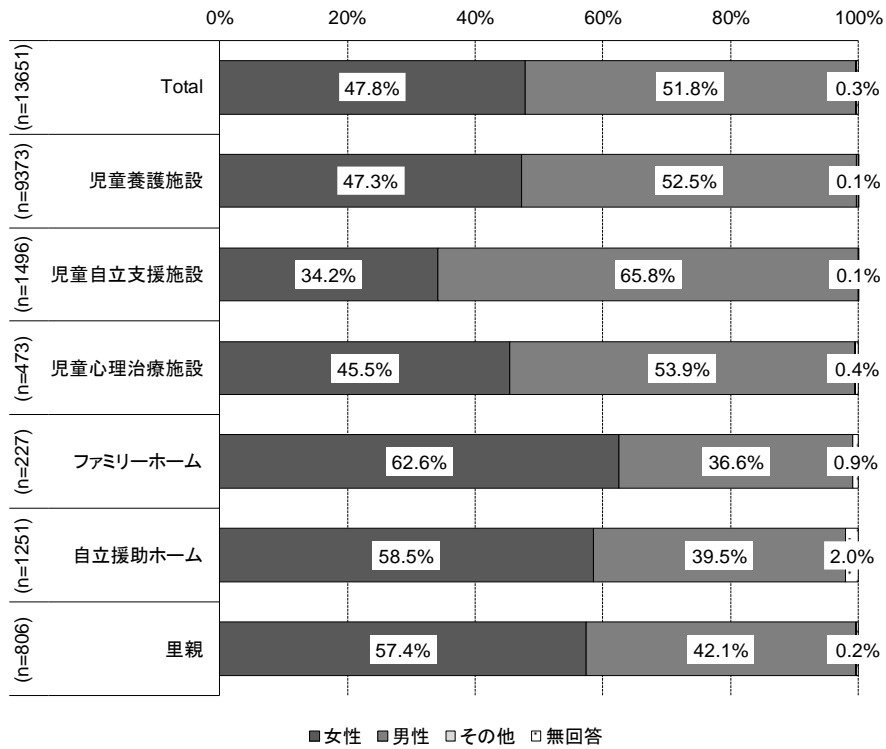
① 性別

性別をみると、「女性」が 47.8%、「男性」が 51.8%、「その他」が 0.3%となっている。

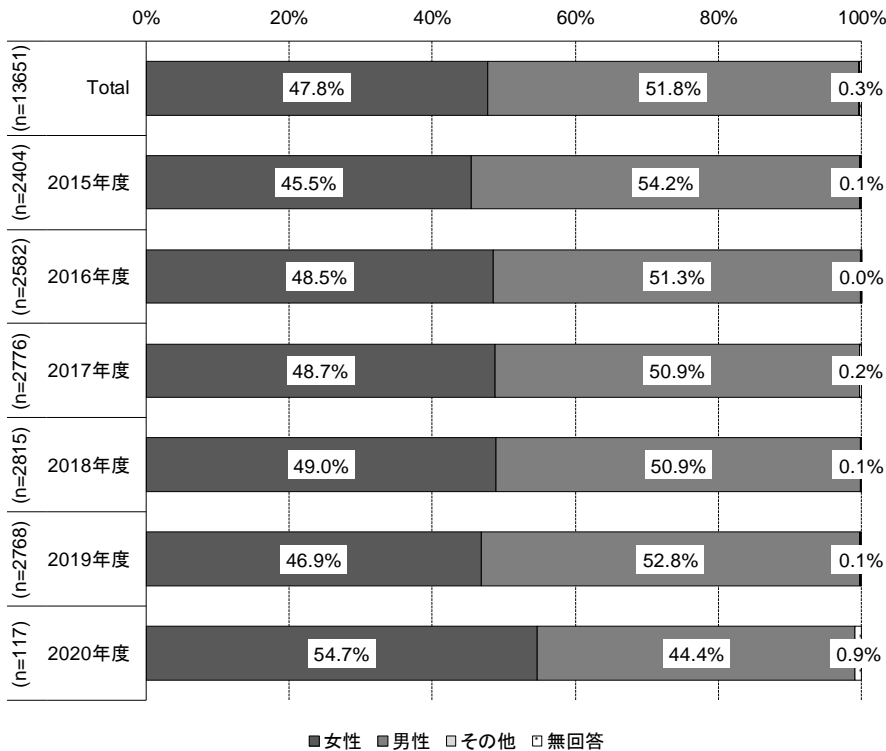
図表 158 性別



図表 159 性別（施設等の種類別）



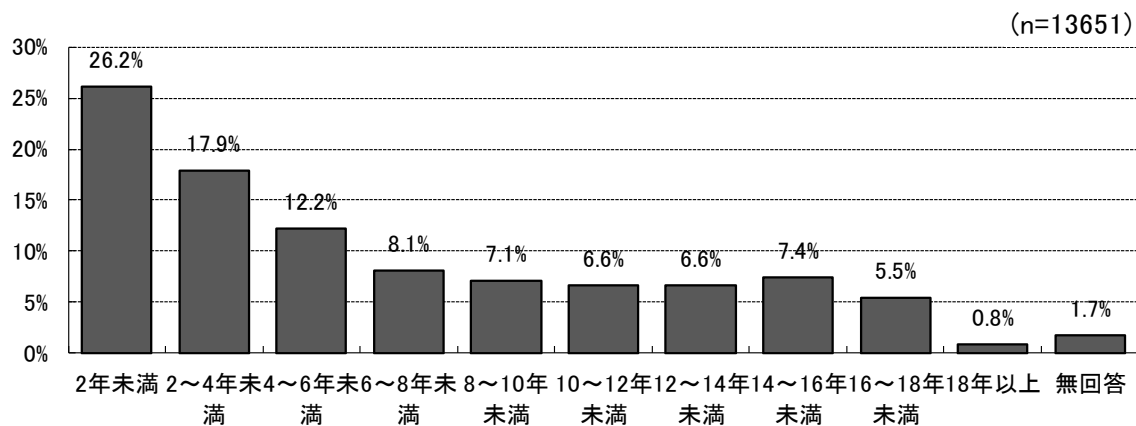
図表 160 性別（退所年度別）



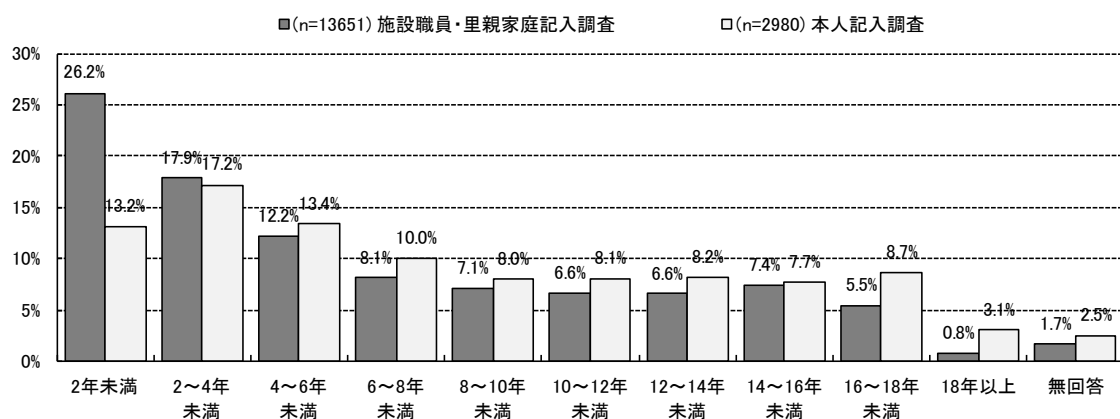
② 里親家庭・施設で過ごした期間

里親家庭・施設で過ごした期間は「2年未満」の割合が26.2%で最も高く、次いで「2～4年未満」が17.9%、「4～6年未満」が12.2%と続いている。

図表 161 里親家庭・施設で過ごした期間



【参考：本人記入調査との比較】里親家庭・施設で過ごした期間

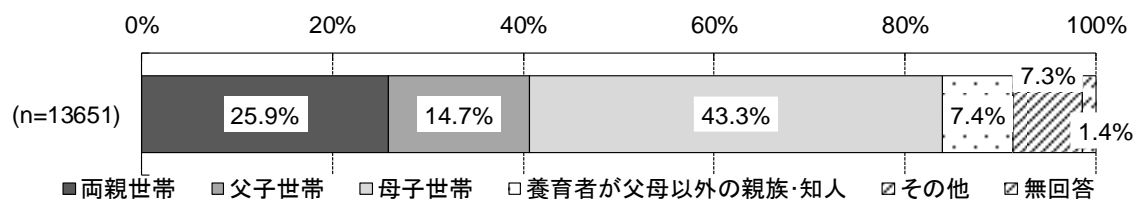


(3) 措置時点の状況

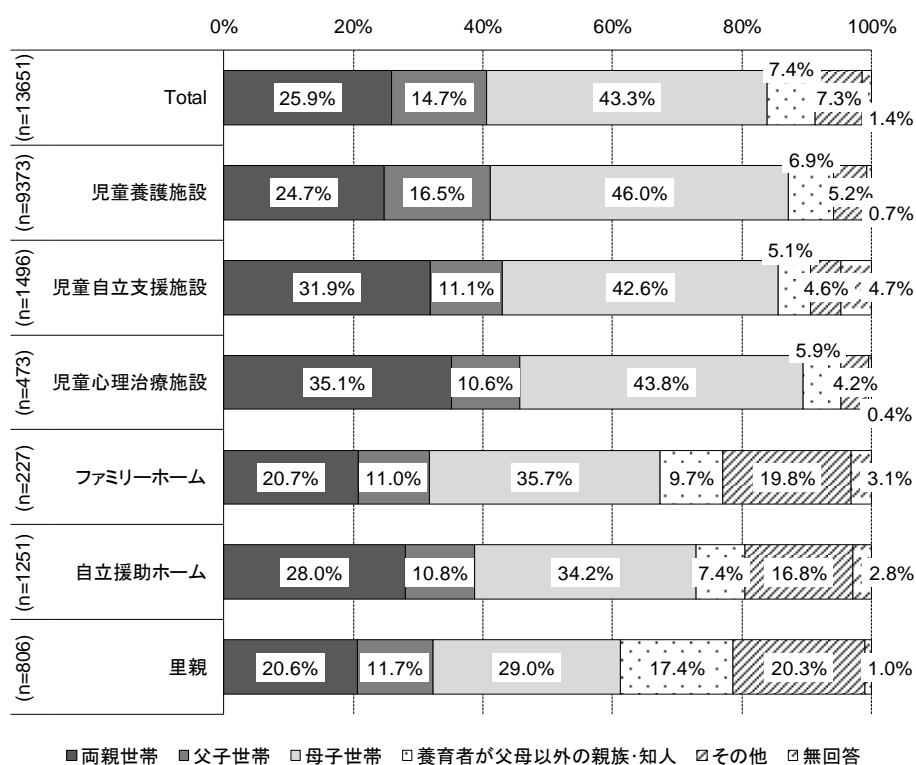
① 養育者

措置時点の養育者をみると、「母子世帯」の割合が43.3%と最も高く、次いで「両親世帯」が25.9%、「父子世帯」が14.7%となっている。

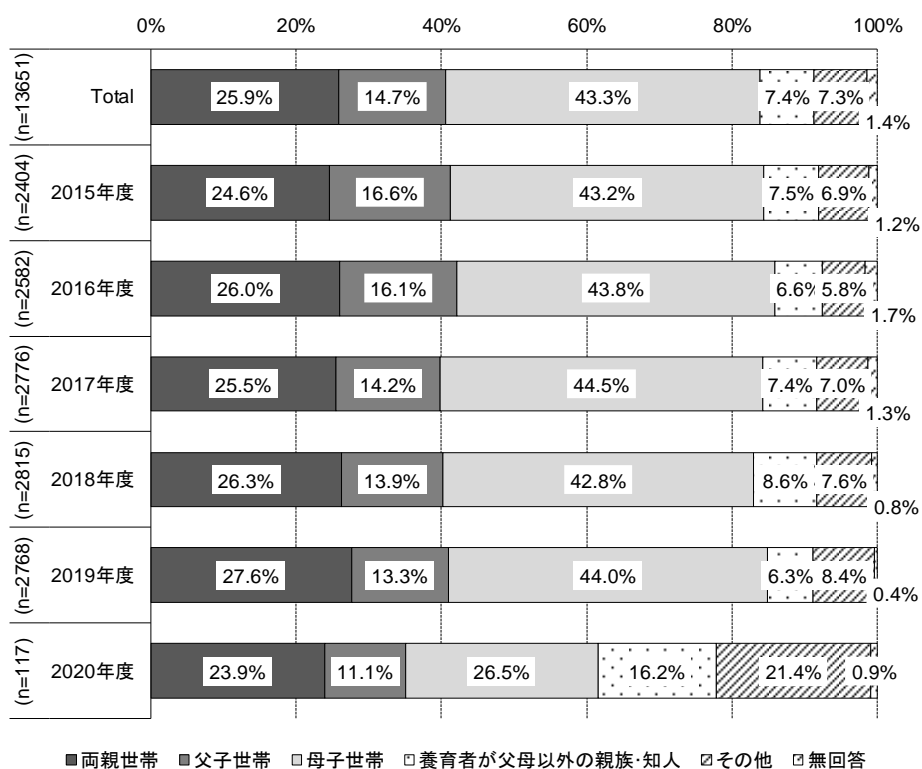
図表 162 措置時点の養育者



図表 163 措置時点の養育者（施設等の種類別）



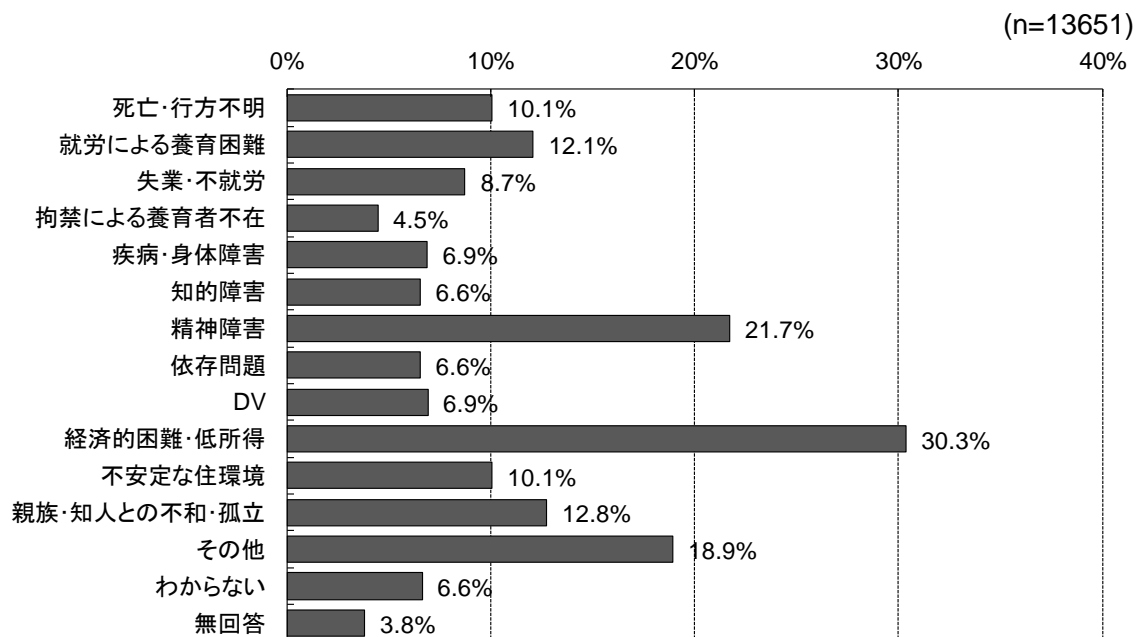
図表 164 措置時点の養育者（退所年度別）



② 主な養育者の状況

措置時点の主な養育者の状況としては、「経済的困難・低所得」の割合が 30.3%で最も高く、次いで「精神障害」が 21.7%となっている。「その他」の割合も 18.9%と比較的高くなっている。

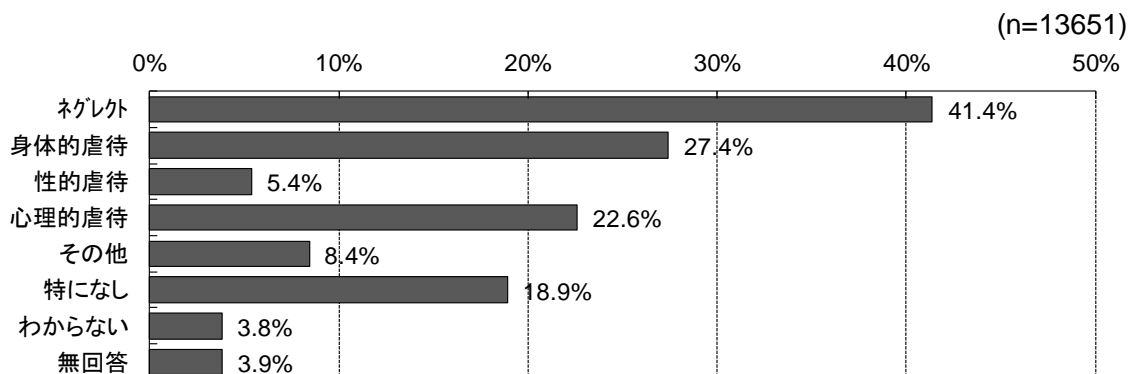
図表 165 措置時点の主な養育者の状況（複数回答）



③ 被虐待経験

措置解除者等の被虐待経験をみると、「ネグレクト」が 41.4%、「身体的虐待」が 27.4%、「心理的虐待」が 22.6%となっている。

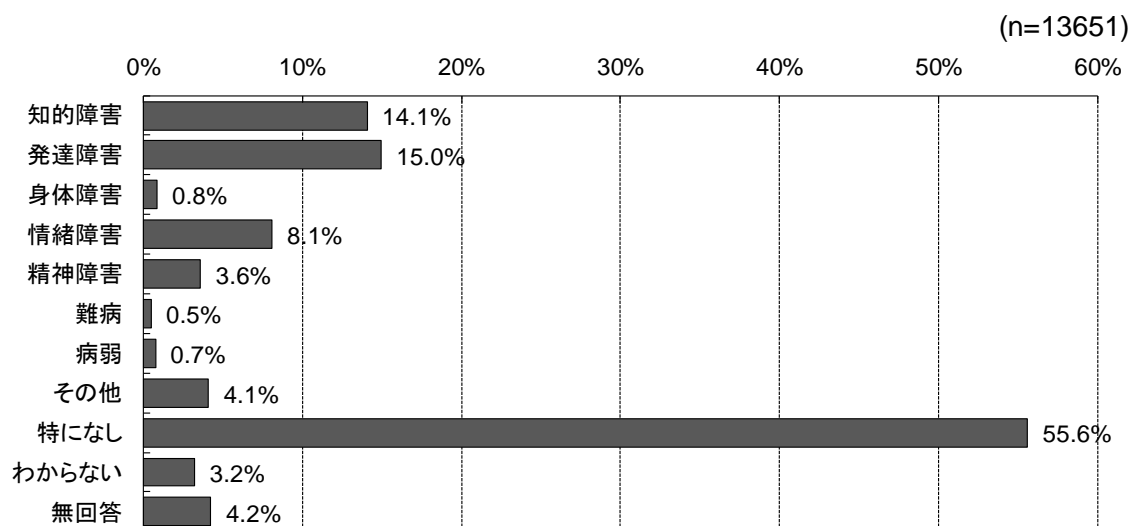
図表 166 被虐待経験（複数回答）



④ 障害等の状況

措置解除者等の障害等の状況としては、「特になし」が 55.6%と半数を超える割合になっている。

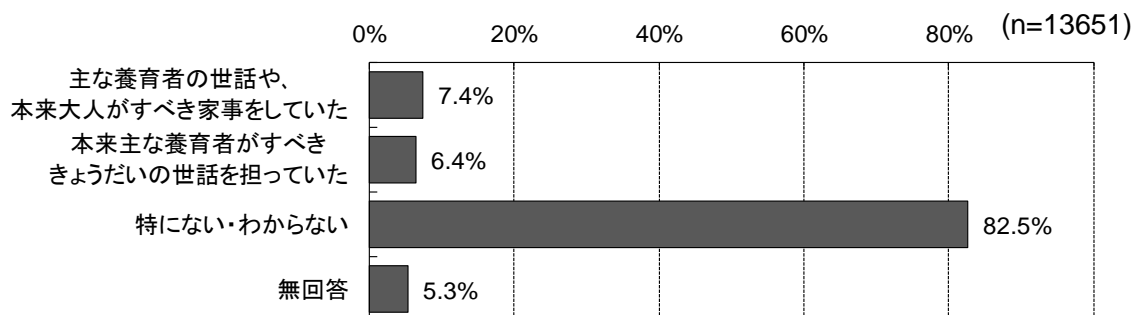
図表 167 障害等の状況（複数回答）



⑤ ケアラーとしての役割

措置解除者等が措置時点の状況として、ケアラーとしての役割を有しているかについてたずねると、「特になし・わからない」との回答割合が 82.5%と高い。一方で、「主な養育者の世話や、本来大人がすべき家事をこなしていた」が 7.4%、「本来主な養育者がすべききょうだいの世話を担っていた」が 6.4%で、一定の割合がいる。

図表 168 子どものケアラーとしての役割（複数回答）

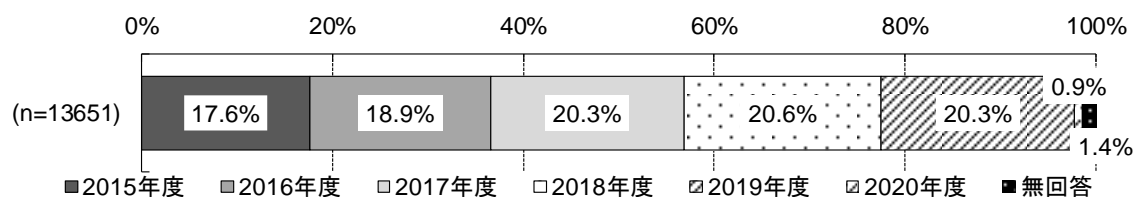


(4) 措置解除時の状況

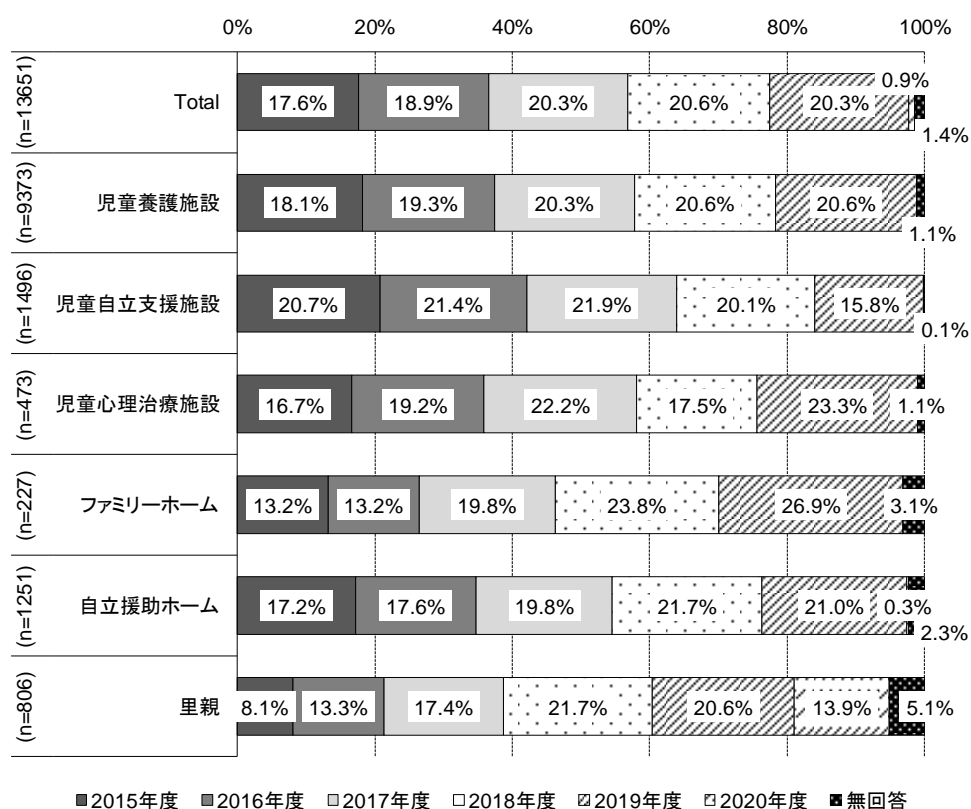
① 措置解除年度

調査対象者である措置解除者等の措置解除年度は、「2015年」が17.6%、「2016年」が18.9%、「2017年」が20.3%、「2018年」が20.6%、「2019年」が20.3%で、「2020年度」は0.9%となっている。

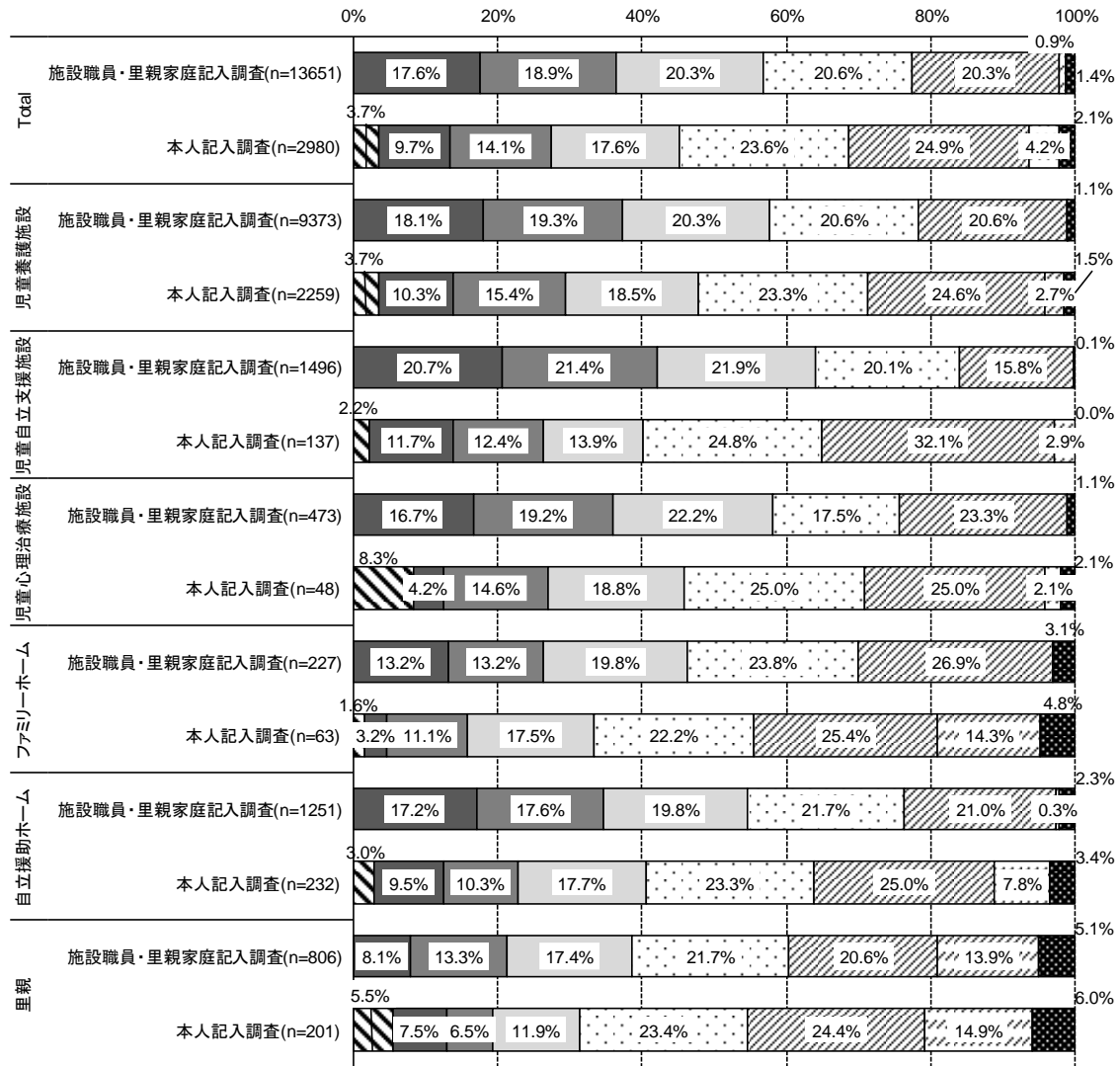
図表 169 措置解除年度



図表 170 措置解除年度（施設等の種類別）



【参考：本人記入調査との比較】措置解除年度（施設等の種類別）

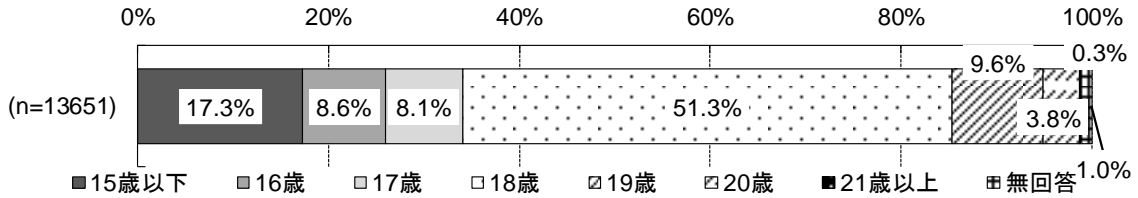


■ 2014年度以前 ■ 2015年度 ■ 2016年度 □ 2017年度 □ 2018年度 □ 2019年度 □ 2020年度 ■ 無回答

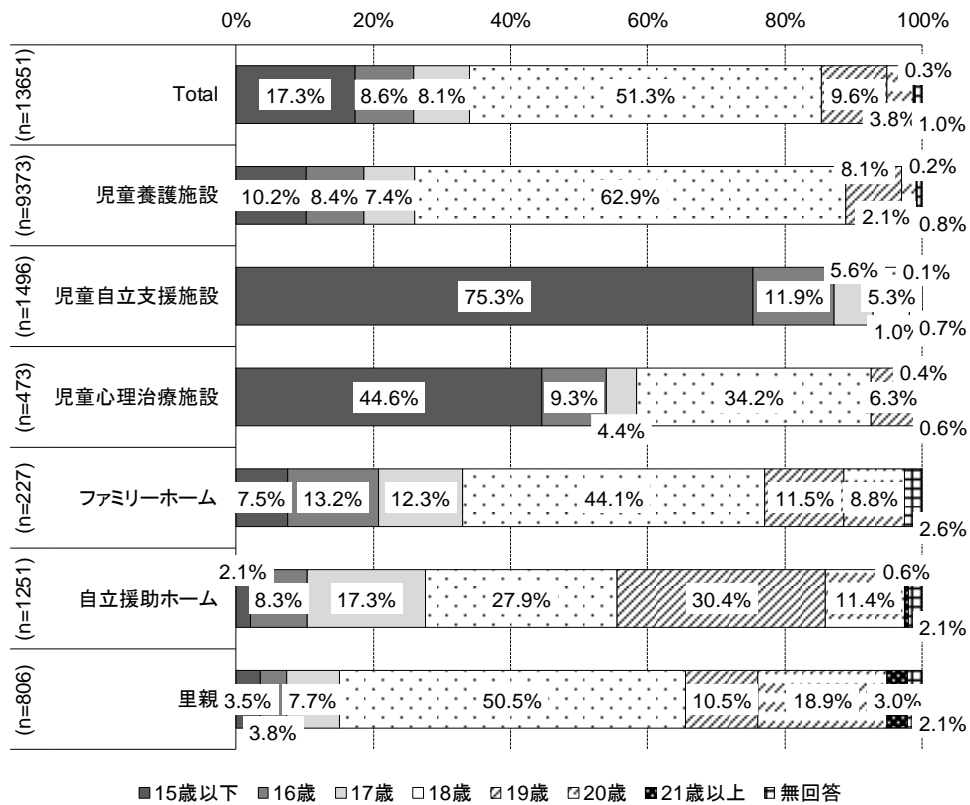
② 年齢

措置解除時の年齢をみると、「18歳」が51.3%と約半数の割合を占めており、次いで「15歳以下」が17.3%、「19歳」が9.6%となっている。

図表 171 措置解除時の年齢



図表 172 措置解除時の年齢（施設等の種類別）

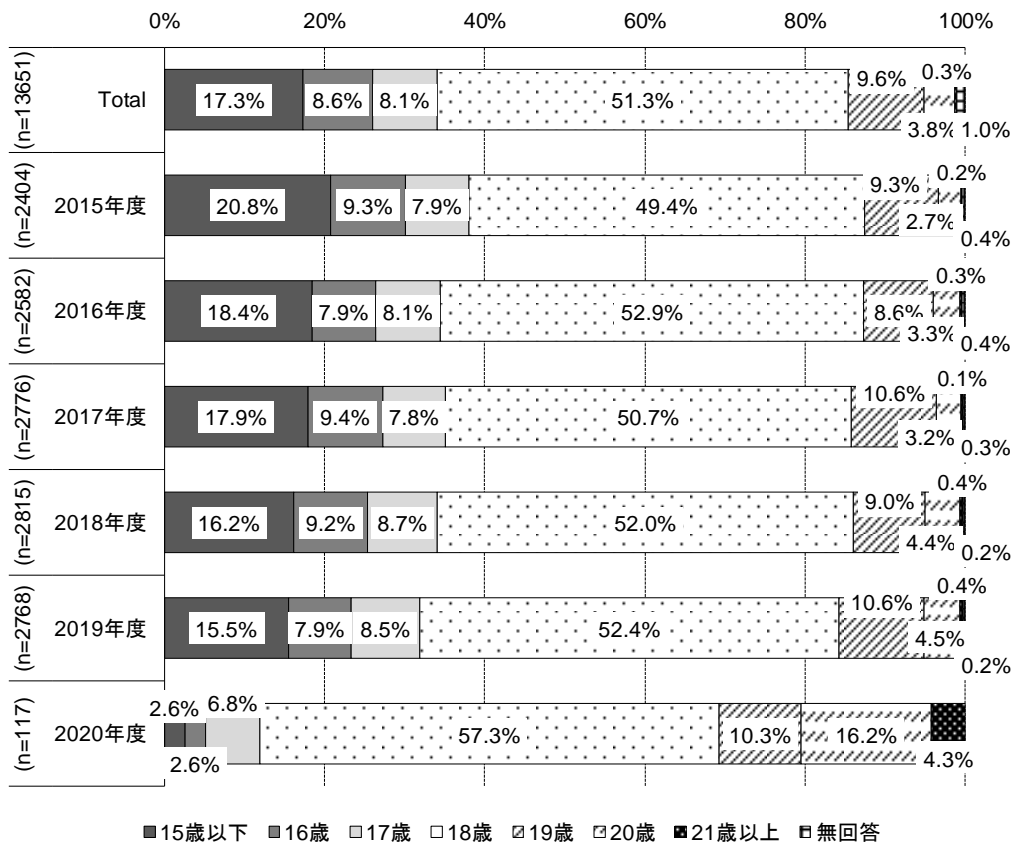


【参考：本人記入調査との比較】措置解除年度（施設等の種類別）

	Total		児童養護施設		児童自立支援施設		児童心理治療施設	
	施設職員・里親 家庭記入調査	本人記入調査	施設職員・里親 家庭記入調査	本人記入調査	施設職員・里親 家庭記入調査	本人記入調査	施設職員・里親 家庭記入調査	本人記入調査
	(n=13651)	(n=2980)	(n=9373)	(n=2259)	(n=1496)	(n=137)	(n=473)	(n=48)
15歳以下	17.3%	8.0%	10.2%	6.1%	75.3%	46.0%	44.6%	35.4%
16歳	8.6%	4.2%	8.4%	3.6%	11.9%	16.1%	9.3%	8.3%
17歳	8.1%	5.8%	7.4%	5.3%	5.6%	7.3%	4.4%	10.4%
18歳	51.3%	60.0%	62.9%	69.5%	5.3%	15.3%	34.2%	37.5%
19歳	9.6%	10.4%	8.1%	8.3%	1.0%	8.0%	6.3%	4.2%
20歳	3.8%	7.0%	2.1%	4.6%	0.1%	5.8%	0.4%	2.1%
21歳以上	0.3%	2.1%	0.2%	0.6%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%
無回答	1.0%	2.6%	0.8%	2.1%	0.7%	0.7%	0.6%	2.1%

	ファミリーホーム		自立援助ホーム		里親	
	施設職員・里親 家庭記入調査	本人記入調査	施設職員・里親 家庭記入調査	本人記入調査	施設職員・里親 家庭記入調査	本人記入調査
	(n=227)	(n=63)	(n=1251)	(n=232)	(n=806)	(n=201)
15歳以下	7.5%	7.9%	2.1%	0.9%	3.5%	5.0%
16歳	13.2%	6.3%	8.3%	3.9%	3.8%	2.0%
17歳	12.3%	1.6%	17.3%	12.1%	7.7%	4.0%
18歳	44.1%	42.9%	27.9%	17.7%	50.5%	47.8%
19歳	11.5%	15.9%	30.4%	31.5%	10.5%	10.4%
20歳	8.8%	19.0%	11.4%	22.0%	18.9%	14.4%
21歳以上	0.0%	4.8%	0.6%	9.5%	3.0%	9.0%
無回答	2.6%	1.6%	2.1%	2.6%	2.1%	7.5%

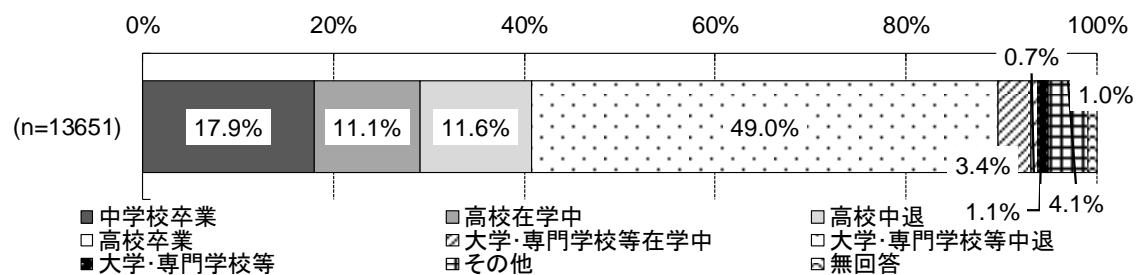
図表 173 措置解除時の年齢（退所年度別）



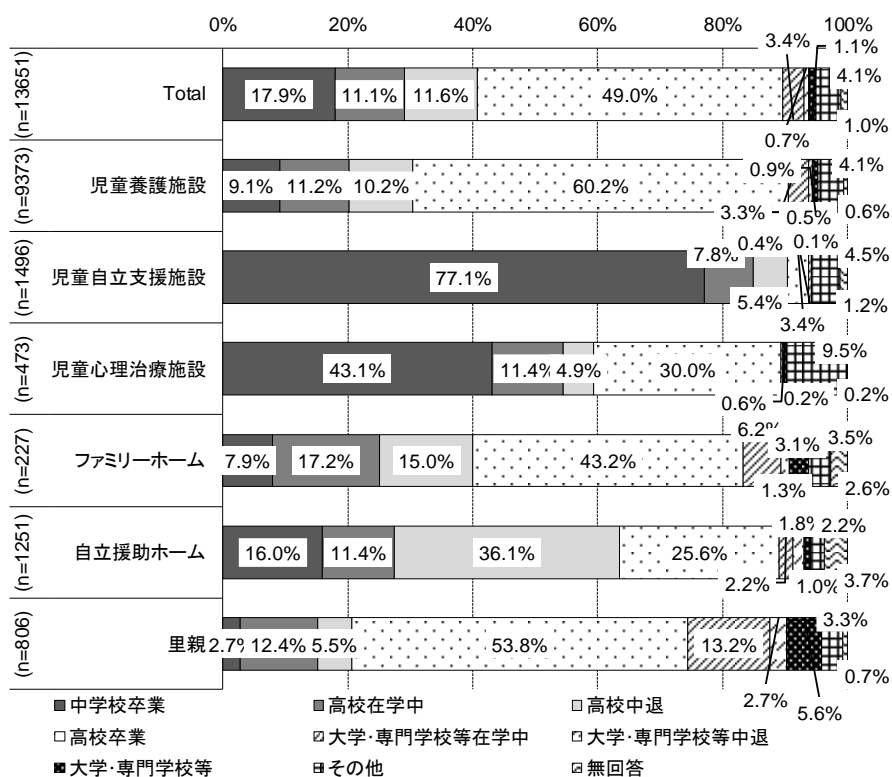
③ 学歴

措置解除時の学歴としては、「高校卒業」の割合が49.0%と最も高く、「中学校卒業」も17.9%と比較的高い。

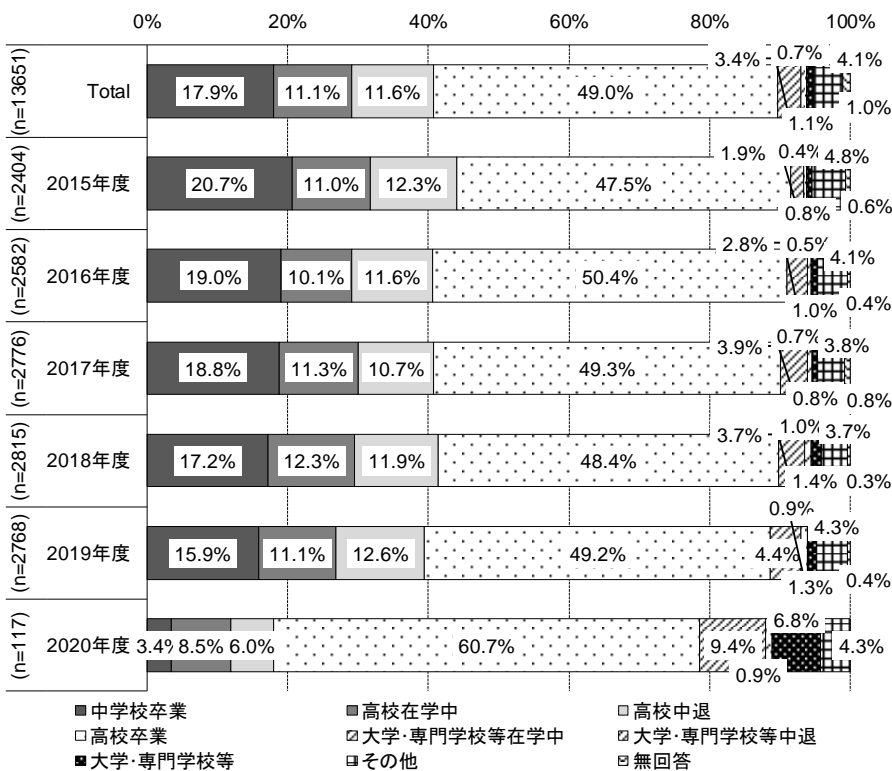
図表 174 措置解除時の学歴



図表 175 措置解除時の学歴（施設等の種類別）



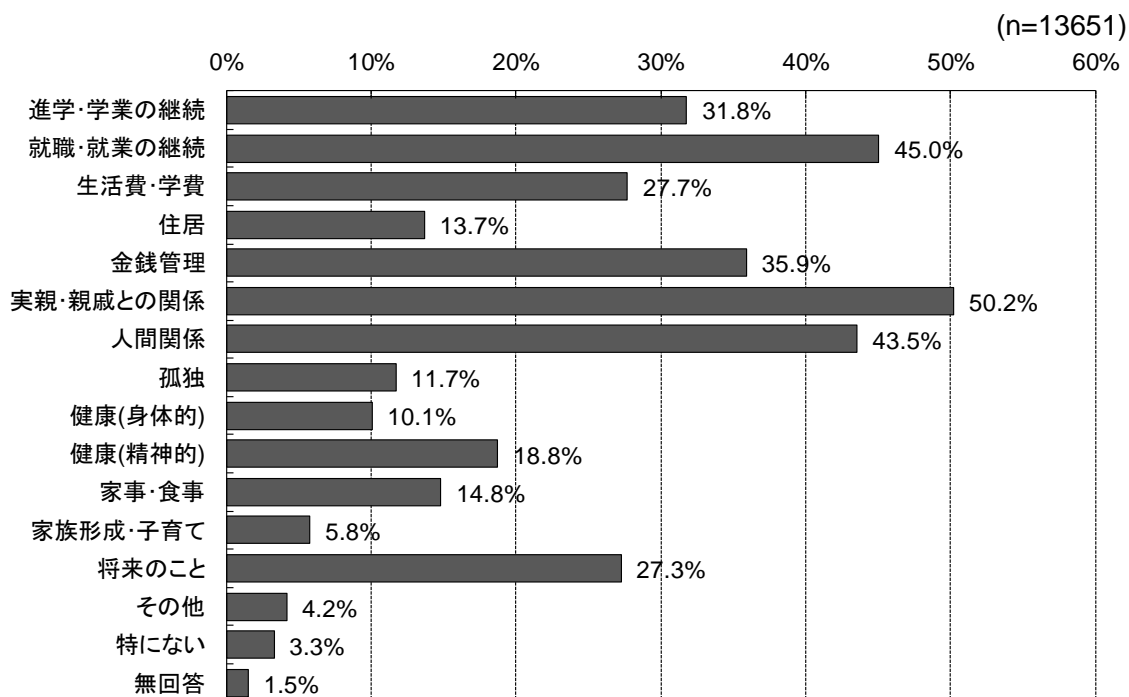
図表 176 措置解除時の学歴（退所年度別）



④ 施設職員・里親家庭が心配していたこと

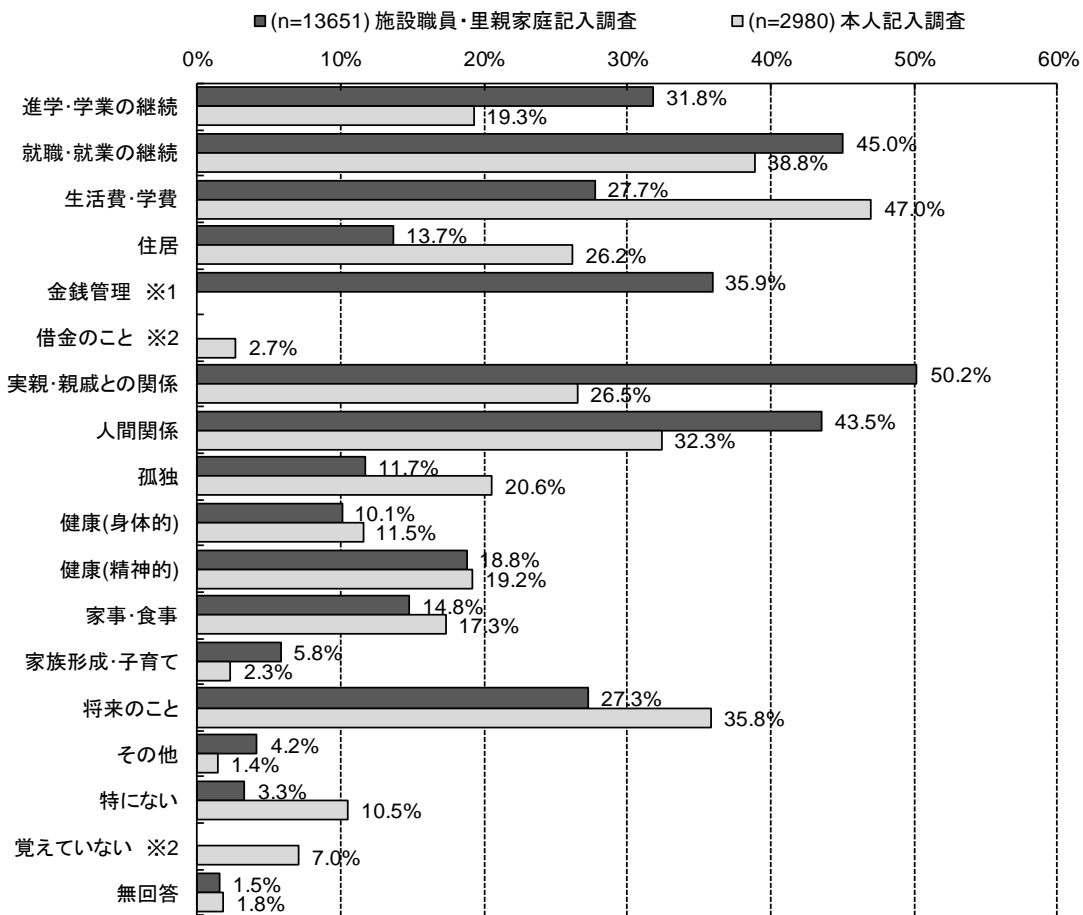
措置解除時に施設職員・里親家庭がどのような面での困難を心配していたかをみると、「実親・親戚との関係」が50.2%、「就職・就業の継続」が45.0%、「人間関係」が43.5%と、比較的高くなっている。その一方、「特にない」との回答は3.3%である。

図表 177 措置解除時に施設職員・里親家庭が心配していたこと（複数回答）



(注) 「その他」として、「問題行動の再発」、「本人の性格面での特性」、「不登校の経験」、「一人暮らしをすること」、「家族が抱えている課題の影響」、「知的な能力」、「対人コミュニケーション」、「異性との関係」、「精神的安定性」といった回答があった。

【参考：本人記入調査との比較】措置解除時に施設職員・里親家庭が心配していたこと（複数回答）

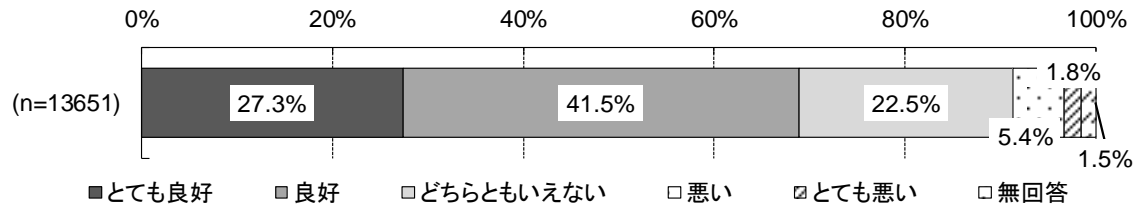


(注) 「※1」「※2」を付した選択肢は、それぞれ施設職員・里親家庭記入調査、本人記入調査のみ設けた。

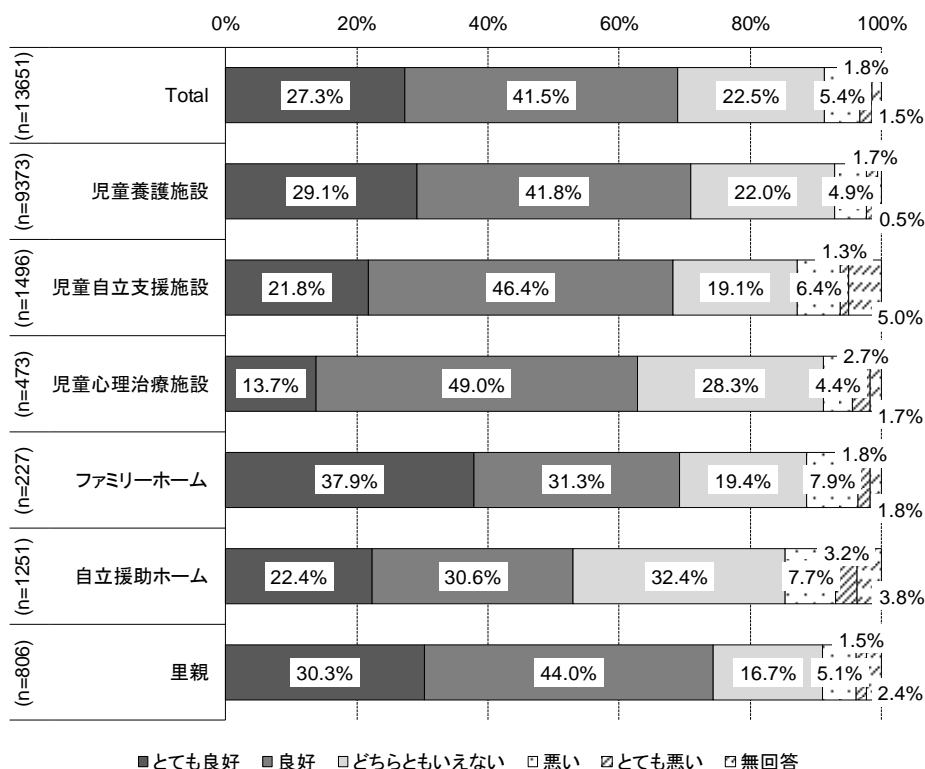
⑤ 施設職員・里親家庭との関係性

措置解除時の施設職員・里親家庭との関係性としては、「とても良好」(27.3%)と「良好」(41.5%)の合計(68.9%)が大きな割合を占めている一方、「悪い」(5.4%)と「とても悪い」(1.8%)の合計は7.2%にとどまっている。

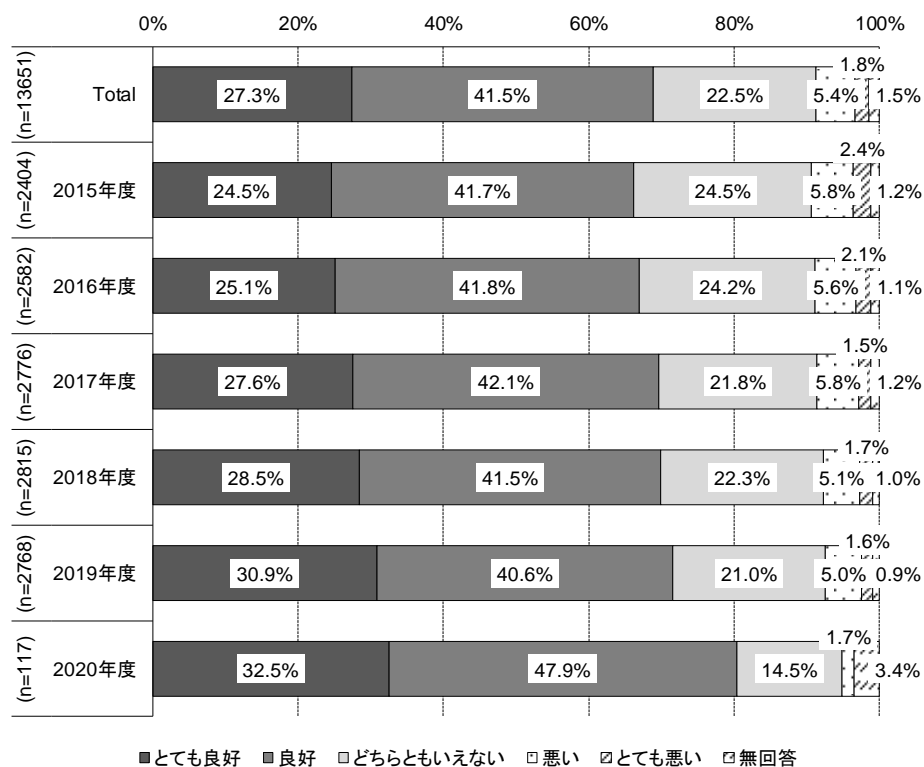
図表 178 措置解除時の施設職員・里親家庭との関係性



図表 179 措置解除時の施設職員・里親家庭との関係性（施設等の種類別）



図表 180 措置解除時の施設職員・里親家庭との関係性（退所年度別）

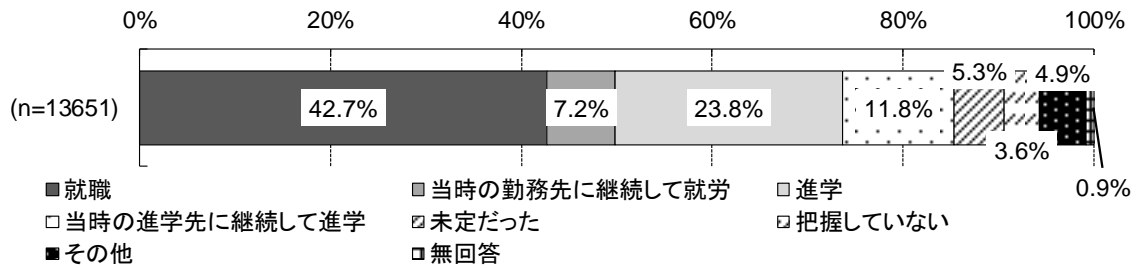


(5) 措置解除後の状況

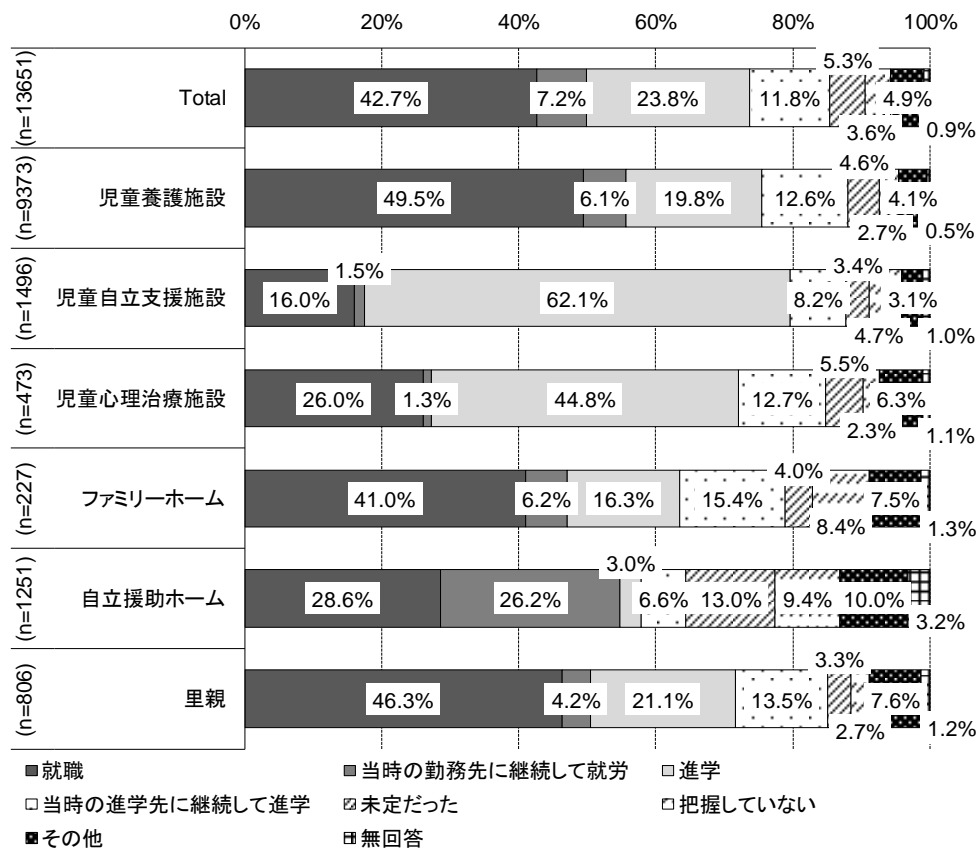
① 進路

措置解除者等の措置解除後の進路をみると、「就職」の割合が 42.7%と最も高い。次いで、「進学」が 23.8%、「当時の進学先に継続して進学」が 11.8%となっている。

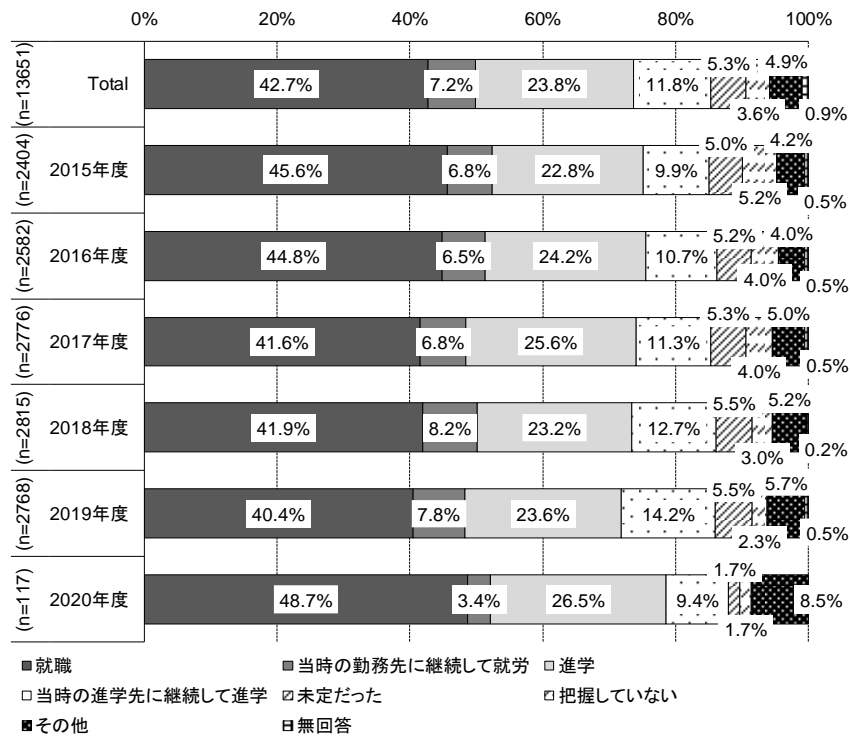
図表 181 措置解除後の進路



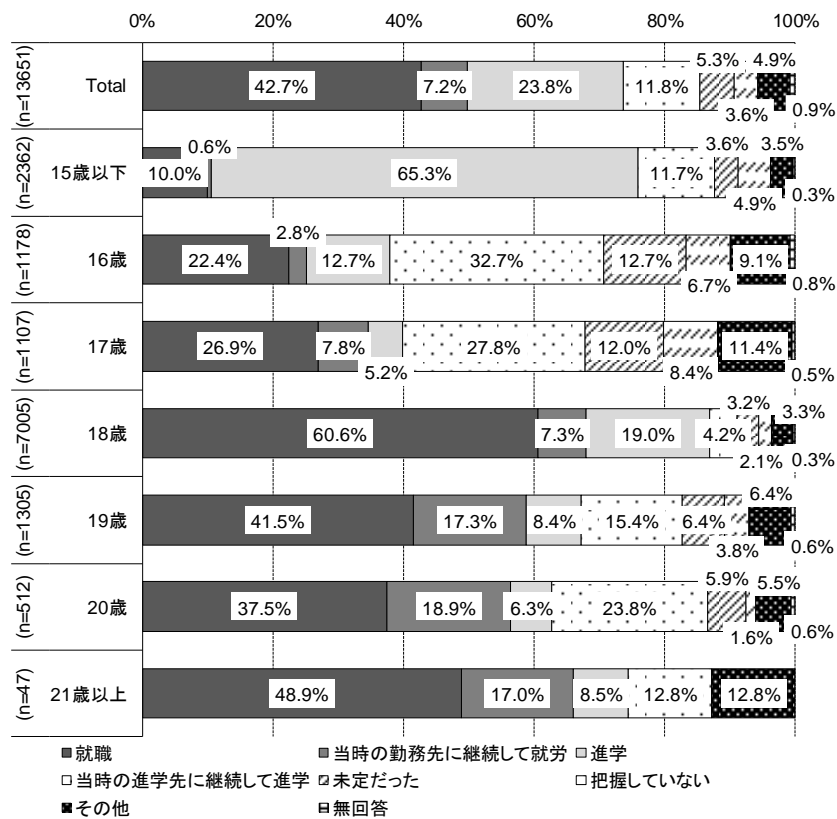
図表 182 措置解除後の進路（施設等の種類別）



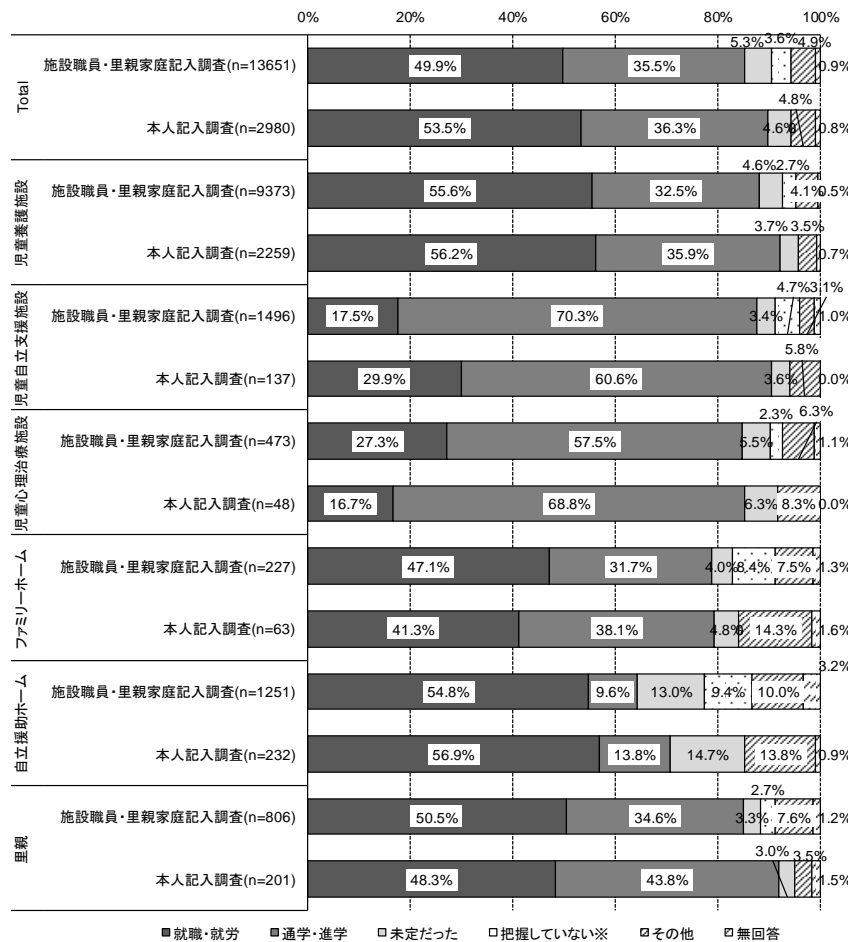
図表 183 措置解除後の進路（退所年度別）



図表 184 措置解除後の進路（措置解除時年齢別）



【参考：本人記入調査との比較】措置解除後の進路（施設等の種類別）

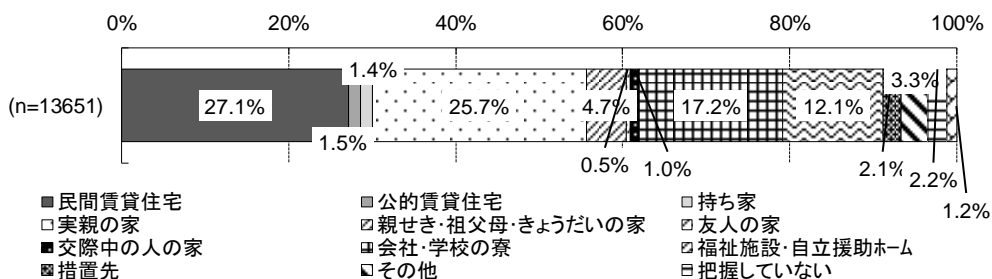


(注1) 「就職」「当時働いていた職場に引き続き就労」の回答を合わせて「就職・就労」、「進学」「当時通っていた学校に引き続き進学」の回答を合わせて「進学・通学」とした。
 (注2) 「※」を付した選択肢は、施設職員・里親家庭記入調査のみ設けた。

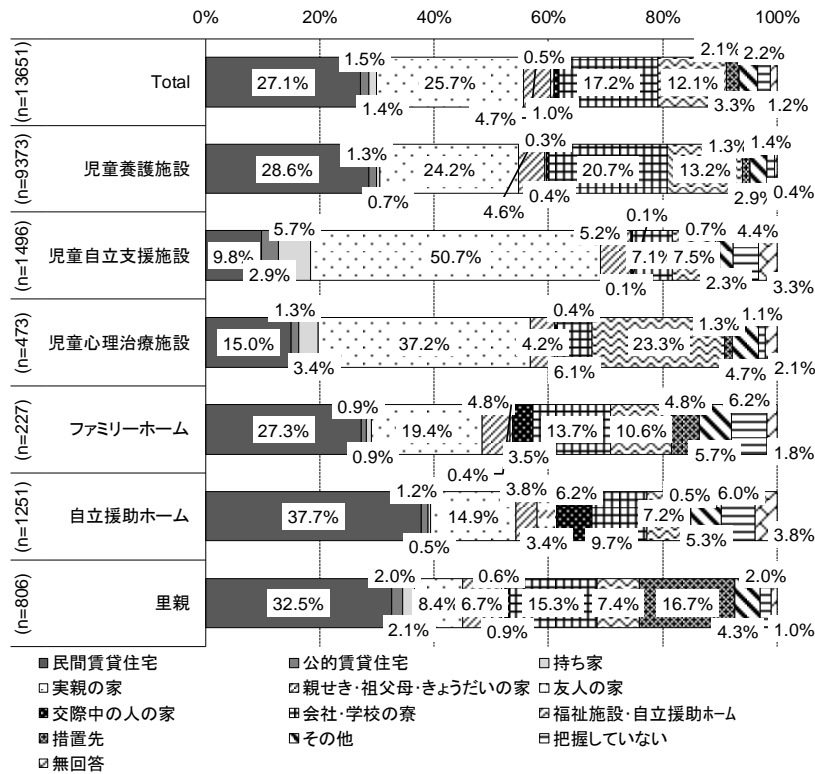
② 住まい

措置解除後の住まいとしては、「民間賃貸住宅」の割合が 27.1%であり、「実親の家」も 25.7%と同程度の割合を占めている。また、「会社・学校の寮」が 17.2%、「福祉施設・自立援助ホーム」が 12.1%と続いている。

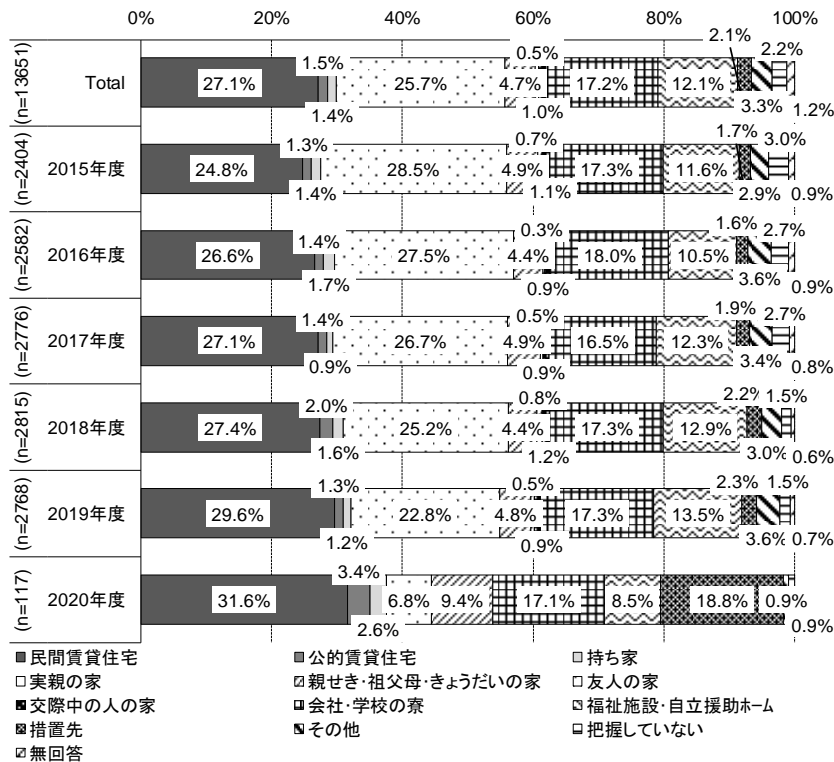
図表 185 措置解除後の住まい



図表 186 措置解除後の住まい（施設等の種類別）



図表 187 措置解除後の住まい（退所年度別）



【参考：本人記入調査との比較】措置解除後の住まい（施設の種別別）

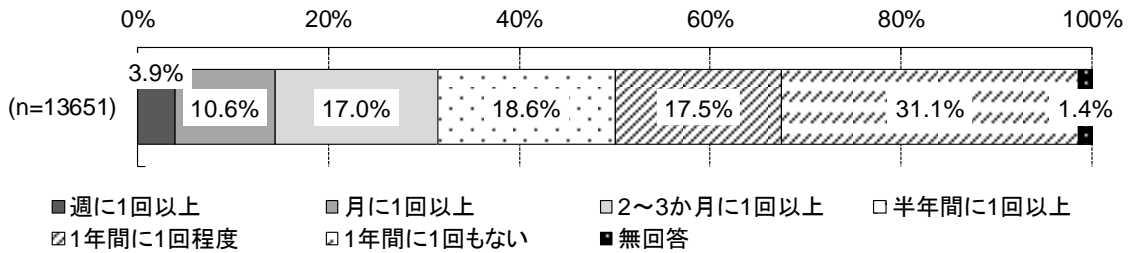
		民間賃貸住宅	公的賃貸住宅	持ち家	実親の家	親せき・祖父母・きょうだいの家	友人の家	交際中の人の家	会社・学校の寮	福祉施設・自立援助ホーム	措置先	その他	把握していない	無回答
Total	施設職員・里親家庭記入調査 (n=13651)	27.1%	1.5%	1.4%	25.7%	4.7%	0.5%	1.0%	17.2%	12.1%	2.1%	3.3%	2.2%	1.2%
	本人記入調査 (n=2980)	41.9%	1.8%	1.1%	17.3%	3.8%	0.4%	1.4%	19.1%	8.6%	-	3.6%	-	1.0%
児童養護施設	施設職員・里親家庭記入調査 (n=9373)	28.6%	1.3%	0.7%	24.2%	4.6%	0.3%	0.4%	20.7%	13.2%	1.3%	2.9%	1.4%	0.4%
	本人記入調査 (n=2259)	42.0%	1.9%	0.8%	17.0%	4.2%	0.4%	0.6%	21.4%	8.3%	-	2.7%	-	0.8%
児童自立支援施設	施設職員・里親家庭記入調査 (n=1496)	9.8%	2.9%	5.7%	50.7%	5.2%	0.1%	0.1%	7.1%	7.5%	0.7%	2.3%	4.4%	3.3%
	本人記入調査 (n=137)	24.8%	3.6%	1.5%	46.0%	2.2%	0.0%	2.2%	9.5%	6.6%	-	3.6%	-	0.0%
児童心理治療施設	施設職員・里親家庭記入調査 (n=473)	15.0%	1.3%	3.4%	37.2%	4.2%	0.0%	0.4%	6.1%	23.3%	1.3%	4.7%	1.1%	2.1%
	本人記入調査 (n=48)	18.8%	4.2%	2.1%	43.8%	4.2%	0.0%	0.0%	14.6%	12.5%	-	0.0%	-	0.0%
ファミリーホーム	施設職員・里親家庭記入調査 (n=227)	27.3%	0.9%	0.9%	19.4%	4.8%	0.4%	3.5%	13.7%	10.6%	4.8%	5.7%	6.2%	1.8%
	本人記入調査 (n=63)	46.0%	1.6%	0.0%	7.9%	0.0%	0.0%	3.2%	15.9%	14.3%	-	7.9%	-	3.2%
自立援助ホーム	施設職員・里親家庭記入調査 (n=1251)	37.7%	1.2%	0.5%	14.9%	3.8%	3.4%	6.2%	9.7%	7.2%	0.5%	5.3%	6.0%	3.8%
	本人記入調査 (n=232)	57.3%	0.9%	1.7%	8.2%	2.6%	0.9%	7.3%	7.8%	8.6%	-	3.9%	-	0.9%
里親	施設職員・里親家庭記入調査 (n=806)	32.5%	2.0%	2.1%	8.4%	6.7%	0.6%	0.9%	15.3%	7.4%	16.7%	4.3%	2.0%	1.0%
	本人記入調査 (n=201)	42.3%	1.5%	3.5%	7.5%	3.5%	0.5%	2.0%	17.9%	6.0%	-	11.9%	-	3.5%

(6) 回答施設・里親家庭とのつながり

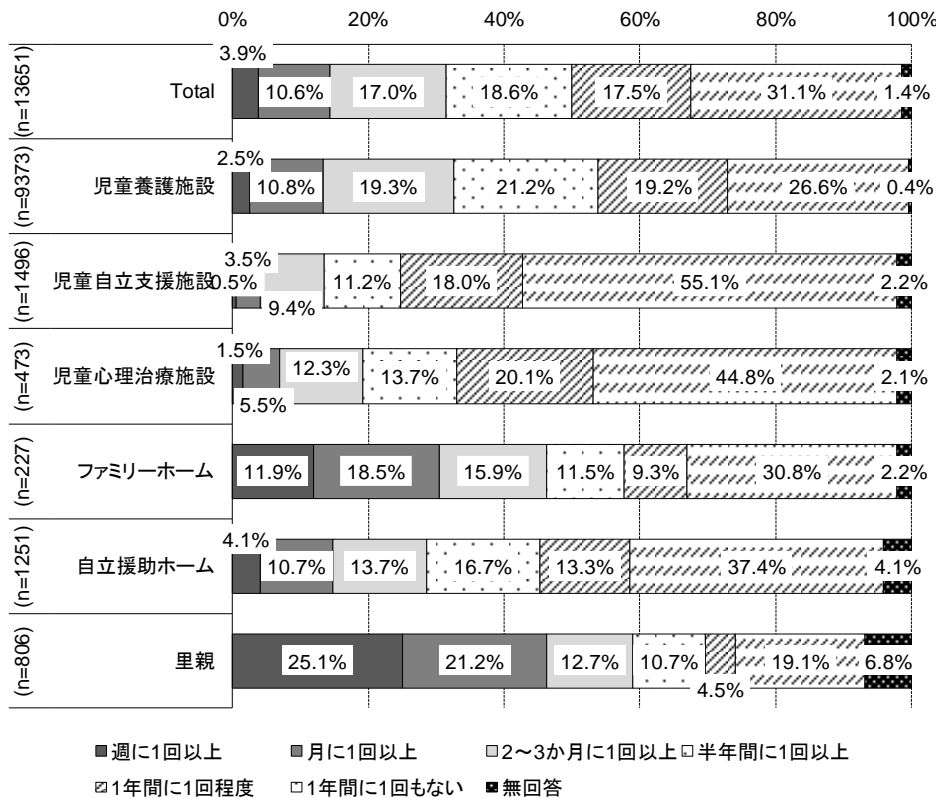
① 措置解除者等との交流頻度

措置解除者等と施設職員・里親家庭との、この1年間での直接の交流は、「1年に1回もない」の割合が31.1%で最も高く、次いで「半年間に1回以上」が18.6%などとなっている。

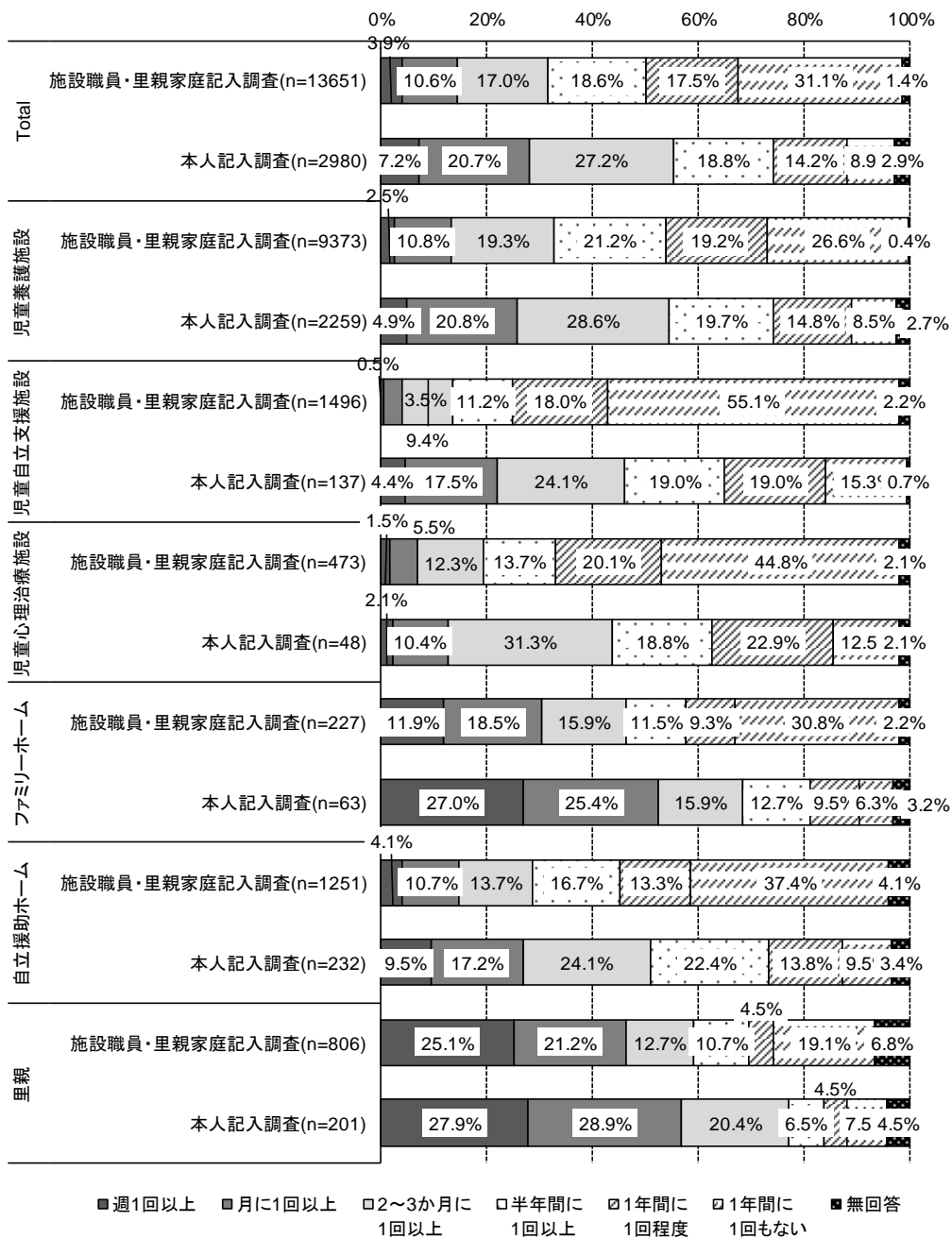
図表 188 措置解除者等との交流頻度



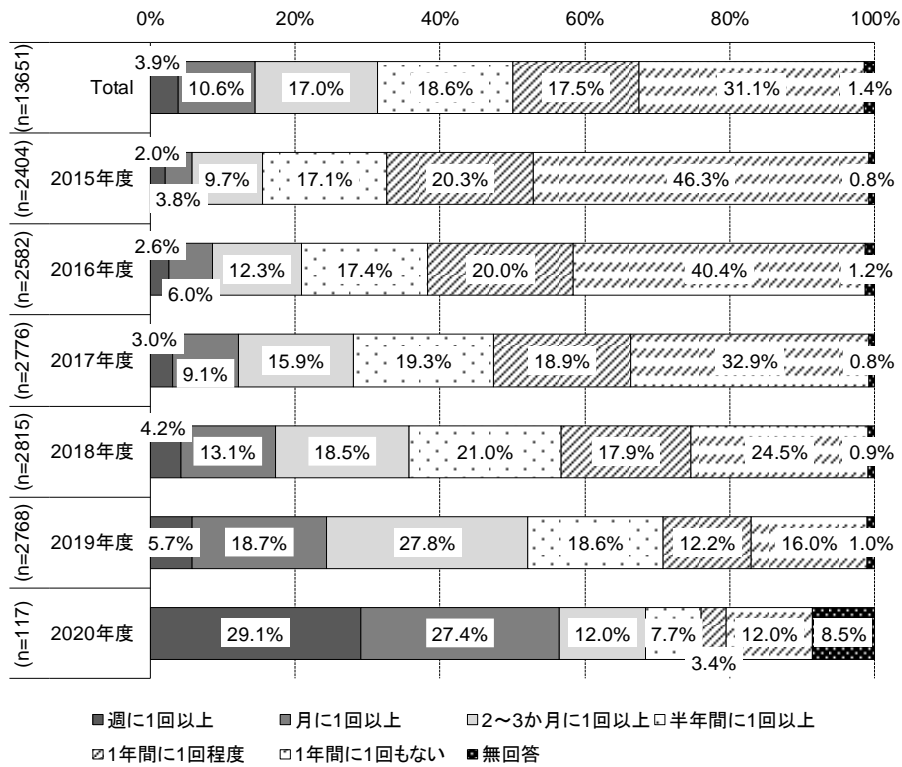
図表 189 措置解除者等との交流頻度（施設等の種類別）



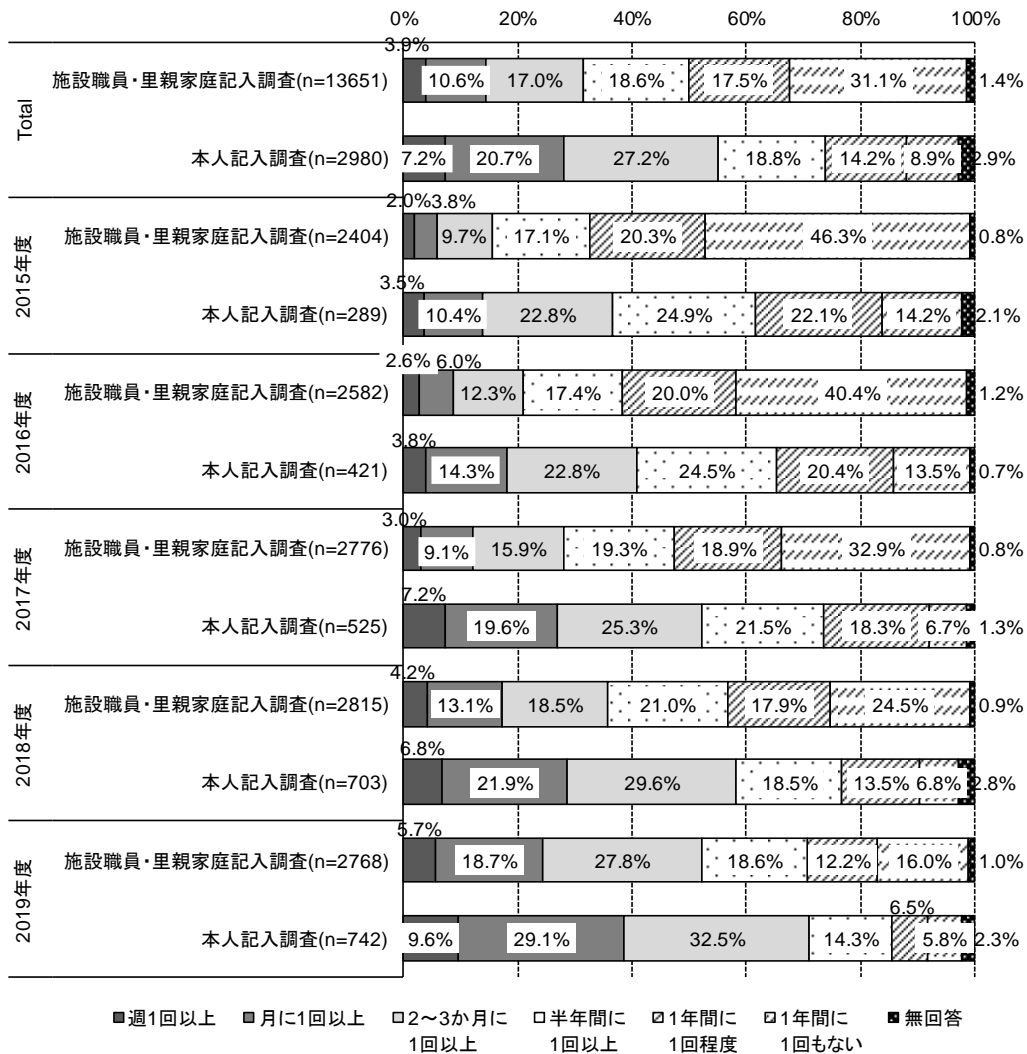
【参考：本人記入調査との比較】措置解除者等との交流頻度（施設等の種類別）



図表 190 措置解除者等との交流頻度（退所年度別）



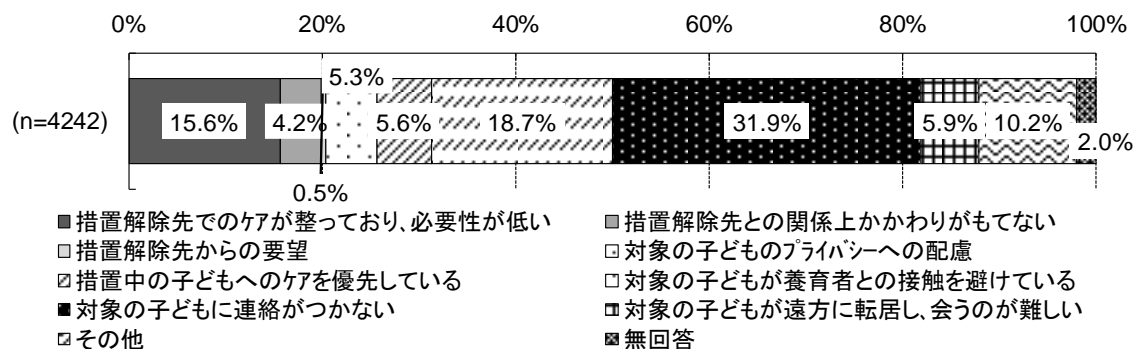
【参考：本人記入調査との比較】措置解除者等との交流頻度（退所年度別）



② 交流のない理由

措置解除者等との交流頻度が「1年間に1回もない」とした回答者に限定して、交流のない理由をたずねたところ、「対象の子どもに連絡がつかない」との回答割合が31.9%で最も高く、次いで「対象の子どもが養育者との接触を避けている」が18.7%、「措置解除先でのケアが整っており、必要性が低い」が15.6%などとなっている。

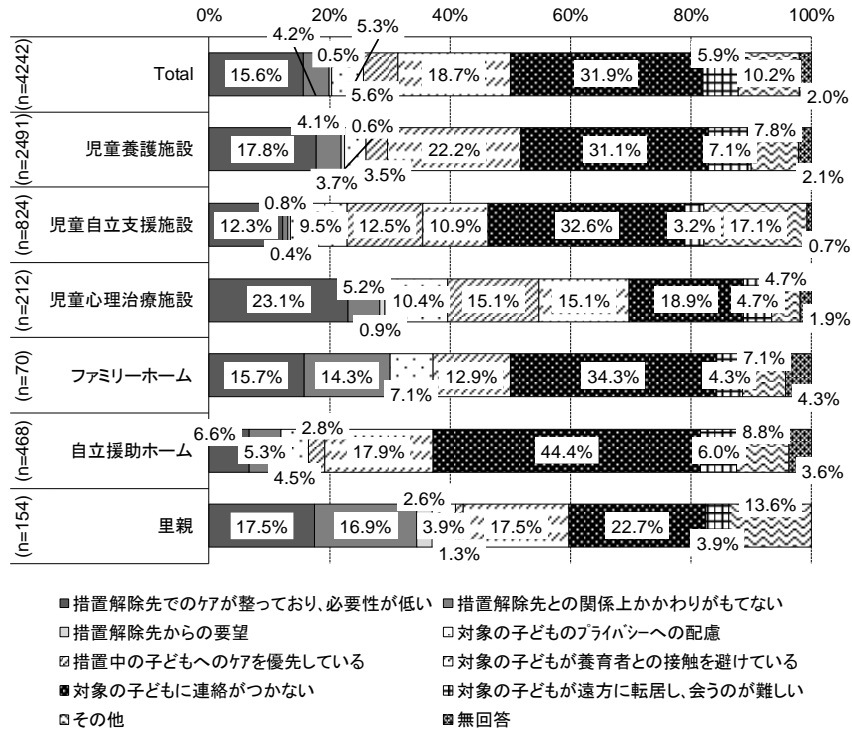
図表 191 措置解除者等と交流のない主な理由



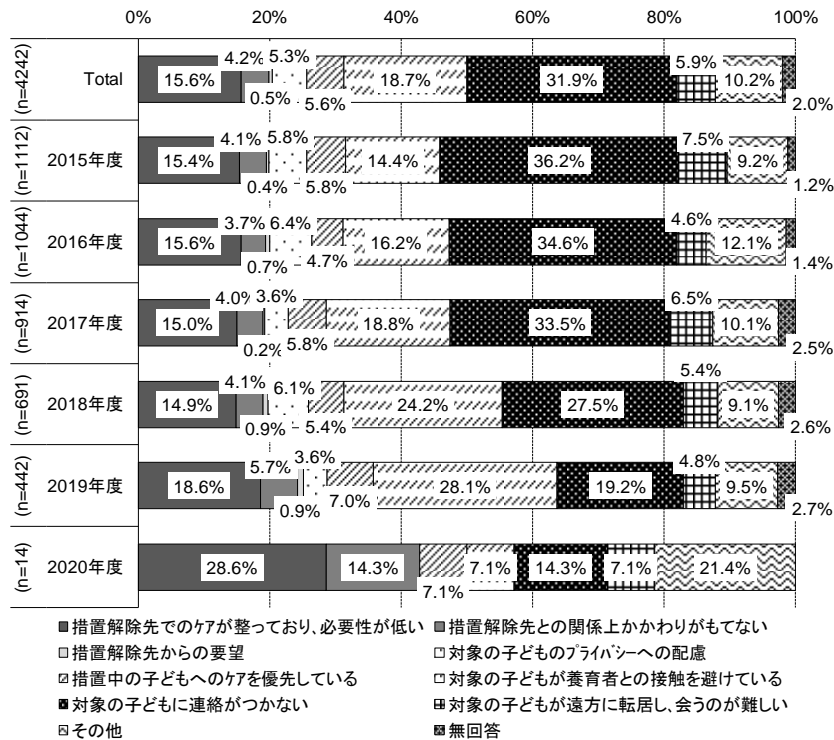
(注1) 「対象の子どもが養育者との接触を避けている」の養育者は、施設職員・里親家庭を指す。

(注2) 「その他」として、「職員が異動した」、「無断外出のまま措置解除となり関係が続いていない」、「措置解除後、相当の年月が経過したため」、「関係を構築するために措置解除となったため」、「アフターケア期間が終了したため」といった回答があった。

図表 192 措置解除者等と交流のない主な理由（施設等の種類別）



図表 193 措置解除者等と交流のない主な理由（退所年度別）



(7) 措置解除者等の生活状況

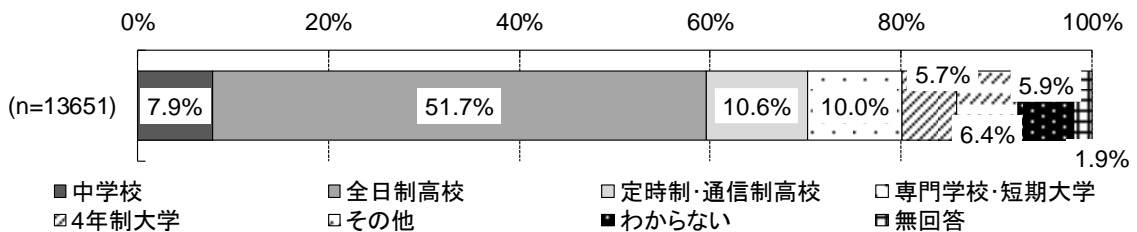
① 最終学歴（最後に通っている学校）

この「最終学歴(最後に通っている学校)」の設問は、「学校の種類」（中学校、全日制高校…）と「卒業等の有無」（在学中、休学、中退、卒業、わからない）という独立した2つの設問で構成しており、例えば「学校の種類」が「全日制高校」だった場合も、その回答の中には後段の「卒業等の有無」の設問において「在学中」や「中退」や「卒業」と回答したものが含まれる。

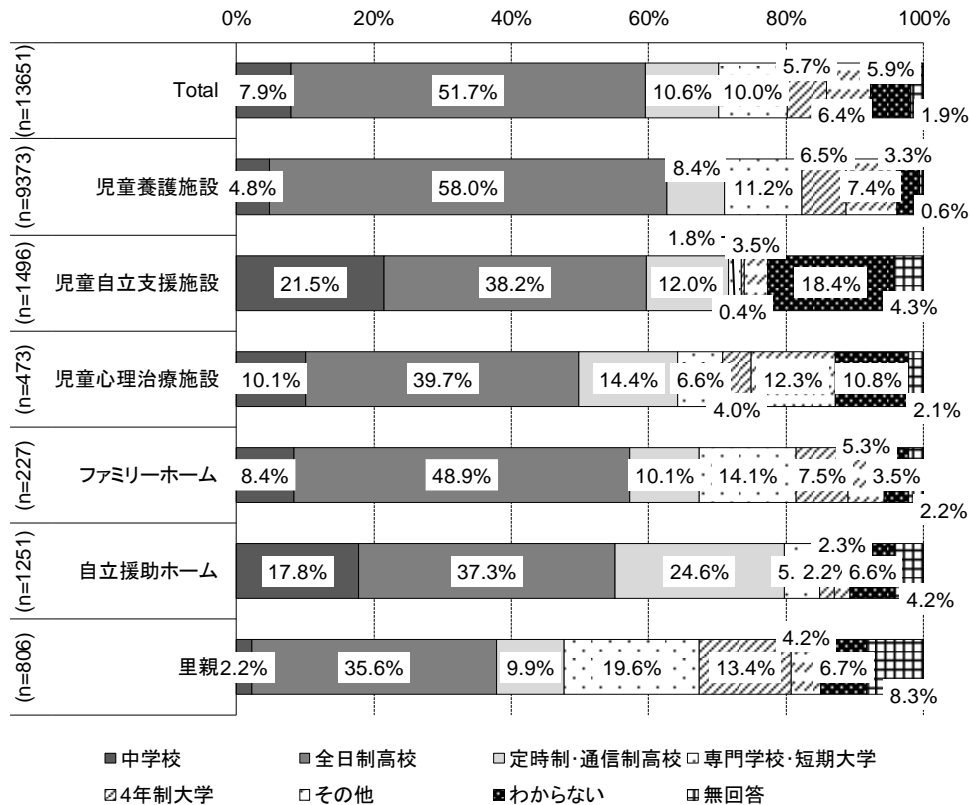
1) 学校の種類

措置解除者等の最終学歴（最後に通っている学校）に関して、学校の種類は「全日制高校」の割合が51.7%と約半数を占めている。

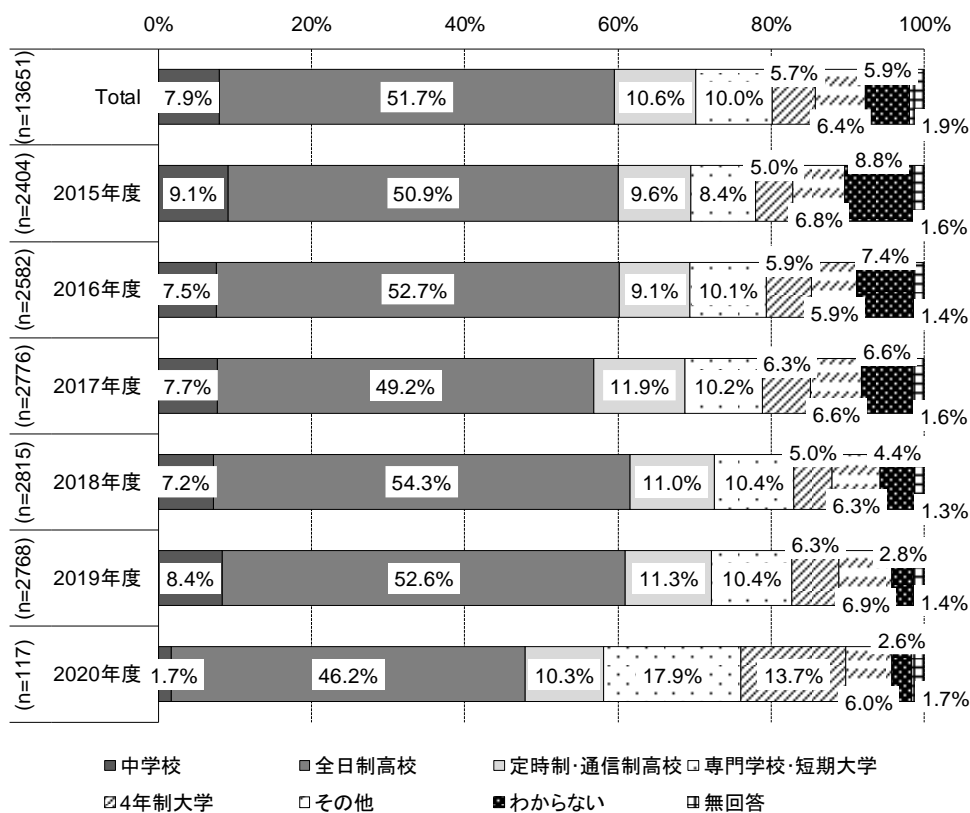
図表 194 最終学歴（最後に通っている学校）_学校の種類



図表 195 最終学歴（最後に通っている学校）_学校の種類（施設等の種類別）



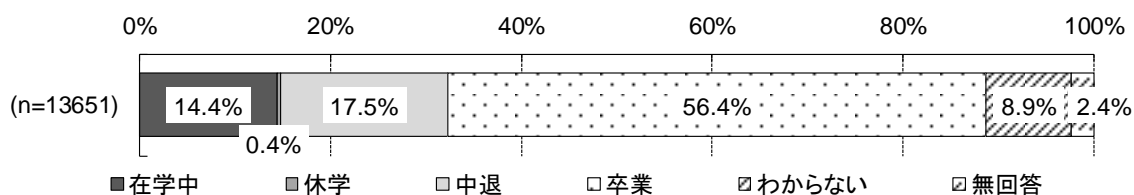
図表 196 最終学歴（最後に通っている学校）_学校の種類（退所年度別）



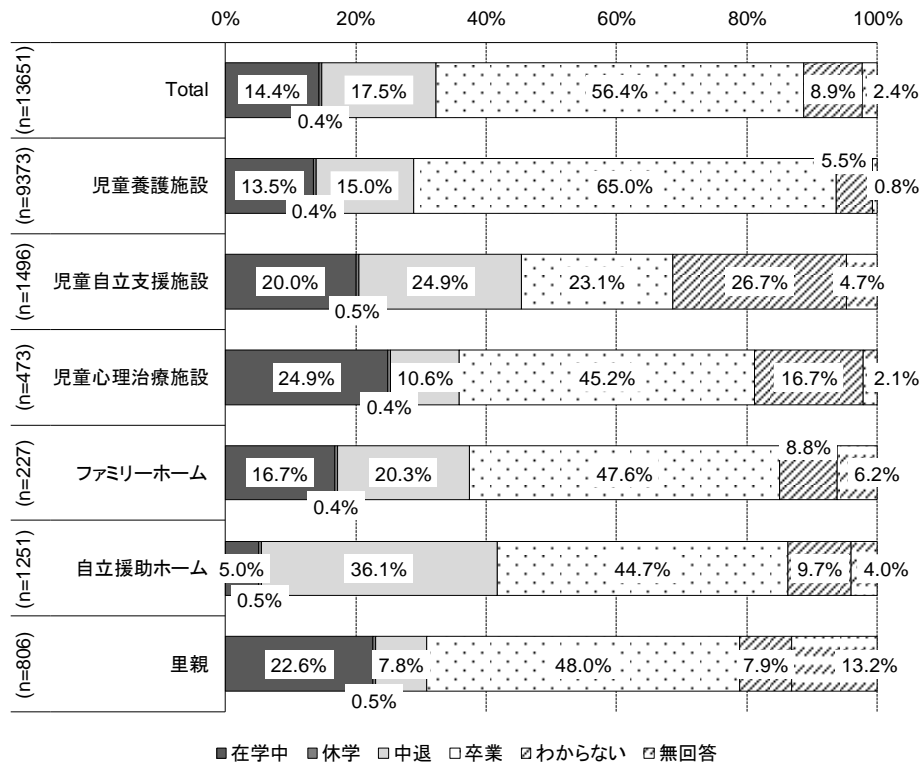
2) 卒業等の状況

措置解除者等の最終学歴となる学校（最後に通っている学校）の卒業等の状況を見ると、「卒業」が56.4%、「中退」が17.5%、「在学中」が14.4%、「休学」が0.4%となっている。また、8.9%が「わからない」としている。

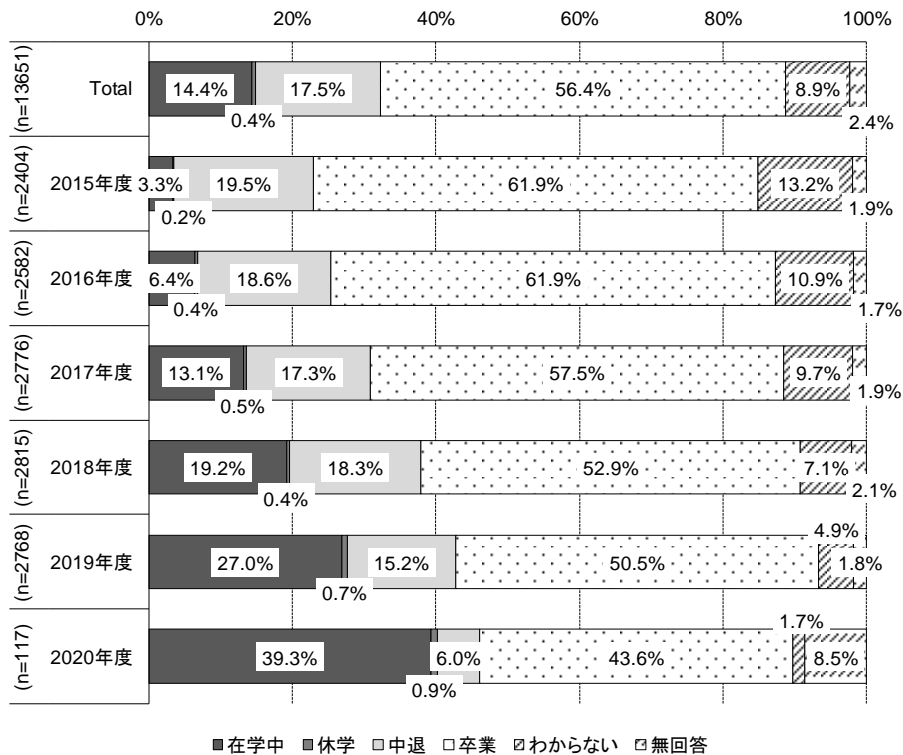
図表 197 最終学歴（最後に通っている学校）_卒業等の状況



図表 198 最終学歴（最後に通っている学校）_卒業等の状況（施設等の種類別）

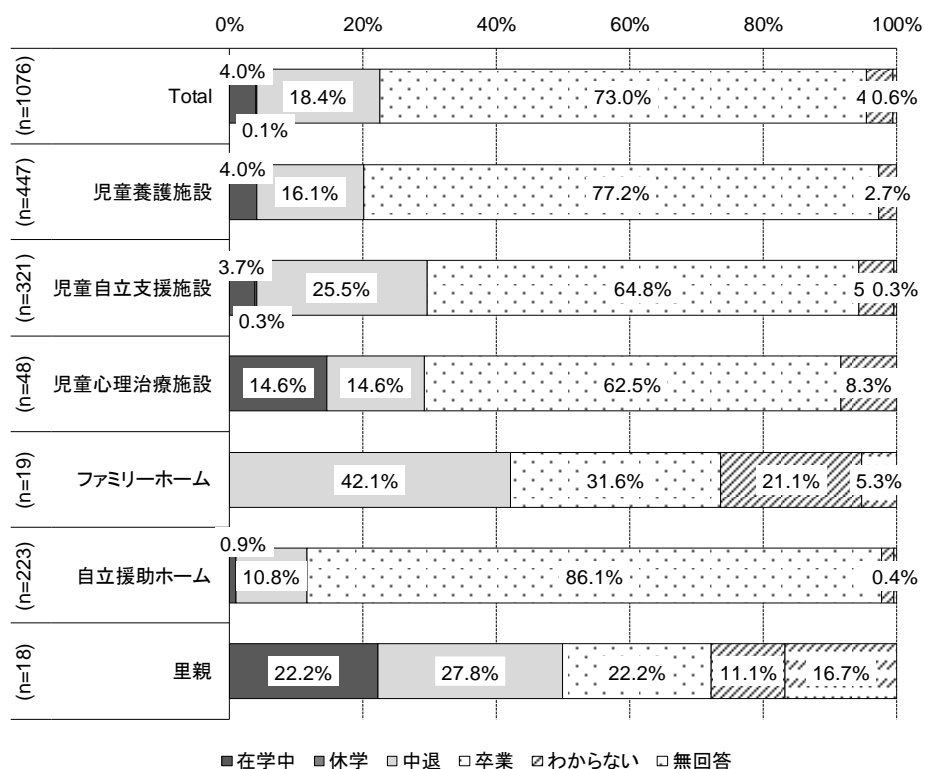


図表 199 最終学歴（最後に通っている学校）_卒業等の状況（退所年度別）



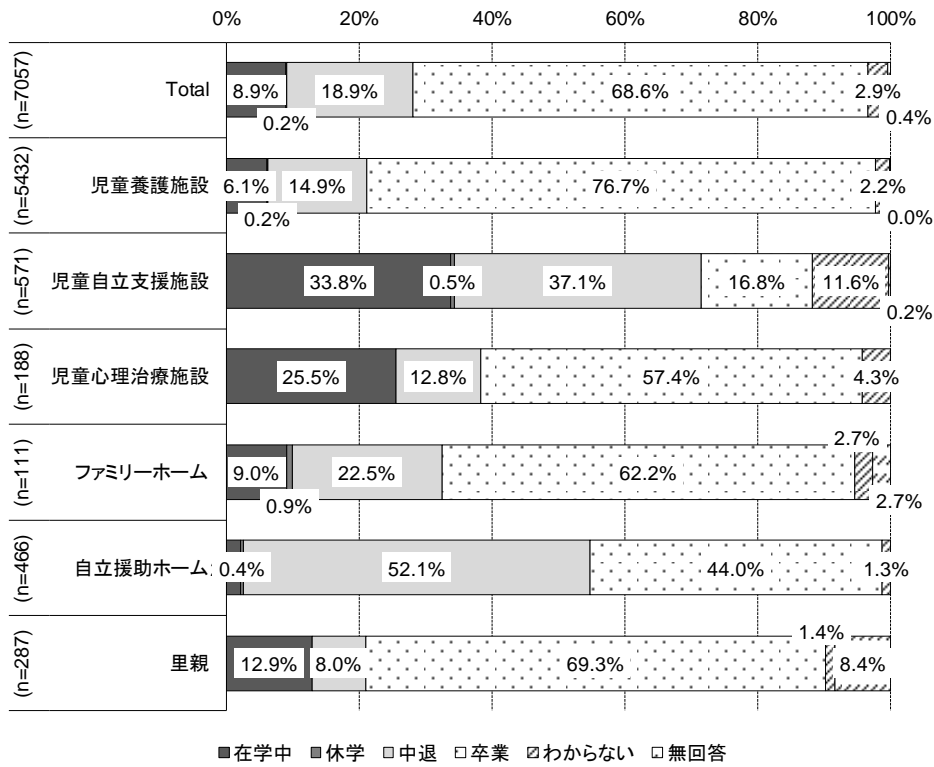
【参考：最終学歴（最後に通っている学校）が「中学校」のみの集計】

最終学歴_卒業等の状況（施設等の種類別）

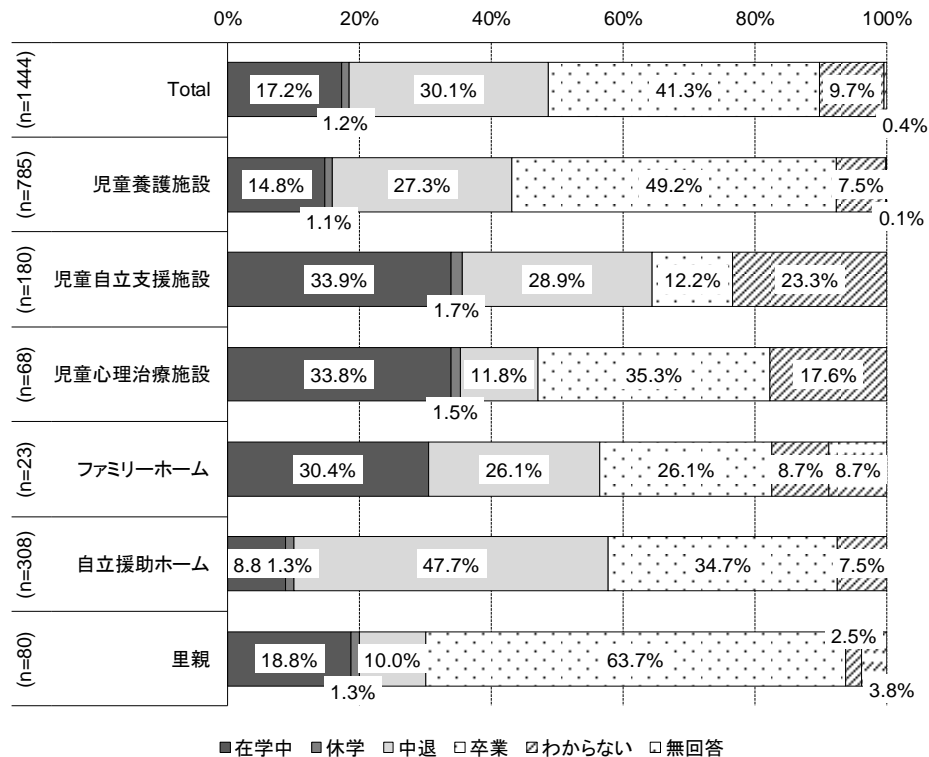


(注) この調査では、最終学歴について「学校の種類」と「卒業等の有無」という2つの設問から尋ねており、「学校の種類」では、最後に通っている学校を選択してもらうことを想定している。調査対象は本来、中学卒業以降で措置解除となった人であるため、最終学歴（最後に通っている学校）が「中学校」で、その卒業等の状況が「在学中」「休学」「中退」であるとの上記の参考図表における回答は、誤記である可能性がある。

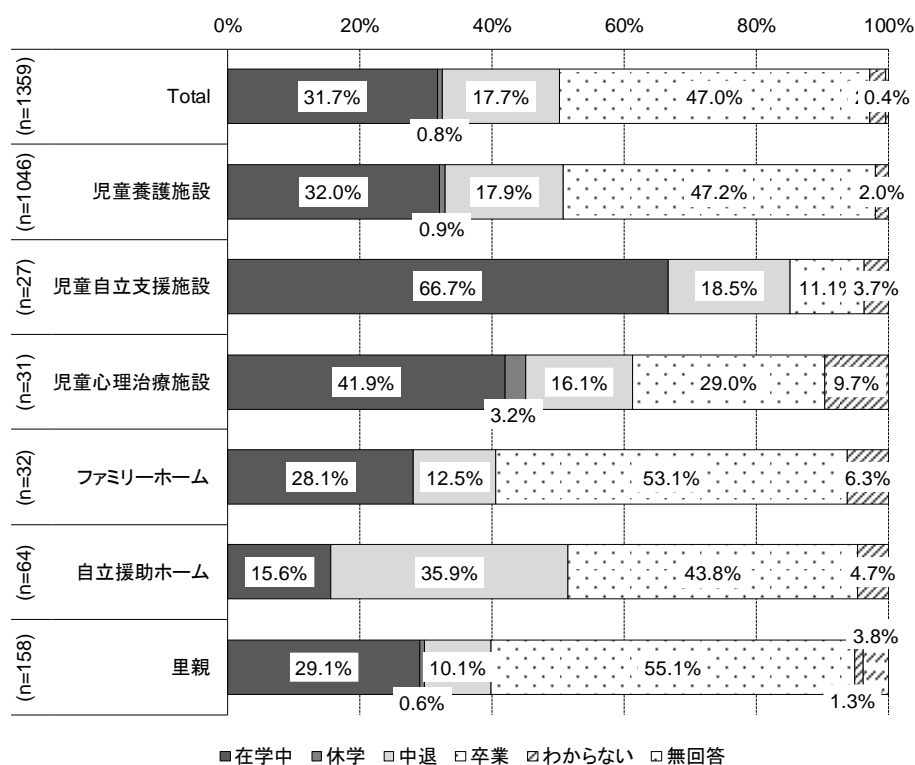
【参考：最終学歴が「全日制高校」のみの集計】最終学歴_卒業等の状況（施設等の種類別）



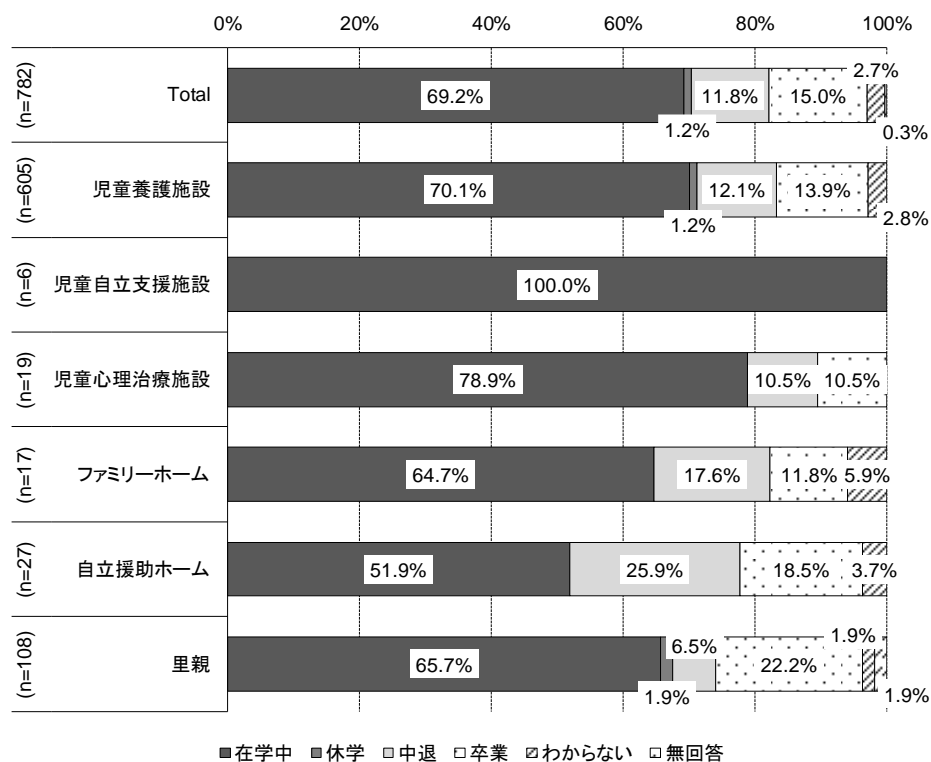
【参考：最終学歴が「定時制・通信制高校」のみの集計】最終学歴_卒業等の状況（施設等の種類別）



【参考：最終学歴が「専門学校・短期大学」のみの集計】最終学歴_卒業等の状況（施設等の種類別）



【参考：最終学歴が「4年制大学」のみの集計】最終学歴_卒業等の状況（施設等の種類別）

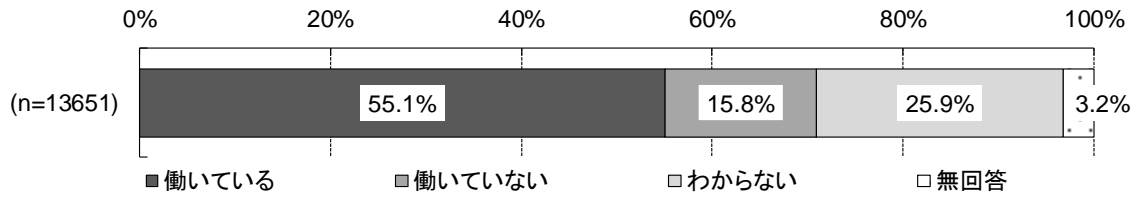


② 就労

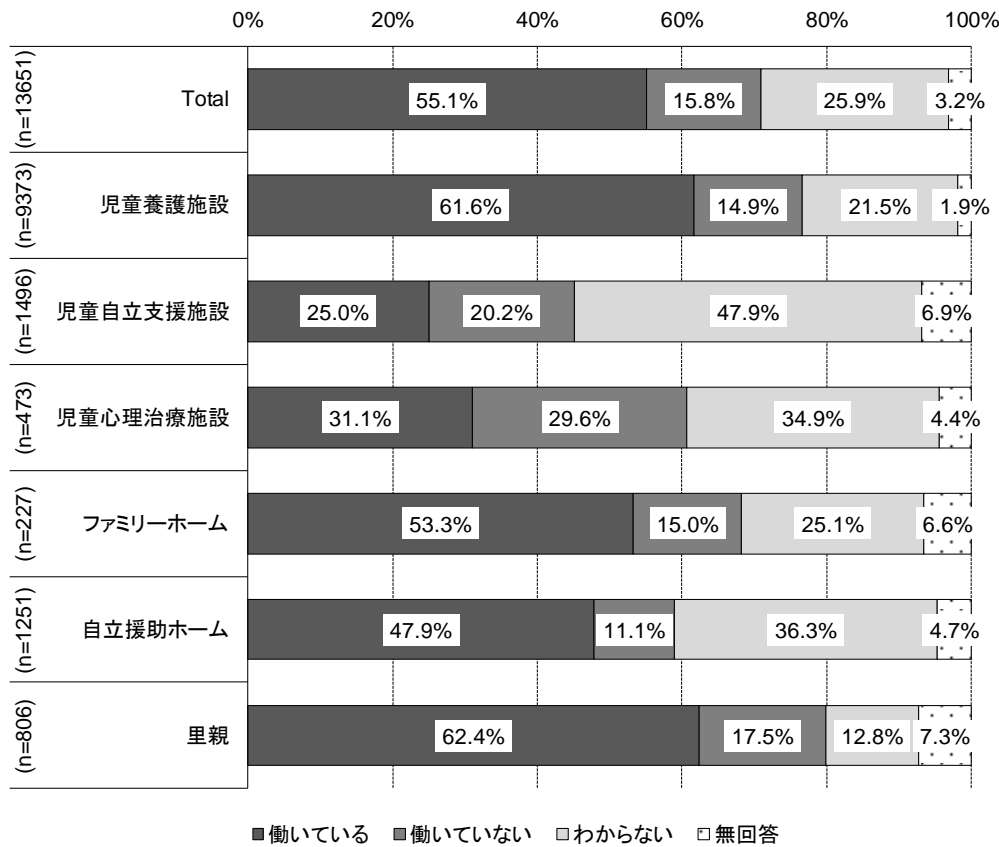
1) 就労状況

措置解除者等の就労状況に関する回答の割合は、「働いている」が 55.1%、「働いていない」が 15.8%、「わからない」が 25.9%となっている。

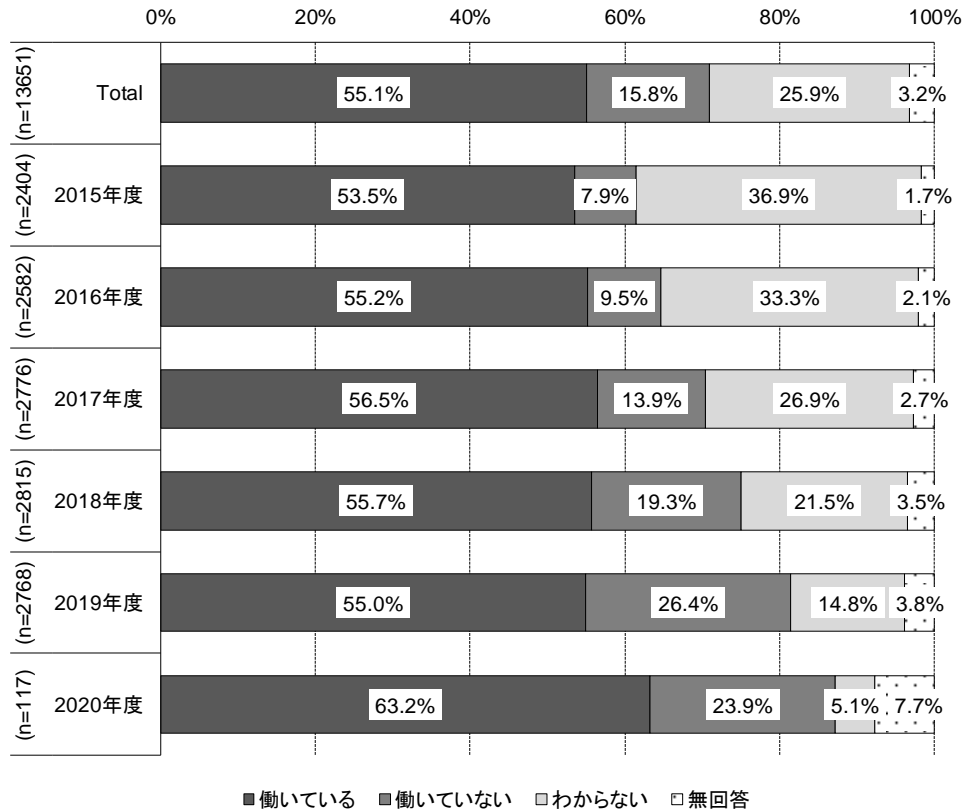
図表 200 就労状況



図表 201 就労状況（施設等の種類別）



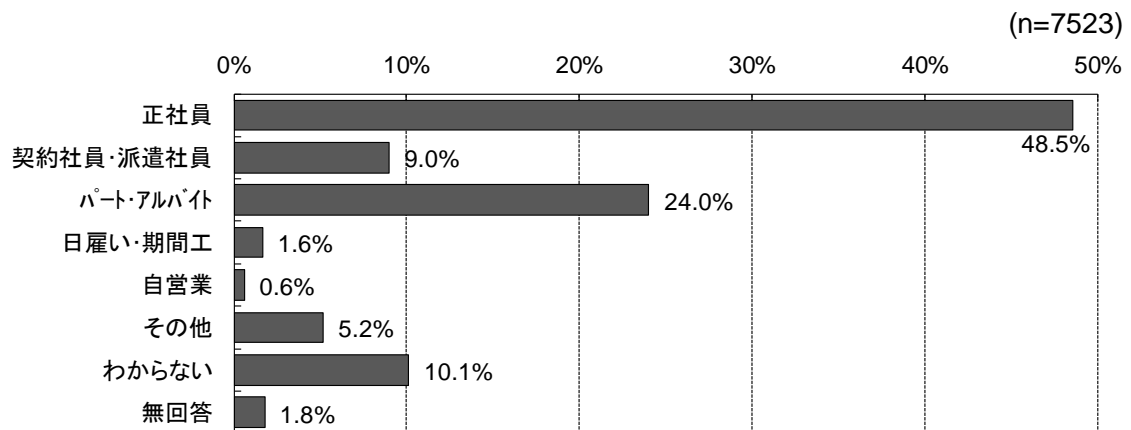
図表 202 就労状況（退所年度別）



2) 雇用形態

就労状況に関して「働いている」と回答した場合に雇用形態もたずねたところ、「正社員」との回答が48.5%、「パート・アルバイト」が24.0%、「契約社員・派遣社員」が9.0%と続いている。また、「わからない」との回答も10.1%となっている。

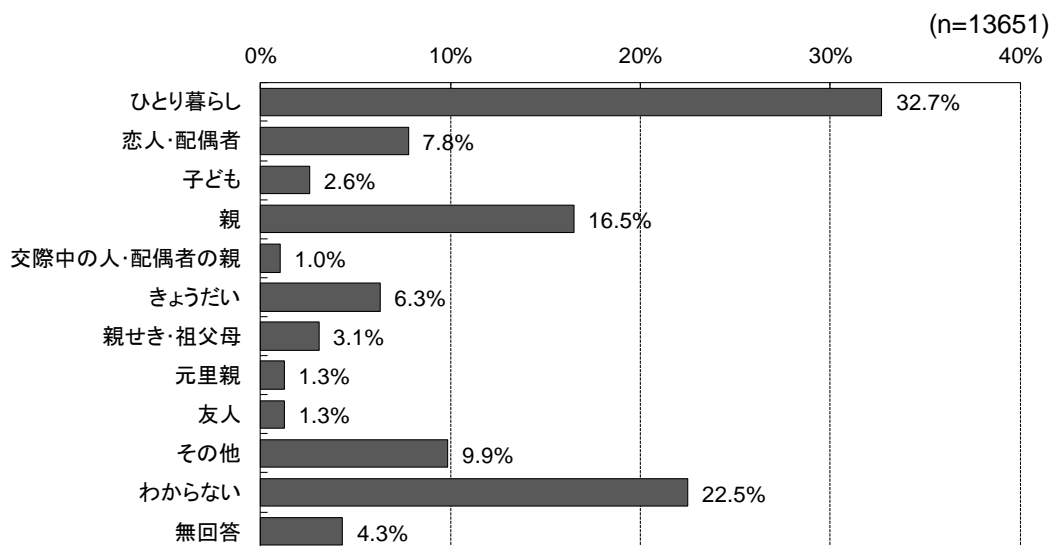
図表 203 雇用形態（複数回答）



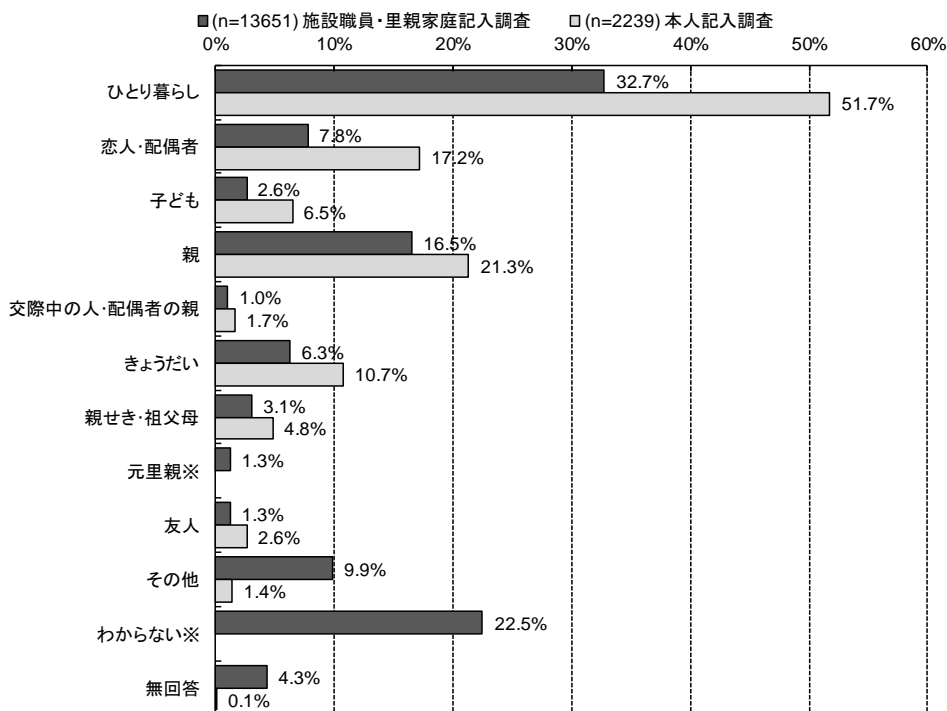
③ 同居者

措置解除者等の同居者の有無については、「ひとり暮らし」の割合が32.7%で、「親」が16.5%、「恋人・配偶者」が7.8%、「きょうだい」が6.3%などとなっている。「わからない」との回答は22.5%と、比較的高くなっている。

図表 204 同居者（複数回答）



【参考：本人記入調査との比較】同居者（複数回答）

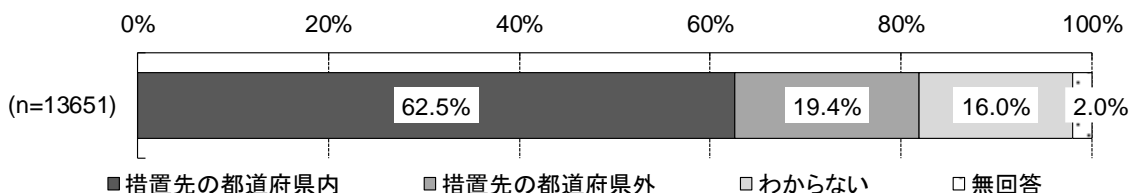


(注) 「※」を付した選択肢は、施設職員・里親家庭記入調査のみ設けた。

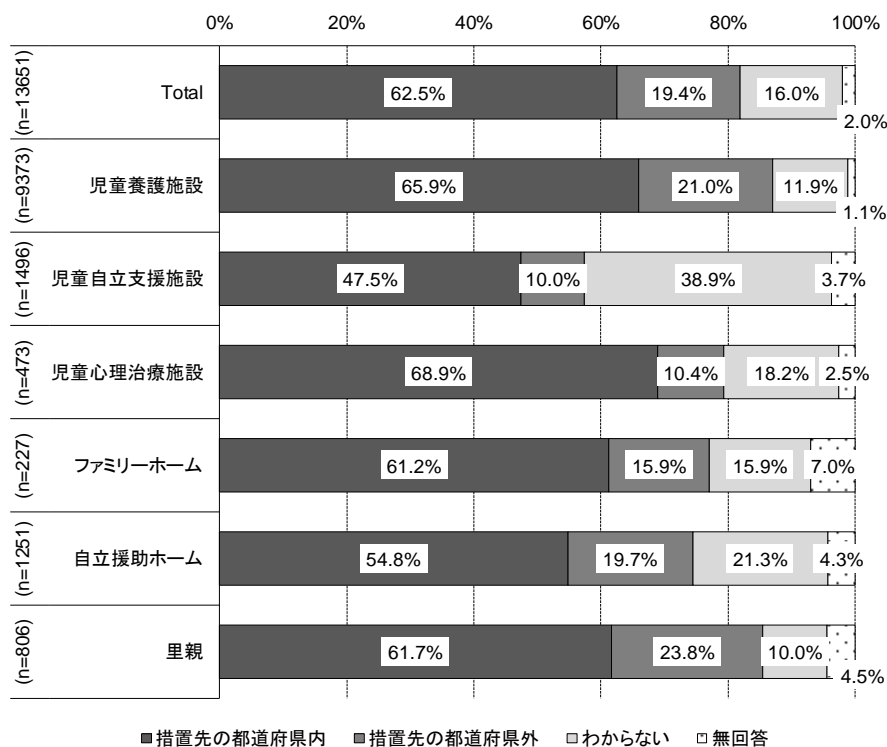
④ 現在の居住地

措置解除者等の現在の居住地は「措置先の都道府県内」の割合が 62.5%と大部分を占めており、「措置先の都道府県外」は 19.4%となっている。また、「わからない」との回答は 16.0%となっている。

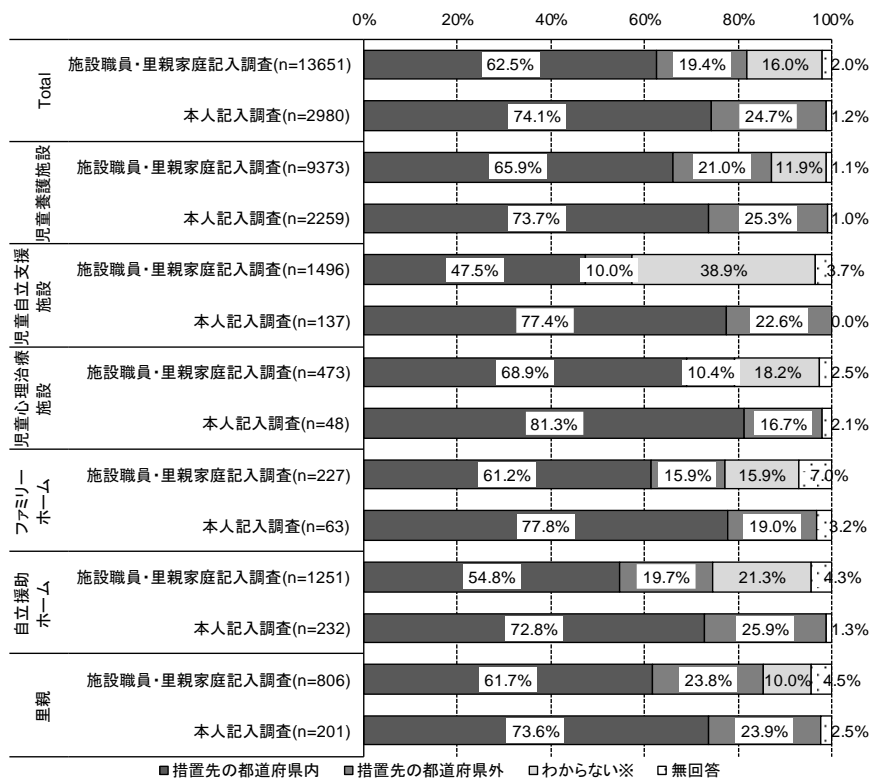
図表 205 現在の居住地



図表 206 現在の居住地（施設等の種類別）

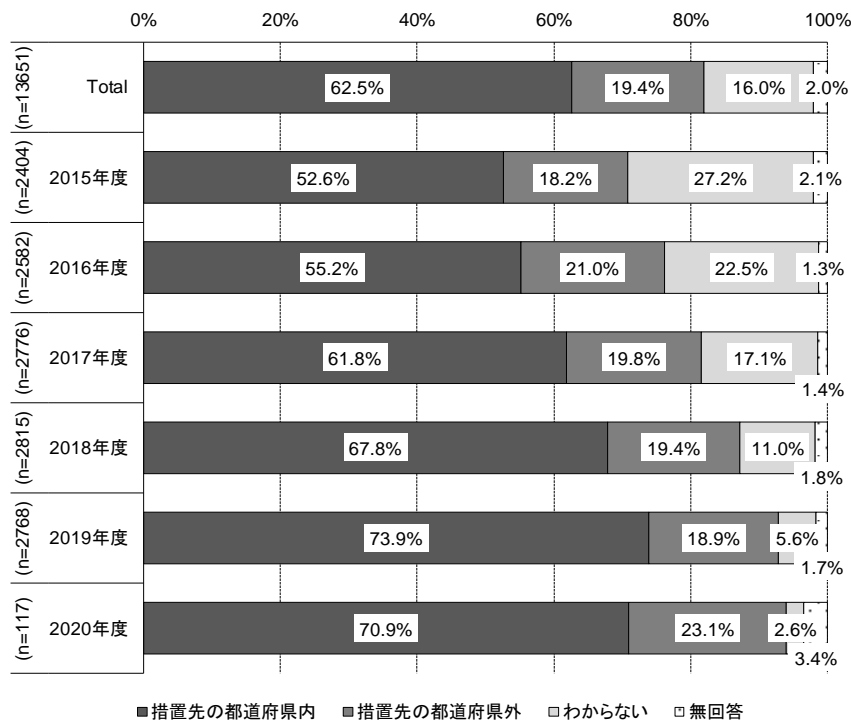


【参考：本人記入調査との比較】現在の居住地（施設等の種別別）



(注) 「※」を付した選択肢は、施設職員・里親家庭記入調査のみ設けた。

図表 207 現在の居住地（退所年度別）

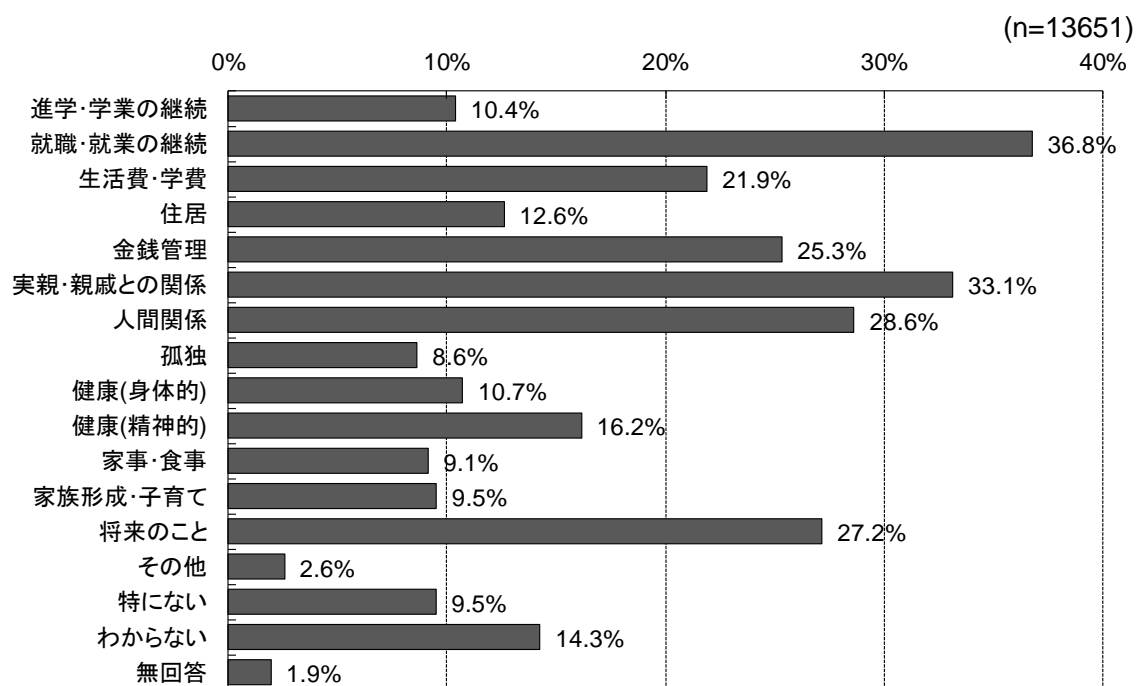


(8) 現在の困難

① 施設職員・里親家庭が現在心配していること

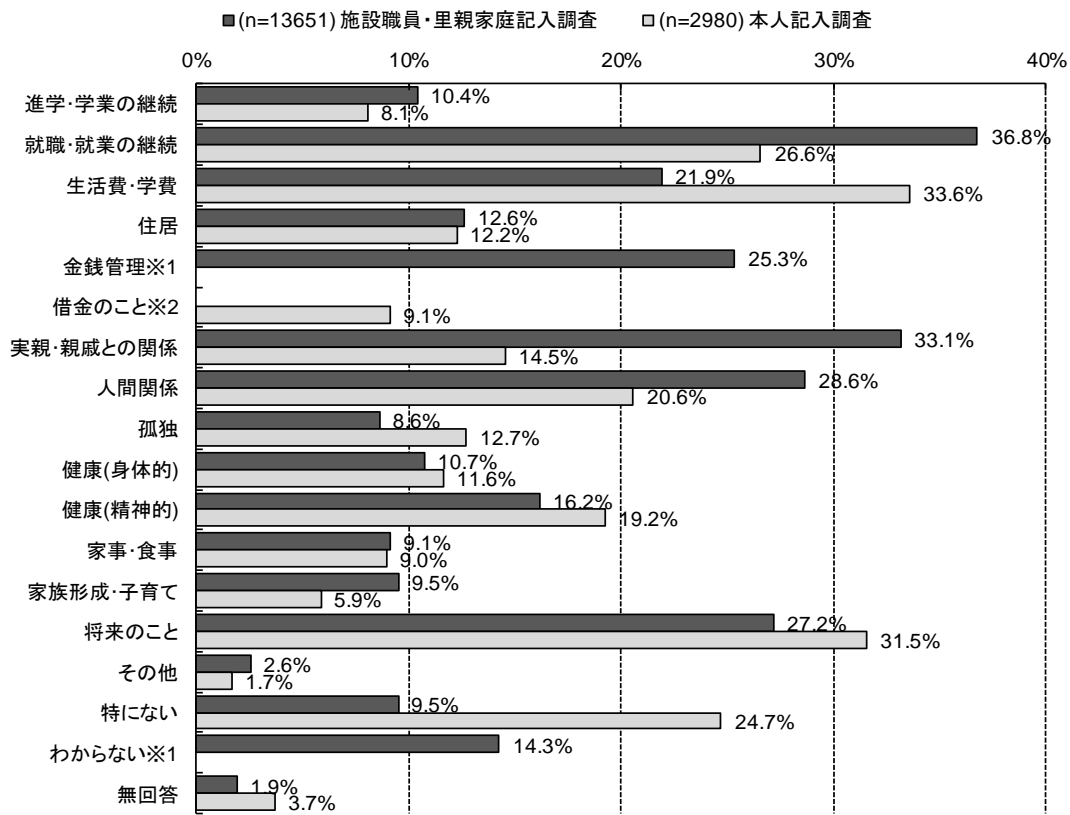
施設職員・里親家庭が措置解除者等について現在心配していることとしては、「就職・就業の継続」との回答が36.8%と最も高く、次いで「実親・親戚との関係」が33.1%、「人間関係」が28.6%、「将来のこと」が27.2%、「金銭管理」が25.3%、「生活費・学費」が21.9%となっている。他方、「特にない」との回答は9.5%にとどまっている。

図表 208 施設職員・里親家庭が現在心配していること（複数回答）



(注) 「その他」として、「不規則な生活状況」、「引きこもり傾向」、「本人の性格や特性」、「子育て」、「転職が多い」、「社会性の乏しさ」、「コロナウイルスに感染していないか、生活が不安定になっていないか」、「自立できるか」、「触法行為」、「連絡が取れていないこと」といった回答があった。

【参考：本人記入調査との比較】措置解除時に施設職員・里親家庭が心配していたこと（複数回答）



(注) 「※1」「※2」を付した選択肢は、それぞれ施設職員・里親家庭記入調査、本人記入調査のみ設けた。

図表 209 施設職員・里親家庭が現在心配していること（施設の種別別・退所年度別、複数回答）

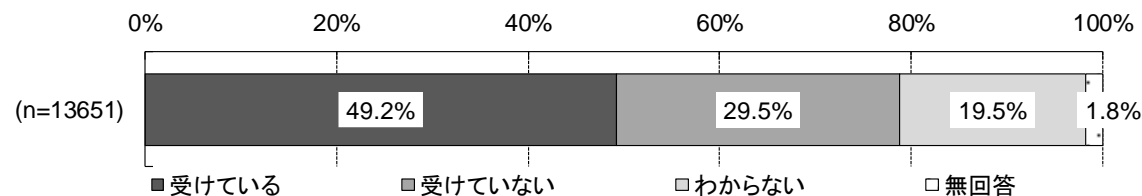
		(n)	進学・学業 の継続	就職・就業 の継続	生活費・学 費	住居	金銭管理	実親・親戚 との関係	人間関係	孤独	健康(身体 的)	健康(精神 的)	家事・食事	家族形成・ 子育て	将来のこと	その他	特になし	わからない	無回答
Total		13651	10.4%	36.8%	21.9%	12.6%	25.3%	33.1%	28.6%	8.6%	10.7%	16.2%	9.1%	9.5%	27.2%	2.6%	9.5%	14.3%	1.9%
施設の 種類	児童養護施設	9373	9.7%	40.1%	22.6%	12.1%	26.3%	34.7%	27.7%	8.5%	9.9%	15.5%	9.2%	9.3%	27.4%	2.3%	10.1%	11.8%	1.4%
	児童自立支援施設	1496	15.7%	19.1%	11.4%	8.2%	11.2%	26.5%	25.9%	5.3%	8.0%	9.2%	3.9%	7.2%	19.8%	4.8%	7.2%	34.7%	1.7%
	児童心理治療施設	473	25.8%	38.1%	25.8%	22.0%	29.0%	54.8%	53.1%	13.1%	10.8%	28.5%	14.4%	11.4%	34.7%	2.5%	2.5%	10.1%	2.1%
	ファミリーホーム	227	8.4%	30.0%	19.8%	8.4%	19.4%	27.3%	23.8%	4.0%	7.5%	14.5%	8.4%	9.3%	20.7%	1.8%	17.2%	12.8%	2.6%
	自立援助ホーム	1251	3.8%	35.8%	27.3%	21.1%	32.5%	29.7%	31.4%	13.0%	13.0%	21.8%	11.3%	14.3%	29.3%	3.1%	5.4%	17.2%	4.4%
	里親	806	10.2%	34.4%	23.6%	9.7%	29.7%	22.6%	28.0%	8.1%	22.5%	21.0%	12.5%	8.3%	32.8%	1.0%	15.1%	1.4%	4.2%
退所 年度	2015年度	2404	3.7%	33.9%	19.3%	11.2%	19.7%	25.7%	24.7%	7.2%	10.1%	13.5%	7.6%	12.4%	24.3%	1.9%	10.8%	22.8%	1.5%
	2016年度	2582	4.5%	37.8%	19.7%	13.1%	22.5%	30.3%	26.5%	8.0%	10.7%	14.5%	7.8%	11.3%	25.6%	2.4%	8.7%	19.2%	1.9%
	2017年度	2776	7.7%	37.1%	22.1%	12.7%	24.7%	32.1%	26.2%	8.2%	9.8%	15.3%	9.0%	9.9%	27.7%	2.7%	10.6%	16.1%	0.9%
	2018年度	2815	13.6%	37.7%	23.1%	13.6%	27.4%	36.5%	29.5%	8.7%	10.0%	17.2%	9.1%	8.2%	29.0%	3.3%	9.1%	10.1%	1.7%
	2019年度	2768	21.0%	38.4%	25.7%	12.8%	31.5%	41.1%	36.1%	11.1%	12.5%	20.1%	11.7%	6.9%	29.6%	2.7%	7.8%	6.0%	1.7%
	2020年度	117	12.8%	29.1%	22.2%	9.4%	28.2%	25.6%	24.8%	7.7%	23.1%	18.8%	17.9%	3.4%	25.6%	0.9%	23.1%	0.9%	3.4%

(9) 施設退所者等へのアフターケアの状況

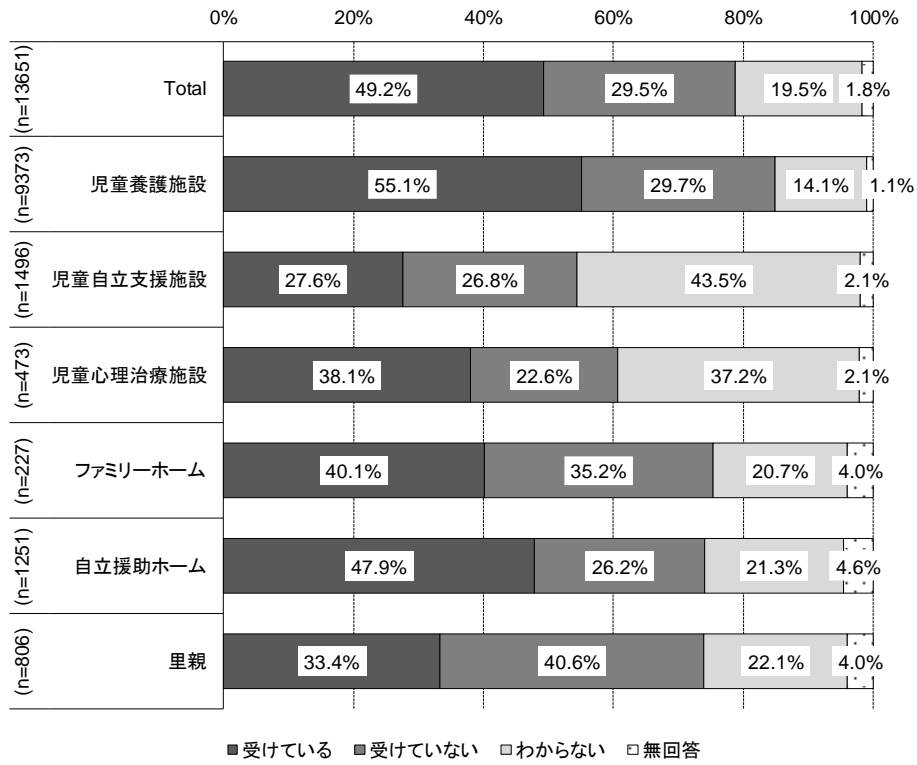
① アフターケア・サービスの利用

調査の回答者である里親家庭・施設や自治体が提供するアフターケア・サービスを措置解除者等が受けているかについて、「受けている」が49.2%、「受けていない」が29.5%、「わからない」が19.5%となっている。

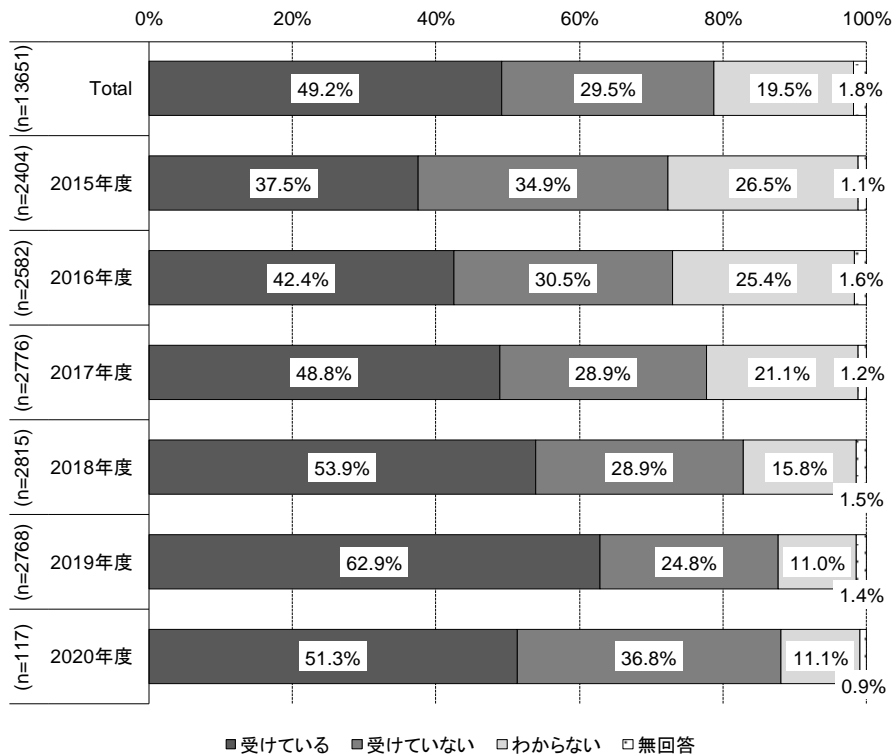
図表 210 アフターケア・サービスの利用



図表 211 アフターケア・サービスの利用（施設等の種類別）



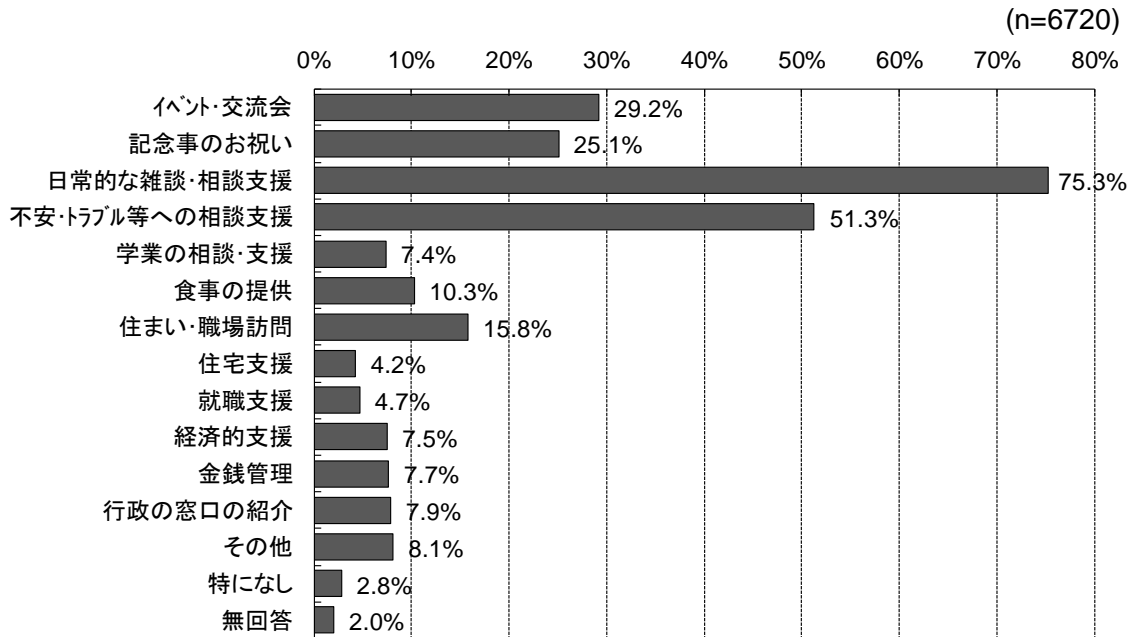
図表 212 アフターケア・サービスの利用（退所年度別）



② 施設職員・里親家庭から受けているアフターケア・サービス

施設職員・里親家庭が提供するアフターケア・サービスの提供状況についてみると、「日常的な雑談・相談支援」が75.3%、「不安・トラブル等への相談支援」が51.3%、「イベント・交流会」が29.2%、「記念事のお祝い」が25.1%などとなっている。

図表 213 施設職員・里親家庭から受けているアフターケア・サービス（複数回答）



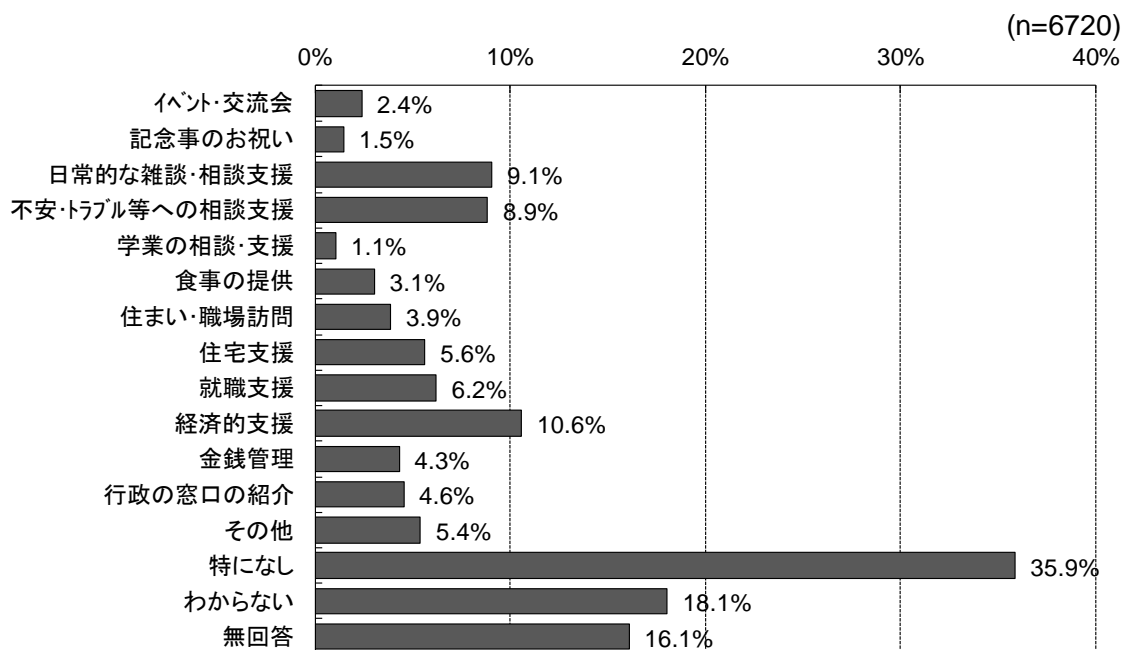
図表 214 施設職員・里親家庭から受けているアフターケア・サービス（施設の種別・年度別、複数回答）

		(n)	イベント・交流会	記念事のお祝い	日常的な雑談・相談支援	不安・トラブル等への相談支援	学業の相談・支援	食事の提供	住まい・職場訪問	住宅支援	就職支援	経済的支援	金銭管理	行政の窓口の紹介	その他	特になし	無回答
Total		6720	29.2%	25.1%	75.3%	51.3%	7.4%	10.3%	15.8%	4.2%	4.7%	7.5%	7.7%	7.9%	8.1%	2.8%	2.0%
施設の 種類	児童養護施設	5165	31.3%	23.8%	76.3%	52.0%	6.9%	8.6%	16.4%	3.8%	4.4%	6.6%	7.4%	7.4%	8.0%	2.2%	2.0%
	児童自立支援施設	413	1.2%	1.2%	78.0%	38.7%	9.2%	1.7%	5.1%	0.2%	0.7%	0.7%	0.0%	1.9%	4.4%	4.4%	2.7%
	児童心理治療施設	180	16.7%	18.9%	68.3%	53.3%	11.7%	3.3%	11.1%	2.8%	5.0%	2.2%	2.8%	8.9%	8.3%	7.8%	2.8%
	ファミリーホーム	91	26.4%	35.2%	72.5%	59.3%	7.7%	25.3%	24.2%	8.8%	14.3%	20.9%	19.8%	17.6%	9.9%	6.6%	1.1%
	自立援助ホーム	599	41.4%	43.9%	71.8%	55.1%	4.5%	18.9%	15.5%	5.5%	6.8%	10.2%	9.3%	10.9%	12.4%	3.5%	2.2%
	里親	269	12.6%	46.1%	66.5%	45.4%	16.7%	36.4%	20.8%	16.4%	7.4%	27.9%	19.7%	14.5%	6.3%	5.6%	1.5%
退所 年度	2015年度	901	32.2%	26.0%	73.4%	45.5%	2.6%	10.2%	13.2%	3.3%	3.9%	7.0%	3.8%	6.1%	8.0%	3.6%	3.0%
	2016年度	1096	34.3%	25.1%	73.4%	46.7%	5.6%	10.9%	13.8%	3.1%	4.6%	6.4%	5.4%	6.7%	7.7%	2.8%	2.1%
	2017年度	1356	31.4%	26.0%	74.6%	52.1%	6.4%	9.0%	13.9%	4.4%	4.2%	8.8%	6.5%	8.6%	8.5%	2.6%	1.8%
	2018年度	1517	27.6%	25.4%	76.8%	51.2%	8.0%	10.2%	15.6%	4.2%	4.9%	8.2%	8.5%	7.6%	8.8%	2.8%	2.2%
	2019年度	1740	24.7%	23.2%	77.3%	57.2%	10.3%	10.5%	20.1%	4.9%	5.2%	6.4%	10.7%	9.0%	7.8%	2.5%	1.7%
	2020年度	60	13.3%	36.7%	66.7%	41.7%	21.7%	30.0%	16.7%	15.0%	3.3%	11.7%	21.7%	11.7%	5.0%	6.7%	1.7%

③ 自治体から受けているアフターケア・サービス

自治体を実施しているアフターケア・サービスの提供状況に関しては、「特になし」の割合が 35.9%と最も高く、次いで「わからない」が 18.1%となり、「無回答」も 16.1%みられる。提供されているサービスとしては、「経済的支援」が 10.6%、「日常的な雑談・相談支援」が 9.1%、「不安・トラブル等への相談支援」が 8.9%などとなっている。

図表 215 自治体から受けているアフターケア・サービス（複数回答）



図表 216 自治体から受けているアフターケア・サービス（施設の種類の別・年度別、複数回答）

	(n)	イベント・交流会	記念事のお祝い	日常的な雑談・相談支援	不安・トラブル等への相談支援	学業の相談・支援	食事の提供	住まい・職場訪問	住宅支援	就職支援	経済的支援	金銭管理	行政の窓口の紹介	その他	特になし	わからない	無回答	
Total	6720	2.4%	1.5%	9.1%	8.9%	1.1%	3.1%	3.9%	5.6%	6.2%	10.6%	4.3%	4.6%	5.4%	35.9%	18.1%	16.1%	
施設の 種類	児童養護施設	5165	2.3%	1.4%	8.6%	8.5%	0.6%	3.3%	3.5%	5.9%	6.1%	10.7%	4.7%	4.1%	5.9%	38.9%	15.5%	16.3%
	児童自立支援施設	413	0.2%	0.5%	7.5%	8.5%	2.7%	1.0%	2.2%	1.5%	3.1%	2.2%	1.2%	1.0%	3.1%	18.2%	35.4%	27.1%
	児童心理治療施設	180	0.6%	1.7%	26.7%	27.2%	6.1%	7.8%	13.3%	10.6%	17.8%	7.8%	8.9%	15.0%	6.1%	20.0%	23.9%	10.6%
	ファミリーホーム	91	0.0%	1.1%	3.3%	8.8%	2.2%	0.0%	6.6%	5.5%	8.8%	13.2%	3.3%	7.7%	1.1%	25.3%	18.7%	17.6%
	自立援助ホーム	599	2.5%	1.7%	7.8%	5.3%	0.7%	1.2%	3.0%	3.2%	4.7%	11.0%	2.0%	5.0%	4.0%	33.6%	27.4%	12.2%
	里親	269	10.0%	4.5%	14.1%	11.5%	5.2%	3.3%	8.9%	8.9%	8.6%	21.9%	3.7%	9.7%	4.5%	25.3%	13.8%	7.4%
退所 年度	2015年度	901	2.2%	1.7%	7.8%	7.1%	0.2%	2.6%	3.6%	5.8%	5.9%	7.7%	3.2%	3.6%	6.4%	36.5%	23.5%	16.3%
	2016年度	1096	1.6%	0.9%	5.6%	5.5%	0.6%	3.1%	3.0%	4.4%	4.9%	8.6%	3.5%	3.1%	5.3%	36.5%	21.9%	18.5%
	2017年度	1356	2.1%	1.3%	7.8%	7.9%	0.7%	2.4%	3.1%	6.2%	6.0%	11.6%	3.8%	5.4%	5.4%	36.9%	18.2%	16.8%
	2018年度	1517	3.0%	1.7%	9.9%	8.8%	0.9%	3.9%	4.2%	5.0%	6.7%	11.3%	5.6%	4.2%	5.1%	35.3%	16.5%	15.4%
	2019年度	1740	2.2%	1.4%	11.3%	12.1%	1.8%	3.2%	4.3%	6.3%	6.7%	11.7%	4.5%	5.2%	5.4%	35.0%	14.7%	15.0%
	2020年度	60	11.7%	6.7%	23.3%	21.7%	13.3%	1.7%	16.7%	13.3%	6.7%	21.7%	5.0%	11.7%	1.7%	18.3%	5.0%	8.3%

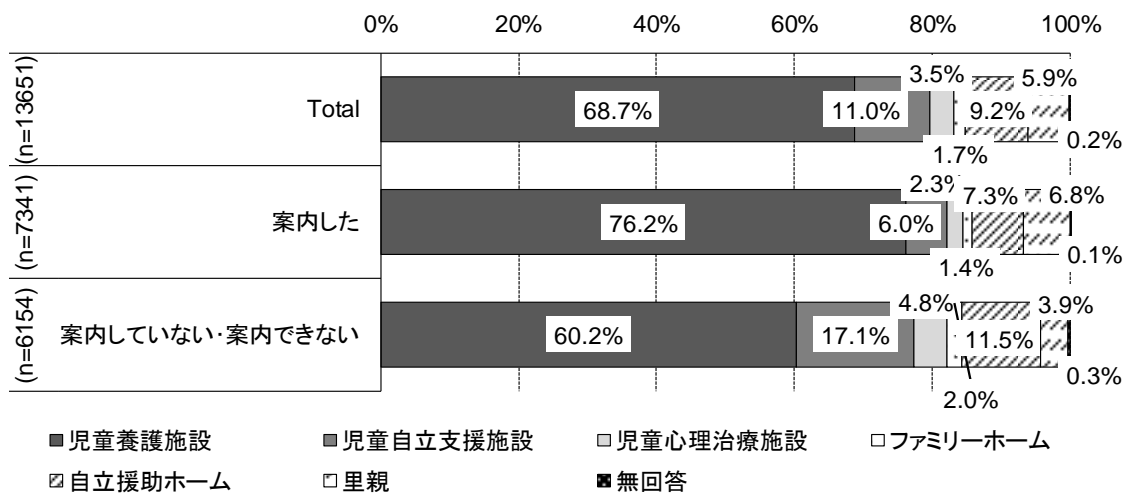
(10) 本人記入調査の案内の有無に関する分析

① 案内有無別にみた調査対象者の属性等

ここでは、どのような調査対象者には本人記入調査が案内され、どのような調査対象者には案内されなかったかについて、施設職員・里親家庭から施設退所者等へ本人記入調査を案内したかどうか（案内有無別）により詳しくみていく。

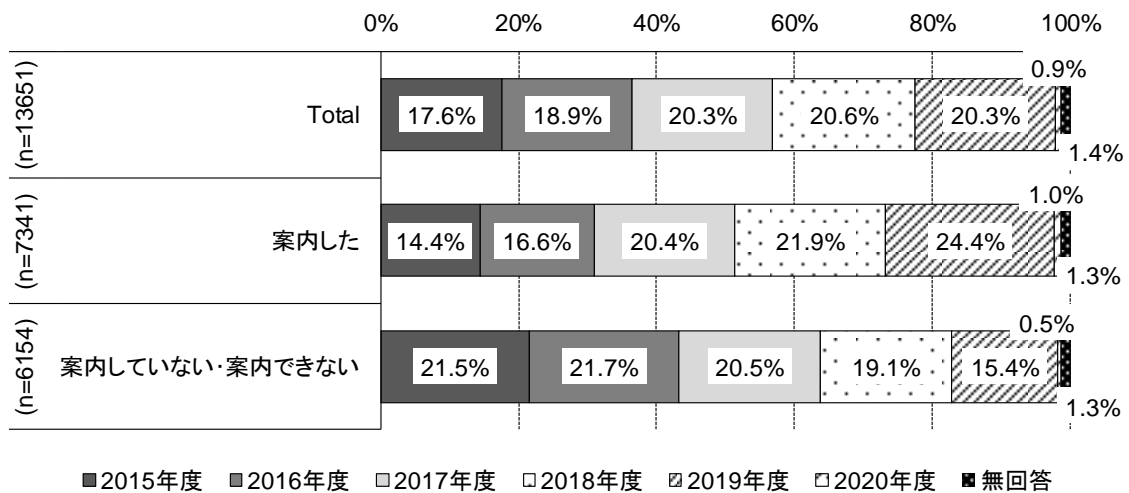
まず、措置・委託されていた施設等の種類を案内有無別にみると、「案内した」では「児童養護施設」（76.2%）や「里親」（6.8%）の割合が比較的高いのに対し、「案内していない・案内できない」では「児童自立支援施設」（17.1%）や「自立援助ホーム」（11.5%）の割合が比較的高い。

図表 217 措置・委託されていた施設等の種類（案内有無別）



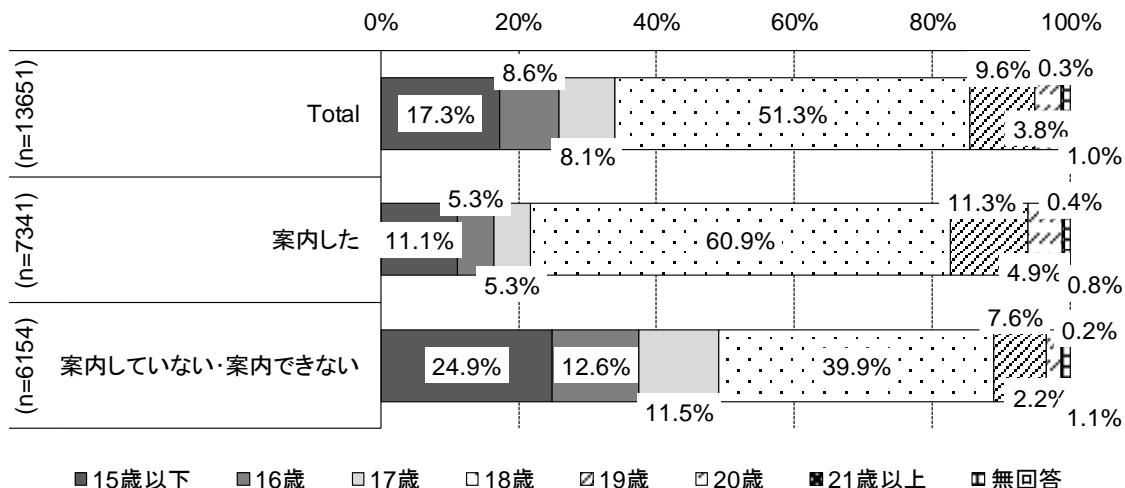
措置・委託解除となった年度については、「案内した」では「2019 年度」が 24.4%と最も割合が高いなど、比較的近い年度の割合が高い一方で、「案内していない・案内できない」では「2015 年度」（21.5%）や「2016 年度」（21.7%）の割合が高くなっている。

図表 218 措置・委託解除となった年度（案内有無別）



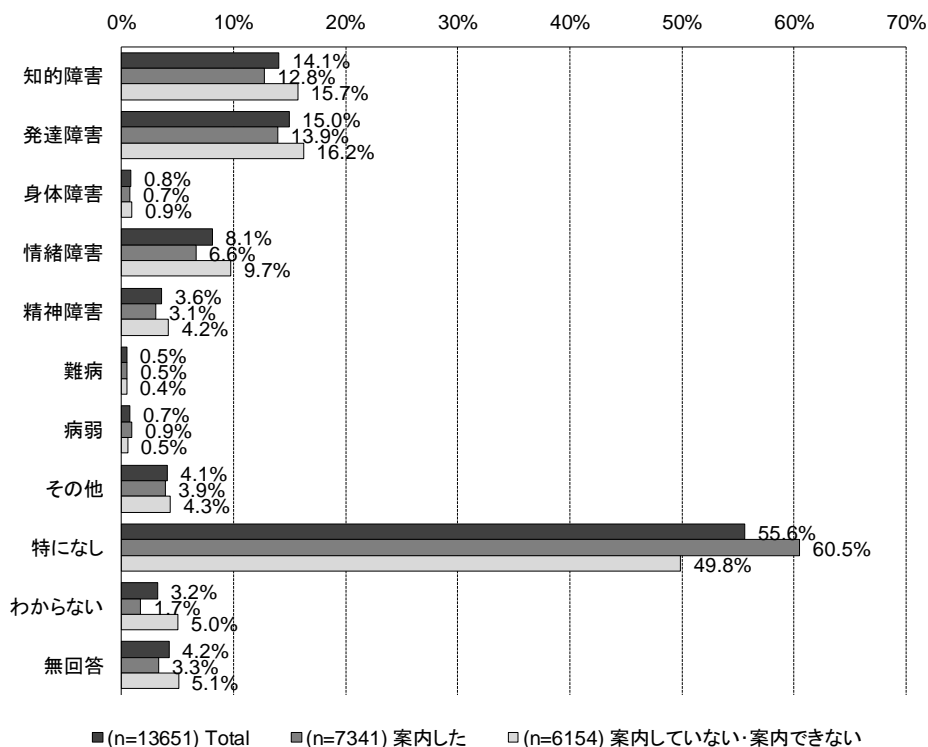
措置・委託となった時点の年齢としては、「案内した」では「18歳」が60.9%を占めているが、「案内していない・案内できない」では「15歳以下」が24.9%、「16歳」が12.6%など低い年齢の割合が高い。

図表 219 措置・委託となった時点の年齢（案内有無別）



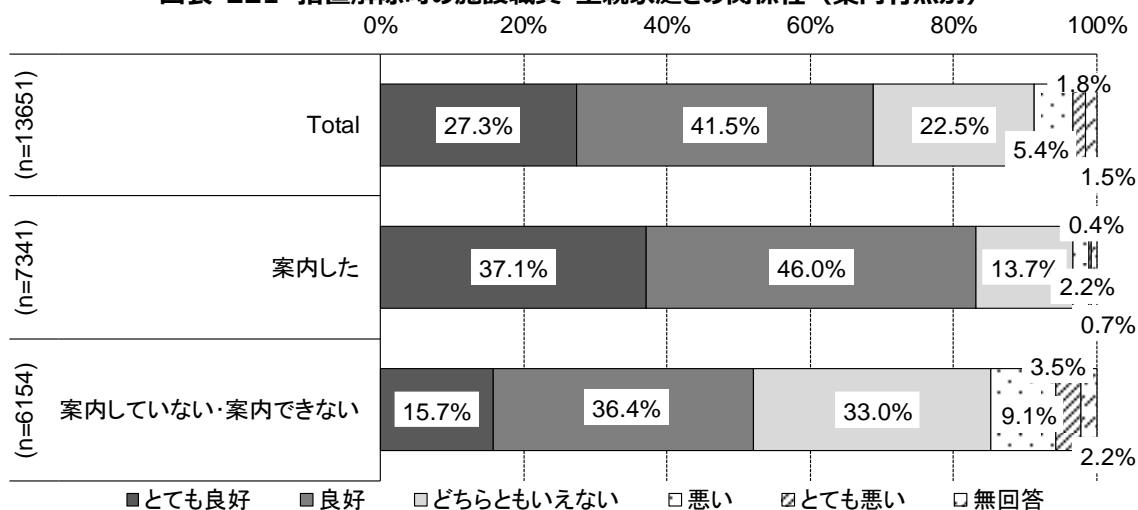
障害等の状況では、「案内した」が60.5%と比較的高いが、総じて大きな違いはみられない。

図表 220 障害等の状況（案内有無別、複数回答）



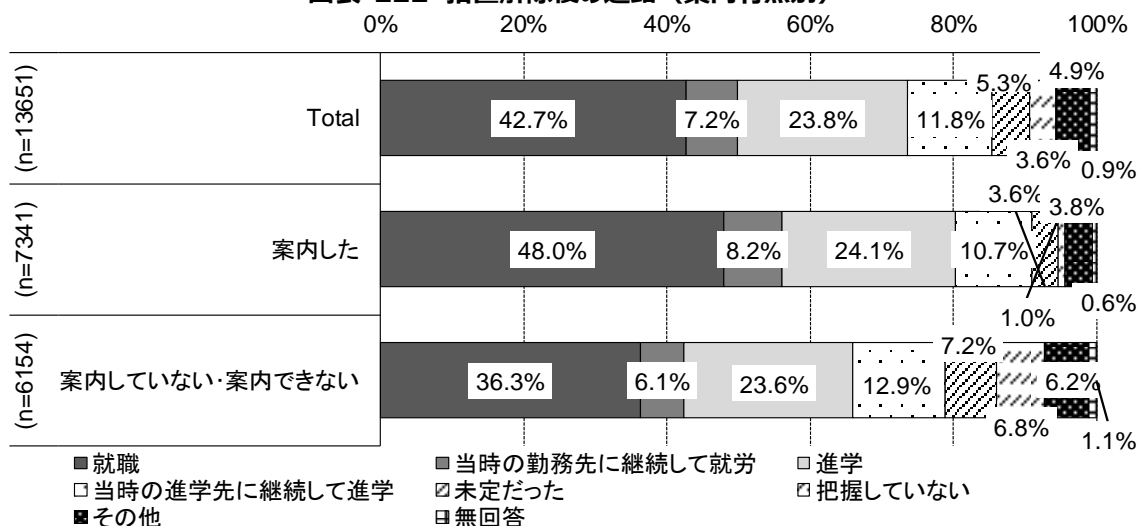
措置解除時の施設職員・里親家庭との関係性は、「案内した」で良好な割合（「とても良好」と「良好」の合計）が 83.1%を占めており、「案内していない・案内できない」でも 52.1%と過半数を超えているものの、大きな差がみられる。

図表 221 措置解除時の施設職員・里親家庭との関係性（案内有無別）



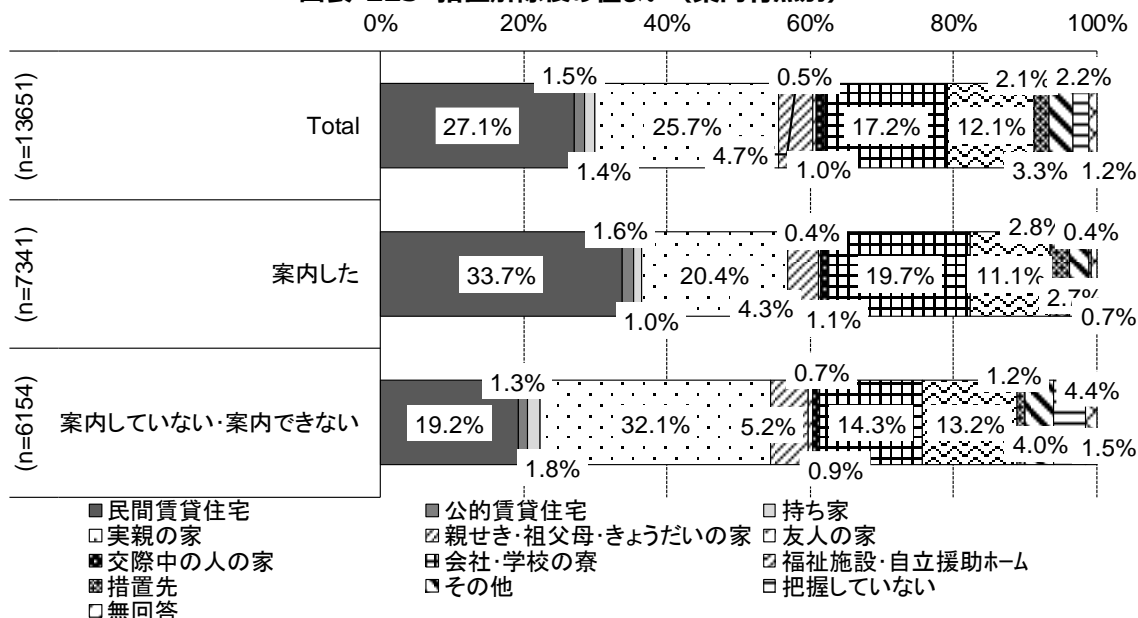
措置解除後の進路をみると、「案内した」では「就職」（48.0%）の割合が比較的高いのに対し、「案内していない・案内できない」では「把握していない」（6.8%）も一定の割合の回答がある。

図表 222 措置解除後の進路（案内有無別）



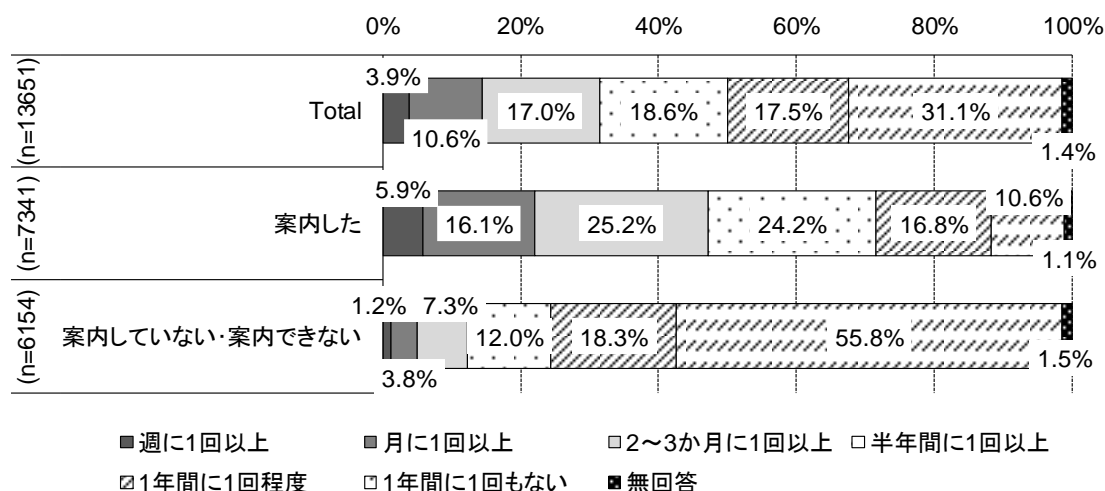
措置解除後の住まいでは、「案内した」では「民間賃貸住宅」が33.7%で最も高く、次いで「実親の家」が20.4%、「会社・学校の寮」が19.7%となっている。一方で、「案内していない・案内できない」では「実親の家」が32.1%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅」が19.2%、「会社・学校の寮」が14.3%となっている。

図表 223 措置解除後の住まい（案内有無別）



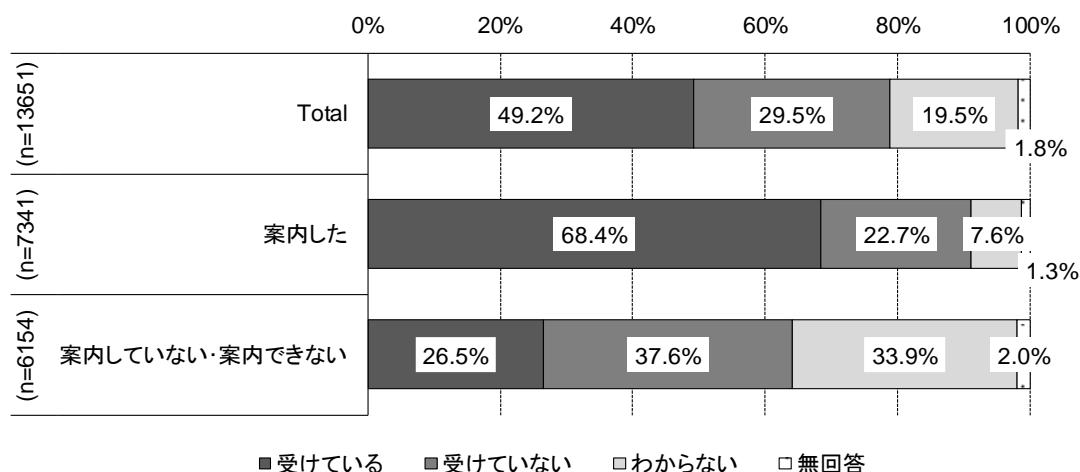
措置解除者との交流頻度は、「案内した」では「2～3か月に1回以上」が25.2%、「半年間に1回以上」が24.2%などとなっているが、「案内していない・案内できない」では「1年間に1回もない」が55.8%を占めている。

図表 224 措置解除者等との交流頻度（案内有無別）



アフターケア・サービスの利用状況を見ると、「案内した」ではアフターケア・サービスを「受けている」が68.4%であるが、「案内していない・案内できない」では26.5%にとどまっている。

図表 225 アフターケア・サービスの利用（案内有無別）



② 「案内していない・できない」その他の理由

前項①では、本人記入調査（WEB アンケート）の案内状況について、案内有無別に調査対象者の属性等を見てきた。ここでは、「案内していない・案内できない」と回答した6,154件（調査対象者全体の45.1%、図表152を参照）のうち、その理由が「その他」とされていた2,350件（「案内していない・案内できない」調査対象者6,154件のうち38.2%、図表155を参照）について、自由回答形式で記載されていた内容を整理した。

回答内容のうち類似した記載をグループ化することで、3分類・10項目に集約した結果が図表226となる。まず、分類「施設職員・里親家庭の方針や意向」に含まれる項目としては、「調査対象者の生活状況の勘案」（施設退所者等の現状を慮って連絡しなかったもの）312件、「調査対象者の回答困難の勘案」（本人記入調査の回答に必要な能力を考慮して連絡しなかったもの）98件、「調査票送付への協力得られず」（時間的制約等により案内しなかったもの）228件、「調査方法の理解不足・誤認」（施設職員・里親家庭から調査趣旨や実施方法への賛同・協力が得られなかったもの）40件となっている。

次に、分類「本人記入調査の対象者と施設職員・里親家庭の交流状況」は3項目である。「調査対象者等との関係性」（関係性の観点から連絡を取っていないもの）は169件、「調査票送付の手段なし」（施設退所者等へ本人記入調査の送付手段がなかったもの）は316件、「調査対象者等と連絡つかず」（本人記入調査の案内をしたが連絡がつかなかったもの）は116件となっている。

また、分類「本人記入調査の調査対象者における事由」としては、「調査対象者等の回答拒否」（本人や保護者から回答拒否の意思表示があったもの）が404件、「入院・入所」（調査対象者等が病院・他施設・少年院等において案内が難しいもの）が162件、「死亡」（措置解除者等が死去したもの）が30件となっている。

図表 226 本人記入調査を「案内していない・案内できない」理由「その他」の内訳

分類	項目	代表的な記載例	回答数（割合）
施設職員・ 里親家庭の 方針や意向	調査対象者の生活状況の勘案	家庭復帰のため／コロナの影響もあり余裕は無いと判断／安定している成果を阻害しないため／精神的に不安定	312件 (13.3%)
	調査対象者の回答困難の勘案	内容が難しい／知的障害のため／能力的な問題／回答困難と判断したため	98件 (4.2%)
	調査票送付への協力得られず	児童相談所の判断／準備不足／調査依頼がなかった／自治体からの文書が遅く回答期限が過ぎてしまった	228件 (9.7%)
	調査方法の理解不足・誤認	本人の実態を把握できている／きょうだい措置中で情報が入ってくる／必要性を感じない／本人に直接依頼があると勘違いしていた	40件 (1.7%)
本人記入調査の対象者と施設職員・里親家庭の交流状況	調査回答者等との関係性	退所後は連絡していない／本人が接触を拒否している／関係性がよくない／保護者と施設との関係性から	169件 (7.2%)
	調査票送付の手段なし	携帯電話を不所持／連絡手段が電話のみ／メールアドレス等が不明／調査票の送付手段がない	316件 (13.4%)
	調査対象者等と連絡つかず	本人と連絡がつかなかった／電話に回答しなかった／連絡したが返信がこなかった／本人の了解が得られなかった	116件 (4.9%)
本人記入調査の調査対象者における事由	調査対象者等の回答拒否	本人から拒否された／保護者から拒否された／「教えたくない」とのこと／「面倒だから案内はしない」との回答	404件 (17.2%)
	入院・入所	入院中／他施設に再入所した／グループホームに入居している／少年院に入所中	162件 (6.9%)
	死亡	死去／自死	30件 (1.3%)
無回答			475件 (20.2%)
合計			2,350件 (100.0%)
※本人記入調査を「案内していない・案内できない」と回答した理由を「その他」としていた回答			

第5章 児童相談所設置自治体調査

1. 調査概要

(1) 調査の目的

自治体における自立支援施策の実施状況、当事者参画についての意向・取組状況等を把握、整理することを目的として、児童相談所設置自治体を対象としたアンケート調査を実施した。

また、本人記入調査及び施設職員・里親家庭調査の実施に向けて、調査対象となる措置解除者等及び施設等の数、措置解除者等が利用可能な相談窓口の情報収集を行った。

(2) 調査対象

児童相談所設置自治体（悉皆、73自治体）を対象とした。

(3) 調査方法

自治体の社会的養護担当者が回答する自記式調査票を作成し、メールで配布・回収した。

(4) 調査実施期間

2020（令和2）年10月22日～2020（令和2）年11月20日

(5) 回答状況

73自治体（回収率100%）

(6) 調査項目

調査項目は以下の通りである。

1. 自治体における自立支援について

- ・ 措置解除者等への支援の案内方法
- ・ 支援コーディネーターの配置状況
- ・ 社会的養護自立支援事業の実施状況
- ・ 自治体独自の自立支援事業の実施状況
- ・ 自立支援についての情報交換や検討を行う機会・協議体等の設置状況

2. 当事者参画について

- ・ 社会的養育推進計画等の検討における措置解除者等の参画状況
- ・ 参画内容、参画の際に行った配慮等
- ・ 措置解除者等の参画にあたっての課題

3. 本人記入調査、施設職員・里親家庭記入調査について

- ・ 調査対象となる措置解除者等数、施設等の数
- ・ 調査実施時に措置解除者等に案内可能な相談窓口の情報

(注) 「3. 本人記入調査、施設職員・里親家庭記入調査について」で把握した情報については、各調査の対象者数及び施設数として、本人記入調査、施設職員・里親家庭記入調査それぞれの調査結果で記載している。

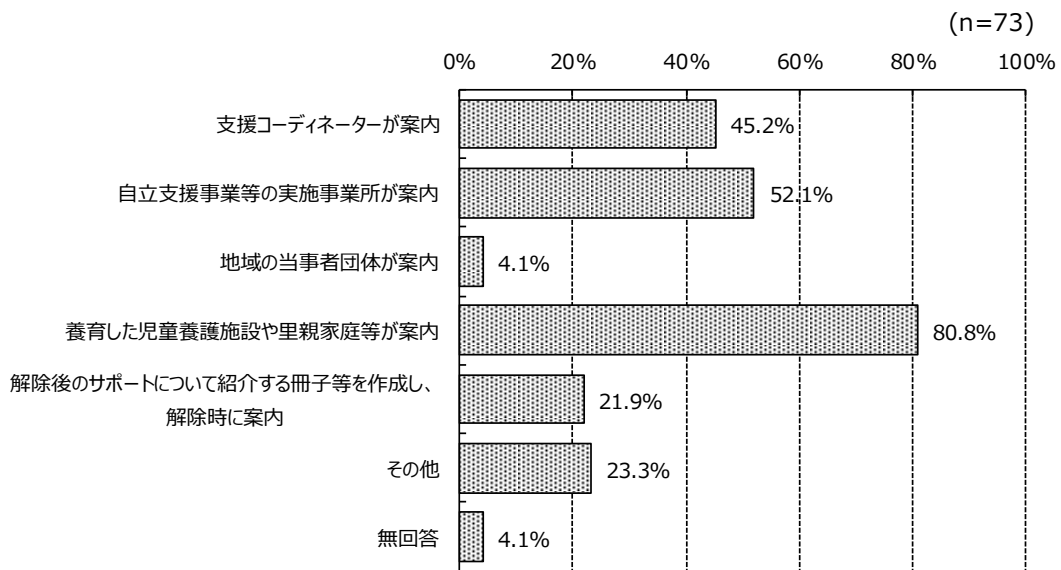
2. 集計結果

(1) 自治体における自立支援について

① 措置解除者等への支援の案内方法

措置解除者等への支援の案内方法をみると、「養育した児童養護施設や里親家庭等が案内」の割合が最も高く 80.8%となっている。次いで、「自立支援事業等の実施事業所が案内（52.1%）」、「支援コーディネーターが案内（45.2%）」となっている。

図表 227 措置解除者等への支援の案内方法（複数回答）

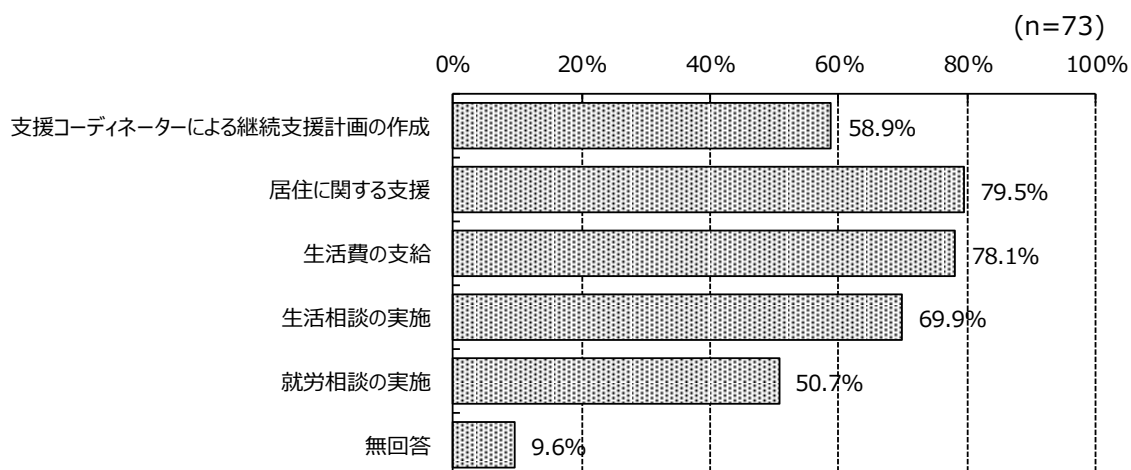


(注) 「その他」として、「児童相談所が案内」、「令和2年度の児童相談所設置であり、今年度該当者なし」等の回答が挙げられた。

② 社会的養護自立支援事業の実施状況

社会的養護自立支援事業の実施状況については、「居住に関する支援」の割合が最も高く 79.5% となっている。次いで、「生活費の支給（78.1%）」、「生活相談の実施（69.9%）」となっている。

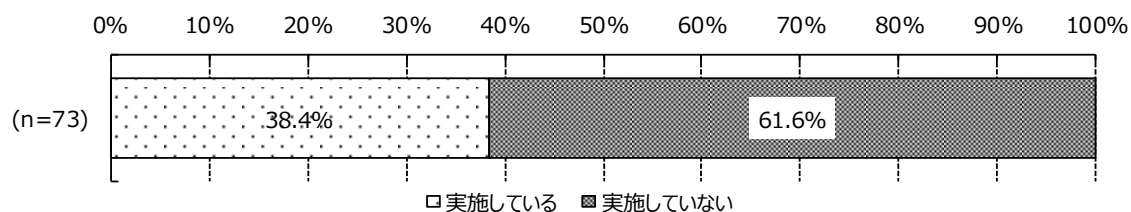
図表 228 社会的養護自立支援事業の実施状況（令和2年10月時点、複数回答）



③ 自治体が独自で実施している自立支援のための事業の有無

自治体が独自で実施している自立支援のための事業についてたずねたところ、「実施している」が 38.4%、「実施していない」が 61.6%となっている。

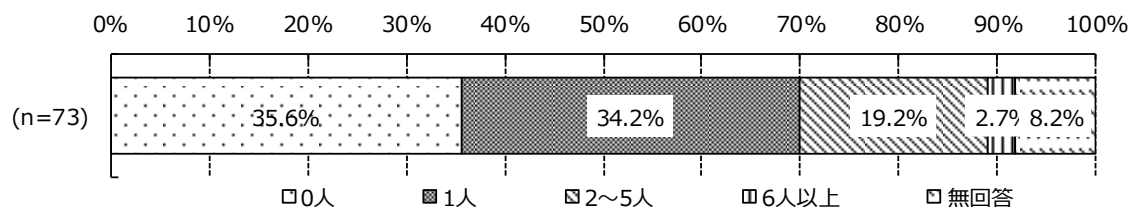
図表 229 自治体が独自で実施している自立支援のための事業の有無（令和2年10月時点）



④ 支援コーディネーターの配置人数

支援コーディネーターの配置人数をみると、「0人」の割合が最も高く35.6%となっている。次いで、「1人（34.2%）」、「2～5人（19.2%）」となっている。

図表 230 支援コーディネーターの配置人数（令和2年10月時点）

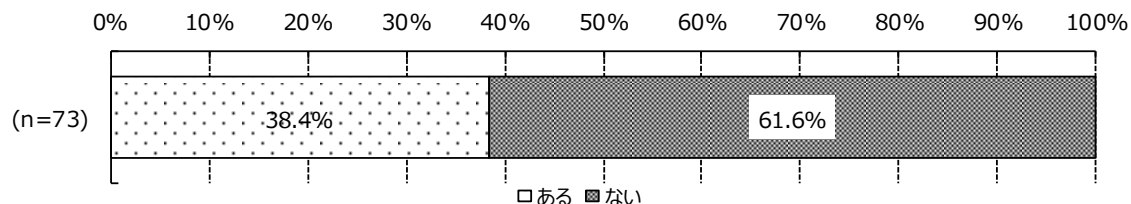


(注) 社会的養護自立支援事業、自治体独自の事業のいずれの配置でも可としている。

⑤ 自立支援について、地域の関係機関による情報交換や検討を行う機会・協議体

自立支援について、自治体の関連部署、施設等、自立支援事業所等の地域の関係機関による情報交換や検討を行う機会・協議体の有無をたずねたところ、「ある」が38.4%、「ない」が61.6%となっている。

図表 231 自立支援について、自治体の関連部署、施設等、自立支援事業所等の地域の関係機関による情報交換や検討を行う機会・協議体の有無（令和2年10月時点）



自立支援について情報交換や検討を行う機会・協議体のある自治体に対して、参加者、開催頻度、議題を自由記述式で尋ねた。主な回答は以下の通り。

図表 232 自立支援についての情報交換や検討を行う機会・協議体の参加者、開催頻度、議題（自由回答）

協議体・機会等の名称	参加者	開催頻度	検討事項
実務担当者会議	児童養護施設、自立援助ホーム、児童自立支援施設の職業指導員等及び各地区里親会アフターケア担当里親、自治体担当職員、就労支援事業者、アフターケア事業所職員	年7回	自立支援プログラムの内容等の検討、退所児童等に関する情報交換
児童福祉施設退所者等アフターケア事業アフターケア担当者会議	児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親連合会、ボランティア、児童相談所等	年数回	児童養護退所者等自立支援資金貸付事業、社会的養護自立支援事業等について
アフターケアネット連絡会	アフターケア事業所、児童相談所、施設・里親等	年3回	アフターケア体制のあり方、アフターケアを見据えた入所中の支援のあり方、子どもの権利擁護体制等
アフターケア・ネットワーク会議	児相職員、施設担当職員、里親会等	月1回程度	退所児童への支援
自立支援ネットワーク連絡会	所管の児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、自立援助ホームの施設職員、自治体職員、児童相談所職員、アフターケア事業委託事業者	年3回	児童養護施設等を退所する予定の児童のためのアフターケア事業について（継続支援計画、資格等取得支援事業、勉強会、意見交換等）
社会的養護自立支援ネットワーク連絡会	就職支援センター（事業委託先）、市内児童養護施設、児童相談所、自治体担当課	月1回	本事業対象者に対する支援方針の検討及び報告
自立支援担当者会	児童養護施設・自立援助ホームの自立支援担当職員、児童相談所職員、自治体担当課職員	年4回程度	各施設の自立支援担当職員の活動状況について、自立支援研修について等
自立支援実務者会議	児童養護施設の施設長、担当者等	約2か月に1回	各施設における取組みの状況や横展開可能な施策の共有等について
自立支援計画検討会議	児童養護施設職員（支援コーディネーター）、自立援助ホーム職員（退所児童アフターケア事業担当）、児童相談所職員、児童本人	年2～4回程度	施設退所後の自立に向けた支援計画の策定及び実施状況の報告

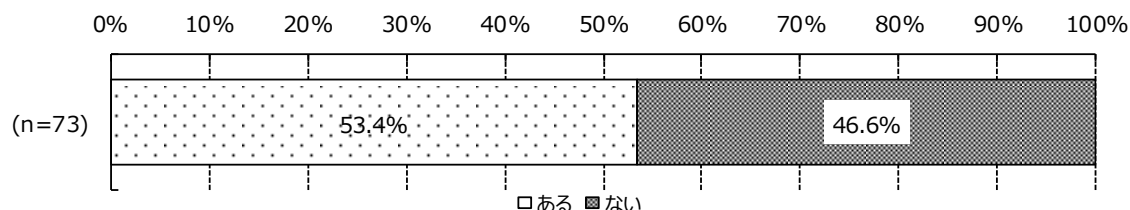
(2) 当事者参画について

※本調査では、当事者が施策・取組等の検討・決定プロセスに参加することを「当事者参画」としてたずねた。なお、取組等を検討する協議会への参加、当事者によるワーキンググループの開催、グループインタビューの実施など、具体的な方法は問わないこととした。

① 社会的養育推進計画の策定や自立支援の施策検討における措置解除者等の参画状況

社会的養育推進計画の策定や自立支援の施策検討における措置解除者等の参画の有無をたずねたところ、「ある」が53.4%、「ない」が46.6%となっている。

図表 233 社会的養育推進計画の策定や自立支援の施策検討における措置解除者等の参画の有無



措置解除者等の参画を行った自治体に、参画方法と参画時の配慮や工夫等を自由記述式でたずねた。参画方法について、自由回答の結果を集計したものは以下のとおりである。

図表 234 社会的養育推進計画の策定や自立支援の施策検討における措置解除者等の参画方法

(自由回答を複数回答として整理)

自由回答の内容	回答件数
措置解除者等を対象としたヒアリング調査や座談会の実施	19 件
措置解除者等を対象としたアンケート調査の実施	14 件
計画策定等に関する会議体に委員として参加	6 件
計画策定等に関する会議体に招聘	3 件
その他	3 件

参画時の配慮や工夫等の自由回答のうち、主なものは以下のとおりである。

図表 235 参画時に行った配慮や工夫等 (自由回答)

<協力者の選定、日程調整等>

- ・ 児童養護施設退所者については出身施設の協力を得て実施した。
- ・ 各施設に参加者の選定等の協力をしてもらった。
- ・ アフターケアに取り組む団体を通じ、調整を行った。(個人情報の取扱い等)
- ・ 委員就任依頼を行う措置解除者の選定が困難であったが、例年実施している退所者の集い(就職・進学により施設等を退所する児童を対象に講義(自立後の生活に役立つ内容)や退所者の体験談を実施)で、体験談に協力してくださった方に依頼を行った。
- ・ 計画策定のワーキングの中で、実施方法や内容についての検討を行った。
- ・ 日程調整のうえで、当事者が集まりやすい土日祝日も含めて調整した。

- 働いている人が多いため、インタビュー日時の設定を平日夜などに設定した。
- 事前に施設側、里親に主旨と実施方法を説明し、実施にあたっての懸念事項などについても検討した上で、イラストなどを交えた説明資料を用い、専門用語については言い換えなどの工夫をしながら説明を行った。

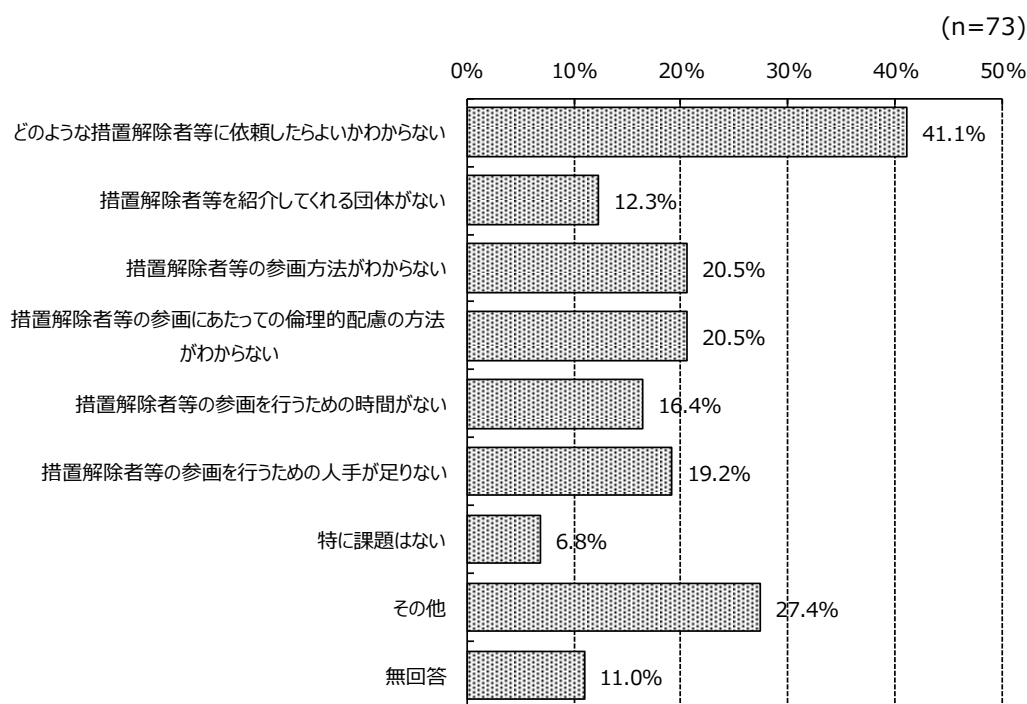
<参画時>

- 施設等に紹介や当日の同行を依頼したほか、本人への謝礼を用意した。
- 本人が話したくないこと（例：施設についてネガティブな思いがあるなど）を深堀しない。
- 異性のヒアリングの場合は、対応者は2人以上で面談。
- ヒアリングの実施にあたっては、退所者の自立支援事業として実施している交流会に担当職員が出向くなど、対象者の負担軽減を図った。
- 進学、就職、中退、失業中等、様々な状況にある措置解除者から意見を聴取した。また、聴取にあたっては、措置解除者の都合を優先した時間を設定（夕方等）し、計画策定後には、策定した計画冊子と協力のお礼として図書カードを配布した。
- 自らは声をあげられない措置解除者等への配慮（アフターケア事業所、未成年後見人等のアフターケア実施者を通じた聴き取り等）
- 映画鑑賞やミニライブ等を併せて実施し、参加者が話しやすい空気づくりに努めた。

② 措置解除者等の参画にあたっての課題

措置解除者等の参画にあたっての課題については、「どのような措置解除者等に依頼したらよいかわからない」の割合が最も高く 41.1%となっている。次いで「その他（27.4%）」、「措置解除者等の参画方法がわからない（20.5%）」、「措置解除者等の参画にあたっての倫理的配慮の方法がわからない（20.5%）」となっている。

図表 236 措置解除者等の参画にあたっての課題（複数回答）



（注）「その他」として、「意見を聞く方法・時期など」、「参加者のどの意見が大多数の意見なのか判別が難しい」、「当事者団体がないことから、出身施設等に推薦をお願いすることになり人選が偏りがち」、「声をあげる力のある当事者だけでなく、幅広く、様々な状況にある当事者から意見を聞くことが難しい」、「自立支援が特に必要と思われる措置解除者等とながりを継続し、意見を求めることが困難であること」等の回答が挙げられた。

第6章 当事者委員会

1. 目的・背景

令和元年度事業では、当事者参画を「社会的養護の措置解除者等が、調査の意思決定プロセスにおいて意見を述べること」と位置づけ、当事者へのインタビューを踏まえた調査設計、当事者の同席を伴った調査結果の協議を行い、調査の質及び安全性が向上するという効果が見られた。

そのため、本事業においても当事者参画のもと事業を推進することとして、社会的養護経験者を構成員とする当事者委員会を設置した。当事者委員会は、本事業の検討事項について意見や助言、提案を行う役割を持つこととした。

2. 運営方法

(1) 構成員

当事者委員会の構成員は6名（社会的養護経験者4名、学識者2名）とした。このうち、社会的養護経験者2名、学識者2名は検討委員会委員との兼務とした。

当事者の委員依頼にあたっては、過去に経験したことのある施設種別、性別、年齢等を考慮した。また、学識者2名については、当事者委員会の進行・議論におけるフォロー、当事者委員会と検討委員会の円滑な情報共有等においてサポートする役割での参加とした。

(2) 進め方

当事者委員会が安心・安全に議論できる場となるよう、構成員と相談の上、匿名性の担保、発言しやすい環境づくり、検討経緯の透明性確保の3点から進行上のルールを設けた（図表 237）。具体的には、匿名性の担保の観点から「氏名の非公表が可能であること」、発言しやすい環境づくりの観点から「進行方法等を柔軟に変更すること」、「随時質問や疑問を受けつけること」、「検討結果は匿名で整理すること」、「発言の修正・削除が可能なこと」、「当事者委員会全員の許可に基づき、検討委員会構成員の傍聴可すること」、「事業の責任は検討委員会と事務局が負うこと」、検討経緯の透明性確保の観点から「検討委員会での議論・検討結果はフィードバックすること」とした。

また、当事者委員会と検討委員会での意見交換フローについては、①当事者委員会での検討、②事務局による検討事項整理、③検討委員会での報告・検討、④事務局による当事者委員会への報告という流れとした（図表 238）。当事者委員会と検討委員会での意見交換が円滑になるよう、当事者委員会の委員は、希望に応じて検討委員会にオブザーバーとして参加いただいた。

図表 237 安心して発言するためのルール

お互いに安心して発言するために

- ご本人の希望で、氏名は非公表とします**

現時点で当事者委員会の委員を知っているのは、厚生労働省、事務局、検討委員会座長のみです。検討委員会の委員に氏名をお伝えしてよいか、報告書に氏名を記載していいかは、ご本人のご希望に沿います。なお、本事業の関係者には、氏名の非公表の徹底をお願いするので、非公表の場合でも安心して参加してください。
- 話しやすい方法・進め方に柔軟に変えていきます**

参加する一人ひとりが、「言いたいことを言える」ことが重要だと思っています。話しやすい会にするために、会議の形式、進め方、共有してほしい資料など、アイデアがあればどんどん出してください。柔軟に進め方を変更していきます。
- わからない・説明が必要な内容があれば、随時、質問をしてください**

事務局や検討委員会委員は、つい専門用語を使ったり、説明を省略してしまうことがあります。「わからない」「詳しく説明してほしい」ことが出てきた時は、説明途中でも声をかけてください。
- 当事者委員会で出た意見は、すべて匿名で整理・記録をします**

当事者委員会の検討結果を検討委員会に伝える際に、発言者が特定できない形で意見を整理します。兼任委員が報告する際にも、当事者委員会の意見として報告してもらいます。
- 当事者委員会での発言は、修正・削除ができます**

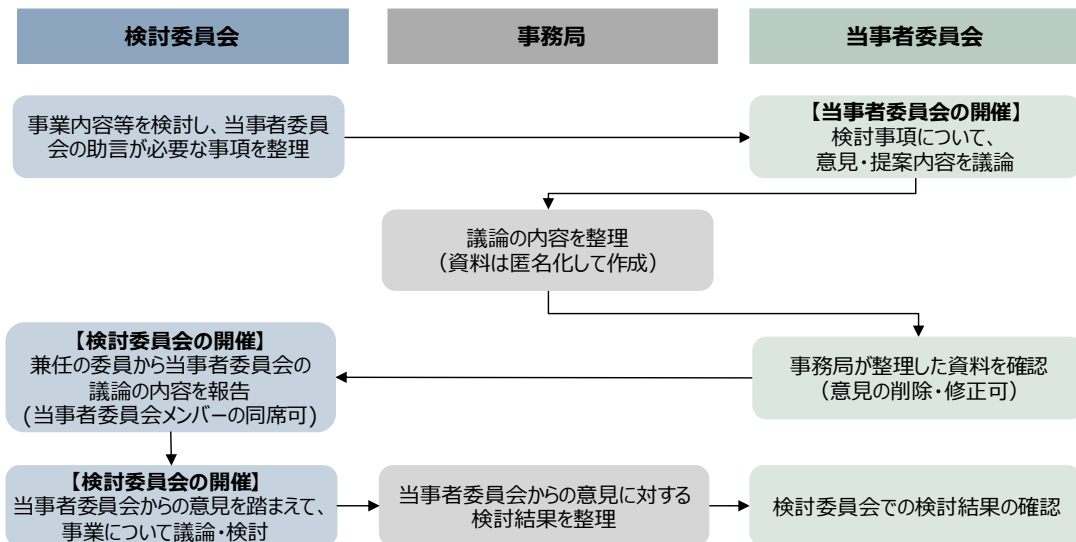
当事者委員会後に、自分の発言を修正・取り消したい場合は、事務局が意見を整理する際に修正・削除ができます。会議中の取り消しももちろんOKです。
- 当事者委員会で出た意見は、検討委員会でどのように議論・検討されたかお伝えします**

当事者委員会の意見について、検討委員会での検討結果、事業への反映状況（反映されなかった場合の理由）を整理してお伝えします。検討委員会へのオブザーバー参加も大歓迎です。
- 全員の合意が得られた場合のみ、厚労省・検討委員会委員の傍聴を可能とします**

厚生労働省や検討委員会委員の傍聴希望があっても、メンバー全員が承諾しなければNGとします。お一人お一人の話しやすさを最優先します。
- 事業実施における最終的な責任は、検討委員会と事務局が負います**

当事者委員会は、検討委員会や事務局にアドバイス・提案をする対等な立場にありますが、事業実施における責任は、検討委員会と事務局が負います。当事者委員会では、安心して、考えたことやアイデアを自由に出してください。

図表 238 当事者委員会と検討委員会での意見交換フロー



(3) 検討項目

当事者委員会は全4回開催した。検討項目は以下の通りである。第1回は、本事業についての説明や当事者委員会の進行方法等に関する議論を丁寧に行い、事業内容に関する検討は第2～4回で行った。

図表 239 当事者委員会の開催状況（再掲）

	開催日程	主な検討事項
第1回	令和2年9月16日	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の説明 当事者委員会の説明、進め方について
第2回	令和2年9月23日	<ul style="list-style-type: none"> 調査票案について 調査方法について 調査実施時の相談先の情報提供について
第3回	令和3年2月22日	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果について
第4回	令和3年3月24日	<ul style="list-style-type: none"> 報告書案について

※第4回は、検討委員会・当事者委員会と合同開催とした

3. 検討結果

(1) 主な意見

当事者委員会で出された主な意見を以下に示す。

図表 240 当事者委員会での主な意見

<第1回>

	意見
調査について	<ul style="list-style-type: none"> 最も困難な状況にある人の声ほど、把握できていない状況。調査に回答できない人の声を聞く（回答してもらい）必要性を感じる。 自記式調査について、何%の捕捉率を目指すべきか。社会的養護のもとで生活していたことを思い出したくない人がいるため、100%の回収率を目指す調査ではない。30%の捕捉率は、それなりに高い数字のように感じる。 ソーシャルワークの一環でかかわった社会的養護経験者の中に、今後施設とのかかわりを持ちたくないという人が少なくなかった。施設ではなく成人の相談機関に調査の案内を送る方法もありうるか。 生活困窮の相談窓口、アルコール・薬物依存の自助グループなどにも社会的養護経験者が多くいるのではないか。
進め方	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換フローについては実際動かしてみないとわからない部分がある。現時点では特に問題はない。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> 当事者委員会専任委員が2名だと、発言しないといけないという緊張感がある。今年度の調査事業を参考にして、自治体等で実施される場合には、当事者の人数が増えると発言に対する責任が分散されるか。 オンラインでの開催について、（今回の検討委員数の）6人程度であれば、ゆっくり議論を進めることができる。今後、参加者を増やしてオンラインで開催する場合、ブレイクアウトルーム機能を使うなどといった工夫の検討が必要か。 お菓子などを食べながら、リラックスした空間で検討したい。オンライン開催であっても、飲食自由や質疑・発言自由を前提としてリラックスできる環境下で検討を行う必要がある。

	意見
傍聴	<ul style="list-style-type: none"> 行政職員など社会的養護経験者以外にも意見を聞いてほしい。一方で、画面に顔が映ると話じづらい部分もあるが、一度傍聴者を加えて開催してみるとよい。 厚労省、検討委員会委員の傍聴は構わない。
氏名・肩書	<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会への氏名の公表は構わない。報告書上の氏名の公表・非公表は3月時点で決定する。 「出身者」という用語は、社会的養護にアイデンティティがあるような印象を受け、違和感がある。取り急ぎ「社会的養護経験者」として、今後改めて検討する。

<第2回>

①調査票案について ※ページ・設問番号は当時の資料番号 ※網掛けはその後の対応方針

	意見
調査タイトル	<ul style="list-style-type: none"> 「施設退所者等」との表現について、「施設や里親家庭等で生活された方」としたほうが、調査対象者がわかりやすいか。 →「施設や里親家庭等で暮らしていた方の生活やサポートに関する調査」に変更
依頼文	<ul style="list-style-type: none"> 「厚生労働省の補助を受け」という表現が伝わらない。 全体的な表現が固くわかりづらい。 調査の実施背景や回答の活用方法について、もう少し説明があると良いか。 →反映
	<p>(コロナ禍により～の一文)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大変な状況」「生活に余裕がない」が2重になっている。 コロナ禍によって緊急で実施したアンケートという印象を持ちかねない。このアンケートは今後も定期的に行うものとして実施したほうがよく、この一文は不要か。 コロナ禍で大変な状況下にある人にも回答意欲をもって協力いただくためには必要か。ただ、コロナ禍の状況だけをたずねる設問はなく、文章に違和感もある。 →コロナ禍に関する文章は削除
回答にあたってのお願い	<ul style="list-style-type: none"> 1)「中学卒業以降で」⇒「中学卒業後」と修正 1)は依頼文に含めて、冒頭で対象者の確認をしたほうがよい 5)の「このアンケートは統計的に処理するため」や、「不利益を被ることは一切ございません」など表現が固くわかりづらい。 →反映
全体の構成	<ul style="list-style-type: none"> アンケート冒頭にもポジティブな気持ちになる設問があるとよい。 アンケートの間にも気持ちが軽くなる設問を追加するか。 →設問量が多いので下記項目の対応で回答負担の軽減を図る 3分の1時点など、途中でイラストや、「残り●問です、お疲れ様です」といった文章などを追加してはどうか。 可能な範囲で、文字や背景を柔らかいものにしてほしい。 →反映 テスト画面を確認したい。 →テスト画面の確認を依頼
回答した印象	<ul style="list-style-type: none"> 回答時間は15分～20分ほど。ただし自由回答を丁寧に回答しようと思うと、さらに時間がかかると思われる。 退所後のことを思い浮かべながら回答すること自体が全体的に苦しかった。選択肢を眺めて、当時自分になかった支援等を認識させられた感覚がある。 →検討委員会で削除可能な設問がないか検討
追加設問	<ul style="list-style-type: none"> 生活満足度の指標があり、主観的幸福度を聞けると良いか。客観的な指標と主観的な指標の掛け合わせができるとよい。 →主観的幸福度に関する既存調査を確認したところ、幸福度の調査だけで様々な指標・手法があり、他の調査との比較が難しい。複数の設問を設置する必要もあり、回答者の負担が大きくなるため、今回の調査での設問は見送り
Q0	<ul style="list-style-type: none"> 当事者団体と支援団体の違いがわからない人もいる。【2. 社会的養護の当事者団体】、【3. 「2」以外の支援団体】としてはどうか。 →反映

	意見
Q8-2, Q10-1~3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択肢を減らし、回答負担の軽減を図ってはどうか。例えば、学歴を問う設問で、「専門学校」と「短期大学」を一緒にしてはどうか。 →反映
Q9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択肢 1 と選択肢 2 の違いがわからない ・ 選択肢が多すぎる。「8.自立援助ホーム」は削除してはどうか。(Q4、Q4-1、Q15 同様) →調査対象の条件に関係するため現行のまま
Q11-3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 削除でよい →削除
Q20, Q22, Q29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「人間関係のこと」を搾取されたり、暴力に巻き込まれたりといった選択肢に細分することについては、具体的な内容は自由回答欄からある程度拾うことができる。できればネガティブな設問は避けたい。 ・ 選択肢をわけの意図は理解できるが、選択肢は増やさないほうが回答しやすく、また、詳細を聞いても支援を提供できない以上、そこまでたずねることは難しいか。 →現行のまま ・ 退所するまでの 1 年間というより、高校 1 年生の頃から将来の不安はあった。退所に向けて他の人と意識の差がある（アルバイトを頑張るなど）。 →設問文から退所前 1 年間に削除 ・ 選択肢を減らす必要があるのであれば、「妊娠・出産のこと」と「子育てのこと」はまとめてはどうか。 →反映 ・ Q22 は、退所後の年数でクロスをすると傾向が見えるか。削除でもよい。 ・ 1 人の回答者について、不安や心配だったことの変化を見たいのであれば、3 時点で聞くとよいか。しかしながら、回答者の負担を軽減する必要もある。Q22 の有無については、第 2 回検討委員会で諮ってもらえるとよいか。 →検討委員会で検討後、退所直後は削除
Q23	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答の負担感はない。評価は重要な設問のため残すべき。 →現行のまま
Q24	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設というより、個別の職員との関係を持ち続けることのほうが主。設問文に（個別の職員等を含む）といった注釈があるとよい。 →反映
Q25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 削除してはどうか。 →削除
Q● (9 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退所前後の変化をたずねるより、施設等で生活していたときに通院等をしていただどうかをたずねたあとに、その後の変化をたずねるとよい。 →医療に関する設問は全体的に再構成
Q31	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困っていることがある前提ではなく、例えば「もっと自分らしく生活するために必要な支援」をたずねてはどうか。そうするとポジティブな印象にもなるか。 ・ 自由記述として今後の希望を聞いてはどうか。例えば、「広い家に住みたい」「大学に行きたい」「当事者の仲間会いたい」「家族を持ちたい」などの声が集まるか。 →反映

②調査方法について

	意見
依頼方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度社会的養護出身者ネットワーク形成事業で行う全国交流会の参加申し込みフォームでの案内や、全国交流会でのつながりの中での案内など検討したい。 →全国交流会と連動した広報を検討 ・ 当事者団体のアンケート調査では、SNS を活用して拡散した。若者に合った媒体で、スマートフォンに届く手段を用いてはどうか。 ・ 自治体や児童福祉施設とのつながりはないが、成人の相談機関にはつながっている人もいる（生活困窮者の自立支援機関）。 ・ アフターケアをおこなっている団体も候補の 1 つか。 →当事者団体等に可能な範囲で協力いただく ・ 回答意欲をあげるため、その時点で何名が回答しているか、一部の回答結果を共有する URL があるとよい。項目を絞って回答の一部を共有することが可能だと思う。 →共有方法がなく未反映
支援の案内方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度社会的養護出身者ネットワーク形成事業を活用してはどうか（現在、支援情報を集約しているところ）。 →自治体調査で支援情報を収集

<第3回>

①本人記入調査について

	意見
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> 退所後 5 年では当事者の課題が見えないところもあるので、退所後 10～20 年で調査を行ってほしい。 当事者のライフステージによって状況は変わるので、5 年間で把握できることとできないことがあると思った。年代、世代によって違うと思った。
回収率	<ul style="list-style-type: none"> 他記式調査での配布状況と自記式調査の回答率を整理して、施設種別でどの程度捕捉できたかを知りたい。 回収率の低さが気になる。施設等経由で案内を受け取った人が多いので、施設等とつながっている人だけに行ってしまったか。SNS で案内されている印象はなく、当事者間で案内が回る工夫ができなかったか。 進学もしてしっかり頑張っている子が、思いをぶつけたと言っていた。意欲のある当事者が回答したか。 都道府県間の回答率の差をどのようにみるか。都道府県の格差が生まれているのかの分析が必要か。
当事者にとって回答しやすい調査だったか	<p>【回答の動機づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当事者に話を聞いたが、回答する意味に疑問を感じる人は多い。調査に回答してもらう意味を考えないといけない。 労力と時間を考えると、この調査に回答すること自体がアルバイトと言う当事者がいた。また、実際に調査の案内をした自立支援コーディネーターから、少し前にインセンティブ付きの調査があったため、子どもたちが協力しなかったと聞いた。 過去、児童養護施設を訪問してアンケートを回答したが、回答のついでに近況を話せてよかった。アンケートでサポートを知ったので使うという自由記述があるので、調査をきっかけに支援につながる機能があればいいのではないか。 回答を「国に届けます」「大臣が読みます」というメッセージを打ち出せたら良かったか。 <p>【設問の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 回答中に落ち込む内容もあったと思うが、当事者の願いや希望に沿って聞いた設問をみて、明るい気持ちになった。その設問を考える中で少し前向きになってもらえたか。 （里親家庭を施設等で読み替える、里親は親であるので養育者のような言い回しをされることへの不満があったという事務局報告に対し）当事者の立場を尊重することで、アンケートが受け入れやすいものになるかもしれない。改善できるというが、難しい問題。 里親家庭経験者では、里親を支援者とみるか親とみるかはよく論争になる。 <p>【設問の量】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分量が多かったという意見があった。 調査すべきこととのバランスもあるので、設問数としてはよかったか。設問全てに回答しなくていいと示し、実際に無回答があることは、評価できるのではないか。無回答でいいことが伝わっているのであれば、この設問量でよいと思った。回答状況の%表示がよかった。 <p>【配布ルートについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設等から配布だと良い結果しか出せないか。アフターケア事業所、精神疾患系、生活保護のルート等の児童福祉以外のルートから調査を実施できたらよかった。
自由記述	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由記述がすごいと思った。 自由記述は頭に入ってくる。 自由記述で、「こんな調査をしてどうなるのか」という意見があるが、こういう意見も貴重。あえて除外した記述があるのであれば教えてほしい。それも貴重な意見。 暴言に近いような自由記述をどう捉えるか。誰かとのつながりを持って生活を営んでいるのか、しんどいことがあって、暴言につながったのかもしれない。 <p>【整理の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由記述ではいろんな面が出ていると思う。まとめると多様性がみえないので、この程度のばらけ具合、量

	意見
	<p>がいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定されそうな意見は省いたと整理の方法を記載しておくが良いか。 ・ 下線を引いている基準があれば説明をしたほうがいい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートを取ったから実家的な機能が求められていることが分かった。実現してほしい。退所後時間がたっても、あまり状況が変わっていないように感じた。退所後 10 年たっても状況が同じという人もいる。 ・ ケアの評価については、施設とつながりがある人が回答していることを前提にすると、「良くなかった」の割合が 1 割ということをどう考えるか。 ・ 施設を小規模化し、里親養育を推進する方針の中で、児童自立支援施設と児童心理治療施設で困ったこと、サポートを受けられているかについて職員調査と比較したい。 ・ 当事者と施設職員との認識差について丁寧に見ていく必要がある。 ・ コロナの影響をどのように評価するか。今年度は経済状況の悪化についてはたずねていないが、社会的なつながりに乏しい人のひっ迫した状況にあるか。

②施設職員・里親家庭記入調査について

	意見
回収率	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設種別ごとの回収率を知りたい。 ・ 自記式と他記式を合わせて、案内できていない割合を指摘すべき。また、自記式調査の回答はつながっている人の声なので、案内できていない、拾えていない声があることを浮き彫りにする必要がある。
被虐待経験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被虐待経験と、退学率、進路・就労状況、ライフコースに関するデータをクロス集計してはどうか。
措置解除時の学歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ (2020 年度の 4 年制大学進学率が高いことについて) 体感的には 2020 年度の人は無償化を受けられるので進学したという話をよく聞く。 ・ (2020 年度の 4 年制大学進学率が高いことについて) 理由がわからない。奨学金の影響があるか。
最終学歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終学歴で、高校や専門学校の中退率、大学等の在籍情報についてみたい。
交流頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設側は、毎年退所者が出てくるので、きめ細やかに対応できなくなる。 ・ 施設の場合、退所者が増えるとともに、担当の子どもが増えるので、連絡しづらくなることもある。担当職員がいなくなることもある。単純に年月が経つと近寄りたく感じる。 ・ 大変になったら連絡を取れなくなるパターンではないか。遠慮してしまう。 ・ 交流頻度については、施設職員から連絡とっているのか、子どもから連絡を取っているのか。連絡の方向性を明確にしておくとうわりやすかったか。 ・ 自記式調査で退所直後と今を比較すると、孤独感が減っていたり、不安なことがないことが増えていたりするので、退所前に施設職員が手厚くサポートしていると解釈もできるか。また、施設等との連絡頻度の充足感を見ると、施設からの連絡は何年になってもありがたいと思っているのではないか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由記述があれば確認したい。 ・ 「わからない」という回答が、経年で見たとときに増えており、把握できていない現状を伝えるべき。「その他」が多い項目については、その内容が気になる。

③当事者への調査結果のフィードバックについて

	意見
回答結果の還元について	<p>【見せ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査結果をわかりやすく、デザイン的に見せるものを作成して還元してはどうか。 ・ 自分の回答がどのように活用されるのかがわかると、回答する有用感を感じられるという声を聞いている。返してあげるのはいいと思う。 ・ デザイン性があり、シンプルで見やすいものならば見たい。自由記述も見たい。全ての結果を見たい人は報告書を案内する形で良い。 <p>【本人記入調査の内容】</p>

	意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収入の状況は掲載せず、困っていること、退所に向けて不安だったことなど比較して落ち込まない結果をピックアップしてはどうか。希望だと思ったのは、退所直後と今を比較すると、不安がない人が増えていること。このような希望の見える結果を載せてはどうか。 ・ 施設や地域で状況が変わるのかと思うけれど、共通の悩み（例：孤立している等）を抱えている人がいることがわかると、救われる面もある。 ・ 結果と合わせて支援先の情報がわかるとなおよい。
	<p>【施設職員・里親家庭記入調査の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設職員・里親家庭記入調査の回答は、自分が答えたものではないからあまり関心がない ・ 関心がある人だけ報告書等でみられたらいいのではないか。 ・ 頼っていいのかを知るために、職員側の意見はあってもいい。

（２）社会的養護経験者の委員の感想

社会的養護経験者の委員が、当事者委員会に参加して感じたこと、改善点等を以下に示す。

図表 241 社会的養護経験者の委員が感じたこと、改善点等

<p><参加しての感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでも公的な会議や調査などに当事者が参画することはあったと思うが、安全で自由に話せる当事者委員会を別途設置したことで、より当事者の意見が引き出されたと思っている。 ・ 多くの人があるような思いで社会的養護にかかわっていることを知ることができたことや、自由記述の多さに、内容はともかくエネルギーを感じ、ポジティブな気持ちになった。多くの経験者に当事者委員会を経験してほしいと思った。 ・ 質問内容について話したら良いのか、調査形式について話したら良いのか、多々考えることがあったが、当事者として参加している意味を日々考え、自分なりの経験や感じたことを率直に言いたい！と気持ちがかんたん決まっていた。当事者として参加する意味をもっと事前に決めておけば、より意味ある参加になれたかな？と少し後悔している。 ・ 個人の経験や感覚、主観を話せばよいのかなと思ってはいるものの、多くの経験者を代表して代弁できるほうが望ましいのではないかと考えてしまう。その辺りは当事者委員会のメンバーといつか話し合ってみたい。 ・ （検討委員会にオブザーバー参加して）調査結果から解釈やある程度の指針をだすのか否か、調査の継続のことなど、検討を聞いてよかった。 <p><調査で果たした役割></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査票を作る段階で当事者委員会の意見があったことは、堅苦しくデリケートな調査を少しとつきやすくていいのではないかと考えた。事務局は大変だったかもしれないが…。 ・ 当事者委員会の意見を調査方法や調査票の構成に反映してもらえたことで、本人記入調査については回答者の負担を軽減することにつながったと思う。 <p><調査結果について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 量的な調査や制度に関しては、個人の経験や感覚と離れたり、ひとくりにする表現になったりするので、視点の切り替えができないともやもやが生まれたりするのではないかと考えた。

<運営で良かった点>

- ・ 初回に「どんな雰囲気作りをしたい?」「ルール作り」を話し合えたことで安心できた。
- ・ いろんなケースの当事者が混ざることが大切だと感じ、そうされているのが良かった。個人的になぜ自分が選ばれたのか詳しく知りたいな、と思った。

<改善が望ましい点>

- ・ 改善点は、話上手な人も口下手な人も、支援や研修を仕事としている人も、厚労省の人も、三菱の人も参加していたので、当事者でなくても、日々の経験や感じた事をもっと出し合えるような場になって欲しいとも思った。会議回数をもう少し増やしてもらいたいな、と思った。
- ・ 調査対象の人がいたらよかったかなあと思った。もしくは、調査対象の人にもっと話を聞いてもらったらよかった。
- ・ 今回は意見がある程度言語化できる退所後数年を経た委員が参加したが、今後はより様々な属性や立場をもつ当事者が参画・発言できる当事者委員会としたい。そのためにも当事者委員会として他の当事者にヒアリングするなど意見を拾い上げるための工夫が必要だと思う。

第7章 まとめ

1. 結果の整理

(1) 本人記入調査、施設職員・里親家庭記入調査について

① 本人記入調査の主な結果

(回収率)

- ・ 調査対象者数 20,690 人に対し、配布件数 7,385 件、回答件数 2,980 件（回答率 14.4%）であった。配布数に対する回答率は 40.4%であった。なお、施設職員・里親家庭記入調査の回収率は措置解除者等の人数ベースで 66.0%である。（図表 5）

(回答者の属性)

- ・ 現在の年齢は「21 歳」（18.4%）、「20 歳」（18.4%）の順に多く、15 歳から 28 歳以上まで幅広い年齢層からの回答があった。（図表 11）
- ・ 最後に生活した施設等の種類は、「児童養護施設」が 75.8%、「自立援助ホーム」が 7.8%、「里親」が 6.7%で多かった。（図表 15）
- ・ 退所年度は、「2019 年度」が 24.9%で最も多く、年度をさかのぼるほど回答者が減少する傾向にあった。（図表 24）
- ・ 退所時点の年齢は、「18 歳」が 60.0%、「19 歳」が 10.4%、「15 歳」が 7.4%で多かった。児童自立支援施設と児童心理治療施設では、他の施設種別と比べると 15 歳が多かった。（図表 26、図表 27）

(就労・就学の状況)

- ・ 退所直後の進路は、「就職・就労」が 53.5%、「進学・通学」が 36.3%であった。児童自立支援施設と児童心理治療施設では、15 歳での退所が多いこともあり、「進学・通学」の占める割合が約 6 割と高くなっていた。（図表 29、図表 30）
- ・ 現在の通学・就労の状況をみると、「働いている」が 71.0%、「学校に通っている」が 23.0%であった。（図表 33）
- ・ 現在の通学先は、「4 年制大学」が 35.7%、「専門学校・短期大学」が 30.9%、「全日制高校」が 19.1%で多かった。（図表 42）
- ・ 現在の雇用形態は、「正社員」が 51.8%で、「パート・アルバイト」、「契約社員・派遣社員」が、それぞれ 34.5%、8.6%の順に多かった。通学の無い場合に限定すると、「正社員」は約 6 割、「パート・アルバイト」は約 3 割であった。（図表 49、図表 50）

(住まい・家計の状況)

- ・ 退所直後の住まいは、「民間賃貸住宅（41.9%）」、「会社や学校の寮（19.1%）」、「親の家（17.3%）」の順に多かった。現在の住まいは、「民間賃貸住宅（52.0%）」、「親の家（11.9%）」、「会社や学校の寮（11.6%）」の順に多かった。児童自立支援施設と児童心理治療施設では、退所直後は「親の家」、現在は「民間賃貸住宅」が最も多かった。（図表 54、図表 55、図表 57、図表 58）

- ・ 同居相手は、「ひとり暮らし」が 51.7%、「親」が 21.3%、「交際中の人・配偶者（結婚相手）」が 17.2%で多かった。（図表 60）
- ・ 月々の収支バランスは、「収入と支出はほとんど同じくらい」の割合が 31.4%、「収入のほうが多い（黒字）」が 26.8%、「支出のほうが多い（赤字）」が 22.9%であった。就労・就学の状況別にみると、「通学あり・就労あり」の人で赤字の割合が高かった（34.4%）。（図表 64、図表 67）

（健康状態・医療サービス）

- ・ 現在の心身の状態等では、「健康である」が 77.8%で最も高い。「通院している」は 14.1%であった。（図表 72）
- ・ 過去 1 年間に医療機関を受診できなかった経験が「あった」割合は 20.4%であった。施設種別にみると、自立援助ホームが 35.3%でやや高い傾向にあった。施設等で受けていた治療等が受けられなくなった経験が「あった」割合は、9.0%であった。いずれも、受診できなかった理由は、「お金がかかるから」が 6 割超で最も多く、次いで「時間がないから」が 4 割超で多かった。（図表 81、図表 82、図表 84、図表 86、図表 89）

（生活していた施設等とのつながり・相談相手）

- ・ 直近 1 年間の施設等との連絡頻度は、「2～3 か月に 1 回以上」が 27.2%、「月に 1 回以上」が 20.7%、「半年間に 1 回以上」が 18.8%で多かった。退所から時間がたつほど、連絡頻度は減少する傾向が見られた。（図表 94、図表 96）
- ・ 施設等との連絡頻度の充足感をみると、「月に 1 回以上」、「2～3 か月に 1 回以上」では「ちょうどよい」の割合が 75%を超えていた。「半年に 1 回以上」よりも低頻度になると「少ない」「やや少ない」の割合が増加する傾向にあった。（図表 100）

（施設等から受けたサポート等）

- ・ 退所に向けて受けたサポートを受けた割合は、80.7%であった。その内容をみると、「退所後の住まい探し・同行」が 39.2%、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」が 36.7%、「家事（料理・掃除等）の練習・学習」が 31.5%と多かった。「何もサポートを受けなかった」割合は、6.9%であった。（図表 105、図表 106）
- ・ 退所後に施設等や公的な相談機関からサポートを受けた割合は、62.7%であった。その内容をみると、「日常的な雑談・相談」が 36.0%、「不安やトラブルなどの悩み相談」が 24.4%で多く、相談支援が中心となっていた。「サポートは受けていない」割合は 19.4%であった。（図表 108、図表 109）
- ・ これまでに受けたサポートに関する評価をみると、「よかった」「まあよかった」を合わせた割合は、児童相談所の職員の対応で 60.4%、一時保護所の職員の対応で 36.8%、施設等での生活・施設職員等の対応で 75.7%、退所に向けたサポートで 67.1%、退所後の施設等からのサポートで 61.3%、退所後の施設等以外からのサポートで 37.7%であった。「よくなかった」、「あまりよくなかった」を合わせた割合は、児童相談所の職員の対応で 11.3%、一時保護所の職員の対応で 13.0%、施設等での生活・施設職員等の対応で 7.6%、退所に向けたサポートで 3.9%、退所後の施設等からのサポートで 5.9%、退所後の施設等以外からのサポートで

6.1%であった。なお、一時保護所の職員の対応と退所後の施設等以外からのサポートについては、「利用したことがない」がそれぞれ 19.9%、28.8%あることに留意が必要である。（図表 111、図表 115、図表 119、図表 123、図表 127、図表 131）

（公的なサポートへの意見・要望）

- ・ 退所に向けての不安や心配だったことは、「生活費や学費のこと」が 47.0%、「仕事のこと」が 38.8%、「将来のこと」が 35.8%で多かった。（図表 135）
- ・ 現在困っていることや不安なことは、「生活費や学費のこと」が 33.6%、「将来のこと」が 31.5%、「仕事のこと」26.6%で多かった。退所前後で、金銭的な不安等が継続していることがうかがえた。（図表 138）
- ・ 今後利用してみたいサポートやサービスでは、「奨学金や、生活費の貸付、生活保護などの金銭面に関する支援」が 29.0%、「住宅の確保に活用できる給付金や、食事の提供など、住居や食事・食料に関する支援」が 26.7%で多かった。（図表 145）

② 施設職員・里親家庭記入調査の主な結果

（回収率）

- ・ 調査対象者数 20,690 人に対し、有効回答数は 13,651 件（有効回答率 66.0%）であった。（図表 149）

（本人記入調査の案内状況）

- ・ 本人記入調査を案内状況は、「案内した」が 53.8%、「案内していない・案内できない」が 45.1%であった。案内できていない理由の約 6 割は「住所・連絡先が不明」であり、「その他」の具体的内容としては、「調査対象者等の回答拒否」（404 件）、「調査票送付の手段なし」（316 件）、「調査対象者の生活状況の勘案」（312 件）が多かった。（図表 152、図表 155、図表 226）

（措置解除時の状況）

- ・ 措置解除年度は、「2015 年度」から「2019 年度」まで 15～20%で幅広く分布していた。本人記入調査の結果と比較すると、施設職員・里親家庭記入調査では、「2015 年度」、「2016 年度」の割合が相対的に高かった。（図表 169）
- ・ 措置解除時の学歴は、「高校卒業」が 49.0%、次いで「中学校卒業（17.9%）」であった。児童自立支援施設と児童心理治療施設では、「中学校卒業」がそれぞれ 77.1%、43.1%で最も多かった。（図表 174、図表 175）
- ・ 措置解除時に施設職員・里親家庭が心配していた点は、「実親・親戚との関係」が 50.2%、「就職・就業の継続」が 45.0%、「人間関係」が 43.5%で多かった。（図表 177）

（措置解除直後の状況）

- ・ 措置解除後の進路をみると、「就職」と「当時の勤務先に継続して就労」を合わせた割合が 49.9%、「進学」と「当時の進学先に継続して進学」を合わせた割合が 35.6%であった。（図表 181）
- ・ 措置解除後の住まいは、「民間賃貸住宅」が 27.1%、「実親の家」が 25.7%と同程度の割合

で多かった。「会社・学校の寮」が 17.2%、「福祉施設・自立援助ホーム」が 12.1%と続いた。
(図表 185)

(現在の状況)

- ・ 措置解除者等の最終学歴（最後に通った学校）について、学校の種類は「全日制高校」が 51.7%と約半数を占めていた。学校の卒業等の状況をみると、「卒業」（56.4%）、「中退」（17.5%）、「在学中」（14.4%）の順に多かった。（図表 194、図表 197）
- ・ 現在の就労状況は、「働いている」が 55.1%、「働いていない」が 15.8%であった。働いている人の雇用形態は、「正社員」が 48.5%、「パート・アルバイト」が 24.0%、「契約社員・派遣社員」が 9.0%と多かった。（図表 200、図表 203）
- ・ 現在の同居者は、「ひとり暮らし」が 32.7%、「親」が 16.5%、「恋人・配偶者」が 7.8%であった。「わからない」が 22.5%であり、措置解除者の 4 分の 1 は施設職員・里親家庭が同居者を把握できていなかった。（図表 204）
- ・ 現在施設職員・里親家庭が心配していることは、「就職・就業の継続」が 36.8%、「実親・親戚との関係」が 33.1%、「人間関係」が 28.6%であった。「特にない」の回答は 1 割未満であり、退所後も生活上の懸念事項が多いことが推察された。（図表 208）

(施設との交流・支援状況)

- ・ 直近 1 年間での交流頻度は、「1 年に 1 回もない」が 31.1%で最も多く、次いで「半年間に 1 回以上」が 18.6%であった。交流頻度は、退所から時間がたつほど低下する傾向が見られた。また、本人記入調査の結果と比較すると、施設職員・里親家庭記入調査では、「1 年に 1 回もない」の割合が相対的に高かった。（図表 188、図表 190）
- ・ 交流のない理由についてみると、「対象の子どもに連絡がつかない」が 31.9%、「対象の子どもが養育者との接触を避けている」が 18.7%、「措置解除先でのケアが整っており、必要性が低い」が 15.6%と多かった。（図表 191）
- ・ 施設等や自治体が提供するアフターケア・サービスの利用状況は、サービスを「受けている」が 49.2%、「受けていない」が 29.5%、「わからない」が 19.5%であった。退所から時間がたつほどサービスを受けている割合は減少する傾向が見られた。（図表 210、図表 212）
- ・ 施設等のアフターケア・サービスの提供状況は、「日常的な雑談・相談支援」が 75.3%、「不安・トラブル等への相談支援」が 51.3%で多く、相談支援を中心とした支援が行われていることがわかった。（図表 213）

(調査を案内できた人とできなかった人の状況の違い)

- ・ 案内できた人とできなかった人の状況をみると、措置・委託となった年度については、案内した人は「2019 年度」が 24.4%と最も割合が高いなど比較的近い年度の割合が高い一方で、案内していない・案内できない人では「2015 年度」（21.5%）や「2016 年度」（21.7%）の割合が高かった。（図表 218）
- ・ 措置・委託解除時の年齢は、案内した人の 6 割超が「18 歳」なのに対し、案内していない・案内できない人は「15 歳以下」が 24.9%、「16 歳」が 12.6%など低い年齢の割合が高かった。（図表 219）
- ・ 措置解除時の施設職員・里親家庭との関係性は、案内した場合は良好な割合（「とても良好」

と「良好」の合計)が83.1%であった。案内していない・案内できない人でも52.1%と過半数を超えているものの大きな差があった。(図表 221)

- ・ 措置解除者等との交流頻度、アフターケア・サービスの利用状況をみると、案内した人は「2～3か月に1回以上」、「半年間に1回以上」の交流が約半数を占め、「1年間に1回もない」は10.6%であった。一方、案内していない・案内できない人では、交流が「1年間に1回もない」が55.8%であった。(図表 224、図表 225)

③ 調査設計について

1) 調査対象者

令和元年度事業のモデル調査を踏まえ、調査対象を「過去5年間に中学卒業以降で措置解除となった人」とすることで、措置解除後5年間については生活や支援の状況等を網羅的に把握することができた。ただし、検討委員会及び当事者委員会では、措置解除後5年では出産・育児や再就職といったライフステージの変化で生じる課題を捉えきれないとの指摘や、母子生活支援施設の退所者も社会的養護経験者であることから調査対象とすべきという指摘がある。実態把握の対象者の範囲については、調査目的に鑑みて再考が必要である。

2) 調査方法

調査方法については、本人記入調査(自記式調査)と施設職員・里親家庭記入調査(他記式調査)のミックス・メソッドで実態把握を行った。ミックス・メソッドを採用したことで、本人記入調査(自記式調査)の回答バイアスに関する考察、支援者と当事者の認識の差等の検討が可能になり、一定の成果が得られた。

なお、全国規模での実態把握を行うにあたって、調査方法上の課題となった6点について示す。

第一に、調査対象者抽出の正確性がある。本調査では、措置自治体が、調査対象者の抽出、施設等への調査協力依頼を行う方法をとった。自治体の調査対象者抽出においては、基準の細部(「中学卒業時点」の定義設定、養育里親の取り扱い等)に多数の照会が寄せられたことから、自治体間で抽出基準にばらつきが生じている可能性がある。また、施設等から、「自治体から施設等に提供されるべき調査対象者リストの提供がなかった」、「調査対象者がいるはずの自治体から依頼がない」等の相談があったことから、回答した施設等と自治体の調査対象者が、必ずしも一致していない可能性がある。今後、特に調査対象者の設定においては、全国的に統一した分かりやすい定義や基準が求められる。

第二に、調査実施にあたっての事前の周知不足がある。令和元年度事業のモデル調査では、自治体や調査事務局から施設等に対して、事前に調査趣旨や調査方法等の説明を行い、回答率向上のための工夫についても周知いただいた。今回は、自治体に対しては説明会を実施したが、施設等にはこのような事前調整の機会を設けることができなかつたため、施設等での協力が少なからず影響があったと考えられる。

第三に、準備を含めた調査期間の短さがある。自治体の調査対象者抽出から調査終了のまでの期

間が約 3 か月と短い中、対象者抽出や調査票配布が遅れ、回答期間が短くなった地域が見られたほか、施設等からは「本人記入調査の締切直前に自治体から連絡があり、本人に転送できない」といったコメントも寄せられた。前述した点にも関係するが、多くの自治体、施設等の協力を得るには、事前説明から配布、回収まで、余裕のあるスケジュールでの調査実施が必要である。

第四に、措置解除者に対する回答の動機付けがある。当事者委員会では、措置解除者に対して調査の意義を伝えきれなかったことが回答率に影響を及ぼしたとの指摘があった。回答者へのインセンティブの設定も考慮するとともに、調査結果の活用に関する発信の強化や回答者への集計結果のフィードバックなど、回答することが各種の社会的養護の施策・取組の充実・強化に有益であると実感できるような仕組みづくりが重要である。

第五に、施設等とのつながりがない人への周知がある。本事業では、措置解除者に確実に案内されることを重視し、措置自治体による対象者抽出、施設等からの案内という方法をとった。この結果、施設等からの案内での回答が 93.8%を占め、施設等とのつながりがない人からの回答が得られなかった。施設等とのつながりが維持できていない中にこそ、特に厳しい状況に置かれている措置解除者が含まれているとの指摘があり、今後は、自立支援事業所、成人の相談機関等を経由しての実施など、多様なルートを用いた実態把握の方策について検討が必要である。

最後に、調査方法に関連する事項として、支援情報の整備について言及したい。本事業では、実態把握調査と支援はセットで行われるべきという考えのもと、自治体から措置解除者等が利用可能な支援窓口の情報を収集し、特設のホームページを作成した。集約化された支援情報のニーズは高いと思われるが、現状、措置解除者等を対象とした全国規模での公的支援リストはない。国レベル、自治体レベルで措置解除者等向けの支援情報の整理、公表が望まれる。

(2) 児童相談所設置自治体調査について

(回収率)

- ・ 調査対象である 73 自治体から回答が得られ、回収率は 100%であった。

(自立支援に向けた取組の実施状況)

- ・ 社会的養護自立支援事業の実施事業は、「居住に関する支援」が 79.5%、「生活費の支給」が 78.1%、「生活相談の実施」が 69.9%で多かった。また、自治体独自で自立支援のための事業を「実施している」割合は 38.4%であった。(図表 228、図表 229)
- ・ 自立支援について、自治体の関連部署、施設等、自立支援事業所等の地域の関係機関による情報交換や検討を行う機会・協議体が「ある」割合は、38.4%であった。(図表 231)

(当事者参画の状況)

- ・ 社会的養育推進計画の策定や自立支援の施策検討における措置解除者等の参画が「ある」のは 53.4%であり、当事者参画を実施できていない自治体は約半数であった。(図表 233)
- ・ 参画の方法は、「措置解除者等を対象としたヒアリング調査や座談会の実施」が 19 件、「措置解除者等を対象としたアンケート調査の実施」が 14 件であった。(図表 234)
- ・ 参画時に行った配慮や工夫として、当事者が集まりやすい土日祝日を含めた日程調整、イラスト

等を交えた説明資料での平易な事前説明、映画鑑賞やミニライブ等を併せて実施することでの話しやすい空気づくり等が挙げられた。(図表 235)

- ・ 措置解除者等の参画にあたっての課題は、「どのような措置解除者等に依頼したらよいかわからない」が 41.1%、「措置解除者等の参画方法がわからない」が 20.5%、「措置解除者等の参画にあたっての倫理的配慮の方法がわからない」が 20.5%であった。(図表 236)

(3) 当事者参画について

当事者委員会を組織し、当事者による調査の実施方法、調査項目等の検討を行った結果、調査の質及び調査倫理等の安全性が向上するという効果が見られた。特に、調査票作成にあたっては、心理的負担の観点から設問の内容・量について具体的な提案が行われ、当事者参画により回答者に寄り添う調査になったと考えられる。

また、検討委員会においては、度々、社会的養護の経験を持つ委員に意見が求められ、自然な形で当事者を含む多様なバックグラウンドを持つ人での意見交換が行われた。参加した社会的養護経験者からは、参画により調査に貢献した実感と共に、社会的養護関係者の意見や思いに触れられたことに価値を見出す感想が寄せられており、当事者と関係者の関係性構築に資する取組であったと言える。

なお、今後に向けた留意事項として3点を示す。

第一に、参画する当事者の属性や人数がある。措置解除時の状況や経験したライフイベントは多様であるため、措置解除時及び現在の年齢、性別、施設種別等に配慮が必要である。参加者が少ないほど発言に対する責任や緊張感が増すことから、複数人での参画を原則とし、可能な限り多くの当事者の参加を推奨する。当事者が当該自治体や施設等と直接の利害関係にあると発言しづらい、自治体が当事者とのネットワークに乏しい、といった指摘もあることから、当事者活動を実施している民間団体に協力を呼び掛けることも一案となる。

第二に、当事者の安全・安心の確保がある。当事者委員会では、導入として当事者と共に進行方法や注意事項を丁寧に構築したことで、安心して議論する場が形成された。参画時には「当事者の声の必要性を認識し、傾聴すること」を徹底し、参画方法を参加者本人と相談の上で決定することが重要である。また、参加者及び協議結果の匿名性を担保するなど、発言する場の設計や発言内容の取り扱いには特に配慮が必要である。

第三に、検討結果のフィードバックがある。当事者の声を聴くに留めるのではなく、その後の検討経緯や反映方針を共有し、当事者の声を尊重する姿勢を示すことが重要である。本事業では、検討委員会での議論の内容を共有するとともに当事者委員会委員もオブザーバー参加を可能とするなど、検討の経緯をオープンにすることを心掛けた。

2. 今後の課題と提案

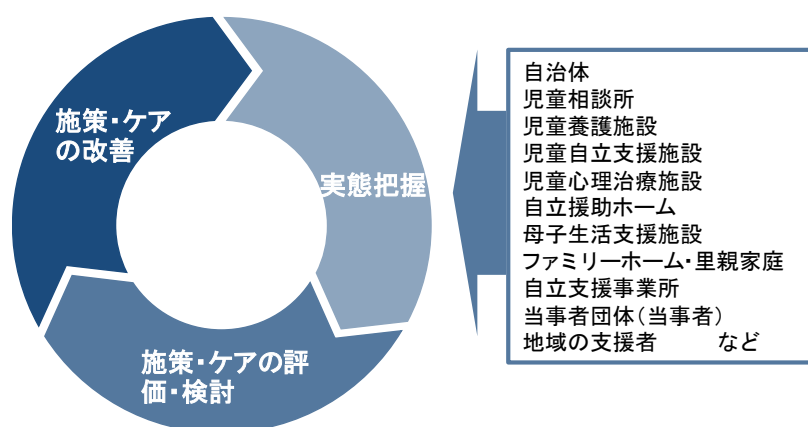
(1) 支援の枠組みに組み込まれた、継続的な実態把握の必要性

本事業では、国レベルでの実態把握調査を実施し、措置解除者等の生活状況や課題が明らかになった。回答者からも、意見を述べる場が設けられたことへの感謝や回答を今後活かしてほしいという期待が寄せられている。調査で得られた結果は制度・政策の改善に反映されることが期待されるが、本事業においては調査の実施にとどまり、その活用は報告書の読み手である、国、措置自治体、社会的養護の関係者等に委ねることとなる。

本来、実態把握調査は単独で行うものではなく、調査実施を契機として、社会的養護及び自立支援に向けた取組を評価・改善する PDCA サイクルを回すことが期待されている。今後の実態把握においては、国、措置自治体がこのような実態把握調査を“支援の枠組み”に組み込み、調査の実施によって必要な支援を明らかにするとともに、調査をきっかけとして支援につなげるスキームの構築が重要である。

生活実態については経年で把握する意義が大きいことから、国が制度化することで、国や措置自治体が5年、10年といった定期的なスパンで継続的に実態把握を行うとともに、制度・政策、支援のあり方を検証し、改善・創設する体制構築が求められる。

図表 242 実態把握と施策・ケアのサイクル



(出所)「自治体による施設退所者等の実態把握のための手引き」(三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社)

(2) 意思決定プロセスに参加する「当事者参画」の推進

都道府県社会的養育推進計画の策定にあたっては、社会的養護に関する施策検討時の当事者参画(社会的養護経験者を含む)が言及されており、児童相談所設置自治体の約半数が、主にヒアリング調査、アンケート調査といった方法で当事者参画に取り組んでいた。ヒアリング調査やアンケート調査は、当事者の意見を聴き、施策等に反映する方法として重要であるが、「参画」といった場合には、施策・取組等の検討・決定プロセスへの参加といった踏み込んだ形での実施も必要である。

また、自治体調査では、参画する当事者の依頼方法、参画方法等に強い課題意識があることが改

めて明らかになった。前者については、自治体内の措置解除者等でなくとも十分な示唆が得られ、広い知見を求めるといった観点から、当該自治体外からの参画を得ることも考慮されてよい。したがって、地域を問わず当事者団体から紹介を受けるなどの工夫が考えられる。後者については、参画する措置解除者の安全性の確保のために、参画する人数、参画方法、匿名性の担保等の工夫が必要であり、参加者とともに構築することが望ましい。これらのノウハウは自治体調査でも得られているが集約化された情報はなく、本事業でも手探りでの実施であった。今後、措置解除者等による当事者参画を進めるには、国においては、当事者の意見を施策・取組等に活かす制度的枠組について議論を深めるとともに、当事者参画の在り方やノウハウを情報収集し発信することが期待される。

(3) 地域単位・地域横断での措置解除後の継続的な支援体制の充実

既に、国、自治体、施設等において措置解除後の様々な支援が行われているところではあるが、本人記入調査及び施設職員・里親家庭記入調査では、措置解除者等の生活には多くの困難や課題があることが明らかになった。生活上の課題は継続するのに対し、措置解除からの時間経過とともに施設等との交流頻度や支援量は低下する傾向が見られ、措置解除によって施設等との関係性や支援が薄れていくことが懸念される。中学校、高校の卒業時点で措置解除となっても、その後、進学、就職・転職・離職、出産・育児、離婚等の様々なライフステージの変化がある。自立支援の観点からは、措置解除という一定年齢で支援を終結するのではなく、より長期的に見守り、必要に応じて支援を行う仕組みを構築することが必要である。

国は、社会的養護自立支援事業に加え、令和2年度より、施設等に進学・就職等の自立支援やアフターケアを担う職員を配置できるよう予算措置し、退所前後の自立に向けた支援の充実を図る取組を打ち出したことに加え、令和3年度からは母子生活支援施設やフォスティング機関にも自立支援を担当する職員を配置して体制強化を進められるようにしている。自治体、施設等においては現在、体制整備状況に地域間格差が生じているとされるが、これらの制度を活用し、継続的な支援体制を構築する必要がある。

また、措置解除時に施設等との関係性を断つケース、施設等だけでの支援が難しいケース等が想定されることから、地域での支援体制づくりや、就労支援、子育て支援等の他の制度への接続も重要となる。地域の関係者による支援ネットワークや自立支援に向けた定期的な協議、ケース検討の機会の設置など実効性のある体制の構築が望まれる。

さらに、進学や就職・転職等で措置自治体や施設等の所在地以外で生活をする人もいる。住み慣れた地域を離れることで支援の必要性が高まる可能性があり、地域間移動が生じた場合でも継続した支援を受けられるよう、全国的な支援環境の整備や自治体間の連携も必要である。

